



# 滞日外国人留学生の家族に関する研究 : 家族帯同の 利点と問題

渡部, 留美

---

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2003-09-30

(Date of Publication)

2008-12-11

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲2922

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1002922>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博 士 論 文

滞日外国人留学生の家族に関する研究

— 家族帯同の利点と問題 —

平成 15 年 6 月

神戸大学大学院総合人間科学研究科

渡 部 留 美

# 目 次

## 序章 留学生の家族支援

はじめに	1
第1節 留学生の生活支援の必要性	2
第2節 留学生の抱える問題とソーシャルサポート	3
第3節 ソーシャルサポートの源泉としての家族	5
第4節 本研究の意義と問題設定	7
第5節 本論文の構成	8
序章注 9	
本論文で使用する用語の定義	9

## 第1章 海外滞在における家族帯同

第1節 留学生の家族帯同に関する先行研究	11
1 家族帯同の問題	11
2 家族帯同の利点	13
3 ソーシャルサポート	14
第2節 海外派遣者の家族帯同に関する先行研究	15
1 家族帯同の問題	15
2 家族帯同が家族に対して持つ利点	17
3 帯同家族へのサポート	17

## 第2章 日本の大学における留学生の家族帯同—予備調査—

第1節 質問紙調査	19
1 調査の方法	19
2 考察と結果	19
2-1 留学生への質問	19
2-2 配偶者への質問	22
第2節 面接調査	25
1 調査の方法	25
2 結果と考察	26
第3節 本調査への課題と仮説	31
1 予備調査後の検討	31
2 本調査で明らかにすることと仮説	31

## 第2章注 34

### 図表

### 第3章 日本の大学における留学生の家族帯同一本調査

#### 第1節 質問紙調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

- 1 調査の実施 35
- 2 人口統計学的結果 37
- 3 結果と考察 38
  - 3-1 日本で生活して困っていることについて 41
  - 3-2 留学生が日本で家族と同居する利点・問題点 49
  - 3-3 家族が日本にいることの影響 51
  - 3-4 家事（育児）負担について 52
  - 3-5 子供の将来について 52
  - 3-6 相談相手 53

#### 図表

#### 第2節 面接調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

- 1 調査の方法 56
- 2 面接対象者 57

#### 第3章注 57

### 第4章 考察

#### 第1節 家族帯同によって起こる問題点とその解決策・・・・・・・・58

- 1 帯同留学生にとっての問題点 58
  - 1-1 時間ストレス 58
  - 1-2 経済的問題 58
  - 1-3 日本語 61
  - 1-4 宿舍 61
  - 1-5 相談相手 63
  - 1-6 東アジア系留学生の特性 65
- 2 配偶者にとっての問題点 65
  - 2-1 キャリア 65
  - 2-2 相談相手・友人 67
  - 2-3 子供に関する問題 71
  - 2-4 東アジア系配偶者の問題 73

#### 第2節 家族帯同の利点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

- 1 帯同留学生にとっての利点 74
- 2 配偶者にとっての利点 76
- 3 留学生家族の適応を促進するもの 79

#### 第4章注 80

## 第5章 まとめと提言、今後の課題

第1節 家族帯同のメリット・デメリット	83
1 家族を帯同することのメリット	83
2 家族を帯同するにあたってのデメリット	85
第2節 提言	86
1 大学からの支援—留学生家族の把握と家族のためのプログラムの実施—	86
2 日本人からの支援—学内のソーシャルサポートの活用—	87
第3節 本研究のまとめと限界、今後の課題	88
第4節 おわりに	89
第5章注	91

参考文献	92
------	----

### 本調査に関する資料

- ・面接資料
- ・回答者（留学生全体、配偶者）のデータ
- ・質問紙（フェイスシート、日本語版、英語版、中国語版、韓国語版）

### 謝辞

## 序章 留学生の家族支援

### はじめに

本研究では、日本で研究・学習する留学生の家族、とりわけ配偶者に対する支援の問題を取り扱う。第二次世界大戦後、外国で学ぶ留学生の数は著しく増加した。ユネスコの資料によれば、21世紀に入り、その数は全世界で130万人以上ともいわれている<sup>注1)</sup>。近年、日本の大学キャンパスにおいて、留学生の姿を見かけることはさほど珍しいことではなくなった。大学や学部によっては、学生の過半を留学生が占めているような例さえある。

文部科学省留学生課の発表によると、2002年5月1日現在、日本に滞在する外国人留学生の数は、95,550人となっており、前年度の統計(78,812人)に比べ21.2%の伸びをみせた。ここ数年、留学生の伸び率が高い状態が続いている。日本政府が1983年に発表した「留学生受入れ十万人計画」は、数的には達成できていないが、留学生数は20年足らずのうちに約9倍の伸びをみせ、世界でも10位以内に入る留学生受入れ大国となった<sup>注2)</sup>。滞日留学生増加の原因は、送り出し国のプッシュ要因(研究機関の不足、外国における学位の価値の高さ等)と受入れ側(日本)のプル要因(教育の質の高さ、留学生のための官民の奨学金の充実、安定した政治状況等)とが合致した結果であろう。

異国の地に住んで勉学することは容易ではない。修学上の問題のみならず、衣食住の生活上の現実的問題、人間関係や文化的価値の違いなど、精神的な問題を抱えている留学生は少なくない。とりわけ、家族を伴って留学がなされる場合、家族のそれぞれのメンバーもまた生活上の問題と精神的な問題に遭遇することになる。

留学生の場合は、日本人学生と比較して年齢が高い。これは、かなり多くの留学生が学部レベルではなく、大学院レベルの教育を求めて日本に来ているためである。滞日留学生のうち大学院生の占める割合は、27.5%と学部生(47.4%)に比べて少ないが、国立大学に限ってみると、学部生(29.2%)よりも大学院生(69.0%)のほうが多い。留学生のなかには、配偶者や子供を伴って留学する者が少なくない。日本政府は、留学生の数を把握し、積極的に公表しているが、留学生がどのような家族を何人伴って来日し、または後で呼び寄せているのかについては、公表していない<sup>注3)</sup>。従って、留学生の家族に対する公的な支援は国家レベルでは考慮されていないと考えてもよいであろう。しかし留学生を受け入れる現場では、留学生の家族は現実の問題である。留学生の家族に関する相談が大学に持ち込まれることも少なくない。例えば、埼玉大学留学生センターでは、国際交流会館(留学生寮)に相談室を設

置しているが、家族から直接、あるいは留学生を通じて家族内のもめごとに関する相談があり、件数的には第4位であるという。また、家族の不適應等の問題によって、留学を断念せざるをえない者もなかにはいると考えられる。井上ら（1997）が国費学部留学生の中途退学者について調査を行なったところ、その理由として、「家族・結婚」を挙げている者が、61名中5名いた。そのことから考えると、大学院留学生の場合、家族の問題はさらに数が多くなると予想される。このように、留学生受入れによって生じる留学生への対処のかなりの部分を留学生家族への対処が占めることになるにもかかわらず、留学生の家族に関する問題は、現場においても、研究面においても、これまでほとんど取り上げられてこなかった。わずかに行われている研究も、留学生本人から見た配偶者や子供の問題であったり、家族がいることに起因する留学生本人の問題であったりして、配偶者自身の声に耳を傾けるということあまり行なわれてこなかった。配偶者は滞在中に研究を行ったり、目的に向かって何かを成し遂げたりすることがない（Verthelyi, 1995）。従って留学生本人に比べて、大学やホスト国にとって価値があるものとは考えられてこなかったのであろう。

しかし、留学生本人にとって、家族は大きな存在であって、時には経済的な負担というマイナスをもたらすが、また精神的な安定というプラスをもたらす。留学の成否を決定する上で、家族の果たす役割は大きい。今後、日本に来る留学生が増加するなかで、留学生家族の現状の把握と彼らに対するサポート体制作りについて取り組まなければならないのは明白である。本博士論文では、留学生の家族をテーマとして掲げ、これまで明らかにされてこなかった家族がいることの利点と欠点、留学生家族が抱える問題やニーズ、そして留学生家族に対するソーシャルサポートについて検討する。しかしまずは、なぜ留学生に対して生活の支援が必要なのかという側面から論を進めることにしたい。

## 第1節 留学生の生活支援の必要性

日本の高等教育機関で学ぶ留学生の数は、日本にとって二つの重要な意味を持っている。一つは留学生の数が受入れ国の教育や技術の水準の高さを示す指標としての重要性であり、もう一つは高等教育を受けた人間が日本に関する十分な知識と経験とを持って世界中に広がっていくという事実である。

日本で学びたいという留学生に教育の機会を提供することは、科学技術の水準の高い国として当然の義務であろう。日本に学ぶ留学生が生活上の著しい困難を伴わずに勉学に励めるような環境を提供することは人道的な意味で当然であろう。この二つは独立しているよう

もあるが、また、表裏一体でもある。留学生に教育の機会を提供することは見返りを期待してのことではないと考えられるかもしれないが、見返りは自動的に起こってくる。例えば、知識・技術の習得を目的とする留学生は習得体験を評価するとともに、日本における生活についても必ず評価を行う。あるいは何らかの印象を持たざるを得ないと言ってもよい。知識・技術を順調に習得したにも関わらず、日本における留学生活がネガティブな印象を持つとすれば、それは知識・技術とは離れて、生活苦であるとか、差別感であるとか、孤独感であるとかの問題であるに違いない。このようなことがあれば、日本に対する留学生の総合的評価は、功罪相半ばし、端的に言ってゼロということになるだろう。

言葉も自由には使えず、生活の様式も異なる外国での勉学を支える生活が容易であるはずはない。従って生活面でのサポートがなければ、原則的に、留学生からの評価はゼロである。しかしもしも留学生活にポジティブな印象があるとすれば、日本に対する留学生の総合的評価は、知識・技術のプラスに加えてさらに高くなるであろう。従って多くの国の留学制度は、留学生に対する教育面以外に、生活面での支援を視野に入れている。留学生が知識・技術の習得だけでなく、日本における生活についてもポジティブな印象を持つとすれば、国際社会における日本の位置も高く維持されることになるだろうし、日本と、留学生の出身国との間の国際関係も長期に渡ってポジティブに維持されることになるだろう。もちろん、短期的には、人道的な意味で留学生の生活の支援がなされなければならない。

本研究は、留学生への生活支援のうち、とりわけ留学生の家族に対する支援を中心テーマとして、その現状を分析し、将来の支援の方策について提案を試みるものであるが、まず留学生一般が滞在先で遭遇する困難な問題と、それらの解消に向けて行われる支援について概観する必要があるだろう。

### 第2節 留学生の抱える問題とソーシャルサポート

留学生が抱える問題は多様である。学資、学業成績、青年期に特有の心理という学生一般が抱える問題（田中, 1998）に加えて、言語、教育制度の違い、学位取得、宿舎、家族の適応、異文化への適応、現地人との人間関係、差別、偏見等の問題が取り上げられてきた（白土, 1991; 岡, 1992; 松浦, 2000; 荘司, 2001; Selvadurai, 1992; Murphy-Shigematsu & Kosuge, 1996; Ward et al., 2001 等）。

まず、教育・研究にかかわる問題から見ていくことにしよう。とりわけ多くの留学生が抱える共通の問題は言語の習得である。現在、日本のほとんどの大学では、学習や研究のため



に、日本語能力が必要とされている。従ってほとんどの留学生は、日本の大学で学ぶ前に半年から1年をかけて日本語を習得する必要がある。また、日本の大学（特に大学院）では、研究のために外国の文献を使用することがしばしばある。その多くは英語で書かれたものであるが、これは留学生にとって、留学に際して二つの外国語を習得しなければならないことを意味している（田崎, 1997）。

次に、教育スタイルの違いも留学生にとって困難な問題の一つである。母国と日本とでの教育スタイルが異なる場合、留学生は困惑を覚える（白土, 1991、森山, 1990）。岩男・萩原（1988）の調査が行なった、日本で体験した最も不愉快な出来事の調査では、日本の教育制度・授業内容と回答した者が3%いた<sup>注4</sup>）。日本の大学の授業では教員からの一方通行の授業が多く、日本に来るまでディスカッションによって進む授業に慣れてきた留学生はどのように授業に参加したらよいのか困惑する。そのため、勉学が思うように進まないといった結果も生じうる。また、指導教官との人間関係に悩む留学生も少なくない。例えば、自分と指導教授の学問上の興味が合わない、研究のスタンスが一致しない、自分に関心を持ってくれない、差別されていると感じる等である（横田, 1990）。また、学位の問題も大きい。日本では、文科系の大学院は伝統的に博士号を出し渋る傾向があり、所定の期間内に学位論文が提出できないという状況は、留学生の不満要因の一つとなっている（丸井, 1994; 大友, 1993）。

学費や生活費は、留学生にとっては大きな問題である。経済的な制約から最短の修業年数で修了したいと願う留学生には、経済問題が学業に対して大きなプレッシャーとしてのしかかっている。日本と経済格差の大きい国や地域出身の留学生にとっては、母国から仕送りをしてもらうことはほぼ不可能である。留学生のための奨学金はあるが、奨学金をもらえる者とそうでない者には格段の差がある（大友, 1993）。日本の大学は、例えば、アメリカ合衆国のようにTA（ティーチングアシスタント）やRA（リサーチアシスタント）の制度が充実しておらず、大学内でアルバイト先を見つけることは難しい。多くの留学生は生活のために勉強時間を削って、勉学や研究と無関係のアルバイトをしているのが現状である。

何か問題が起こったときや日本文化について理解できなかったときなど、気軽に相談できる人の中に日本人が含まれていれば、異文化への不適応を引き起こすことも軽減できるだろう。しかし、日本人と良い人間関係を築くことは、留学生生活を快適にするための重要な要因であるが、必ずしも容易ではない。このような、日本人との良い人間関係を持っていない留学生、またカウンセリング等で他人に悩みを相談するということに抵抗を感じる留学生は、異文化の不適応が解決できないままに学業不振に陥り、留学目的が達成できない結果になる

可能性も少なくない。生活費や宿舍が与えられ、国立大学への進学先が保証された、留学生一般の中ではかなり恵まれた環境にある国費留学生でさえも、異文化不適應の問題を引き起こしている（鈴木,1997）。このことは、留学生にとって、精神面でのケアやサポートがどれほど重要であるかを示している。日本人との人間関係の悪さは、差別感や偏見を招き、留学生生活の質を悪化させ、ついには留学の目的を果たすことができないだけでなく、悪い対日感情を持って帰国するという結果になる恐れもある。

異文化への不適應によって引き起こされるメンタルヘルス上の様々な問題は、留学生活に大きな支障をきたす。このような問題を解決したり軽減するためには、様々な種類の援助が必要であるが、とりわけ、ソーシャルサポートと呼ばれる「対人関係からもたらされる手段的・表出的な機能を持った援助（稲葉, 1992,p.67）」は重要である。日本においても、留学生に対するソーシャルサポートの重要性が取り上げられ、近年になって研究が盛んになってきた（水野・石隈, 2001a）。

Klineberg & Hull (1979) は、留学先の国でホストの人との社会的相互作用が多いほど、その国の人に対する態度が好意的になって留学生の個人的な適應も高まるという仮説を立てた。そして、この仮説は実証され、ソーシャルサポート・ネットワークの適應促進仮説と称されるようになった（田中, 1998）。また、周囲の人の支援があればストレスの影響は弱められるという、ストレス緩衝効果（スコット, 1989）も指摘されている。

留学生のソーシャルサポートを担うものとして、学内の学生、教職員、学外の知人・友人等が挙げられるが、例えば、学業に関しては現地人（日本人）学生、一緒に遊ぶのは他国人留学生、出身文化を共有するのは同国人留学生や同文化圏の留学生が担っているという友人機能の分化に関する機能モデルも提唱されている（Bochner ら, 1985）。留学生へのソーシャルサポートの担い手はホスト国の現地人が適当か、留学生の同国人が効果的かという問題の検討もなされてきたが、これは一概には結論できない（水野・石隈, 2001a）。一般的には、ソーシャルサポートを受けることは留学生の適應にとって望ましいことであるといえる。

### 第3節 ソーシャルサポートの源泉としての家族

仕事や留学で海外に長期滞在する者の中には、配偶者や子供といった家族を帯同するケースが多い。滞在者が家族を帯同することによって生じるプラスの効果はこれまでいくつか検証されている。Black & Gregersen (1990) は、ソーシャルサポートの観点から、帯同している妻や子供の現地生活への適應が、海外派遣者の職務適應に影響を与えていることを指摘し

た。つまり、海外派遣者にとって、家族の成員が全員そろった家庭は現地生活の基盤になるだけでなく、家族の存在が職場におけるストレスを緩和し、仕事に打ち込む精神的な支えにもなるという。すなわち、帯同家族がソーシャルサポートの重要な供給源になっているのである。Caligiuriら(1998)は、海外派遣者と家族の適応過程の関係を家族社会学の観点から研究している。現地では、家族の繋がりや絆、家族内での協力が自国での生活以上に求められる。安定的な家庭生活が職務の支えになると同時に、順調な仕事生活は家庭生活に配慮するゆとりを与えるであろう。この効果は、「スピル・オーバー (spillover)」と呼ばれ、Caligiuriら(1998)は調査を行なって、その効果を実証している。また、留学生については、帯同した家族が留学生の文化変容過程と学業遂行に良い影響を与えることが指摘されている(Brisling, 1981; Klineberg & Hull, 1979)。

これに対して、家族の存在がプラスばかりでないという考えもある。海外派遣者の場合、国内勤務時よりも職位が上がるが、また長時間勤務にもなる(日本労働研究機構, 1998)。これらの労働条件に不満を訴える派遣者の妻の声も少なくない(長濱, 1994)。従って海外派遣によって夫婦関係が悪化する家庭があり(小林, 2001)、最悪の場合は妻が自殺を選択することもあるという(稲村, 1980)。また、留学生の配偶者の場合、キャリアの継続の不可能性、現地言語の言語能力不足、孤独さ、等が問題である(Verthelyi, 1996; Vogel, 1986等)。

子供の帯同については、海外派遣者の場合、マイナス要因と考えられている。永井(1994)は、子供の帯同は配偶者にとってはプラスであるが、派遣者にとってはマイナス要因であるという結果を導き出した。教育環境や医療環境について、海外派遣者は子供の帯同に不安を覚えているからであろうと推察されるが(永井, 1994)、実際に子供の年齢が高くなるにつれて、海外派遣者が子供を自国に残す率は高くなっている(白木, 2001)。

日本に滞在する外国人留学生を対象を絞って考えてみよう。もし、留学生の家族帯同が情緒面でプラスとなるなら、そして、学業の遂行にもプラスになるなら、家族帯同を可能にする留学生受入政策が推進されるべきであろう。留学生の第一の目的が学業であることは今さういうまでもない。家族帯同が留学生自身の勉学や研究を促進しようとするのであれば、家族に対する直接・間接の支援を行なうことが必要だろう。そのような支援にはコストがかかるが、様々な問題を抱えて学半ばにして、しかも悪い対日感情を持って帰国する留学生を多数生産することに比べれば、結果的には安上がりとも言えるだろう。

では、実際に家族へのサポートを必要としている留学生はどのくらい存在するのであろうか。白土(1993b)が1990年に行なった福岡地域留学生の実態調査の結果によれば、回答者

423人中189人が既婚者であった。そのうち家族帯同留学生は139人（全体の32.9%）で、既婚者の73.5%にも及んだ。また、九州大学におけるデータでは、1993年現在、621人の留学生のうち、家族帯同留学生は253人である。また神戸大学の統計では、1999年11月現在で、全留学生699名中、153名（21.9%）が家族帯同留学生である。また、兵庫県全体でみると、1,841名の留学生中、314名（17.1%）が家族帯同留学生である。全国的な平均でないにしても、5人に1人は家族が日本に滞在しているという計算になる。アメリカ合衆国のデータ（1993/94年の統計）によると、18%の留学生が配偶者や子供等の家族を伴っており、数値的には日本の状況とほとんど変わらない（Verthelyi, 1996）。

滞日留学生の家族について調査を行なったマーフィー重松・白土（2001）は、留学生の家族帯同の得失について次のような結果を見出した。すなわち、家族の帯同は、89%の留学生が学習面や情緒面において良いと考え、46%が経済的にも良いと考えている。その他、家族がいるので、孤独を感じない、問題や成功を分かち合う人がいる、学業を励ましてくれる人がいる、等である。また、家族帯同のネガティブな側面として、留学生本人にとっての問題点としては、宿舎、ストレス、子供に関する心配、経済的圧迫、配偶者の日本語能力等が挙げられた。配偶者にとっての問題点は、経済面、宿舎、職業不足等であった。

家族帯同の留学生は単身者同様に多くの問題を抱えているものの、経済や宿舎は、留学生が一般的に抱えている問題であり、家族と共に日本で生活することの良い影響のほうの評価できるといえる。つまり、単身の留学生に比べて、帯同留学生のほうが、日本での留學生活が快適である可能性は高いと考えられるのである。

### 第4節 本研究の意義と問題設定

本研究において留学生家族への支援を研究テーマとする必然性とその意義は以下の通りである。

1. 日本の今後の留学生受入れ政策は、量から質の方向へ転換するであろう。つまり受入留学生の人数はこれ以上増加させず、個々の留学生へのサポートを充実させる方向に向かうであろう。
2. 留学生の家族の存在は留学生本人にとって精神的なサポート源となる。このことが学業の面でもプラスに働くことは十分に考えられる。従って、留学生は家族と共に日本で生活することが望ましい。
3. 日本の高等教育機関にとって、留学生本人だけでなく家族をも視野に入れたサポート

体制とサービスが今後ますます必要になってくると考えられる。

4. そのためには、留学生家族の帯同についての状況と遭遇する問題やニーズを把握し、家族が日本で快適に生活できる環境について研究しておく必要がある。
5. そのような研究の結果は、教育の現場で留学生と関わる教職員、学生に対して留学生およびその家族のサポートに関する情報や知識を与え、大学の留学生向けサービスやプログラムの質的向上に役立つ。
6. また研究の結果は、留学生本人にとっても、また配偶者にとっても、日本における留学生家族が直面する問題についてあらかじめ知識を得ることができ、新しい環境に適応し、日本で生活していく上で手助けとなる。

留学生の家族について研究することは、以下の点について確認することに意義があると考える。

課題1：留学生家族が抱える問題とは何か。

課題2：留学生にとって家族帯同の利点は何か。

課題3：配偶者にとって日本滞在の利点は何か。

課題4：総合的に見て家族帯同は促進されるべきか。

## 第5節 本論文の構成

本博士論文の構成は以下の通りである。第1章「海外滞在外者における家族帯同」では、これまで行なわれてきた企業からの海外派遣者と留学生の家族帯同に関する先行研究をまとめ、その相違点、共通点を明らかにする。また、本研究で行なう調査内容について検討する。第2章「日本の大学における留学生の家族帯同—予備調査—」では、先行研究で用いられた質問項目を使い、予備的な調査を行なう。そして、その結果に基づいて、本調査で必要な項目を新たに設定し、質問紙を作成する。第3章「日本の大学における留学生の家族帯同—本調査—」では、神戸大学在籍の全留学生及び留学生の配偶者を対象として行なった質問紙調査をデータとして用い、留学生の家族に関する問題を明らかにする。さらに、面接法によって得たデータを用い、詳細かつ個人の抱える問題や利点を探る。第4章「考察」では、本研究によって得られたデータをもとに、留学生の家族帯同の問題点と利点を考察し、問題に対して、どのような対応が必要であるかを提示する。第5章「まとめと提言、今後の課題」で

は、家族帯同のメリット、デメリットをまとめ、各方面に向けた提言を行なう。

## 序章 注

- 1) 『ユネスコ文化統計年鑑 1998』より
- 2) 『ユネスコ文化統計年鑑 1998』によると、日本の留学生受入数は世界第7位となっている。
- 3) 文部科学省ホームページや文部省学術国際局留学生課発行の冊子「我が国の留学生制度の概要 受入れ及び派遣 2000 年度版」を見る限り、言及されていない。
- 4) 留学生の日本の教育制度に対する不満事例としては、「大学が全く期待はずれだった」、「指導教授がいつも忙しいので話ができない」、「大学のコースには説明といったものがない」というものがあった(岩男・萩原, 1988)。

## 本論文で使用する用語の定義

本研究で使用する用語について、説明と定義の設定を行なう。

### 留学生

留学生の定義は国や時代によって異なるが、現在の日本政府(文部科学省留学生課)が呼ぶ留学生とは以下のようになっている。

「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定める「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生  
(『留学交流 2002 年 12 月号』 p.28)

つまり、留学生とは、その大半が大学等の高等教育機関に所属する者のことを指す。本研究では、この定義に従うこととする。

### 留学生家族

本論文で用いる留学生家族とは、留学生が自国から伴う配偶者や子供のことを指す。留学生の日本人配偶者や留学生の親兄弟などは本論文では取り上げない。また、配偶者のなかには自身が留学生の身分の者も多く存在する。ここでは、配偶者として来日し、その後留学生の身分になった者も取り上げることとする。何故ならば、大学で勉学を希望する配偶者の数

は少なからず存在し、彼らに対する情報提供やサポートの不足も問題であると思われるからである。

### **帯同留学生・不帯同留学生**

帯同留学生とは、配偶者や子供が留学生と日本で共に暮らしている者のことを指す。不帯同留学生には、独身留学生や既婚留学生で家族（配偶者や子供）を日本に帯同していない者が含まれる。

### **異文化適応**

人は、異文化適応にたどり着くまでにいくつかの段階を踏む。Lysgaard は、1955 年に初めて適応の流れを U カーブ仮説として提唱した。その後、様々な学者によって異文化適応の段階についての研究がなされてきた。Oberg (1958) の 7 段階仮説や Adler (1975) の 5 段階適応過程（孵卵期、移行期、学習期、自律期、独立期）等である。Black& Mendenhall (1991) は、社会的学習理論の立場から 4 段階の適応段階を主張した。すなわち、第一段階のハネムーン期（数週間～2 ヶ月）、第二段階のカルチャーショック期（3 ヶ月～9 ヶ月）、第三段階の適応期（10 ヶ月～2 年）、第四段階の習熟期（2 年目以降）である。しかしながら、このような適応段階は、年齢、言語能力、自立心、心身の健康状態、社会的支援の量と質、現地での役割、ホスト文化の性格、政治や宗教などの個人的・社会的条件が関与しており、一様ではないという指摘もある（Furnham& Bochner、1986）。

また、異文化の適応・不適応の中心的な原因を横田（1997）は、三つの側面に分けて考えている。第一が、異文化に入った個人の属性の問題（性格、日本語能力、専門能力等）、第二が、受け入れ側の問題（外国人に対する社会の見方や法制度、大学の教育内容等）、そして第三が、異文化接触であるがゆえに発生する問題（相互誤解や摩擦等）である。

このように異文化適応については、研究者によってそれぞれ概念や定義が若干異なるが、本稿では、田中（1998）の定義を用いて、「心身が健康で、社会的にも良好な状態で課題達成を遂げており、異文化性に基づく困難を乗り越えて異文化理解を果たしていること」とする。

## 第1章 海外滞在における家族帯同

本章では、家族帯同に関するこれまでの研究を、問題点、利点、ソーシャルサポートの三つの観点からまとめる。第1節では留学生、第2節では企業による海外派遣者に関する先行研究を取り上げ、相違点、共通点等を整理する。

### 第1節 留学生の家族帯同に関する先行研究

#### 1 家族帯同の問題

##### 家族帯同留学生

留学生一般が抱える問題は、語学の習得、教育制度の違い、学位取得、宿舍、異文化への適応、日本人との人間関係、経済的困難、アルバイト、等があるが、家族を帯同することによって、問題がさらに重大になったり、別の問題が生じる場合がある。まず、家族全体が抱える問題から考える。単身の留学生に比べ夫婦、家族用の宿舍が少ないことはよくいわれており、大橋（1997）は、問題のトップが宿舍問題であると指摘している。また、マーフィー重松・白土（2001）によると、住居の不満は、高い家賃、住まい探しの困難、寮不足、狭い部屋、学校と自宅の距離であるという。

家族を帯同することによる留学生のデメリットとしては、経済的圧迫、子供に関する心配、配偶者の日本語能力が十分でない、ということが上位に挙げられている。また、私費留学生は国費留学生よりも問題を多く感じているという（マーフィー重松・白土, 2001）。さらに、帯同留学生のなかでも、奨学金を受給している割合の低い私費留学生は、勉強しながらアルバイトをしなければならず、忙しすぎるため、余裕をもって留学生活を送ることができないのであろうと述べている。

##### 配偶者

Hamed（1985）は、あるアメリカの大学に在籍するエジプト人留学生 55 名を対象に、彼らの配偶者に関する問題について調査を行なった。その結果、留学生の 73%が、配偶者が問題を抱えていると回答している。これまで指摘されている配偶者に関する問題は、語学能力や留学先国の社会・文化の違い、孤独感、ストレス、ホームシック、カルチャーショック、異文化への不適応、キャリア、等である（Verthelyi, 1995; Vogel, 1986; Schwartz& Kahne, 1993; 白土, 1993b; 大橋, 1997）。語学の問題は、家族が一番に必要であると感じる問題の一



つであろう。Vogel (1986) は、アメリカにいる日本人の留学生配偶者が現地に適応することに対しての一番の問題であると述べており、また留学生である夫も英語の読み書きはできても、実用的な英語ができないために、子供を小児科医に連れて行っても話ができなかった例を挙げている。また、Verthelyi (1995) は、ある大学の大学院生の留学生配偶者 49 名（女性）にインタビューを行なった。そのうち、渡米時に英語に関して不自由がないと感じていたのはわずか 12 名であったという結果から、留学生と異なり、事前に TOEFL の必要がない配偶者は、自分で英語の能力を判断し、それなりの準備しかしていないことを指摘している。

語学能力が不十分であると、現地で仕事を見つけることは容易ではない。大橋 (1997) の調査によると、来日前は、留学生配偶者の有職率が 56.7%であったのに対し、来日後は 10.3%にまで減っていたという。一般的に、留学生の配偶者は高学歴であることが多く、有職者も少なくないと考えられる。しかしながら、留学生に帯同する配偶者の多くは、留学時に持っていた職を捨てるかあるいは中断しなければならない。Verthelyi (1995) の調査によると、調査対象となった留学生配偶者の全員が母国で結婚したときに仕事をやめていなかった。従って職を捨てる決心は配偶者にとって想像以上に辛い選択であろう。そのような重大な決断をしたにも関わらず、留学先国で思うように仕事が見つからない、または自分のキャリアを生かした仕事ができないとすれば苛立ちは大きい。母国を離れることによって、「活動的な職業生活から主婦としての伝統的な女性の役割を負うこと (Verthelyi, 1995; p.398)」になる配偶者も多い。

次に、配偶者の時間の問題について述べる。仕事をする機会の少ない配偶者にとって、異国の地で時間をうまく活用することは難しい。Hamed (1985) が帯同留学生に行なった調査によると、暇な時間が多すぎるのが配偶者の問題であるという回答が最も多かった。そして、寂しさと暇な時間は関係があると結論付けている。育児に費やす時間に関しては二つの見方がある。Verthelyi (1995) は、子供のいない配偶者は、はっきりとしない役割や活動のない環境のなかに一人にいるということを認識し、ショックを受けると指摘しているが、一方、Schwartz & Kahne (1993) は、子供のいない配偶者は、子供のいる配偶者よりも、教育を受けたり、仕事を見つけたり、新しいキャリアを身に付けることに意欲的で、そのような活動が、孤独感を軽減させているとしている。いずれにせよ、何かをする時間があることで、孤独感が解消されることがある。

配偶者の抱える問題が大きければ、精神面、身体面にも影響を及ぼす。白土 (1993b) は、

フラストレーションのため、胃にポリープができる、胸焼けが長期間続く、不眠症に陥るといった症状が配偶者に出ることを挙げている。しかし、このような状況にあっても多くの配偶者は診察を拒む傾向にある。とくにカウンセリング等が必要な精神的病状があっても、カウンセリングの存在に慣れていない者は多い。Vogel (1986) は、日本人留学生及びその配偶者について、「精神療法は彼らにとって全く未知の体験」(p.276) であろうと言っている。さらに、Verthelyi (1995) のインタビューした配偶者は、カウンセリングを疑い、理解しておらず、問題は自分でまたは家族、仲間が対処すると考えている、と指摘している。

### 子供

大橋 (1997) の調査によると、子供の 73.7%が未就学・保育園児であったという。留学生の子供に直接調査を行なった研究は見当たらない。これは、子供の年齢が低く、調査が難しいためであると考えられる。

これまでの研究では、子供についての問題については、両親が回答している。つまり、両親から見た子供の問題である。Hamed (1985) の調査では、留学生の 70%が子供についての問題を抱えていると回答している。その問題の内容は、育児施設費が高いこと、自文化以外への習慣・価値への社会化に対する恐れ、異性のいる保育園・幼稚園に通わすこと、育児施設が近くにないこと、収入がないため子供のニーズを満たすことができないこと、研究のプレッシャーのため子供と関わる時間のないこと等である。大橋 (1997) は、言葉の問題として、母語の喪失、日本語と母語の混乱があるとし、教育面に関して、母国との教育制度の違いについて問題があるとしている。さらに、大橋 (1997) は、子供の年齢が高くなるにつれて、子供に関する問題が大きくなることを明らかにしている。子供が就学年に達すると、帰国後の適応や教育の心配が増加すると考えられる。また、Vogel (1986) は、留学先国と母国の子供との関わり方や育児方法の違いが、親に混乱を招いているとし、日本人夫婦がアメリカでベビーシッターを利用することに抵抗を感じている例を挙げている。

## 2 家族帯同の利点

家族を帯同することによる利点は何であろうか。利点に関する調査研究は少ない。ここでは、マーフィー重松・白土 (2001) の留学生からみた家族の利点についての調査結果を

もとに述べる。それによると、90%近くの留学生が学業面や情緒面において家族帯同に肯定的であると回答している。情緒面でのサポートとして具体的には、孤独を感じない、問題や成功を分かち合う人がいる、といったメリットを感じている。また、配偶者が学業を励ましてくれるという効果もある。日本滞在が配偶者や子供にとって有意義であるという意見も多い。そして全体的に、デメリットよりもメリットのほうが多いという結果を得ている。このように、家族を同伴することは、留学生が一般的に抱える問題を軽減し、さらには、問題自体の発生を防止する効果があると考えられる。つまり、留学生が単身で来るよりも、家族を伴って来るほうが望まれる可能性が高いことが予想される。しかしながら、メリットを挙げているのは、アジア圏以外の留学生であることを指摘しており、出身地域によって差があることが示唆されている。

### 3 ソーシャルサポート

留学生や配偶者は問題を抱えたとき、どこに助けを求めるのであろうか。1で述べたように、カウンセリングの習慣が母国で存在しない者は、相談や悩みを見ず知らずのカウンセラーに打ち明けることはほとんどない (Verthelyi, 1995)。また、留学生に対するボランティアのサポート活動に対しても、全ての留学生が肯定的な意見を持っているというわけではない。マーフィー重松・白土 (2001) は、「日本人による留学生や家族のためのボランティア活動はごく一部にすぎず、不十分であり、役に立たず、形式的である (p.97)」といった見解を示している。また、大橋 (1997) は、約半数の留学生が、留学生やその家族にとってボランティア活動が役に立つと肯定的な回答をしているとしながらも、ボランティアはサポート活動より英会話に興味を持っており、本当に困ったときに全く役に立たないという留学生からの意見を挙げている。さらに、Hamed (1985) は、アメリカの大学において、家族の主たるサポートとなるべき留学生アドバイザーは、サポート源となっていないという結果を、帯同留学生の調査から導き出した。

外部に相談し辛い者にとって、家族はよき相談相手である。家族の存在が互いに援助源となっていることも指摘されている。Lin (1998) は、留学生の援助源の一つとして家族の存在を挙げている。水野・石隈 (2000) は、配偶者と同居している留学生は、被援助志向性 (留学生が誰に援助を求めるかという認知的な枠組み) が低いことを見出している。

また、Hamed (1985) の調査によると、留学生は、研究や教育に関する問題は指導教官に頼る傾向があるが、配偶者や子供の問題に関しては、同国人の友人に相談する割合がかな

り高いという結果を得ている。Vogel (1986) は、アメリカに滞在する日本人留学生家族が滞在中起こる様々な問題を解決するために、日本人家族同士が結束し、快適さを得るために独自の日本社会を作っていると述べている。同時に、助けてくれる日本人がいなければ、彼らは取り残され孤独であると感じる傾向があることを指摘している。

このように、留学生家族の主な相談相手は、帯同している家族か、同国人に限られており、相談相手として現地人が選択されることはあまりないようである。

また、アメリカでは大学からの配偶者向けのオリエンテーションが比較的多く行なわれている。しかしながら、留学生よりも遅れて渡航すること、アカデミックな内容説明が多く、気後れすること、内容を理解するための英語能力が十分でないこと等から、オリエンテーションに出席する率は意外に低いという (Verthelyi, 1995)。

### 第2節 海外派遣者の家族帯同に関する先行研究

留学生の他に、例えば会社に所属している者が海外に派遣された場合等、何らかの形で海外に滞在する外国人家族に関する研究は、留学生家族の問題を考える上で参考になるであろう。アメリカでは海外派遣者が職務を遂行できずに、途中で帰国するというケースが多々みられ、企業の損失をなくすために、その原因をさぐることからこの分野の研究は始まった。いずれも異文化の適応と関係した研究が多くを占める。以下にその研究についてまとめる。

#### 1 家族帯同の問題

海外派遣者が、職務を遂行できずに途中で帰国を余儀なくされる原因として、派遣者本人の問題以外に、帯同している妻や子供の現地生活への不適応が大きく関係している。企業が海外で活躍できない理由の上位三つが派遣者の家族に関わる問題であったという報告もある (ブラックら, 2001)。企業の損失や不利益を最小限に食い止めるため、派遣者のみならず、家族の適応、派遣者と家族の関係等に注目した調査・研究が行なわれ (Black & Mendenhall, 1991; Caligiuri, 2000, Brett & Stroh, 1995 等)、実際、派遣制度の見直し・改善に役立ってきた。

厚生労働省所管の特殊法人である日本労働研究機構は、1988 年以降、定期的に海外派遣者とその家族に対し調査を行なっている。1998 年の調査によると、海外派遣者の多く (57%) は、家族を赴任地に帯同している。しかも、比較的年齢の低い子供のいる家族は家族を全

員帯同する傾向が強い（30～34歳で79%、35～39歳で86%）。

Black& Stephens (1989) は、日本、韓国、台湾、香港に滞在するアメリカ人駐在員とその配偶者を対象に調査を行なった。その結果、配偶者の異文化に対する関心が高いほど一般的適応度（住居、食べ物、健康等）、対人適応度（現地人との人間関係）が高いこと、駐在員の適応は配偶者の適応と関係していることを見出した。また、彼らが対象とした企業の90%以上が配偶者に対する事前の研修を行なっていなかった。さらには、約半数の配偶者がそれまで仕事をしてきたにも関わらず、90%以上の企業が派遣国での仕事を探す手助けをしていなかった。彼らは駐在員の任期途中の帰国は、会社にも痛手であるのならば、より配偶者に配慮するべきであると主張している。

永井 (1994) は、米国中西部に所在する日本企業の現地法人で働く日本人派遣社員を対象に派遣者の職務適応度と家族の異文化適応の関係について調査を行なった。その結果、配偶者の現地適応が派遣者の職務適応のプラス要因になる、とする一方、「子供の帯同は、派遣者の職務以外の付加的な仕事、負担をもたらし、職務適応には障害になると予想される」(p.81) という結論を導き出した。しかしながら、配偶者の現地での適応と子供の帯同は正の相関がみられ、子供の存在は、配偶者の現地適応に関してはプラス要因であるとされた。そして今後は、子供の帯同によって生じる問題（現地の教育、医療問題）の改善が重要な課題であると述べている。

派遣者が海外勤務の要請を積極的に受諾するかどうかに関して、配偶者の意見が強く反映されることが多い。つまり、「配偶者は通常、自分のキャリアを中断すると将来の昇進の機会を危うくすると感じて」おり(ブラックら, 2001; p.110)、配偶者が転勤を好まなければ、派遣者も海外勤務をしたくないと考えるということである。しかし、ブラックら (2001) は共働きの家族全てが問題になっているというわけではなく、夫婦共働きが比較的少なく、仕事と家族に関する意思決定や役割がより分離されている文化をもつ国もあると指摘し、日本の例を挙げている。

また、長濱 (1994) は、日本人派遣者の妻は夫よりも人種差別を多く経験しているという結果を得て、「現地での生活範囲の違いに由来している (p.74)」という判断をしている。また、赴任経過期間が長くなるほど人種差別を感じるという者の割合が高くなる傾向があり、「現地での生活にある程度慣れてきたころに人種差別を受けていると感じる (p.83)」ようであるとしている。

子供の適応に関して、植田 (1996) は、米国に滞在する日本人園児・母親に対する調査

を行なった。その結果として、異文化で暮らす幼児は母親の異文化社会への適応、対人関係、親の心の安定さに影響されることが大きいと指摘している。また、子供が通う幼稚園では、子供・保育者・保護者3者の相互作用、相互理解が、子供が楽しく過ごすために必要であることも説いており、両親の異文化適応や社会への参加度が子供の適応にも大きく影響していることを示唆している。Caligiuri (2000) は、子供の数と海外に行きたいという妻（配偶者）の希望は負の相関があると指摘している。

### 2 家族帯同が家族に対して持つ利点

長濱 (1994) によると、海外で異文化に接したことによる影響として、日本人海外派遣者の妻は「視野が広がった」、「日本の良いところを再発見できた」、と回答するものが多くいたことを挙げている。また、Stephens & Black (1991) が、滞日アメリカ人海外派遣者（課長クラス以上）67人とその配偶者に対して行なった調査では、母国で仕事を持っていた配偶者であっても、企業による保障（住居や車の支給、配偶者の現地での就職の世話、子供の養育費の支給、海外派遣に対する手当等）が充実しているので、派遣に対し、満足をしており、キャリアの中断や収入の減少であるとは考えないという結論を調査から導き出した。

さらに、Caligiuri (2000) は、海外での滞在が、1年以内ならば、配偶者は自分のキャリアを妨げたくないと感じるのに対し、1年以上の場合、派遣先で楽しみがあり、キャリアを休み、家族に時間を費やすよい機会だと考える傾向があるという結果を得た。

### 3 帯同家族へのサポート

Black & Mendenhall (1991) は、Uカーブ理論の再検討を行ない、カルチャーショック期に現地の人と接触を行なう機会が多ければ、文化等の習得を早期に行なうことができ、カルチャーショックの期間も短くなると主張している。

海外派遣者の場合、十分でないという指摘はあるものの (Black & Stephens, 1989)、企業が派遣家族に対して何らかのサポートを行なっている場合が多い。白木 (2001) は、企業の規模の大小によって支援の豊富さは異なり、どちらかといえば、大企業のほうが支援体制は整っていると述べている。既述の日本労働研究機構の1998年の調査によると、導入されている制度の高い順に、健康診断に要する費用の援助 (87.7%)、日本の会社・仕事関連の情報提供 (60.2%)、派遣元企業による定期健康診断の管理 (59.3%)、海外（帰国）子女教

育相談 (47.7%)、労働組合による情報提供 (41.4%)、民間損害保険の補助 (38.9%)、国内残留家族への援助 (38.0%)、国内住宅・財産の情報提供および管理・保全 (37.1%) である (白木 2001,p67)。また、宿舎に関しては、多くの企業が住宅を用意したり、家賃の補助を行なったりする (岩崎他編,2003) ことが基本になっている。

また、ブラックら (2001) は、マネジャーとその家族の「生活を良くする」ことによつて企業が国際舞台でより有利に競争することが可能になると主張し、アメリカの企業の優秀な転勤援助プログラムを 6 例紹介している。

企業や国によってサポートは異なるものの、ある程度の企業の努力がみられる。そして、その地域で人口が多ければ、企業が日本人学校の設立や日本食品の設置をバックアップしている。つまり、配偶者や子供にとつても快適な海外生活ができる環境が整えられているといえる。

最後に、序章で触れた「スピルオーバー理論」についてももう少し述べておく。家族社会的な立場から家族が互いに援助源となっていることが指摘されている。家族と仕事生活の相互効果理論の一つに、スピルオーバー理論 (Spillover Theory、波及効果理論) がある。スピルオーバー理論とは、(仕事をしている配偶者の) 職場での出来事が、家庭生活に影響を与え、同様に家庭生活が仕事生活に影響を与えるという相互効果である。また、家族が仕事をしている配偶者の業務遂行に影響を与えるともいわれている。Caligiuri ら (1998) は、スピルオーバー理論を用い、海外派遣者とその家族の適応の関係について調査を行なった。その結果、家族の適応と職務に対する適応には強い相関がみられることが明らかになった。つまり、派遣者の適応には家族の適応が必要であるし、家族の適応には派遣者の適応が不可欠であるということである。

## 第2章 日本の大学における留学生の家族帯同一予備調査一

### 第1節 質問紙調査

#### 1 調査の方法

この調査で使用した質問項目は、ステイーブン・マーフィー重松、白土悟、大橋敏子が1995年に北海道大学、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、九州大学に在籍する留学生家族を対象に行なった共同調査で用いられたものである。質問紙配布時期は2001年9月である。調査対象は、家族を日本に帯同している留学生とその配偶者である。配布は、筆者が直接留学生に手渡したり、留学生に依頼して他の留学生に配布してもらったり、留学生宿舎を訪問し手渡すという方法をとった。3枚綴りの質問紙のなかに、留学生が回答する部分と配偶者が回答する部分がある。留学生とその配偶者にそれぞれ回答を記入してもらった後、予め渡してあった切手付封筒に入れ、郵送してもらった。その結果32部の回答が収集できた。マーフィー重松・白土・大橋の調査では、質問紙は日本語に英語を併記したものであったが、この予備調査では、中国人・韓国人留学生の多いことを考慮し、日本語と英語の他、中国語と韓国語の4言語による質問紙をそれぞれ作成し、対象者にいずれかの言語の質問紙を選択させるようにした。外国語の翻訳は、それぞれの言語の母語話者が行ない、別の母語話者のバックトランスレーションによって質問の意図が正しく翻訳されていることを確認した。

質問紙の内容は、フェイスシート、留学生への質問、留学生の配偶者への質問の三つに大きく分かれている。質問項目は、留学生とその配偶者の抱える問題、家族内の問題の状況、日本人や日本社会に対する印象などである。

#### 2 結果と考察

回答者の主な国籍は、中国（10名）、韓国（8名）で、他のアジア諸国が6名、その他ヨーロッパ、南米、北米となっている。回答者の回答者の平均年齢は、31.2歳で、30歳代の回答者が23名を占める。子供がいる留学生は11名であった。

##### 2-1 留学生への質問

###### 問題の種類

家族のいる留学生が持っているであろう問題について、「1. 非常に問題である 2. 少



し問題である。3. あまり問題でない 4. 全く問題がない」の4段階で自己評定させた。その結果を表2.1に示す。問題が多い傾向がみられたのは、「出産及び子供の世話」、「子供の教育」、「家族の日本語でのコミュニケーションに関する問題」、「宿舎」であった。留学生は自分自身のこと以上に、配偶者や子供に関して問題を感じていることが示唆された。逆にあまり問題がないとされたのは、「交通事故」、「宗教の違い」であった。

### 援助・情報について

どのような援助や情報が役に立つのかという質問に対して、来日前、日本におけるオリエンテーション、帰国時のオリエンテーション、の三つの時期について自由記述の回答を得た。まず、来日前に必要なと感じている情報としては、

- ・大学院（進学）の情報
- ・日本の大学の質について
- ・宿舎
- ・日本についての一般情報（日常生活、日本文化等）
- ・子供のための学校

等が挙げられた。また日本にいる間に必要なものとしては、

- ・奨学金
- ・留学生援助の情報
- ・アルバイト
- ・進学
- ・日常生活
- ・学習面の援助
- ・救急時の対応
- ・神戸市の公共サービス

等が挙げられた。帰国時のオリエンテーションとしては、

- ・就職情報
- ・研究のフォローアップ

等が挙げられた。まとめると、留学生が必要な情報は、来日前では、宿舎や大学の情報、家族の日本での生活についてであり、来日後は、奨学金やアルバイトの情報、大学院への進学等についてであり、帰国前は、学業に関する帰国後のフォローアップや就職について

である。

次に、日本人による留学生や家族のためのボランティア活動についてどう思うか、という質問に対しては、多くの留学生が肯定的な回答をしており、「すばらしい、ありがたいと思う」、「とても感じがよく、日本で生活を容易にしてくれる」等の意見があった。しかしながら、感謝の反面、

- ・留学生のニーズに合わせた細かい情報が必要
- ・活動が限られているし、そのほとんどが日本語で行なわれている
- ・英語と日本語によるコミュニケーションは難しい
- ・友人としてではなくボランティアとしての立場をとっているのを感じる

と回答したものもいた。使用言語と活動内容に不満がある留学生もいるようである。さらには、「何をやっているのか分からない」「活動に関する情報がない」といった意見もあり、ボランティア活動情報が全員には浸透していないことが分かった。

異国・異文化の地に暮らす外国人にとって、ソーシャルサポートは必要不可欠なものである。留学生やその家族にとっては、大学や地域のボランティアによるサポートは大きな助けとなっていると考えられる。しかしながら、来日したばかりの配偶者は日本語によるコミュニケーションに不慣れである。また、ボランティアができる外国語のほとんどは英語であるが、配偶者は必ずしも英語が話せるわけではないので、最初の時点で言葉の壁を感じてしまい、その後も日本人とうまく喋れなくなる恐れがある。また、援助者と被援助者という関係が、ともすれば上下関係を形成してしまい、サポートを受けるほうにとってはそれが苦痛となっているのかもしれない。

### 家族帯同について

学業面や精神面で支えてくれる家族というのは、独身留学生にはないサポート源である。しかしながら、家族の日本語、子供の教育に関する問題、経済的問題も同時に抱えており、家族と同居する留学生は、ポジティブな面とネガティブな面の両方を持っていることが分かる。

家族を帯同する場合の利点と問題点を提示し、該当するものを全て選択させた。その結果を表2.2に示す。上位から、「孤独を感じない(28名)」、「問題や成功を分かち合う人がいる(25名)」、「学業を励ましてくれる(23名)」、「日本に滞在することが配偶者にとって有意義である(21名)」であった。問題点は上位から、「経済的圧迫(19名)」、「忙しい

のに家族に関わらなければならない負担(14名)」、「配偶者が日本語ができない(10名)」、「子供の学校での問題(9名)」であった。これについては、マーフィー重松・白土(2001)とほぼ同様の回答結果が得られた。

全体として、家族が日本にいることの評価について、学業面については、良い影響が27名、悪い影響が3名、経済面については、良い影響が14名、悪い影響が17名、情緒面については、良い影響が18名、悪い影響が2名であった(図2.1)。家族の存在は、留学生を学業や研究において精神的に支えているといえるが、家族が生活していくには経済的には必ずしも楽ではないことが浮き彫りになっている。

## 2-2 配偶者への質問

### 日本での生活で困っていること

留学生の配偶者に日本で生活して困っていることについて「1.非常に困っている 2.やや困っている 3.あまり困っていない 4.全然困っていない」の4段階で自己評定させた。結果を表2.3に示す。

高い点が得られたのは順に、「家族からの別離」、「日本人の友人を作ること」、「仕事の機会の欠如」、「宿舎」、「親しい友人がいない」、「財源が十分でない」であった。

### 配偶者(留学生)についての悩み

留学生本人について悩みを抱えている配偶者は少なかったが、自由記述のなかには、「2人とも忙しいので、相手のことを考えることが少なく、喧嘩しがち」や「意見が合わないときがよくあるので、互いに傷つけないように解決するのは難しい」といったものがあった。夫婦共に留学生の場合、留学生としての苦労は理解できるが、互いに研究・勉強で忙しいため、すれ違いが多くなる可能性もある。また、そうでない場合は、互いの苦労が分からないため、理解不足に陥り、社会との繋がりをもたない配偶者が孤独を感じることも多くなるであろう。いずれの場合でも、夫婦間の問題が生じることが考えられる。

### 子供についての悩み

子供を持つ配偶者11名のうち、子供について悩みを抱えている配偶者は4名であったが、子供の教育に関する心配や、「夫婦2人で学校に行っているため、勉強も忙しくアルバイトもしないと生活できないから、子供は欲しいけれどもいつ子供を作るのか、勉強を優先す

るべきか困っています」といった、子供を持ちたいが持てないという悩みを抱えているケースもあった。

子供に日本語を学び続けさせたいか、という質問に対しては、13名が「はい」、2名が「いいえ」と回答し、また、将来日本留学をさせたいか、という質問に対しては、11名が「はい」、10名が「いいえ」と回答した。外国語能力の一つとして日本語は学び続けさせたいが、必ずしも日本へ留学はさせたくないという結果であった。これもマーフィー・重松・白土(2001)と同様の結果を得た。配偶者による日本留学の評価は、必ずしもよいとはいえない結果となった。

### 日本での生活について

日本人や日本についてどのように思うか、という質問に対しては、好意的な意見と否定的な意見の両方がみられた。日本については、物価が高いといった否定的な意見もあったが、

- ・日本は発達している。情報の伝達が速い。
- ・日本はすばらしい山々のある美しい国。

等の肯定的な意見もみられた。

日本人については、

- ・日本人は情に厚く友好的。
- ・規律正しい。仕事熱心。

といった、勤勉で友好的な日本人像を挙げている者もいたが、

・隔たりがあるので言にくいことがある。いつも外人扱いされる。日本人はウチとソトを分けている。

- ・感情を表に出さない。
- ・国際化は口だけでなく行動で示して頂きたい。
- ・閉鎖的、冷淡、無関心な社会。
- ・何故日本人は外国人が嫌いなのか分からない。
- ・日本人と仲良くなるのは難しい。
- ・外見はやさしくみえるが、他人を受入れることはなかなかないと思う。

等、否定的意見の方が多くみられた。

また、日本に住んでよかったこととしては、交通の便利さ、治安のよさ、気候のよさ、

環境のよさ、といった社会的、環境的な面で日本を評価していることが多かった。また、日本文化、異文化を知るよい機会となった、と回答している者も複数いた。

全体的に日本での生活に満足しているか、という質問に対して4段階で自己評定させた。結果を図2.2に示す。7名が「非常に満足している」、23名が「いづらか満足している」、2名が「あまり満足していない」と回答し、「全然満足していない」と答えた者はいなかった。これもマーフィー重松・白土(2001)と同様の結果となった。満足していない理由として、「仕事を見つけることが難しい」、「ストレスを感じる」が自由記述によって得られた。

近所の人とのつきあいはあるか、という質問に対しては、4名が「非常にある」、11名が「時々ある」、14名が「あまりない」、3名が「全くない」と回答した。これは、回答者の半数以上が(32名中17名)留学生専用の宿舎であったため、このような結果になったものと考えられる。同じ宿舎の留学生家族同士で交流があるということは、様々な面で望ましい形といえる。隣人同士で、共通の悩みを共有したり、問題を解決する手助けとなったりすると考えられる。また、知り合いが近くにいるという安堵感が常にあり、夫や妻が大学へ行っている間でも安心して生活を送ることができるし、危機的状況に陥るのを防ぐ役割も果たすであろう。

最後に、日本での生活で差別され、不快に感じたことはあるか、という質問項目では、13名が「はい」、18名が「いいえ」と回答した。実際どのような差別を受けたかについては、

- ・外人と呼ばれると少し不愉快だと思う。
- ・偏見を持って外国人と交流している日本人がいる。
- ・バスや電車の中で自分の横の席が空いているのに座らない。
- ・電車の中で、自分の横に座っていた人が席を移動した。
- ・妻と病院へ行くと順番を最後にされた。
- ・欧米人を特別扱いし、他の人に対してはそれ以下に扱う。

等が挙げられている。留学生の配偶者は、言葉から行動に至るまで様々な差別を体験している。

差別の内容は様々であり、以上の結果からは大きく三つに分類することができる。一つ目は、欧米崇拜、アジア蔑視からくるものである。日本人は英語を話す人々や白人には親切であるのに、東アジアや東南アジア人には横柄な言動をする、とよく言われる。これは脱亜入欧の日本近代思想史と共に始まり、現在まで続いている問題であると言われ(坪井,

1994)、歴史的にも根が深い。坪井(1994)が行なった日本人学生の外国人に対する接触経験の調査では、日本人学生が自宅に招待したり、街頭で会話した経験のある外国人は、アジア人より欧米人のほうが多いという結果を得ており、日本人の欧米志向が伺われる。二つ目は、外国人に対する恐怖や不安感からくる差別である。これは、自由既述の回答にもあったような、公共の交通機関で外国人の隣の席に座らない、移動される、といったものである。山崎(1996)は、日本人学生に面接し、「在日外国人が家を借りるときや仕事先で日本人に差別を受けるとしたら何故だと思えるか」という質問をしたところ、その回答として、「うさん臭い、怪しい」、「不気味な存在」というものが挙げられたという。外国人という言葉は、不法就労、不法滞在というイメージと結びつきやすいと山崎は指摘している。不法残留者数は減少傾向にあるが<sup>註1)</sup>、このような偏ったイメージをマスコミ等が形成し浸透させており(渡部, 2000)、イメージというものは簡単には払拭できない。三つ目は、日本人以外なら誰でも差別するというものである。これは日本社会の閉鎖性とも関係していると思われるが、「郷に入っては、郷に従え」的な、あるいは、自民族中心主義とまでいえるような差別である。岡崎(1992)はこれを、「稀に来る異貌の来訪者に対する、興味と当惑と歓迎と警戒が綱交ぜになった複雑な心理の機制と言うべき(p.15)」と解説し、これまで日本が外国人を受入れることに慣れてなかったことが原因であるとしている。

これらはいずれも日本人の外国人に対する偏見や無知が一因であろうが、日本語の不自由な配偶者は自分の言いたいことが表現できず、また相手の日本人の言っていることが理解できない場合が多く、そのことが多くの誤解を招き、配偶者の不適応を招くのではないかと考えられる。

留学生の配偶者は、物価の高さや日本人の閉鎖性、差別感等を経験しつつも、治安のよさ、便利さ等を日本での生活のポジティブなものとして捉え、総合的評価として日本での生活にほぼ満足している、とまとめることができる。

### 第2節 面接調査

本節では、留学生配偶者への面接結果を問題別に考察していく。

#### 1 調査の方法

2001年3月から6月にかけて、留学生の配偶者8名に一人30~90分の半構造化面接を行なった。質問内容は、母国での職業や来日の目的、宿舍状況の他、日本語を勉強した期

間や場所、現在抱えている問題・悩み、日本に対する提言、今後の計画、相談相手、誰からサポートを受けているか、子供に関する事項等である。使用言語は基本的に日本語であったが、説明や表現が互いに難しい箇所は英語で行なった。承諾を得られた者に対してはカセットテープに録音をした。対象者の属性を表 2.4 に示す。

## 2 結果と考察

### 日本語

配偶者にとって、日本語を修得することは留学生以上に大変なことである。大学では種々のプログラムが充実しており、留学生は自由に授業を受けることができる。国費留学生(大学院生)であれば、6ヶ月の集中コースを受け、6ヶ月後には日本語がかなりのレベルにまで達することができるし、自費留学生でも既に母国や日本語学校で何年間か勉強し、入学試験に合格するほどのレベルであるので問題はあまりない。しかしながら、夫や妻の留学先に付いて来ただけで特に目的意識の薄かった配偶者の日本語のレベルは低いといつてよい(横田, 1997)。ところで、面接した配偶者の全員が何らかの日本語コースを取った経験がある、または取っていると答えた。彼らは主に、神戸大学において留学生・研究者の家族のために行なわれているボランティアによる日本語講座や兵庫県が主催している日本語講座で受講している。その他、子供が通う小学校において保護者による日本語講座が開かれているところもあり、その講座に参加したことのある配偶者もいる。

【事例 1】神戸市内にある M 小学校で、外国人保護者のために日本人保護者が教えている日本語講座を受講した。しかし、クラスのレベルが今では簡単すぎるので、もう行っていない。もっと難しいコースのあるところに行きたいが、金銭的な面と時間的な面で断念せざるを得ない。(東アジア, 35 歳, 20 ヶ月)

初級レベルのサバイバル日本語コースは、多く開講されているが、それ以上の中級レベルの日本語を教えてくれるところは少ないようである。

### 経済的問題

質問紙調査において、留学生本人による配偶者帯同の問題点について最も多かったものは、経済的圧迫であった。面接において、配偶者も同様のことを感じていることが明らかになった。

【事例 2】35 歳以上の留学生がもらえる奨学金は少なく、もらっていないので大変。

サラリーマン時代に貯めたお金ももうあまりない。(東アジア, 35歳, 20ヶ月)

夫婦で留学生である場合も少なくない。妻が奨学金を受給し、研究生の自分は受給していない者や夫が国費留学生であるために、自費留学生の自分は奨学金をもらい難く、授業料が免除になり難いという立場に置かれている者がいた。夫婦共留学生であると、かえって経済的に苦しい状態に陥ってしまうおそれがあることが示唆された。

### 宿舎

家族帯同留学生のための寮は数が限られている。神戸大学の留学生寮は、1年で退去しなければならない。退寮した後は自力で宿舎を見つけなくてはならない。比較的低価格の市営住宅を探す者も多いが、抽選に当たる確率は低く、大学から遠い郊外の公営住宅に住まざるを得ない場合もある。また、子供のことを考えて住む場所を限定している家族もいる。ある配偶者は、子供が小学校に通っているので、引越しの際、校区外の宿舎を探すことを断念したと語った。面接対象者の中で、日本に2年以上滞在している家族は1~2回引越しを経験していた。

【事例3】子供もいるので、より広くて安い市営住宅に入りたい。しかし、これまでの抽選は3回落ちた。他の留学生も「子供ができたらどうしよう」と悩んでいる。仮に子供ができて手放しで喜べない。(東アジア, 30歳, 33ヶ月)

留学生専用の宿舎は圧倒的に足りない状態が続き、留学生専用の宿舎を充実させる必要があると考えられがちであるが、それは彼らを「日本人から隔離することもあり、両者の交流を促進するものとは思えない(高井, 1994; p.115)」。これについては、第4章で論じる。

### 友人・相談相手

病気や事故等の緊急時に不安を抱えている配偶者は少なくない。

【事例4】病院の仕組みがよく分からない。夜も開いていたらいいのに。救急の時どうしたらいいか分からない。車もないし。(南米, 29歳, 27ヶ月)

【事例5】以前自転車で転んだことがあるが、シップを貼って直した。保険には入っているが、上の子供と自分は3割負担しなければならないので行きたくない。言葉の問題もあるし、うまく説明する自信がない。今は小さな病院に行っているが、総合病院に行かなければならなくなったらどうしよう。(東アジア, 35歳, 20ヶ月)

また、子供の病気等についての心配も多い。



【事例6】主人はいつも夜の9時以降に帰ってくるので、以前子供が熱をだした時は、病院に行けず、薬を与えただけで済ませた。(東アジア, 35歳, 20ヶ月)

【事例7】子供が病気になったら、大学を休まなくてはならないし、勉強ができなくなる。薬は保育園では与えてくれないので十分な治療ができない。(東アジア, 30歳, 33ヶ月)

このような緊急の場合や、問題が起こった場合、またちょっとした手助けが必要なとき、相談できる人が身近にいればすぐに解決できるが、配偶者の場合、そのような人はいるのであろうか。また友人関係はどのようになっているのであろうか。

【事例8】友人になるのは難しい。専業主婦で親切な人はいるが、用事があるときだけ。顔は知っていても挨拶だけ。寮の同国人は、アルバイトをしているので、自分のことで精一杯のようだ。目が合わないと挨拶してくれない。困ったときは日本語の先生に聞く。保護者は専業主婦が少ないので、情報が入ってこない。基本的には相談相手はいない。(東アジア, 35歳, 20ヶ月)

【事例9】研究室には女性が少ない。友人はホストファミリーくらい。仲のいい友人がほしい。相談相手がいらない。日本人は相談しても即答してくれない。(ヨーロッパ, 30歳, 20ヶ月)

【事例10】保育園の保護者は、私が迎えに行く5時より早く迎えに来るので、会うことができない。同国人留学生会に入っているが、皆住んでいる場所がばらばらで互いに遠いので、頼れない。大学のゼミの仲間は親切であるが、いつも私が質問ばかりして彼らはそれに答えるばかり。一方通行のコミュニケーションになっている。昼食は一人が多い。最も頼りになるのは、今のアパートの隣に住んでいる一人暮らしのおばあさんである。どこの病院がいいとか教えてくれる。(東アジア, 30歳, 33ヶ月)

留学生の家族は相談相手があまりおらず、一人で解決しがちであることが分かる。

### 配偶者のステイタス

一般的に配偶者は、夫や妻が日本に留学に行くからついて来たというケースが多いが、それをきっかけに自分も大学に通って勉強したい、と考える者は少なからずいるであろう。配偶者のアカデミックなレベルは、留学生と同等であると推察される。質問紙調査においては、32名の配偶者のうち、半数の16名が母国で教職やエンジニア、税理士等の専門職

についていた。面接調査においては、8名中7名の配偶者が、母国で仕事についており、専門的な職種であった者が多い(表2.4)。面接を行なった配偶者のうち、半数の4名が来日後、留学生の身分となっていた。しかし、日本語学習や大学についての情報について準備を行なっていなかった配偶者にとっては、多くの困難がある。

【事例11】国費留学生である夫より半年遅れて来日した。その後、研究生を経て、博士課程に入学した。日本語は、研究生の時に留学生センターでいくつかの授業を5ヶ月ほど取って習得した。今は研究で忙しいため、取っていないが、まだ日本語が不十分なので、今行なっている実験が終わったらまた日本語を勉強したいと考えている。(ヨーロッパ, 30歳, 20ヶ月)

この配偶者は、専攻が工学系なので英語で論文が書けることや夫と同じ研究室に所属したことで、わずかではあるが、負担は軽減されていると語った。

【事例12】妻より1年遅れて来日した。日本語学校で1年半学び、現在は週2、3回留学生センターの授業を取っている。もうすぐ大学院の試験があるが、受かるかどうか心配。(東アジア, 33歳, 24ヶ月)

妻は、母国で日本語を専攻していたので、それほど苦労はしなかったであろうが、母国で体育教師をしていたというこの配偶者が来日後日本語を習得するというのは、かなり努力が必要であった。

質問紙調査の結果から、国費留学生の配偶者14人中3人が学生であったのに対し、自費留学生の配偶者9人中7人が学生であった。このことから、配偶者帯同の留学生は自費留学生に多いことが推察される。

日本で仕事や簡単なアルバイトでさえ見つけることは外国人にとって容易ではない。表2.4から分かるように、留学生の身分を持たない配偶者は全て主婦となっている。

【事例14】アルバイトを見つけるのは大変だった。履歴書をたくさん送ったが、返事はほとんどこなかった。今のアルバイトを見つけられたのは本当にラッキー。(南米, 29歳, 27ヶ月)

【事例15】配偶者は週20時間しか働けないので条件にあった仕事を見つけるのは大変である。しかも子供が2人いるので、パートにも行きにくい。(東アジア, 35歳, 20ヶ月)

## 子供

質問紙調査の結果から、子供を持つ配偶者 11 名のうち、子供について悩みを抱えている配偶者は 4 名であったが、子供に関する問題や心配事を抱えている者は少なくはない。子供の語学面を心配している両親も多い。

【事例 16】小学 2 年の子供は、日本語のほうが上手で、私が母語で話し掛けても日本語で返事をする。難しい（母語の）単語を使うと通じない。（東アジア, 35 歳, 20 ヶ月）

【事例 17】今は母語で話し掛け、子供が日本語で答えるという状態だが、バイリンガルに育てたい。（東アジア, 30 歳, 33 ヶ月）

また、日本の教育制度が母国のものと異なる場合もある。

【事例 18】日本の学校は宿題が少ない。母国では小学 3 年から英語を習うのに。

子供の友人関係についても悩みの種である。（東アジア, 35 歳, 20 ヶ月）

【事例 19】他の子供とのコミュニケーションの取り方が難しく、仲間外れにされたこともあるようだ。現在は、2 つの習い事に行っているが、他の子供は塾に通っておりさらに忙しく、放課後に遊ぶことはほとんどない。（東アジア, 35 歳, 20 ヶ月）

また、夫婦共に留学生で子供が乳幼児の場合、託児所や保育園、幼稚園等に預けなければならないことは大きな問題である。

【事例 20】引越しをしても子供のために保育園は変えなかった。家から遠いので送り迎えが大変。最近車を購入したので、子供と主人を送って、また家に帰り、車を置いて大学に歩いていく毎日。（東アジア, 30 歳, 33 ヶ月）

【事例 21】日本にいる間に妊娠・出産した。生後 3 ヶ月から保育所に預けていたが、研究を続けることが困難なため、現在は母国の母親に預けている。子供がもう少し大きくなって、研究が一段落すれば、日本に連れて来たい。（東アジア, 28 歳, 36 ヶ月）

保育園の制度に関しては評価が高かった。子供が乳児の時期から預けられること、収入によって保育料が設定されるので安い保育費で子供を預けられることが利点のようである。

問題の一つに、子供の母国文化の喪失が挙げられる。子供は、大人より言葉の習得が早く、異文化に適応しやすいと考えられがちであるが、反面、母国文化や母語を修得しなかったり、アイデンティティを喪失したりという問題もあると考えられる（箕浦, 1984）。そのような場合、親子関係の崩壊、リエントリー時の適応の問題となって表れる恐れがある。このような問題に対し、両親はどのように考えているのか、何を心配しているのか等を知

る必要がある。留学生の子供は乳幼児が多く、学校に通っている者が少ないこともあって実態が掴みにくいが、幼稚園や小学校に通っている子供の詳しい調査が必要であろう。

### 第3節 本調査への課題と仮説

#### 1 予備調査後の検討

予備調査の結果に基づいて、先行研究で使用された質問紙の項目内容を検討した。不必要であると思われるものは削除し、意味の伝わりにくいものは、補足したり、違う言葉で表現し直した。また、自由既述や面接によって新たに浮かび上がった問題を質問項目に取り入れ、項目数を増やした。帯同留学生の質問項目として家事・育児の負担を追加した。配偶者への質問としては、日本語学習の状況、日本に来た理由、子供に関して抱えている問題、家事・育児の負担、近所付き合いの状況を追加した。また、帯同留学生の問題を明確化するために、留学生全体のデータを収集し、不帯同留学生との比較を試みることにした。

#### 2 本調査で明らかにすることと仮説

##### 先行研究で明らかにされていないこと

留学生の家族に関する研究では、配偶者が抱える様々な問題が提起されているが、以下のような視野からの研究はまだ行なわれていない。

1. 統計的手法を用いたものがみられない。面接による調査が少ない。
2. 留学生や配偶者の属性による分析が少ない。
3. 帯同留学生と不帯同留学生の比較がない。
4. 家族帯同の利点に注目した研究が少ない。
5. 帯同留学生の配偶者には、留学生と非留学生が存在すると考えられるが、それぞれに分けて検討した研究がない。

統計的手法を用いた分析は、海外派遣者の研究においては行なわれているが、留学生家族の研究には日本、海外共に行なわれておらず、統計的分析を行なうことの意義は大きい。また、配偶者や帯同留学生を対象とした面接も日本では行なわれていない。次章の本調査では、質問紙法調査で得たデータをもとに調査のフォローアップとして面接を行なうこととする。留学生は、出身地域等の属性によっても抱える問題の性格等が異なるとされてい

るが（例えば、岩男・萩原,1988）、家族に関する問題も出身地等の属性により異なることが予想される。従って、属性の違いにも注目すべきである。

これまで帯同留学生とそれ以外の留学生（不帯同留学生）を比較した研究は少ない。同じ質問項目を帯同留学生と不帯同留学生に適用し、分析を行なうことで、帯同留学生の問題が明確化されると考える。配偶者帯同のマイナス面についての研究はなされてきたが、配偶者に関する利点についての調査は少ない。今後、家族を帯同すべきか否かという事項について検討するにあたって、配偶者を帯同することの利点も明らかにする必要がある。最後に、予備調査の結果から帯同留学生の配偶者には、留学生の身分の者が多いことが分かった。つまり、帯同留学生の多くは、夫婦とも留学生である場合が少なくないといえる。配偶者が留学生か非留学生かによって、留学生あるいは家族が抱える問題の内容や大きさが異なる可能性があり、これを分けて考える必要がある。

#### **本研究で明らかにすること（仮説）**

本研究では、これまで明らかにされてきた問題を再検討すると共に、これまでの研究で明らかにされていない事項についても分析を行なう。

次に、新たな発見のためにいくつかの仮説を立てておく。

まず、出身国・地域によって、留学生及びその家族の問題の質や程度は異なると考えられる。特に、アジア出身と非アジア出身では、大きく異なる（栖原,1996; 岩男・萩原,1988）。日本に滞在する留学生の出身地は93%がアジア出身であるが、そのうち東アジア（中国・韓国・台湾）出身が多数を占める。東アジア出身の留学生は、中国61%、韓国17%、台湾5%、となっており、全体の83%を占めているのである<sup>註2)</sup>。従って、本研究では、東アジアとその他の出身に分け、分析を行なうこととする。

**【仮説1】** 東アジア出身者と非東アジア出身者では、抱える問題に質的量的な差がある。

配偶者については、ほとんどの者が母国では高い教育を受けており（Verthelyi,1995）、来日前にフルタイムの職についていたものも多く（大橋,1997; Verthelyi,1995）、さらに渡航先でもキャリアに対する意欲は強く、仕事を得たり大学での教育を受けることを希望している者も少なくない<sup>註3)</sup>。さらに、筆者が行なった予備調査でも、母国で専門的な職についていた配偶者が多く、皆仕事を捨てて来日していた。そして、勉強をしたいという願いを少なからず持っているということが明らかになった。また、母国で何らかの職についてい

## 第2章 日本の大学における留学生の家族帯同一予備調査一

た配偶者は、留学先国に来てからの自分の居場所に対する格差からショックを受けやすく、職についていなかった配偶者より問題を多く抱えていると考えられる。

【仮説2】日本に来る前に母国で常勤の職についていた配偶者は、キャリアの継続を希望しており、それ以外の配偶者よりも多くの問題を抱えている。

家族を帯同しない留学生と帯同している留学生では、生活環境も大きく異なり、抱える問題や、問題に対する解決策が異なる可能性がある。

【仮説3】不帯同留学生と帯同留学生では、抱える問題の質と大きさ、問題に対する解決策が異なる。

予備調査によって、帯同留学生の配偶者は、留学生の身分である者と、それ以外の身分の者がいることが明らかになった。また、面接の結果から抱える問題も異なることが示唆された。

【仮説4】配偶者が留学生である帯同留学生と配偶者が非留学生である帯同留学生では、抱える問題に質的量的な差がある。

海外派遣者にとって子供の帯同はマイナス要因であると言われているが（永井, 1994）、海外派遣者の平均年齢は留学生のそれよりも高い<sup>註4)</sup>。従って、留学生の子供は海外派遣者の子供よりも年齢が低いことが予想され、永井の結果が留学生にも当てはまるかどうかは疑問である。また、Hamed (1985) の調査では70%、マーフィー重松・白土 (2001) の調査では、36%の帯同留学生が子供に関しての問題を抱えていることが明らかにされているが、それが直接マイナス要因につながるとも考えにくい。

さらに、配偶者にとって子供の帯同はプラス要因であるという結果が多く出されている（永井, 1994; Verthelyi, 1995; マーフィー重松・白土, 2001）一方、子供のいない配偶者は、子育てをしない分、仕事をしたり自由な時間を持ったりすることができることからストレスが少なくなるであろうという考えもある（Schwarz& Kahne, 1993）。そこで、本研究では留学生と配偶者にとっての、子供の存在について明らかにする。

【仮説5】留学生と配偶者それぞれにとっての子供の存在は、日本滞在においてプラス要因である。

本研究では、以上のような問題点を踏まえたうえで、仮説を立て、分析を行なうこととする。まず、研究方法として、質問紙法による量的データを収集する。さらに、ミクロな問題を知るために、質問紙法によって得られたデータのフォローアップのために、面接法を用いる。また、すなわち、この方法によって量的データと質的データの両方が得られるのである。また、これまでの留学生家族に関する調査研究では、留学生の視点からの配偶者の問題が明らかにされたものが多く、つまり、「男子留学生の意見 (Verthelyi, 1995; p.389)」であったといえる。その問題を解消するために、本研究では、配偶者に対しても調査を行なう。

## **第2章 注**

- 1) 法務省入国管理局の統計によると、2003年1月1日現在、不法残留者数は、22万552人で、前年より1.6%減少している。不法残留者数は、1993年の29万8,646人をピークに減少を続けている。
- 2) 文部科学省留学生課 2002年5月現在の統計
- 3) Verthelyi (1995) が行なったインタビューによると、49名のうち30名が大学院生になることを希望していた。
- 4) 例えば長濱 (1994) の海外派遣者を対象に行なった調査では、派遣者3,418名のうち40～44歳の層が6割近くを占めていた。一方、マーフィー重松・白土 (2001) の調査では、27～35歳が8割以上を占めていた。

表2.1 問題の種類(数字は人数)

質問項目	非常に問題	少し問題	あまり問題でない	全く問題がない	無回答
家族と日本人との人間関係	3	4	13	12	0
家族の日本語でのコミュニケーション	6	8	9	8	1
配偶者の活動	5	8	8	9	2
子供の活動	2	3	1	9	17
日常生活の情報	3	6	9	14	0
ストレス	3	10	12	7	0
入院及び病気	4	8	7	13	0
出産及び子供の世話	5	7	5	6	9
子供の教育	3	7	4	4	14
交通事故	2	4	11	14	1
緊急事態	2	8	12	10	0
宿舎	5	10	10	7	0
文化の違い	4	9	12	7	0
宗教の違い	1	2	11	14	4

表2.2 家族を帯同する場合の利点と問題点

利点	%	問題点	%
孤独を感じない	87.5	経済的圧迫	59.4
問題や成功を分かち合う人がいる	78.1	忙しいのに家族に関わる負担	43.8
学業を励ましてくれる	71.9	配偶者が日本語ができない	31.3
日本滞在は配偶者に有意義である	65.6	子供の学校での問題	28.1
一緒に出かける人がいる	50.0	配偶者がホームシック	15.6
家事に煩わされない	43.8	配偶者が幸せでない	12.5
子供が活力を与えてくれる	28.1	配偶者が日本のやり方に適応できない	9.4
日本滞在は子供に有意義である	18.8	子供に関する心配	9.4



表2.3 日本で生活して困っていること(数字は人数)

質問項目	非常に	やや	あまり	全然	無回答
	困っている	困っている	困っていない	困っていない	
親しい友人がいない	8	4	11	9	0
家族からの別離	9	7	12	3	1
日本語能力不足	6	8	10	8	0
日本人の友人を作ること	8	8	12	4	0
ホームシック	3	6	16	7	0
財源が十分でない	1	12	16	7	0
援助システムの欠如	1	9	14	6	2
日本文化への適応	0	8	14	10	0
自信が持てない	1	3	11	17	0
寂しさ	4	6	8	14	0
社会生活の欠如による情緒不安定	4	3	10	15	0
キャリアを積めない	3	5	14	8	2
日本語学習の機会の欠如	0	3	11	17	1
社会的適応問題	0	6	16	10	0
異性との社会的関係	1	1	13	17	0
仕事の機会の欠如	7	6	15	4	0
宿舎	9	5	7	11	0
日本の食べ物	2	3	12	15	0
健康問題	0	5	11	16	0
情緒的ストレス	2	8	6	14	2
同国人家族との人間関係	0	2	11	17	2
日本人家族との人間関係	1	2	13	12	4
差別	2	7	11	11	1
配偶者についての悩み	0	1	5	16	10
子供についての悩み	2	2	2	4	22

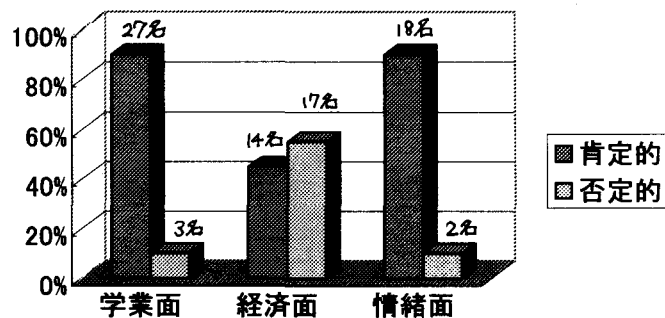


図 2.1 家族の影響

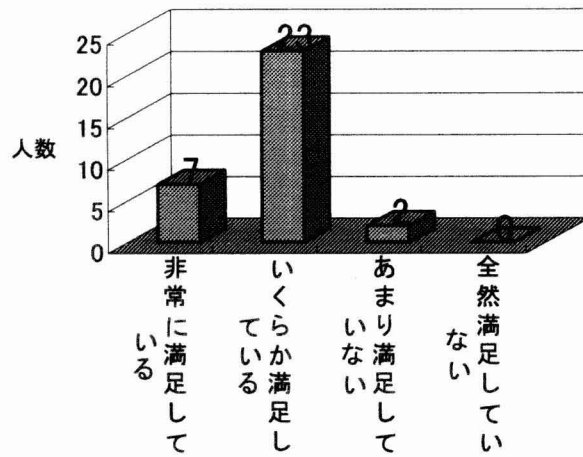


図 2.2 日本での生活に満足しているか (数字は人数)

表 2.4 面接対象者の属性

性別	年齢	出身地域	母国での職業	現在の身分	滞日期間
女	25	ヨーロッパ	ファイナンシャルプランナー	主婦	1週間
女	28	東アジア	テレビ局(アシスタントディレクター)	留学生	36ヶ月
女	30	ヨーロッパ	エンジニア	留学生	20ヶ月
女	29	南米	銀行員	主婦	3週間
女	29	南米	ファイナンシャルアシスタント	主婦(アルバイト)	27ヶ月
女	35	東アジア	主婦	主婦	20ヶ月
男	33	東アジア	大学教員	留学生	24ヶ月
女	30	東アジア	事務員	留学生	33ヶ月

## 第3章 日本の大学における留学生の家族帯同一本調査一

本章では、第2章の予備調査の結果を踏まえ、新たにいくつかの質問項目を加えた質問紙を作成し、行なった本調査の結果を提示、考察する。本調査では、全体的な傾向を把握し、家族帯同留学生と比較を行なうため、対象者を神戸大学在籍の全留学生に広げた。

### 第1節 質問紙調査

予備調査後の検討で述べたように質問項目を増やし、項目内容を検討し改善した結果、全留学生への質問24、配偶者が日本にいる留学生への質問10、配偶者への質問16からなる、計、50の質問項目数の質問紙を作成した（巻末資料参照）。このオリジナル（日本語）版をもとに、予備調査同様、英語、中国語、韓国語の翻訳を行ない、それぞれバックトランスレーションを施した。翻訳、バックトランスレーションの二つの作業は日本語の堪能な母語話者に各々依頼した。質問紙は三部構成になっている。第一部（PART1）は全留学生向け、第二部（PART2）は配偶者を日本に帯同している留学生向け、第三部（PART3）は配偶者向けの質問項目が含まれている。

#### 1 調査の実施

調査は、神戸大学留学生センターの協力を得て、2001年12月初旬から2002年3月上旬にかけて神戸大学の留学生全員を対象に質問紙配布・回収を行なった。その結果、配布対象者780名中416名分の回収を行なうことができた（回収率52.7%）。そのうちPART2に回答した者は110名であり、PART3に回答した者は82名であった。

本研究では、家族帯同の有無別に分析を行なうため、留学生のデータのうち、婚姻状況に無回答の者や無効な回答（婚姻状況と配偶者の滞日状況が不一致の場合）をしている者のデータは除外した。また、PART2に回答した留学生で配偶者が日本人の者は、他の留学生と同様には論じられないことから除外した。その結果、394名分のデータを用いることにした（最終的な回収率50.5%）。そして、394名のデータを、不帯同、帯同（配偶者は留学生）、帯同（配偶者は非留学生）の3グループに分類した。不帯同とは、婚姻状況の質問項目に対し、「独身」を選択した留学生と、既婚者で、配偶者が「今後日本に来て長期間（6ヶ月以上）同居する予定である」、「以前日本にいて長期間（6ヶ月以上）同居していた」、「日本に長期間（6ヶ月以上）同居したこともないし、する予定もない」のいずれかを選択した不帯同既婚留学生である。帯同（配偶者は留学生）とは、配偶者が日本に滞在して

おり、その配偶者の身分が留学生であるという意味である。帯同（配偶者は非留学生）とは、配偶者が日本に滞在しており、その配偶者の身分が留学生ではないという意味である。

独身留学生と不帯同既婚留学生を不帯同留学生として同グループに分類したのは、次のような考えに基づいたためである。本研究では、多くの既婚留学生が配偶者や子供を帯同するという現象について、その理由や事情を調査した上で、家族帯同の利点を明らかにするため、既婚留学生の不帯同の問題点は本研究では取り上げない。従って、既婚留学生の家族が日本にいるかそれとも単身で日本に留学しているかで分類した。その手続きに従うと、独身留学生と不帯同既婚留学生は、日本に家族がないというグループに入るため、不帯同留学生として扱うことにした。

本来 PART 3 には、留学生の身分である配偶者は回答しないことになっている。しかし、誤って記入した者がおり、これらのデータを除外した。また、日本人配偶者（4名）は少数であること、他の配偶者と同様には論じられないことから除外した。以上のようなグループ分けを理解しやすくするために、記号をつけた。各グループと人数は以下のとおりである。なお、分析には、統計ソフト SPSS11.5J 版を使用した。

1：不帯同留学生（独身留学生 254 名、単身留学生 44 名）・・・298 名

2a：帯同留学生（配偶者は留学生）・・・43 名

2b：帯同留学生（配偶者は非留学生）・・・53 名

3：配偶者・・・53 名

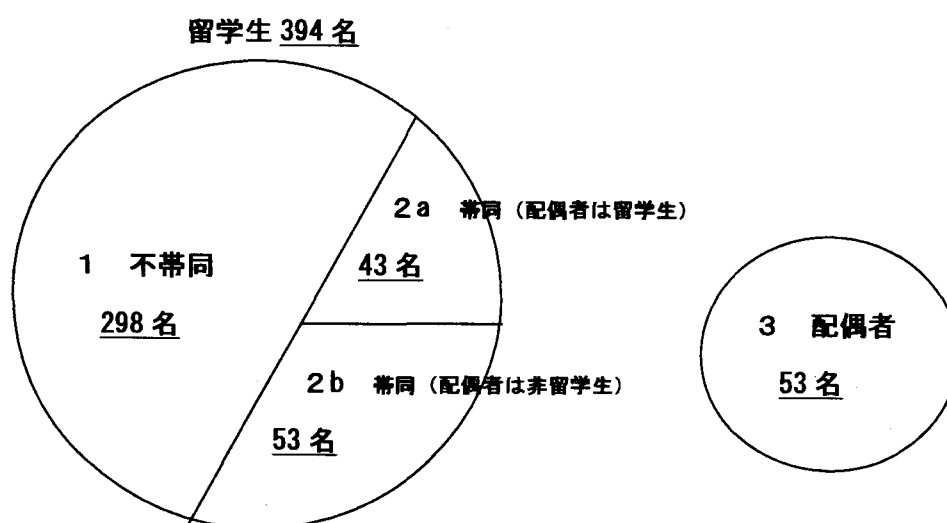


図 3.1 分析対象者の内訳

## 2 人口統計学的結果

### 留学生全体

留学生 394 名の人口統計的結果は以下のとおりである。出身地域は、東アジアが 215 名、東南アジアが 100 名、ヨーロッパが 27 名、南アジアが 11 名、中東が 10 名、アフリカが 8 名、北アメリカが 7 名、南アメリカが 6 名、オセアニアが 4 名、その他 4 名、無回答 2 名となっている。滞日期間は、0-12 ヶ月が 107 名、13-24 ヶ月が 78 名、25-36 ヶ月が 57 名、37-48 ヶ月が 62 名、49 ヶ月以上が 90 名である。性別は、女性 188 名、男性 205 名、無回答 1 名である。年齢は、19 歳以下が 4 名、20-24 歳が 75 名、25-29 歳が 144 名、30-34 歳が 131 名、35 歳以上が 39 名、無回答 1 名である。身分は、学部生 40 名、大学院生 228 名、研究生 105 名、交換・短期留学生 9 名、その他 11 名、無回答 1 名である。専門分野別にみると、社会科学系が 151 名、自然科学系が 105 名、人文科学系が 92 名、医学系が 33 名、留学生センター 11 名、無回答 2 名となっている。留学費用は、自費 216 名、国費 157 名、政府派遣 9 名、その他が 12 名となっている。1 ヶ月の生活費は 5 万円未満 21 名、5-10 万円未満 158 名、10-15 万円未満 153 名、15 万円以上が 61 名である。アルバイト状況は、していない者が、243 名、1 週間に 5 時間未満が 44 名、1 週間に 5-10 時間未満が 44 名、1 週間に 10-20 時間未満が 46 名、1 週間に 20-28 時間未満が 16 名、無回答 1 名である。宿舎は、民間のアパート・借家 148 名、兵庫留学生会館<sup>註1)</sup> 78 名、神戸大学の留学生寮 60 名、留学生用に開放している宿舎（会社等の社員用寮・市営アパート）34 名、神戸大学の寮 27 名、市・県の公営アパート 25 名、ホームステイまたは間借り 6 名、その他 13 名、無回答 3 名となっている。また、宿舎の家賃は、1 万円未満が 70 名、1-3 万円が 80 名、3-5 万円が 175 名、5-8 万円が 58 名、8 万円以上が 1 名、無料が 9 名、無回答 1 名となっている。引っ越しの回数は、平均が 1.98 回である。また、子供を持つ（一緒に住んでいる）者は 49 名、子供を持たない（一緒に住んでいない）者は 46 名であった（不明 1 名）。子供の内訳は、中学生・高校生が 2 名、小学生が 18 名、幼稚園児が 8 名、保育園児が 11 名、どこにも通っていない（未就学）が 16 名であった。

### 配偶者

配偶者 53 名の出身地域は、東アジア 28 名、東南アジア 12 名、南アジア 4 名、中東 2 名、ヨーロッパ 2 名、アフリカ 1 名、北アメリカ 1 名、不明 3 名である。性別は、女性 34 名、男性 19 名であった。滞日期間は、0-12 ヶ月が 21 名、13-24 ヶ月が 10 名、25-36 ヶ月が 6 名、37-48 ヶ月が 5 名、49 ヶ月以上が 11 名である。来日前の職業は、正式社員・職員

35名、臨時社員・職員・アルバイト1名、学生10名、無職7名であった。日本での職業は、正式社員・職員1名、臨時社員・職員・アルバイト12名、無職39名、無回答1名であった。日本に来てから日本語を勉強したか、という問いに対しては、ほとんどの者がしていると回答した。最も多いのは、地方自治体やボランティアによる日本語講座（16名）であった。続いて民間の日本語学校（13名）、神戸大学でのボランティアによる日本語講座（10名）であった。また、日本に来た理由（複数回答）については、「配偶者と一緒にいるのは当然（40名）」と回答したものが最も多く、続いて、「日本に興味があったから（24名）」、「日本で勉強したかったから（21名）」が多く、その他、「子供の教育によいと思ったから（7名）」、「金銭的に余裕があったから（2名）」であった。帰国の頻度は、「決まっていない（20名）」が最も多く、続いて、年に1回（18名）、2年に1回あるいはそれ以下（10名）、帰国したことない、する予定はない（3名）、半年に1回くらい（2名）であった。「今後妻/夫が留学中は日本に住む予定ですか」という問いに対しては、肯定が36名、否定が10名、分からないが7名であった。否定した者にその理由を訊ねたところ、「自分の仕事をするため（8名）」、「両親の面倒をみるため（6名）」、「子供の教育のため（5名）」、「母国で出産の予定があるから（3名）」、「経済的理由（2名）」、「ホームシックだから（1名）」という回答であった。

### 3 結果と考察

ここでは、第2章で掲げた仮説を検証することを目的とし、以下のような基準で比較を行なう（表3.1）。

一つ目は、留学生全体と配偶者の比較である。二つ目は、留学生の間での比較であり、帯同留学生と不帯同留学生である。三つ目は、帯同留学生の間での比較であり、東アジア系か非東アジア系、配偶者が留学生であるか否か、子供がいるか否かである。四つ目は、配偶者間での比較であり、東アジア系と非東アジア系、母国で常勤の職についていたか否か、子供がいるか否かである。

表3.1 比較分析対象の分類と仮説

比較分析対象群（人数）		仮説
留学生全体（394）・配偶者（53）		
留学生全体	帯同留学生（96）・不帯同留学生（298）	3
帯同 留学生	東アジア系（60）・非東アジア系（35）	1
	配偶者は留学生（43）・配偶者は非留学生（53）	4
	子供有（49）・子供無（46）	5
配偶者	東アジア系（28）・非東アジア系（22）	1
	母国で常勤の職についていた（35）・ついていなかった（18）	2
	子供有（31）・子供無（21）	5

【仮説1】 東アジア出身者と非東アジア出身者では、抱える問題に質的量的な差がある。

【仮説2】 日本に来る前に母国で常勤の職についていた配偶者は、キャリアの継続を希望しており、それ以外の配偶者よりも多くの問題を抱えている。

【仮説3】 不帯同留学生と帯同留学生では、抱える問題の質と大きさ、問題に対する解決策が異なる。

【仮説4】 配偶者が留学生である帯同留学生と配偶者が非留学生である帯同留学生では、抱える問題に質的量的な差がある。

【仮説5】 留学生と配偶者それぞれにとっての子供の存在は、日本滞在においてプラス要因である。

以下、3-1では、留学生全員と配偶者に対して行なった質問項目「日本で生活して困っていること（留学生29項目、配偶者25項目）」についての調査結果を用いて、留学生全体と配偶者の比較、帯同留学生と不帯同留学生の比較（仮説3の検討）、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、子供がいる帯同留学生と子供がいない帯同留学生の比較（仮説5の検討）、東アジア系配偶者と非東アジア系配偶者の比較（仮説1の検討）、母国で常勤の職についていた配偶者と常勤の職についていなかった配偶者の比較（仮説2の検討）、子供がいる配偶者と子供がいない配偶者の比較（仮説5の検討）を行なう。

3-2では、帯同留学生に対して行なった質問（日本で家族と同居する利点と問題点）について、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、子供がいる帯同留学生と子供がいない帯同留学生の比較（仮説5の検討）を行なう。

3-3では、帯同留学生に対して行なった質問（家族がいることの影響）について、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、子供がいる帯同留学生と子供がいない帯同留学生の比較（仮説5の検討）を行なう。

3-4では、帯同留学生と配偶者に対して行なった家事・育児負担について、帯同留学生は、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、子供がいる帯同留学生と子供がいない帯同留学生の比較（仮説5の検討）、東アジア系配偶者と非東アジア系配偶者の比較（仮説1の検討）、母国で常勤の職についていた配偶者と常勤の職についていなかった配偶者の比較（仮説2の検討）、子供がいる配偶者と子供がいない配偶者の比較（仮説5の検討）を行なう。

3-5では、子供のいる帯同留学生と配偶者に対して行なった子供の将来について、帯同留学生は、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、東アジア系配偶者と非東アジア系配偶者の比較（仮説1の検討）、母国で常勤の職についていた配偶者と常勤の職についていなかった配偶者の比較（仮説2の検討）を行なう。

3-6では、帯同留学生に対して行なった、問題が起こったときの相談相手について、東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生の比較（仮説1の検討）、配偶者が留学生の身分である帯同留学生と配偶者が留学生の身分でない帯同留学生の比較（仮説4の検討）、子供がいる帯同留学生と子供がいない帯同留学生の比較（仮説5の検討）を行なう。



表3.2 日本で生活して困っていること

留学生への質問		配偶者への質問	
学習	日本語での講義 学位を取ることに 日本語能力不足 日本語学習の機会の欠如 勉強をする時間がないこと	学習	日本語能力不足 日本語学習の機会の欠如 勉強をする時間がないこと
	対人関係		日本人から差別を受けること 日本人の友人を作ること 親しい同性の友人がいないこと 親しい異性の友人がいないこと 自分の国・文化について理解してもらえないこと 指導教官とのコミュニケーション 同国人留学生とのコミュニケーション 他国人留学生とのコミュニケーション 日本人学生とのコミュニケーション
社会生活		睡眠時間が少ないこと 財源が十分でないこと 仕事の機会の欠如 キャリアを積めないこと 留学生のための援助システムの欠如 宿舎を見つけること 遊ぶ時間がないこと	社会生活
	適応	日本の社会制度や日本文化への適応 母国と同様の生活習慣が取れないこと 日本の食べ物 健康問題 栄養が偏りがちであること 何においても自信が持てないこと 情緒的ストレス ホームシック	

### 3-1 日本で生活して困っていることについて

留学生に対しては、学業、対人関係、社会生活、適応について 29 の質問項目を、配偶者に対しては、学習、対人関係、社会生活、適応について 25 の質問項目を挙げ(表 3.2)、それぞれ、「1. 全く困っていない、2. あまり困っていない、3. やや困っている、4. 非常に困っている」の 4 段階で回答を選択させた。回答者群ごとに段階得点の平均値と標準偏差を算出した。平均値が 2.5 を超えれば、全体として「困っている」ほうに反応が傾いていると考え、以下の考察を行なった。

#### 3-1-1 留学生全体と配偶者

留学生全体と配偶者それぞれの問題をみる(表 3.3)。

##### 留学生全体 (394 名)

留学生本人については、困難度の数値が高かった項目として、「宿舎を見つけること」、

「留学生のための援助システムの欠如」、「日本人の友人を作ること」、「仕事の機会の欠如」、「財源が十分でないこと」、「学位を取ること」、「遊ぶ時間がないこと」があった。しかし、いずれの項目も平均値が2.5に達しておらず、総じて困窮しているとはいえない。

29項目それぞれについて、相関分析を行なったところ、「日本語での講義・日本語能力不足 ( $r=.600$ )」、「日本人学生とのコミュニケーション・日本人の友人を作ること ( $r=.524$ )」、「親しい同性の友人がいないこと・親しい異性の友人がいないこと ( $r=.603$ )」、「日本の社会制度や日本文化への適応・母国と同様の生活習慣が取れないこと ( $r=.504$ )」、「留学生のための援助システムの欠如・財源が十分でないこと ( $r=.554$ )」、「何においても自信が持てないこと・情緒的ストレス ( $r=.583$ )」、「健康問題・栄養が偏りがちであること ( $r=.589$ )」、「遊ぶ時間がないこと・睡眠時間が少ないこと ( $r=.701$ )」の各項目間において、高い相関がみられた。

これらの相関から、日本語能力が十分でないと日本語での講義に支障をきたしていることが分かる。日本人学生とのコミュニケーションに関する問題が、友人作りを阻んでいることが示唆される。また、母国と同様の生活習慣が取れないことが日本社会への不適応を招いている恐れがあることが考えられる。さらに、援助システムの欠如と財源不足の相関関係から、留学生のための援助システムに財源的な援助を期待していることが考えられる。自信のなさは、情緒的ストレスに現われることが予想される。遊ぶ時間と睡眠時間の不足の相関関係は、勉強やアルバイトで時間を取られることから来ていることが示唆される。栄養が偏りがちであると、健康問題に発展するといえる。

学生生活の満足度と相関の強かった項目（1%水準で有意な20項目）を用いて重回帰分析を行なったところ、「日本語学習の機会の欠如 ( $\beta=.153, t=2.783, p=.006$ )」、「日本人の友人を作ること ( $\beta=.172, t=2.784, p=.006$ )」、「指導教官とのコミュニケーション ( $\beta=.127, t=2.177, p=.030$ )」、「財源が十分でないこと ( $\beta=.147, t=2.086, p=.038$ )」の4項目が学生生活の満足度に強い影響を与えていることが明らかになった（重相関係数  $R=.498$ ）。また、日本での生活の満足度と相関の強かった項目（1%水準で有意な25項目）を用いて重回帰分析を行なったところ、「日本人の友人を作ること ( $\beta=.124, t=2.011, p=.045$ )」、「母国と同様の生活習慣が取れないこと ( $\beta=.160, t=2.600, p=.010$ )」、「財源が十分でないこと ( $\beta=.277, t=3.887, p<.001$ )」、「指導教官とのコミュニケーション ( $\beta=.131, t=2.173, p=.031$ )」、「情緒的ストレス ( $\beta=.140, t=2.050, p=.041$ )」の5項目が日本での生活の満足度に強い影響を与えていることが明らかとなった（重相関係数  $R=.554$ ）。従って、学生生活においても、日本での生活におい

ても、日本人の友人作りと財源とが重要な要因であることが分かる。

#### 配偶者（53名）

配偶者については、数値が高かった項目として、「仕事の機会の欠如」、「配偶者のための援助システムの欠如」、「キャリアを積めないこと」、「財源が十分でないこと」、「日本人の友人を作ること」、「宿舎を見つけること」、「日本語能力」、「日本人から差別を受けること」があった。

25項目それぞれについて相関分析を行なったところ、強い正の相関がみられたのが、「親しい同性の友人がいないこと・親しい異性の友人がいないこと ( $r=.730$ )」、「日本人の友人を作ること・配偶者のための援助システムの欠如 ( $r=.720$ )」、「配偶者のための援助システムの欠如・日本人から差別を受けること ( $r=.717$ )」、「健康問題・栄養が偏りがちであること ( $r=.757$ )」、「栄養が偏りがちであること・自分の国/文化について理解してもらえないこと ( $r=.703$ )」、「遊ぶ時間がないこと・睡眠時間が少ないこと ( $r=.792$ )」、「近所の人との付き合いがないこと・近所の人との付き合い方が分からない ( $r=.885$ )」であった。留学生が援助システムに経済的援助を期待していたのに対し、配偶者は、日本人の友人を作ることが期待していることが窺える。そして、援助システムが欠如していると、被差別感が強くなる傾向があることが分かる。

日本での生活の満足度と相関の強かった項目（1%水準で有意な17項目）を用いて重回帰分析を行なったところ、「キャリアを積めないこと ( $\beta=.449, t=1.977, p=.059$ )」の項目において有意に近い水準で、日本での生活の満足度に影響を与えていることが明らかとなった（重相関係数  $R=.744$ ）。

#### 留学生と配偶者の問題の共通点と相違点

留学生と配偶者で共通している問題として、宿舎、日本人の友人を作ること、仕事の機会の欠如、財源が十分でないこと、援助システムの欠如が挙げられ、これまでの研究（マーフィー・重松・白土, 2001）と同様の結果となった。留学生特有の問題として、学位をとることや遊ぶ時間がないことが挙げられる。これについては、留学生の最終的な目標の一つである学位取得について、プレッシャーを感じながら、遊ぶ時間がなく、またそれが学位取得を困難にしているという悪循環に陥っている構図が浮かび上がってくる。配偶者特有の問題としては、日本語能力不足、キャリアを積めないこと、差別を受けることがあり、

日本語学習や仕事についての支援を必要としていることが分かる。また、配偶者のほうが留学生本人よりも日本人から差別を受けることについて問題を抱えており、長濱（1994）と同様の結果を得た。

### 留学生全体と配偶者の因子分析

次に、日本で生活することについての問題の構造を検討するために、留学生に対する 29 の質問項目と、配偶者に対する 25 の質問項目について、それぞれの因子分析（主因子法、バリマックス回転）を行なった。負荷量 5%以上、固有値 1.0 以上のものを抽出した結果、留学生について 5 因子、配偶者について 5 因子が抽出された（表 3. 4、表 3. 5）。

留学生の第 1 因子は、日本社会への適応やストレスで、これを「適応とストレス」因子と名づけた。第 2 因子は、時間や財源がないことで、「資源ストレス」とした。第 3 因子は、日本語の問題や日本人とのコミュニケーションに関する問題で、「コミュニケーションストレス」と命名した。第 4 因子は、友人を作成することで、「友人作成」因子とした。第 5 因子は、留学生のための援助システムや宿舎、仕事の欠如で、「留学生活のサポート」因子とした。

配偶者の第 1 因子は、健康問題や栄養の偏り、日本社会への適応の問題で、「健康問題と適応」因子とした。第 2 因子は、日本語能力や学習の機会の欠如と仕事の機会の欠如で、「日本語と仕事不足」因子と命名した。第 3 因子は、近所付き合いやストレスで、「人間関係」因子とした。第 4 因子は、友人がいないことや日本人からの差別で、「友人の欠如と差別」因子とした。第 5 因子は、時間や財源の欠如で、「時間ストレス」因子と名づけた。

各因子について、因子負荷が 0.4 以上の項目の素点の平均値を算出したところ、留学生においては、高い順に「留学生活のサポート」因子 2.31、「日本語と日本人」因子 2.11、「時間ストレス」因子 1.97、「適応とストレス」因子 1.95、「友人作成」因子 1.77 となった。配偶者については、高い順に「日本語と仕事」因子 2.30、「友人の欠如と差別」因子 2.07、「人間関係」因子 2.01、「時間ストレス」因子 1.98、「健康問題と適応」因子 1.83 であった。

留学生、配偶者ともに日本語、友人作り、ストレスといった共通した因子が抽出された。配偶者に関しては、日本語能力と仕事不足の因子が最も高い。既述した重回帰分析においても、キャリア不足が不満足に結びついていたが、多くの配偶者は日本語の向上と共に、就職を希望していることが分かる。また、友人がいないことによって被差別感が引き起こされたり、時間的な制約がストレスに結びついていることが示唆された。

#### 帯同留学生の回答（3-1-2～4）

##### 3-1-2 帯同留学生と不帯同留学生の比較

留学生を帯同留学生（96名）と不帯同留学生（298名）に分け、t検定を行なった（表3.6）。等分散性確認のための Levene の検定を行なったところ、2項目に関して1%水準で等分散性仮説が棄却されたので、その2項目については等分散を仮定せず、その他の27項目については、等分散性を仮定してt検定を行なった。その結果、1%水準で「栄養が偏りがちであること( $t=-2.843$ )」、5%水準で「母国と同様の生活習慣が取れないこと( $t=-2.003$ )」、「ホームシック( $t=-2.432$ )」、の3項目において、不帯同留学生のほうが有意に数値が高く、帯同留学生は、これらの項目について、不帯同留学生ほど問題を抱えていないことが明らかとなった。また、5%水準で「遊ぶ時間がないこと( $t=2.534$ )」の項目において、帯同留学生のほうが有意に数値が高く、帯同留学生は、不帯同留学生に比べて遊ぶ時間が少ないと感じていることが分かった。

##### 帯同留学生と不帯同留学生の因子分析

日本で生活することについての問題の構造を検討するために、帯同留学生、不帯同留学生それぞれの因子分析（主因子法、バリマックス回転）を行なった。負荷量5%以上、固有値1.0以上のものを抽出した結果、帯同留学生について5因子、不帯同留学生について5因子が抽出された（表3.7、表3.8）。

帯同留学生の第1因子は、大学内での問題や日本への適応で、「学生生活と適応」因子とした。第2因子は、時間や財源の不足、栄養の偏りで、不帯同留学生と同じく、「健康問題と時間不足」因子とした。第3因子は、自信がないことやストレス、キャリアに対する不安で、これも同じく、「情緒的問題」因子とした。第4因子は、日本語での講義や日本語能力不足で、「日本語能力」因子と名づけた。第5因子は、仕事と留学生のための援助の欠如で、「留学生活のサポート」因子とした。

不帯同留学生の第1因子は、健康問題や栄養の偏り、時間や財源の不足で、これを「健康問題と時間不足」因子と命名した。第2因子は、日本語や日本人との関係で、「日本語と日本人」因子とした。第3因子は、ホームシックや自信がないこと等で、「情緒的問題」因子とした。第4因子は、援助の欠如、宿舍、学位の問題で、「留学生活のサポート」因子とした。第5因子は、友人を作ることで、「友人作り」因子と名づけた。

第1から第5までの各因子について、因子負荷が0.4以上の項目の素点の平均値を算出したところ、不帯同留学生においては、高い順に「留学生活のサポート」因子2.27、「日本語と日本人」因子2.13、「健康問題と時間不足」因子1.95、「情緒的問題」因子1.89、「友人作成」因子1.76となった。また、帯同留学生においては、高い順に「留学生活のサポート」因子2.39、「健康問題と時間不足」因子2.03、「日本語能力」因子2.02、「情緒的問題」因子1.94、「学生生活と適応」因子1.82であった。

この結果から、留学する場合、家族を帯同していても、していなくても問題の因子はかなり共通していることが明らかとなった。特に、留学生の普遍的な問題として、留学生活に対するサポート不足、日本語とそれに関連した学業の問題があることが明らかとなった。異なる点としては、帯同留学生は、学生生活と適応に関して問題を抱えており、友人作りという問題を抱えておらず、これは家族がいるために孤独を感じないのではないかと推測される。

先の分散分析の結果（母国同様の生活習慣が守れており、ホームシックが少ない）と合わせると、帯同留学生は、情緒的な面で家族からサポートを受けているといえる。従って、不帯同留学生よりも帯同留学生のほうが、孤独感が少ないという仮説3が支持されると判断できる。

### 3-1-3 東アジア系留学生と非東アジア系留学生、配偶者が留学生か否かの分析

帯同留学生96名を、東アジア系留学生（60名）、非東アジア系留学生（35名）と配偶者が留学生（43名）、非留学生（53名）に分け、分散分析を行なった（表3.9）。東アジア系で配偶者が留学生の帯同留学生は30名、東アジア系で配偶者が非留学生の帯同留学生は30名、非東アジア系で配偶者が留学生の帯同留学生は10名、非東アジア系で配偶者が非留学生の帯同留学生は23名であった。「日本語での講義( $F(1,86)=5.941, p=.017$ )」、「日本人から差別を受けること( $F(1,85)=4.950, p=.029$ )」の2項目において、配偶者が非留学生の帯同留学生のほうが有意に数値が高く、配偶者も留学生である帯同留学生は日本語での講義や日本人から差別されることに、あまり問題を抱えていないといえる。

「仕事の機会の欠如( $F(1,84)=4.171, p=.044$ )」、「遊ぶ時間がないこと( $F(1,83)=4.232, p=.043$ )」、「財源が十分でないこと( $F(1,84)=7.621, p=.007$ )」の3項目において、交互作用がみられ、東アジア系では配偶者が非留学生の帯同留学生が問題を抱えているのに対し、非東アジア系では配偶者が留学生の帯同留学生のほうが問題を抱えていることが

明らかとなった。

また、多くの項目において、非東アジア系帯同留学生より東アジア系帯同留学生のほうが有意に数値が高く、「学位を取ること(F(1,81)=10.889,p=.001)」、「日本人の友人を作ること(F(1,85)=6.031,p=.016)」、「日本人から差別を受けること(F(1,85)=4.444,p=.038)」、「遊ぶ時間がないこと(F(1,83)=10.616,p=.002)」、「財源が十分でないこと(F(1,84)=5.752,p=.019)」については、問題を抱えていることが明らかとなった。

以上の結果から、仮説1「東アジア出身者と非東アジア出身者では、抱える問題に質的量的な差がある」と仮説4「配偶者が留学生である帯同留学生と配偶者が非留学生である帯同留学生では、抱える問題に質的量的な差がある」は支持された。

#### 3-1-4 子供有・無、配偶者が留学生であるか否かの分析

帯同留学生 96 名を、子供有 (49 名)、子供無 (46 名) とに分け、また、配偶者が留学生 (43 名) である場合と、非留学生 (53 名) である場合に分け、分散分析を行なった (表 3.10)。子供有で配偶者が留学生は 18 名、子供有で配偶者が非留学生は 31 名、子供無で配偶者が留学生は 25 名、子供無で配偶者が非留学生は 21 名であった。

「日本語学習の機会の欠如(F(1,86)=4.835,p=.031)」において交互作用がみられ、子供有で配偶者が非留学生である帯同留学生が問題を抱えているのに対し、子供無では配偶者が留学生のほうが問題を抱えていることが明らかになった。

「日本語での講義 (F(1,88)=4.803,p=.031)」と「日本語学習の機会の欠如(F(1,86)=4.548,p=.036)」の 2 項目について、子供有が、無よりも問題の度合いが有意に高かった。

日本人の友人を作ることに関しては、子供無の帯同留学生が子供有の帯同留学生より問題を抱えており、配偶者が留学生か非留学生かは関係ないことが分かった (F(1,87)=5.701,p=.019)。日本人の友人を作ることには、子供がいるほうが、友人が作りやすい環境であることが考えられる。

日本人から差別を受けることについては、配偶者が非留学生のほうが、配偶者が留学生よりも問題が高いが(F(1,87)=6.400,p=.013)、子供の有無には関係のないことが分かった。帯同留学生にとって、子供の存在は、日本語の学習という面でマイナス面であるが、日本人の友人を作るきっかけを与えてくれることが示唆された。従って、ここでは、「帯同留学生にとって、子供の存在はプラス要因である」という仮説5の支持の判断はできない。

### 配偶者の回答（3-1-5～7）

#### 3-1-5 東アジア系配偶者と非東アジア系配偶者

配偶者 53 名を、東アジア系配偶者（28 名）と非東アジア系配偶者（22 名）に分け、回答の平均値について t 検定を行なった。その結果、「日本語学習の機会の欠如」を除いた全ての項目に関して、東アジア系配偶者のほうが非東アジア系配偶者よりも困難を感じている度合いが高かった（表 3.11）。これらのグループに対し等分散性確認のための Levene の検定を行なったところ、4 項目に関して 1%水準で等分散仮説が棄却されたので、その 4 項目については等分散を仮定せず、その他の 21 項目については、等分散性を仮定して、t 検定を行なった。その結果、0.1%水準で、「情緒的ストレス(t=4.138)」、「栄養が偏りがちであること(t=4.266)」、「遊ぶ時間がないこと(t=4.746)」、「睡眠時間が少ないこと(t=3.734)」、「財源が十分でないこと(t=4.781)」、「自分の国・文化について理解してもらえないこと(t=4.814)」、「近所の人との付き合い方が分からない(t=3.426)」の項目において有意に東アジア系配偶者のほうが高かった。特に、数値が高く差が大きかった項目は、「情緒的ストレス」、「遊ぶ時間がないこと」、「財源が十分でないこと」、「自分の国・文化について理解してもらえないこと」、「近所の人との付き合い方が分からない」であり、対人関係や経済的問題、ストレスに関して問題を抱えていることが明らかになった。

以上の結果から、上記のいずれの項目においても東アジア系配偶者のほうが非東アジア系配偶者よりも問題を抱えている傾向がみられ、「東アジア出身者と非東アジア出身者では、抱える問題に質的量的な差がある」という仮説 1 は支持された。

#### 3-1-6 母国で常勤の職についていた配偶者と常勤の職についていなかった配偶者

配偶者を来日前に母国で常勤の職についていた者（35 名）とそれ以外の者（18 名）に分け、回答について平均値を比較した。その結果、全体的に、常勤の職についていた配偶者のほうがそれ以外の配偶者よりも問題を抱えていることが明らかとなった（表 3.12）。



1%水準で有意差があったのは、「自分の国・文化について理解してもらえないこと(t=2.816)」、5%水準で有意差があったのは、「宿舎を見つけること(t=2.097)」、「日本の社会制度や日本文化への適応(t=2.357)」、「日本人から差別を受けること(t=2.236)」、「何においても自信が持てないこと(t=2.440)」、「財源が十分でないこと(t=2.048)」であった。このことから、母国で常勤の職についていた配偶者は、日本人との対人関係に困難を抱えており、被差別感が強く、また、仕事がないことに対する経済的問題や帰属意識のなさも問題を抱える原因となっていることが考えられる。従って、日本に来る前に常勤の職についていた配偶者は、それ以外の配偶者よりも問題を抱えているといえ、仮説2「母国で常勤の職についていた配偶者は、キャリアの継続を希望しており、それ以外の配偶者よりも問題を抱えている」は支持された。

#### 3-1-7 子供のいる配偶者と子供のいない配偶者

配偶者53名を、子供あり(31名)と子供なし(21名)に分け、回答について平均値を比較した。全ての項目において、子供のいない配偶者のほうが、数値が高く、子供がいるほうが、問題が小さい傾向がみられた(表3.13)。等分散性確認のためのLeveneの検定を行なったところ、1項目に関して1%水準で等分散仮説が棄却されたので、その1項目については等分散を仮定せず、その他の24項目については、等分散性を仮定してt検定を行なった。その結果、5%水準で「近所の人との付き合い方が分からない(t=-2.303)」の項目において有意差がみられ、子供がいることで近所付き合いが円滑になることが予想された。

配偶者の適応にとっては、子供がいることはプラス要因であることが明らかとなり、また、留学生にとってもほとんどの項目において、プラスであることが分かった。ただし、日本語習得の面においては、子供がいるほうが問題が多く、これは、家庭で日本語を使うことが少ないためではないかと考えられる。全体として、留学生と配偶者にとって子供の存在はプラス要因であるといえ、仮説5「留学生と配偶者それぞれにとって子供の存在は日本滞在においてプラス要因である」のうち、配偶者にとって子供の存在がプラスであることが支持された。

#### 3-2 留学生が日本で家族と同居する利点・問題点

ここでは、帯同留学生に質問した「日本で家族と同居する場合の利点(8項目)と問題

点（8項目）」について、分析を行なう。全体としては、表3.14、表3.15に示すような回答が得られた。留学生にとっての利点で最も回答が多かったのは、「孤独を感じない」であり、8割以上の者が回答していた。続いて、「問題や成功を分かち合う人がいる」、「学業を励ましてくれる」、という項目も7割以上と多く挙げられた。問題点としては、「経済的圧迫」を挙げる者が全体のほぼ半数を占め、その他に、「忙しいのに家族に関わらなければならない負担」を挙げる者も3割近く存在する。全体的に、問題点よりも利点を挙げる回答が多く、家族が日本で同居することに関し、肯定的な見方をしていることが窺われる。

### 3-2-1 東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生

東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生で比較してみると（表3.16、表3.17）、利点は、東アジア系帯同留学生60名中52名が、「孤独を感じない」、60名中30名が、「一緒に出かける人がいる」、といった利点を挙げた。それに対して、非東アジア系帯同留学生では、それぞれ35名中26名、14名と、若干少なかった。また、非東アジア系帯同留学生は、配偶者や子供にとって日本滞在が有意義であると回答した者が多く、35名中それぞれ22名、15名であった。それに対して、東アジア系帯同留学生は、60名中それぞれ30名、20名であり、非東アジア系帯同留学生よりも少なかった。

また、東アジア系帯同留学生60名中34名が、経済的圧迫を問題として挙げたが、これは、非東アジア系帯同留学生の35名中12名より多かった。また、配偶者が日本のやり方に適応できない、を挙げる非東アジア系帯同留学生は35名中9名いたが、東アジア系帯同留学生は、60名中8名であった。

大差はないが、東アジア系帯同留学生は、孤独感が少ないことを利点としているのに対し、非東アジア系帯同留学生は、配偶者や子供にとって、日本滞在が有利であると考えられる傾向があることが示唆された。また、東アジア系帯同留学生は、家族帯同の問題を経済的な圧迫であると捉えるのに対し、非東アジア系帯同留学生は、配偶者の不適応を心配している。

### 3-2-2 配偶者は留学生、配偶者は非留学生

配偶者が留学生である帯同留学生と非留学生である帯同留学生に分けてみた場合（表3.18、表3.19）、配偶者が非留学生である帯同留学生53名中22名が、家事に煩わされないと回答し、配偶者が留学生である帯同留学生43名中13名より多かった。

また、問題として、配偶者が非留学生である帯同留学生は、配偶者の日本語能力（53名中18名）、配偶者が日本のやり方に適応できない（同15名）、子供の学校での問題（同8名）をあげる者が多かった。それに対し、配偶者が留学生である帯同留学生は、43名中それぞれ3名、2名、1名と少なかった。すなわち、配偶者が留学生である場合のほうが、日本語能力や、日本への適応に問題が少なくなっている。

#### 3-2-3 子供有帯同留学生と子供無帯同留学生

子供がいる留学生と子供がいない帯同留学生に分けてみた場合（表3.20、表3.21）、利点として、子供有帯同留学生の73%が子供が活力を与えてくれると回答し、67%が日本滞在が子供にとって有意義であると回答した。問題点として、47%の子供有帯同留学生が、子供に関する心配を抱えていた。配偶者に関しては、子供無帯同留学生46名中9名が、配偶者がホームシックであると回答したのに対し、子供有帯同留学生は、49名中0名であった。子供がいれば、配偶者はホームシックになりにくいといえる。

#### 3-3 家族が日本にいることの影響

次に、帯同留学生に、家族がいることの影響として、学業面、経済面、情緒面それぞれにおいて「1. 良い影響、2. どちらかといえばよい影響、3. どちらかといえば悪い影響、4. 悪い影響」の4段階で回答させた（表3.22(1)、表3.22(2)）。全体の平均はそれぞれ、学業面(M=1.43,SD=.612)、経済面(M=2.29,SD=.803)、情緒面(M=1.34,SD=.615)であった。帯同留学生は家族から情緒面でのサポートを最も受けており、学業面においても良い影響があることが明らかとなった。

これを東アジア系帯同と非東アジア系帯同留学生で分け、t検定を行なったところ、情緒面において、5%水準で有意な差がみられた( $t=2.073$ )。東アジア系帯同留学生は、学業面のサポートを受ける傾向があり、非東アジア系帯同留学生は、情緒面でサポートを受ける傾向がある。

配偶者が留学生と非留学生でみた場合、留学生の身分である配偶者からは学業的なサポートを受けるが、経済面では、あまり良い影響とはいえない。

子供のあるなしで分けてみた場合、子供のいない帯同留学生は、学業面からのサポートを受ける傾向がある。

### 3-4 家事（育児）負担について

次に、来日後の家事（育児）負担についての評価に関して結果を示す。来日後、自分と配偶者の家事（育児）の負担がどのくらい変化したか、「1. 非常に増えた、2. 少し増えた、3. 変化していない、4. 少し減った、5. 非常に減った」の5段階で回答させたところ、留学生と配偶者それぞれから得られた結果は以下のとおりであった（表3.23、表3.24）。

双方とも自分と配偶者の家事の負担はそれぞれ増えたという認識であった。これらの認識に共通性があるのかどうか、つまり双方の主観的負担度と客観的負担度が一致しているかどうかを調べるため、留学生からみた自分の負担と配偶者からみた留学生の負担の相関と配偶者からみた自分の負担と留学生からみた配偶者の負担の相関を調べた。両者ともやや強い相関関係が認められた ( $r=.571$ ,  $r=.613$ )。これらのことから、来日後の家事に関し、夫婦とも負担が増加しており、さらに互いに増加していることを理解・認識していることが分かった。

子供のいる帯同留学生、配偶者と、子供のいない帯同留学生、配偶者に分けてみると、子供のいる帯同留学生と配偶者のほうが、子供のいない帯同留学生、配偶者よりも家事（育児）負担が増えていると感じていることが明らかになった（表3.25～表3.28）。

東アジア系と非東アジア系、配偶者が留学生と非留学生による違いはみられなかった。

### 3-5 子供の将来について

子供のいる帯同留学生と配偶者双方に対し、帰国後も子供に日本語を学び続けさせたいか、という質問を行なった（表3.29）。帯同留学生の回答は、はい25名、いいえ4名、分からない18名であった。東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生に分けた場合、東アジア系留学生は、肯定的な回答が多かったのに対し、非東アジア系帯同留学生は、分からないと回答する者が肯定的な回答を上回った。配偶者が留学生であるかどうかで分けた場合、配偶者が非留学生の帯同留学生は、分からないと回答する者が多かった。

配偶者の回答は、はい12名、いいえ4名、分からない14名であった。東アジア系と非東アジア系に分けた場合、東アジア系配偶者が肯定的な回答をしたのに対し、非東アジア系配偶者は、分からないと回答した者が多かった。

次に、帯同留学生と配偶者双方に対し、将来日本の大学で学ばせたいか、という質問を行なった（表3.30）。帯同留学生の回答は、はい23名、いいえ2名、分からない23名

であった。東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生、配偶者が留学生と配偶者が非留学生による違いはみられなかった。

配偶者の回答は、はい13名、いいえ2名、分からない15名であった。母国で職についていた配偶者は、分からないと回答する者が多かったが、母国で職についていなかった配偶者は、肯定的な回答をする者が多くいた。

### 3-6 相談相手

家族に関わる諸問題が起こった場合、まず始めに相談する相手を帯同留学生に回答させた。家族に関わる問題として以下の13を選んだ。相談相手としては、16の相談先に「相談相手がいない」「誰にも相談しない」を加えた18項目を示して選択させた(表3.31)。

表3.31 問題と相談相手

<b>問題</b>	日本にいる家族と日本人との人間関係、家族の日本語でのコミュニケーションに関する問題、配偶者の日常生活、子供の日常生活、日常生活の情報(ゴミの出し方等)、宿舎、入院及び病気、出産及び子供の世話、子供の教育、交通事故、緊急事態、文化の違い、宗教の違い	
<b>相談相手</b>	母国にいる家族	母国にいる家族
	日本にいる家族	日本にいる家族
	学内	日本人学生、留学生センターのアドバイザー、日本語の先生、大学のカウンセラー、指導教官、大学の職員、
	文化的に近い人々	同国の留学生、他国の留学生、同じ文化圏からの留学生、宗教家、
	学外者	知り合いの日本人、日本人のホストファミリー、寮のアドバイザー、日本の援助団体
	自己解決	相談相手がいない、誰にも相談しない

全ての問題を込みにした場合、相談相手として選ばれたのは、日本にいる家族が最も多く(115名)、次いで同国の留学生(109名)、であった。3番目に多かったのは誰にも相談しない(70名)で、4番目以降は、知り合いの日本人(65名)、留学生センターのアドバ

イザー (36名)、母国の家族 (29名)、指導教官 (26名)、日本人のホストファミリー (21名) の順であった。同国人留学生がソーシャルサポートの担い手となっているのは、予想通りであった。日本にいる家族がソーシャルサポート役を担っていることは明らかである。誰にも相談しない留学生が意外に多く、自分で問題を解決する場合も多いことが明らかとなった。日本人学生は 10 名しか選ばれておらず、あまり頼りにされていないことが分かる。

次に、問題別に相談相手を調べた。相談相手を、母国の家族、日本にいる家族、学内 (日本人学生、留学生センターのアドバイザー、日本語の先生、大学のカウンセラー、指導教官、大学の職員)、文化的に近い人々 (同国の留学生、他国の留学生、同じ文化圏からの留学生、宗教家)、学外者 (知り合いの日本人、日本人のホストファミリー、寮のアドバイザー、日本の援助団体)、自己解決 (相談相手がいない、誰にも相談しない) という 6 つの категория にまとめ、各問題ごとの相談先を図 3. 1 に示した。家庭内での問題は、家族や同国の留学生に相談する傾向がみられ、社会生活や文化的な問題は、知り合いの日本人に相談する傾向がある。子供の日常生活に関しては母国の家族に相談するが、配偶者の日常生活に関しては、誰にも相談しないことが見てとれる。また、宿舍の問題に関しては、学内のリソースに頼っているようであり、水野・石隈 (2001b) の、留学生が住居の問題を留学生担当教官に相談するという結果と同様の結果を得た。

### 3-6-1 東アジア出身帯同留学生と非東アジア出身帯同留学生の比較

帯同留学生を東アジア系留学生と非東アジア系留学生に分け、相談相手の違いをみた (表 3. 3 2)。東アジア系留学生は、非東アジア系留学生に比べて全体的に自己解決 (相談相手がいない、相談しない) を選択する傾向がある。また、家族の問題や病気、出産等のプライベートな問題に関しては、非東アジア系留学生が大学内のリソースを使うのに対し、東アジア系留学生は日本にいる家族に相談する、つまり、家族内で解決を図ることが読み取れる。これは、非東アジア系留学生が家族を援助源としていないのと対照的である。

### 3-6-2 配偶者が留学生である者と配偶者が留学生でない者の比較

帯同留学生を、配偶者が留学生である者と配偶者が留学生でない者に分け、比較を行なった (表 3. 3 3)。配偶者が留学生である場合、配偶者の日常生活や子供の日常生活において、大学内で援助をうけることはなく、それ以外のリソースに頼る傾向がある。交通事

故や緊急事態の時は、配偶者が留学生の者は、文化的に近い者に相談することは少ない。

### 3-6-3 子供有帯同留学生と子供無帯同留学生の比較

帯同留学生を、子供のいる留学生と子供のいない留学生とに分け、比較を行なった（表 3.34）。どの問題においても、子供のいない留学生は自己解決を選択することが多い。一方、子供のいる留学生は、交通事故や緊急事態の場合は文化的に近い者、家族の日本語でのコミュニケーションに関する問題や配偶者の日常生活においては学外の者に相談することが多い。入院及び病気に関しては、子供のいる留学生が大学内に頼るのに対して、子供のいない留学生は日本の家族に相談する傾向がある。

つまり、子供のいない留学生は、諸問題が発生したときに自分や家族内で解決することが多いのに対し、子供のいる留学生は、問題に応じて様々なリソースを利用しているといえる。

表3.3 日本で生活して困っていること・留学生全体と配偶者

項目	留学生 (n=394)		配偶者 (n=53)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
日本語での講義	2.04	.896		
学位を取ること	2.21	.902		
指導教官とのコミュニケーション	1.70	.762		
同国人留学生とのコミュニケーション	1.34	.643		
他国人留学生とのコミュニケーション	1.81	.779		
日本人学生とのコミュニケーション	2.04	.812		
日本語能力不足	2.12	.827	2.27	.961
日本語学習の機会の欠如	2.07	.919	1.98	.874
日本人の友人を作ること	2.29	.971	2.37	1.030
親しい同性の友人がいないこと	1.65	.813	1.90	9.22
親しい異性の友人がいないこと	1.86	.927	2.10	1.025
仕事の機会の欠如	2.28	.948	2.65	.978
留学生のための援助システムの欠如	2.30	.930	2.49	1.101
宿舎を見つけること	2.35	1.061	2.31	1.104
日本の社会制度や日本文化への適応	1.92	.756	2.04	.871
母国と同様の生活習慣が取れないこと	1.82	.806	1.88	.940
日本人から差別を受けること	2.03	.862	2.22	.954
キャリアを積めないこと	2.15	.937	2.45	1.138
ホームシック	1.95	.856	1.92	.838
何においても自信が持てないこと	1.81	.767	1.84	.773
情緒的ストレス	2.06	.883	1.88	.971
日本の食べ物	1.56	.688	1.69	.683
健康問題	1.66	.785	1.63	.782
栄養が偏りがちであること	1.70	.806	1.53	.793
遊ぶ時間がないこと	2.20	.965	1.98	.968
睡眠時間が少ないこと	2.04	.906	1.65	.751
勉強をする時間がないこと	1.91	.827	1.88	.807
財源が十分でないこと	2.28	1.087	2.41	1.098
自分の国・文化について理解してもらえないこと	1.99	.848	1.86	.948
近所の人との付き合いがない			1.90	0.951
近所の人との付き合い方が分からない			2.00	0.923



表3.4 各項目の因子分析結果(留学生n=394)

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
日本の社会制度や日本文化への適応	.512	.097	.298	.281	.292
母国と同様の生活習慣が取れないこと	.505	.039	.200	.186	.193
キャリアを積めないこと	.422	.069	-.115	.128	.398
ホームシック	.516	.229	.150	.006	.153
何においても自信が持てないこと	.654	.246	.089	.133	.142
情緒的ストレス	.576	.280	.039	.233	.163
日本の食べ物	.373	.188	.229	.096	-.001
日本人から差別を受けること	.380	.073	.077	.229	.305
健康問題	.432	.471	.027	.240	-.046
栄養が偏りがちであること	.366	.433	-.044	.195	.029
遊ぶ時間がないこと	.149	.757	-.043	.044	.251
睡眠時間が少ないこと	.184	.756	-.006	-.027	.177
勉強をする時間がないこと	.128	.553	.016	.112	.169
財源が十分でないこと	.127	.553	-.031	.162	.465
日本語での講義	.047	-.101	.719	.026	-.019
日本人学生とのコミュニケーション	.121	.023	.442	.376	.045
日本語能力不足	.100	-.004	.762	.025	-.026
日本語学習の機会の欠如	.109	.021	.565	-.003	.007
日本人の友人を作ること	.145	-.010	.412	.396	.119
同国人留学生とのコミュニケーション	.180	.100	-.119	.306	.151
他国人留学生とのコミュニケーション	.135	.215	-.045	.526	.094
親しい同性の友人がいないこと	.253	.092	.171	.655	.133
親しい異性の友人がいないこと	.137	.078	.089	.688	.203
仕事の機会の欠如	.144	.146	.007	.141	.498
留学生のための援助システムの欠如	.104	.266	-.026	.130	.642
宿舎を見つけること	.165	.203	.102	.098	.530
自分の国・文化について理解してもらえないこと	.278	.334	-.087	.273	.364

表3.5 各項目の因子分析結果(配偶者n=53)

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
宿舎を見つけること	.451	.319	.046	.248	-.044
母国と同様の生活習慣が取れないこと	.676	.531	.331	.067	.005
ホームシック	.438	.316	.369	.188	.112
日本の食べ物	.525	.452	.278	.041	.136
健康問題	.786	-.047	.153	.117	.171
栄養が偏りがちであること	.769	-.093	.260	.166	.278
自分の国・文化について理解してもらえないこと	.649	.167	.203	.287	.303
日本語能力不足	.133	.745	.286	.168	.045
日本語学習の機会の欠如	.107	.641	.006	.239	.243
日本人の友人を作ること	-.005	.558	.269	.476	.072
仕事の機会の欠如	-.052	.578	.418	-.030	.146
配偶者のための援助システムの欠如	.341	.481	.360	.449	.110
日本の社会制度や日本文化への適応	.327	.532	.501	.094	.074
キャリアを積めないこと	.312	.350	.537	.132	.159
何においても自信が持てないこと	.432	.306	.594	.129	.027
情緒的ストレス	.551	.098	.639	.238	.117
近所の人との付き合いがない	.232	.224	.772	.298	.186
近所の人との付き合い方が分からない	.162	.212	.735	.377	.267
親しい同性の友人がいないこと	.218	.175	.282	.858	.117
親しい異性の友人がいないこと	.271	.121	.210	.661	.312
日本人から差別を受けること	.488	.443	.119	.513	-.015
遊ぶ時間がないこと	.398	-.112	.298	.224	.734
睡眠時間が少ないこと	.202	.059	.138	.102	.735
勉強をする時間がないこと	-.099	.437	-.021	.055	.740
財源が十分でないこと	.401	.342	.316	.099	.507

表3.6 日本で生活して困っていること・帯同留学生と不帯同留学生

項目	帯同留学生 (n=96)		不帯同留学生 (n=298)		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
日本語での講義	2.01	.891	2.05	.899	-.358
学位を取ること	2.07	.881	2.25	.906	-1.675
指導教官とのコミュニケーション	1.69	.859	1.71	.729	-.244
同国人留学生とのコミュニケーション	1.32	.611	1.35	.655	-.305
他国人留学生とのコミュニケーション	1.83	.842	1.80	.760	.249
日本人学生とのコミュニケーション	1.94	.845	2.08	.799	-1.487
日本語能力不足	2.05	.799	2.14	.836	-.850
日本語学習の機会の欠如	2.00	.882	2.09	.931	-.814
日本人の友人を作ること	2.24	1.031	2.31	.953	-.594
親しい同性の友人がいないこと	1.64	.863	1.65	.798	-.147
親しい異性の友人がいないこと	1.86	1.045	1.87	.889	-.078
仕事の機会の欠如	2.37	.927	2.24	.955	1.135
留学生のための援助システムの欠如	2.40	.930	2.26	.929	1.184
宿舎を見つけること	2.42	.990	2.33	1.084	.660
日本の社会制度や日本文化への適応	1.83	.779	1.95	.747	-1.391
母国と同様の生活習慣が取れないこと	1.68	.782	1.87	.809	-2.003 *
日本人から差別を受けること	2.09	.910	2.02	.848	.674
キャリアを積めないこと	2.02	.871	2.18	.955	-1.410
ホームシック	1.76	.794	2.01	.868	-2.432 *
何においても自信が持てないこと	1.70	.722	1.85	.778	-1.648
情緒的ストレス	1.97	.862	2.09	.889	-1.159
日本の食べ物	1.54	.653	1.56	.700	-.207
健康問題	1.63	.798	1.66	.783	-.402
栄養が偏りがちであること	1.49	.656	1.77	.838	-2.843 **
遊ぶ時間がないこと	2.42	.983	2.13	.950	2.534 *
睡眠時間が少ないこと	2.18	.973	2.00	.881	1.567
勉強をする時間がないこと	1.92	.910	1.91	.801	.137
財源が十分でないこと	2.42	1.065	2.24	1.092	1.377
自分の国・文化について理解してもらえないこと	1.93	.867	2.01	.843	-.714

\*\*: $p<.01$ , \*: $p<.05$

表3.7 各項目の因子分析結果(帯同留学生n=96)

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
学位を取ること	.550	.076	.387	.046	.169
指導教官とのコミュニケーション	.528	.256	.343	.124	.177
同国人留学生とのコミュニケーション	.559	.204	.126	.058	-.015
他国人留学生とのコミュニケーション	.693	.227	.132	.053	.109
日本人学生とのコミュニケーション	.632	.110	.111	.230	.126
日本人の友人を作ること	.587	.004	.184	.063	.019
親しい同性の友人がいないこと	.698	.020	.138	.138	.091
親しい異性の友人がいないこと	.720	.090	.102	.057	.127
日本の社会制度や日本文化への適応	.464	.160	.282	.315	.043
ホームシック	.195	.479	.453	.023	.166
健康問題	.317	.368	.381	.103	.071
栄養が偏りがちであること	.223	.514	.373	-.016	.017
遊ぶ時間がないこと	.151	.902	.106	.000	.116
睡眠時間が少ないこと	.047	.781	.130	-.021	.178
勉強をする時間がないこと	.150	.624	.163	-.103	.078
財源が十分でないこと	.101	.615	.235	.063	.317
日本人から差別を受けること	.333	.067	.431	-.027	.111
キャリアを積めないこと	.269	.234	.565	-.033	.198
何においても自信が持てないこと	.417	.310	.664	.153	-.005
情緒的ストレス	.304	.324	.614	.114	-.005
自分の国・文化について理解してもらえないこと	.262	.516	.528	-.020	.196
日本語での講義	.127	-.097	-.051	.780	.157
日本語能力不足	.154	-.092	.157	.670	-.021
日本語学習の機会の欠如	.116	.000	-.118	.696	.006
宿舎を見つけること	.155	.189	.316	.398	.267
日本の食べ物	-.031	.070	.336	.382	.051
仕事の機会の欠如	.144	.263	.051	.180	.688
留学生のための援助システムの欠如	.169	.259	.176	.011	.896

表3.8 各項目の因子分析結果(不帯同留学生n=298)

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
健康問題	.461	.063	.395	-.032	.113
栄養が偏りがちであること	.413	-.010	.274	.021	.059
遊ぶ時間がないこと	.739	-.063	.168	.144	.060
睡眠時間が少ないこと	.755	.001	.226	.080	-.033
勉強をする時間がないこと	.552	.056	.087	.166	.055
財源が十分でないこと	.563	-.035	.100	.473	.201
日本語での講義	-.112	.665	.119	-.034	.074
日本人学生とのコミュニケーション	-.022	.601	.019	.043	.073
日本語能力不足	-.004	.776	.174	.044	.021
日本語学習の機会の欠如	.082	.533	.104	-.086	-.051
日本人の友人を作ること	.010	.560	.048	.093	.197
指導教官とのコミュニケーション	-.009	.317	.327	.286	-.005
母国と同様の生活習慣が取れないこと	.040	.144	.0462	.040	.060
ホームシック	.176	.159	.552	.132	-.015
何においても自信が持てないこと	.237	.095	.628	.221	.096
情緒的ストレス	.262	.038	.552	.191	.246
日本の食べ物	.174	.219	.441	.007	.135
学位を取ること	.045	.344	.173	.467	-.192
仕事の機会の欠如	.118	-.017	.171	.481	.196
留学生のための援助システムの欠如	.290	.008	.092	.664	.084
宿舎を見つけること	.306	.048	.047	.414	.118
キャリアを積めないこと	.073	-.113	.287	.362	.066
親しい同性の友人がいないこと	.124	.183	.202	.076	.552
親しい異性の友人がいないこと	.061	.078	.104	.145	.820

表3.9 帯同留学生在日本で生活して困っていること(標準偏差)  
東アジア系と非東アジア系、配偶者は留学生と非留学生

項目	東アジア系		非東アジア系	
	配偶者は 留学生(n=30)	配偶者は 非留学生(n=30)	配偶者は 留学生(n=23)	配偶者は 非留学生(n=10)
日本語での講義	1.62(.775)	1.97(.823)	2.00(.816)	2.59(.908)
学位を取ることに	2.18(.905)	2.41(.931)	1.80(.789)	1.50(.513)
指導教官とのコミュニケーション	1.76(.786)	2.03(.944)	1.20(.422)	1.27(.767)
同国人留学生とのコミュニケーション	1.38(.677)	1.38(.677)	1.50(.707)	1.05(.213)
他国人留学生とのコミュニケーション	1.97(.823)	2.10(.817)	1.50(.707)	1.32(.716)
日本人学生とのコミュニケーション	1.93(.884)	2.21(.861)	1.40(.516)	1.73(.767)
日本語能力不足	1.90(.772)	1.97(.823)	1.90(.568)	2.45(.800)
日本語学習の機会の欠如	1.71(.763)	1.82(.772)	2.40(1.174)	2.32(.894)
日本人の友人を作ること	2.34(1.111)	2.50(.923)	1.70(.823)	2.00(1.024)
親しい同性の友人がいないこと	1.72(.922)	1.74(.859)	1.50(.707)	1.45(.858)
親しい異性の友人がいないこと	1.76(.951)	2.23(1.070)	1.70(1.059)	1.55(1.011)
仕事の機会の欠如	2.43(.959)	2.64(.826)	2.60(1.075)	1.95(.844)
留学生のための援助システムの欠如	2.48(.949)	2.70(.775)	2.40(.843)	1.95(1.046)
宿舎を見つけること	2.31(1.004)	2.59(.971)	2.60(.966)	2.23(1.066)
日本の社会制度や日本文化への適応	1.90(.817)	1.96(.793)	1.30(.483)	1.77(.752)
母国と同様の生活習慣が取れないこと	1.62(.903)	1.86(.789)	1.40(.516)	1.68(.716)
日本人から差別を受けること	1.93(.842)	2.57(.790)	1.70(.823)	1.95(.999)
キャリアを積めないこと	2.19(.895)	2.33(.920)	1.60(.843)	1.68(.646)
ホームシック	1.69(.712)	2.11(.751)	1.50(.707)	1.50(.859)
何においても自信が持てないこと	1.69(.604)	1.96(.744)	1.40(.699)	1.50(.740)
情緒的ストレス	2.28(.922)	2.15(.864)	1.80(.789)	1.45(.510)
日本の食べ物	1.55(.686)	1.50(.686)	1.60(.699)	1.59(.734)
健康問題	1.62(.775)	2.00(.877)	1.20(.422)	1.32(.477)
栄養が偏りがちであること	1.45(.506)	1.85(.818)	1.40(.699)	1.23(.429)
遊ぶ時間がないこと	2.48(.949)	2.93(.917)	2.22(1.093)	1.77(.752)
睡眠時間が少ないこと	2.38(1.049)	2.59(.844)	2.10(.876)	1.55(.739)
勉強をする時間がないこと	1.93(.884)	2.26(.859)	1.70(.823)	1.50(.859)
財源が十分でないこと	2.52(1.090)	2.81(.962)	2.60(1.075)	1.64(.790)
自分の国・文化について理解してもらえないこと	2.07(.842)	2.41(.797)	1.60(.843)	1.36(.581)

表3. 10 帯同留学生在日本で生活して困っていること(標準偏差)

子供有と無、配偶者は留学生と非留学生

項目	子供有		子供無	
	配偶者は 留学生(n=18)	配偶者は 非留学生(n=31)	配偶者は 留学生(n=25)	配偶者は 非留学生(n=21)
日本語での講義	1.89(.963)	2.47(.937)	1.62(.647)	1.95(.759)
学位を取ること	1.94(.998)	2.03(.890)	2.26(.752)	2.06(.929)
指導教官とのコミュニケーション	1.67(.767)	1.68(.945)	1.67(.761)	1.79(.976)
同国人留学生とのコミュニケーション	1.50(.707)	1.19(.477)	1.38(.647)	1.32(.671)
他国人留学生とのコミュニケーション	1.78(.878)	1.68(.909)	2.00(.780)	1.89(.809)
日本人学生とのコミュニケーション	1.83(.857)	1.94(.814)	1.87(.850)	2.16(.898)
日本語能力不足	1.89(.832)	2.35(.839)	1.92(.654)	1.95(.780)
日本語学習の機会の欠如	1.94(.998)	2.37(.850)	1.96(.878)	1.58(.607)
日本人の友人を作ること	1.89(.832)	2.07(.980)	2.42(1.213)	2.58(.961)
親しい同性の友人がいないこと	1.61(.850)	1.45(.736)	1.71(.908)	1.89(.994)
親しい異性の友人がいないこと	1.67(.970)	1.79(1.101)	1.87(1.035)	2.16(1.068)
仕事の機会の欠如	2.67(1.029)	2.43(1.006)	2.22(.902)	2.21(.713)
留学生のための援助システムの欠如	2.61(1.092)	2.38(1.049)	2.29(.690)	2.32(.885)
宿舎を見つけること	2.61(1.037)	2.31(1.072)	2.25(.897)	2.68(.885)
日本の社会制度や日本文化への適応	1.61(.778)	1.90(.759)	1.87(.797)	1.89(.809)
母国と同様の生活習慣が取れないこと	1.50(.857)	1.81(.833)	1.58(.776)	1.79(.631)
日本人から差別を受けること	2.00(.840)	2.13(1.008)	1.71(.806)	2.53(.772)
キャリアを積めないこと	2.06(.966)	1.83(.791)	1.95(.844)	2.44(.856)
ホームシック	1.61(.698)	1.69(.761)	1.71(.751)	2.05(.970)
何においても自信が持てないこと	1.56(.616)	1.70(.750)	1.67(.702)	1.89(.809)
情緒的ストレス	2.00(.907)	1.72(.702)	2.21(.932)	2.05(.911)
日本の食べ物	1.44(.616)	1.60(.563)	1.62(.711)	1.47(.772)
健康問題	1.61(.778)	1.66(.769)	1.50(.834)	1.79(.855)
栄養が偏りがちであること	1.56(.616)	1.45(.632)	1.29(.464)	1.79(.855)
遊ぶ時間がないこと	2.47(1.007)	2.31(1.072)	2.42(.929)	2.53(.964)
睡眠時間が少ないこと	2.44(1.042)	2.03(1.017)	2.08(.974)	2.21(.855)
勉強をする時間がないこと	1.94(.998)	1.76(.872)	1.92(.830)	2.16(1.015)
財源が十分でないこと	2.56(1.097)	2.14(1.026)	2.58(1.060)	2.58(1.71)
自分の国・文化について理解してもらえないこと	1.89(.900)	1.79(.819)	1.96(.859)	2.21(.918)

表3. 11 配偶者が日本で生活して困っていること(東アジア系配偶者と非東アジア系配偶者)

項目	東アジア系(n=28)		非東アジア系(n=22)		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
日本語能力不足	2.26	.944	2.24	.944	.077
日本語学習の機会の欠如	1.93	.813	2.00	.949	-.283
日本人の友人を作ること	2.57	.997	2.05	.973	1.838
親しい同性の友人がいないこと	2.26	.944	1.48	.680	3.206 **
親しい異性の友人がいないこと	2.48	1.051	1.67	.796	2.952 **
仕事の機会の欠如	2.64	.995	2.55	.945	.308
配偶者のための援助システムの欠如	2.87	.968	2.05	1.161	2.559 *
宿舎を見つけること	2.63	.967	2.00	1.225	1.992
日本の社会制度や日本文化への適応	2.07	.730	2.00	1.049	.288
母国と同様の生活習慣が取れないこと	2.08	.935	1.62	.921	1.681
日本人から差別を受けること	2.54	.948	1.81	.873	2.714 **
キャリアを積めないこと	2.72	1.100	1.95	1.024	2.433 *
ホームシック	2.08	.812	1.67	.856	1.677
何においても自信が持てないこと	2.04	.735	1.57	.746	2.139 *
情緒的ストレス	2.32	1.069	1.33	.483	4.138 ***
日本の食べ物	1.84	.746	1.48	.602	1.796
健康問題	1.96	.841	1.29	.561	3.134 **
栄養が偏りがちであること	1.92	.909	1.10	.301	4.266 ***
遊ぶ時間がないこと	2.48	.963	1.38	.590	4.746 ***
睡眠時間が少ないこと	1.96	.790	1.24	.436	3.734 ***
勉強をする時間がないこと	2.04	.735	1.57	.676	2.233 *
財源が十分でないこと	2.92	.909	1.67	.856	4.781 ***
自分の国・文化について理解してもらえないこと	2.35	.977	1.24	.436	4.814 ***
近所の人との付き合いがない	2.16	.943	1.55	.759	2.346 *
近所の人との付き合い方が分からない	2.36	.860	1.55	.686	3.426 ***

\*\*\*:p<.001, \*\*:p<.01, \*:p<.05



表3.12 配偶者が日本で生活して困っていること  
(母国で常勤の職についていた者とついていなかった者)

項目	母国で常勤の職についていた者(n=35)		母国で常勤の職についていなかった者(n=18)		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
日本語能力不足	2.42	.969	2.00	.907	1.527
日本語学習の機会の欠如	2.06	.886	1.83	.857	.883
日本人の友人を作ること	2.50	1.052	2.11	.963	1.305
親しい同性の友人がいないこと	2.06	.933	1.61	.850	1.695
親しい異性の友人がいないこと	2.24	.969	1.83	1.098	1.374
仕事の機会の欠如	2.77	.990	2.41	.939	1.234
配偶者のための援助システムの欠如	2.69	1.072	2.17	1.098	1.610
宿舎を見つけること	2.55	1.034	1.89	1.132	2.097 *
日本の社会制度や日本文化への適応	2.24	.830	1.67	.840	2.357 *
母国と同様の生活習慣が取れないこと	2.06	.948	1.56	.856	1.877
日本人から差別を受けること	2.44	.948	1.67	.840	2.236 *
キャリアを積めないこと	2.55	1.060	2.28	1.274	.800
ホームシック	2.00	.856	1.78	.808	.893
何においても自信が持てないこと	2.03	.752	1.50	.707	2.440 *
情緒的ストレス	1.94	.998	1.78	.943	.544
日本の食べ物	1.77	.717	1.56	.616	1.082
健康問題	1.74	.729	1.44	.856	1.292
栄養が偏りがちであること	1.65	.798	1.33	.767	1.337
遊ぶ時間がないこと	2.06	.892	1.83	1.098	.803
睡眠時間が少ないこと	1.77	.717	1.44	.784	1.500
勉強をする時間がないこと	1.97	.657	1.72	1.018	1.027
財源が十分でないこと	2.65	.985	2.00	1.188	2.048 *
自分の国・文化について理解してもらえないこと	2.13	.942	1.39	.778	2.816 **
近所の人との付き合いがない	2.00	.966	1.71	.920	1.026
近所の人との付き合い方が分からない	2.13	.937	1.78	.878	1.302

\*\*: $p < .01$ , \*: $p < .05$

表3. 13 配偶者が日本で生活して困っていること(子供有・無)

項目	子供有(n=31)		子供無(n=21)		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
日本語能力不足	2.26	1.095	2.30	.822	-.162
日本語学習の機会の欠如	1.89	.875	2.13	.869	-.968
日本人の友人を作ること	2.18	1.056	2.57	.992	-1.337
親しい同性の友人がいないこと	1.75	.887	2.09	.971	-1.294
親しい異性の友人がいないこと	2.04	.962	2.18	1.140	-.492
仕事の機会の欠如	2.52	.975	2.80	1.005	-.966
配偶者のための援助システムの欠如	2.27	1.116	2.75	1.070	-1.475
宿舎を見つけること	2.21	1.067	2.50	1.144	-.911
日本の社会制度や日本文化への適応	2.11	.956	1.95	.785	.605
母国と同様の生活習慣が取れないこと	1.79	.833	2.05	1.071	-.964
日本人から差別を受けること	2.07	.940	2.38	.973	-1.123
キャリアを積めないこと	2.22	1.121	2.76	1.136	-1.645
ホームシック	1.85	.718	2.05	.973	-.802
何においても自信が持てないこと	1.78	.847	1.95	.669	-.774
情緒的ストレス	1.67	.734	2.19	1.167	-1.901
日本の食べ物	1.67	.620	1.76	.768	-.475
健康問題	1.52	.643	1.81	.928	-1.282
栄養が偏りがちであること	1.37	.565	1.76	.995	-1.612
遊ぶ時間がないこと	1.78	.892	2.19	1.030	-1.486
睡眠時間が少ないこと	1.52	.643	1.76	.831	-1.145
勉強をする時間がないこと	1.85	.718	1.90	.944	-.221
財源が十分でないこと	2.26	1.059	2.62	1.161	-1.119
自分の国・文化について理解してもらえないこと	1.74	.944	2.00	.976	-.942
近所の人との付き合いがない	1.73	.919	2.14	.964	-1.496
近所の人との付き合い方が分からない	1.73	.827	2.33	.966	-2.303

\*:p<.05

\*

表3. 14 留学生にとっての家族帯同の利点(n=96)

	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)
家事に煩わされない	39	9.0	40.6
孤独を感じない	79	18.2	82.3
問題や成功を分かち合う人がいる	73	16.8	76.0
一緒に出かける人がいる	45	10.4	46.9
学業を励ましてくれる	72	16.6	75.0
子供が活力を与えてくれる	39	9.0	40.6
日本滞在が配偶者にとって有意義	52	12.0	54.2
日本滞在が子供にとって有意義	35	8.1	36.5
合計	434	100.0	452.1

表3. 15 留学生にとっての家族帯同の問題点(n=96)

	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)
忙しいのに家族に関わらなければならない負担	28	17.2	29.2
経済的圧迫	47	28.8	49.0
配偶者が幸せでない	5	3.1	5.2
配偶者がホームシック	9	5.5	9.4
配偶者の日本語能力が十分でない	21	12.9	21.9
配偶者が日本のやり方に適応できない	17	10.4	17.7
子供に関する心配	27	16.6	28.1
子供の学校での問題	9	5.5	9.4
合計	163	100.0	169.9

表3. 16 留学生にとっての家族帯同の利点(東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生)

	東アジア系(n=60)			非東アジア系(n=35)		
	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)
家事に煩わされない	25	9.3	41.7	14	8.6	40.0
孤独を感じない	52	19.3	86.7	26	16.0	74.3
問題や成功を分かち合う人がいる	45	16.7	75.0	27	16.7	77.1
一緒に出かける人がいる	30	11.2	50.0	14	8.6	40.0
学業を励ましてくれる	45	16.7	75.0	27	16.7	77.1
子供が活力を与えてくれる	22	8.2	36.7	17	10.5	48.6
日本滞在が配偶者にとって有意義	30	11.2	50.0	22	13.6	62.9
日本滞在が子供にとって有意義	20	7.4	33.3	15	9.3	42.9
合計	269	100.0	448.4	162	100.0	462.9

表3. 17 留学生にとっての家族帯同の問題点(東アジア系帯同留学生と非東アジア系帯同留学生)

	東アジア系(n=60)			非東アジア系(n=35)		
	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)
忙しいのに家族に関わらなければならない負担	20	19.0	33.3	8	14.3	22.9
経済的圧迫	34	32.4	56.7	12	21.4	34.3
配偶者が幸せでない	2	1.9	3.3	3	5.4	8.6
配偶者がホームシック	5	4.8	8.3	3	5.4	8.6
配偶者の日本語能力が十分でない	12	11.4	20.0	9	16.1	25.7
配偶者が日本のやり方に適応できない	8	7.6	13.3	9	16.1	25.7
子供に関する心配	18	17.1	30.0	9	16.1	25.7
子供の学校での問題	6	5.7	10.0	3	5.4	8.6
合計	105	100.0	174.9	56	100.0	160.1

表3. 18 留学生にとっての家族帯同の利点(配偶者は留学生と配偶は非留学生)

	配偶者は留学生(n=43)			配偶者は留学生以外(n=53)		
	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)	実数	割合(%)	回答数/全人数(%)
家事に煩わされない	15	7.8	34.9	24	9.9	45.3
孤独を感じない	37	19.3	86.0	42	17.4	79.2
問題や成功を分かち合う人がいる	33	17.2	76.7	40	16.5	75.5
一緒に出かける人がいる	19	9.9	44.2	26	10.7	55.3
学業を励ましてくれる	33	17.2	76.7	39	16.1	73.6
子供が活力を与えてくれる	17	8.9	39.5	22	9.1	41.5
日本滞在が配偶者にとって有意義	25	13.0	58.1	27	11.2	50.9
日本滞在が子供にとって有意義	13	6.8	30.2	22	9.1	41.5
合計	192	100.0	446.3	242	100.0	462.8

表3. 19 留学生にとっての家族帯同の問題点

(配偶者は留学生の帯同留学生と配偶は非留学生の帯同留学生)

	配偶者は留学生 (n=43)			配偶者は留学生以外 (n=53)		
	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)
忙しいのに家族に関わらなければならない負担	13	22.8	30.2	15	14.2	28.3
経済的圧迫	20	35.1	46.5	27	25.5	50.9
配偶者が幸せでない	2	3.5	4.7	3	2.8	5.7
配偶者がホームシック	3	5.3	7.0	6	5.7	11.3
配偶者の日本語能力が十分でない	3	5.3	7.0	18	17.0	34.0
配偶者が日本のやり方に適応できない	2	3.5	4.7	15	14.2	28.3
子供に関する心配	13	22.8	30.2	14	13.2	26.4
子供の学校での問題	1	1.8	2.3	8	7.5	15.1
合計	57	100.0	132.6	106	100.0	200.0

表3. 20 留学生にとっての家族帯同の利点(子供有の帯同留学生と子供無の帯同留学生)

	子供有 (n=49)			子供無 (n=46)		
	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)
家事に煩わされない	21	8.1	42.9	17	10.1	37.0
孤独を感じない	41	15.8	83.7	38	22.6	82.6
問題や成功を分かち合う人がいる	38	14.7	77.6	34	20.2	73.9
一緒に出かける人がいる	22	8.5	44.9	22	13.1	47.8
学業を励ましてくれる	39	15.1	79.6	32	19.0	69.6
子供が活力を与えてくれる	36	13.9	73.5	2	1.2	4.3
日本滞在が配偶者にとって有意義	29	11.2	59.2	22	13.1	47.8
日本滞在が子供にとって有意義	33	12.7	67.3	1	0.6	2.2
合計	259	100.0	528.7	168	100.0	365.2

表3. 21 留学生にとっての家族帯同の問題点(子供有の帯同留学生と子供無の帯同留学生)

	子供有 (n=49)			子供無 (n=46)		
	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)	実数	割合 (%)	回答数/全人数 (%)
忙しいのに家族に関わらなければならない負担	15	16.0	30.6	12	19.0	26.1
経済的圧迫	25	26.6	51.0	21	33.3	45.7
配偶者が幸せでない	2	2.1	4.1	3	4.8	6.5
配偶者がホームシック	0	0.0	0.0	9	14.3	19.6
配偶者の日本語能力が十分でない	11	11.7	22.4	9	14.3	19.6
配偶者が日本のやり方に適応できない	10	10.6	20.4	6	9.5	13.0
子供に関する心配	23	24.5	46.9	3	4.8	6.5
子供の学校での問題	8	8.5	16.3	0	0.0	0.0
合計	94	100.0	191.7	63	100.0	137.0

表3. 22(1) 家族が日本にいることの影響(標準偏差)

	学業面	経済面	情緒面
全体(n=96)	1.43(.612)	2.29(.803)	1.34(.615)

表3. 22(2) 家族が日本にいることの影響(標準偏差)

	東アジア系(n=60)	非東アジア系(n=35)	t値
学業面	1.36(.525)	1.52(.738)	-1.009
経済面	2.28(.784)	2.25(.799)	.161
情緒面	1.44(.675)	1.17(.468)	2.073 *

配偶者は留学生(N=43) 配偶者は非留学生(n=53)

	配偶者は留学生(N=43)	配偶者は非留学生(n=53)	t値
学業面	1.36(.593)	1.48(.628)	.146
経済面	2.39(.838)	2.21(.773)	.809
情緒面	1.42(.692)	1.42(.544)	.781

子供有(n=49) 子供無(n=46)

	子供有(n=49)	子供無(n=46)	t値
学業面	1.49(.681)	1.30(.466)	.401
経済面	2.31(.803)	2.27(.828)	.325
情緒面	1.33(.691)	1.37(.669)	.301

\*:p<.05

表3. 23 来日後の留学生の家事(育児)の負担の変化

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
留学生の回答(n=96)	25	34	23	6	2	6	2.18
配偶者の回答(n=53)	9	23	13	3	1	4	1.98

表3. 24 来日後の配偶者の家事(育児)の負担の変化

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
留学生の回答(n=96)	28	36	18	7	2	5	2.11
配偶者の回答(n=53)	12	22	11	0	0	8	2.27

表3. 25 来日後の自分の家事(育児)の負担の変化(子供有帯同留学生と子供無帯同留学生)

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
子供有帯同留学生(n=49)	17	17	9	3	1	2	2.02
子供無帯同留学生(n=46)	8	17	13	3	1	4	2.33

表3. 26 来日後の配偶者の家事(育児)の負担の変化(子供有帯同留学生と子供無帯同留学生)

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
子供有帯同留学生(n=49)	19	15	8	4	1	2	2.00
子供無帯同留学生(n=46)	9	20	10	3	1	3	2.23

表3. 27 来日後の自分の家事(育児)の負担の変化(子供有配偶者と子供無配偶者)

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
子供有配偶者(n=31)	8	15	6	0	0	2	1.93
子供無配偶者(n=21)	4	6	5	0	0	6	2.07

表3. 28 来日後の配偶者の家事(育児)の負担の変化(子供有配偶者と子供無配偶者)

	非常に 増えた	少し 増えた	変化 していない	少し 減った	非常に 減った	無回答	平均
子供有配偶者(n=31)	7	14	6	1	1	2	2.14
子供無配偶者(n=21)	2	8	7	2	0	2	2.47

表3. 29 帰国後も子供には日本語を学び続けさせたいか

	はい	いいえ	分からない	無回答
<b>留学生(n=49)</b>	<b>25</b>	<b>4</b>	<b>18</b>	<b>2</b>
東アジア系帯同留学生(n=26)	18	2	5	1
非東アジア系帯同留学生(n=23)	7	2	13	1
配偶者は留学生(N=18)	13	2	3	0
配偶者は非留学生(n=31)	12	2	15	2
<b>配偶者(n=31)</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>14</b>	<b>1</b>
東アジア系配偶者(n=14)	9	1	3	1
非東アジア系配偶者(n=17)	3	3	11	0
母国で職についていた配偶者(n=21)	8	3	9	1
母国で職についていなかった配偶者(n=10)	4	1	5	0

表3. 30 将来子供を日本の大学で学ばせたいか

	はい	いいえ	分からない	無回答
<b>留学生(n=49)</b>	<b>23</b>	<b>2</b>	<b>23</b>	<b>1</b>
東アジア系帯同留学生(n=26)	11	1	13	1
非東アジア系帯同留学生(n=23)	12	1	10	0
配偶者は留学生(N=18)	8	1	9	0
配偶者は非留学生(n=31)	15	1	14	1
<b>配偶者(n=31)</b>	<b>13</b>	<b>2</b>	<b>15</b>	<b>1</b>
東アジア系配偶者(n=14)	6	1	6	1
非東アジア系配偶者(n=17)	7	1	9	0
母国で職についていた配偶者(n=21)	6	2	12	1
母国で職についていなかった配偶者(n=10)	7	0	3	0



表3. 32 帯同留学生の相談相手・東アジア系(n=60)と非東アジア系(n=35)

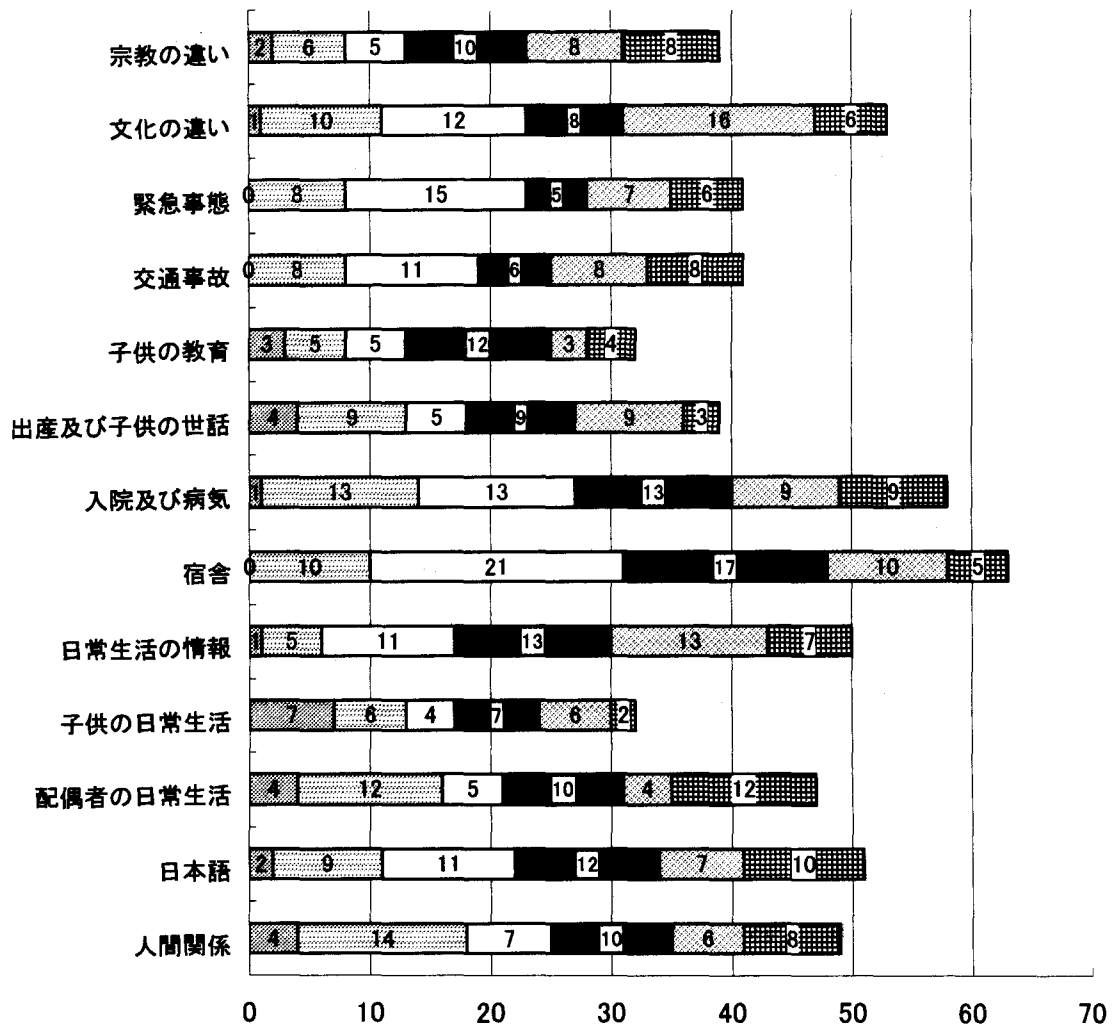
		母国の家族	日本の家族	大学内	文化的に近い	学外	自己解決
日本にいる家族と日本人との人間関係	東アジア系	4	12	1	5	6	6
	非東アジア系	0	2	6	5	0	1
家族の日本語でのコミュニケーション	東アジア系	2	9	5	7	4	7
	非東アジア系	0	0	6	5	3	2
配偶者の日常生活	東アジア系	4	11	0	7	2	6
	非東アジア系	0	1	5	3	2	5
子供の日常生活	東アジア系	5	6	1	4	2	2
	非東アジア系	2	0	3	3	4	0
日常生活の情報	東アジア系	1	4	6	6	7	5
	非東アジア系	0	1	5	7	6	1
宿舎	東アジア系	0	10	11	11	7	3
	非東アジア系	0	0	10	5	3	2
入院及び病気	東アジア系	1	13	5	7	7	7
	非東アジア系	0	0	8	6	2	1
出産及び子供の世話	東アジア系	3	9	2	5	5	2
	非東アジア系	1	0	3	4	4	0
子供の教育	東アジア系	3	5	2	7	2	3
	非東アジア系	0	0	3	5	1	1
交通事故	東アジア系	0	8	7	5	7	5
	非東アジア系	0	0	4	1	1	2
緊急事態	東アジア系	0	8	9	5	6	5
	非東アジア系	0	0	6	0	1	0
文化の違い	東アジア系	1	10	6	5	11	4
	非東アジア系	0	0	6	3	4	2
宗教の違い	東アジア系	2	6	3	6	6	6
	非東アジア系	0	0	2	4	1	2

表3. 33 帯同留学生の相談相手・配偶者は留学生(n=43)と配偶者は非留学生(n=53)

		母国の家族	日本の家族	大学内	文化的に近い	学外	自己解決
日本にいる家族と日本人との人間関係	留学生	2	4	3	4	2	4
	非留学生	2	10	4	6	4	4
家族の日本語でのコミュニケーション	留学生	0	3	6	4	2	4
	非留学生	2	6	5	8	5	6
配偶者の日常生活	留学生	1	5	0	4	2	6
	非留学生	3	7	5	6	2	6
子供の日常生活	留学生	3	2	0	4	2	1
	非留学生	4	4	4	3	4	1
日常生活の情報	留学生	0	2	3	4	7	3
	非留学生	1	3	8	9	6	4
宿舎	留学生	0	5	10	9	3	1
	非留学生	0	5	11	8	7	4
入院及び病気	留学生	1	5	4	4	5	5
	非留学生	0	8	9	9	4	4
出産及び子供の世話	留学生	4	4	1	3	4	1
	非留学生	0	5	4	6	5	2
子供の教育	留学生	1	2	2	5	1	1
	非留学生	2	3	3	7	2	3
交通事故	留学生	0	3	6	1	1	4
	非留学生	0	5	5	5	7	4
緊急事態	留学生	0	3	7	0	3	3
	非留学生	0	5	8	5	4	3
文化の違い	留学生	0	3	5	2	11	2
	非留学生	1	7	7	6	5	4
宗教の違い	留学生	0	1	2	3	5	4
	非留学生	2	5	3	7	3	4

表3. 34 帯同留学生の相談相手・子供有(n=49)と子供無(n=46)

		母国の家族	日本の家族	大学内	文化的に近い	学外	自己解決
日本にいる家族と	子供有	2	9	4	7	4	2
日本人との人間関係	子供無	2	4	3	3	2	6
家族の日本語での コミュニケーション	子供有	2	5	6	7	7	1
	子供無	0	3	5	5	0	8
配偶者の日常生活	子供有	2	6	4	7	4	2
	子供無	2	5	1	3	0	10
子供の日常生活	子供有	6	5	4	6	6	0
	子供無						
日常生活の情報	子供有	1	4	7	8	7	2
	子供無	0	1	4	5	6	5
宿舎	子供有	0	3	12	9	7	1
	子供無	0	6	9	8	3	4
入院及び病気	子供有	0	2	10	9	6	3
	子供無	1	10	3	4	3	6
出産及び子供の世話	子供有	3	5	4	7	6	1
	子供無						
子供の教育	子供有	2	4	5	12	3	2
	子供無						
交通事故	子供有	0	3	5	6	3	3
	子供無	0	4	6	0	5	5
緊急事態	子供有	0	2	7	5	4	2
	子供無	0	5	8	0	3	4
文化の違い	子供有	1	5	6	5	6	2
	子供無	0	4	6	3	10	4
宗教の違い	子供有	2	3	3	6	4	3
	子供無	0	3	2	3	4	5



■母国の家族 □日本にいる家族 □学内 ■文化的に近い人々 □学外者 ■自己解決

（日本語・・・日本にいる家族と日本人との人間関係  
人間関係・・・家族の日本語でのコミュニケーションに関する問題）

図 3. 1 帯同留学生の相談相手（人数）

## 第2節 面接調査

### 1 調査の方法

本章、第1節では、本研究の主目的である家族を帯同することによる問題や利点を明らかにするために、留学生を帯同留学生と不帯同留学生という二つのカテゴリーに分類し、各々のデータを比較した。従って、留学生一般の問題や既婚者でも家族を帯同していない留学生の問題には触れず、独身留学生と既婚不帯同留学生を不帯同留学生として扱い、データを分析した。さらに、帯同留学生のデータを東アジア系か否か、配偶者が留学生か否か、子供の有無に分類し、問題の違いを明らかにし、配偶者のデータを東アジア出身か否か、母国で有職者であったか否か、子供の有無に分類し、それぞれの利点、問題を示してきた。

このような経緯から本調査の面接においては、帯同留学生とその配偶者のみを対象とした。面接の目的は、質問紙調査で得られたデータを確認したり、個々の問題を深く知り、全体的な考察の手助けとさせることである。

対象者を、1. 帯同留学生（配偶者は留学生）、2. 帯同留学生（配偶者は非留学生）3. 配偶者（留学生の身分ではない者）、の3グループごとに分け、それぞれの利点や問題点を明らかにする。面接の対象者は、本調査で行なった質問紙調査で、面接に参加可能と回答した13名のうち、連絡が取れ、且つ面接の承諾を得た者3名、およびKOKORO-Net in 神戸（神戸大学の留学生、研究者の家族を支援する団体）のプログラムに参加していた配偶者7名である。

面接時期は、2002年6～7月、2003年3、5月である。いずれの対象者に対しても半構造化面接を行なった。帯同留学生に対する主な質問内容は、宿舎の問題、配偶者や子供についての問題、日本人との付き合い、他の留学生との付き合い、経済的問題、家族からのサポート、問題の相談相手等である。配偶者に対する主な質問内容は、日本語の習得、宿舎の問題、配偶者や子供についての問題、現在やりたいこと、日本人との付き合い、他の外国人（留学生家族）との付き合い、経済的問題、日本で学んだこと、現在行なっている活動等である。

面接時間は、一人40分から1時間であった。許可を得た者についてはカセットテープまたはMDに録音した。面接時の使用言語に関しては、基本的には日本語を用いた。日本語での会話能力が十分でなく、受け答えの不自由な配偶者に対しては、面接の一部もしくは全体を英語で行なった。配偶者（留学生）が同席したケースでは、理解の困難な場合に

のみ、母語による通訳を依頼した。

## 2 面接対象者

面接対象者の内訳を以下に示す。

表3.35 面接対象者

		出身地域	年齢	滞日期間	性別
帯同留学生 (配偶者は留学生)	A	東アジア	27歳	2年3ヶ月	女性
	B	東アジア	27歳	2年3ヶ月	女性
	C	東アジア	24歳	2年2ヶ月	女性
帯同留学生 (配偶者は非留学生)	D	ヨーロッパ	35歳	6年5ヶ月	男性
	E	東南アジア	35歳	1年1ヶ月	女性
配偶者	F	東アジア	28歳	2年2ヶ月	女性
	G	東南アジア	30歳	10ヶ月	女性
	H	ヨーロッパ	35歳	5年11ヶ月	女性
	I	アフリカ	37歳	8ヶ月	女性
	J	東南アジア	36歳	7ヶ月	男性

## 第3章 注

- 1) 文部科学省の外郭団体である財団法人日本国際教育協会（別称 AIEJ, Association of International Education, Japan）が全国に五つ所有する留学生宿舎のうちのひとつ。

## 第4章 考察

本章では、第2章と第3章の調査から明らかになったことについて考察を行なう。第1節では、留学生の家族帯同の問題点について述べる。第2節では、留学生が家族を帯同することによって生じる利点について考察を行なう。

### 第1節 家族帯同によって起こる問題点とその解決策

#### 1 帯同留学生にとっての問題

##### 1-1 時間ストレス

時間ストレス (time stress) とは、「the feeling that there is too much work to do, and too little time in which to do it (やるべきことが多すぎ、そしてそれに費やす時間がないと感じること、筆者訳：Cheal, 2002; p.98)」である。本研究では、帯同留学生のほうが不帯同留学生よりも「遊ぶ時間がないこと」に関して有意に数値が高く、問題を抱えていることが明らかとなった。

浅野 (1997) が得たデータによると、中国人留学生は一日 12 時間以上、勉強に時間を費やしているという。特に、理科系専攻の場合、早朝から夜遅くまで学校で実験研究をする日が多い (白土, 1993; p.200)。文科系であっても、家では子供がいると勉強をすることが難しく、研究室等に残らざるを得ず、結局自宅に帰るのは遅くなる。このような留学生の生活が配偶者にも家事の負担をかけ、また孤独感を増幅する原因となる。

「遊ぶ時間がないこと」に関して東アジア系帯同留学生では配偶者が非留学生であるほうが、非東アジア系帯同留学生では配偶者が留学生のほうが問題を抱えていることが明らかになった。浅野 (1997) がアジア系留学生に対して行なった調査によると、文科系大学院生には「既婚女性が多く、かなりの時間を家事・育児に充てて」おり、「研究と家事・育児に追われ、自由時間がないことにも悩んでいる」という (浅野, 1997; p.147)。しかし、本研究では、夫婦で留学生である東アジア系留学生はそれほど問題を抱えておらず、浅野とは異なる結果になった。夫婦で留学生である非東アジア系留学生が「遊ぶ時間がないこと」に関して問題を抱えていることについては、今後さらに研究が必要である。

##### 1-2 経済的問題

帯同留学生にとっての家族帯同の問題点として半数の者が経済的圧迫を挙げていた。東

アジア系帯同留学生では、配偶者が非留学生のほうが問題を抱えており、非東アジア系帯同留学生では、配偶者が留学生のほうが問題を抱えていることが明らかとなった。前者については、東アジア系帯同留学生に自費留学生が多く、非東アジア系帯同留学生に国費留学生が多いこと（東アジア系帯同留学生の国費留学生の割合が 20%であるのに対し、非東アジア系帯同留学生の国費留学生は 62.9%であった）が一因であると考えられる。

後者については、以下のような解釈が可能である。予備調査での面接結果から示したように、夫が国費留学生であるために、自費留学生である妻は奨学金を得にくいばかりでなく、授業料も免除になり難い。一見、国費留学生のほうが十分な奨学金を受給しており、経済的に問題を抱えていないように考えられるが、夫婦で留学生である場合、金銭的に苦しい状況になる。そのような状況であるためか、「仕事の機会の欠如」に関しても、夫婦共留学生で非東アジア系帯同留学生は問題を抱えている傾向があった。では、日本政府の国費外国人留学生制度の家族帯同についてどのような方針を持っているのであろうか。

日本政府（文部科学省）は、国費外国人留学生制度によって、外国人を日本に留学させているが、その数は、留学生全数の約 1 割を占めている。この制度では、留学生を帯同することについての方針は定めていないが、国費留学生として来日する者に配布される冊子「Life and Study in Japan」には家族に関して以下のように書いている。

#### 家族の同伴

日本の大学には家族用の宿舎が少ないため、家族同伴の留学生の宿舎を確保することはたいへん困難であり、ほとんどの場合は自分で民間の宿舎を探さなければなりません。また、家族の旅券や査証の申請などは留学生本人とは別の手続きが必要なので、母国の日本公館（留学担当官及び査証担当官）と連絡をとり、自分で準備をしてください。なお、家族への奨学金の付加給付はありません。

このように、留学生の家族帯同に関しては、留学生の自由意志に任せており、特に方針は定めていないが、推進しているわけでも、特にサポート体制を作っているわけでもない。

国費外国人留学生制度は、「日本と諸外国との国際文化交流をはかり、相互に友好親善を促進」し、「社会的、経済的発展に寄与する人材養成計画に協力する（井上, 1994; p.146）」という目的をもとに発足したが、谷（1997）はこの制度について、「欧米に遜色なき留学生受入れという 1930 年代から一貫した大国ナショナリズムが流れている（p.91）」と非難し、このような姿勢で、受入れ態勢が整えられないままに始められたと指摘している。

冊子の文面に見られるように、日本は留学生が家族を帯同することは推奨していない。



しかし、文部科学省の外郭団体である財団法人日本国際教育協会は、国費外国人留学生のための宿舎として、全国に建設している五つの留学生会館のうち、三会館では、夫婦用もしくは家族用の部屋を用意している。つまり、日本政府としても家族帯同の留学の存在を認識しており、宿舎面に関して対策を取ろうという姿勢がみられる。このような、一方で家族帯同の困難さを匂わせ、他方で宿舎を建設するという対応では、留学生が家族を帯同することに悩ませてしまう。今後国費留学生も増加する中で、日本政府として家族帯同について明確なポリシーを持つことが重要ではないか。そして、家族に対するサポート体制を作り上げなければならない。

家族の存在を軽視した受入れや政策を進めていたのでは、優秀な学生を失うことにもなりかねない。例えば、Watanabe (2003) がデンマークで面接を行なった留学生の夫は、かつて文部省（当時）の国費留学生であった。彼女は日本での1年ほどの滞在を次のように語った。

子供が、父親がいなくて寂しがるので、日本へ行くことにした。日本での生活は楽しく、日本語も勉強できたが、次第に退屈になるようになった。私も大学で勉強したいと思ったが、受け入れてくれるところがなく、仕方なくあきらめた。

ここで大事なことは、日本に滞在する留学生の配偶者への情報提供やサポートが行なわれなかったことだけではなく、彼女はその後母国へ帰り、その後、デンマーク政府の奨学金によって、デンマークの高等教育機関で研究を行なったという事実である。つまり、仮に日本の大学へ入学できていれば、彼女は研究を行ない優秀な成績を残し、日本の研究に貢献した可能性がある。言い換えれば、日本は貴重な人材を取り損なった恐れがあるといえる。このような損失は、数字として表れない。

海外勤務の場合、このような損失は数字として表れる。ブラックら (2001) によると、海外での勤務において失敗に終わる（予定より早く帰国する）アメリカ人派遣者の割合は、10～45%にのぼるといふ。アメリカの場合、途中で帰国する際の転居コストだけで1回につき22万ドル以上かかり（ブラックら, 2001）、日本の場合、「一人の派遣者につき、年間2500万円から3000万円の投資損失が生じる（永井, 1994 : p.69）」という。経済的なコストだけでなく、さらには「現地国の従業員、現地政府の役人、現地の供給業者、顧客、コミュニティーのメンバーなどの重要な関係者に損害を与えかねない（ブラックら, 2001; p.19)」。また、派遣者として選ばれた後に、派遣を断る理由として、配偶者と家族を挙げる者も多く、Adler (1984) の調査では、3割以上がその理由として挙げている。しかし、海外派遣者の

場合、企業によっては手厚いサポートが提供されることもしばしばある。Stephens& Black (1991)は、海外派遣者の配偶者は、自国で職についている場合であっても、現地で職につけなくても不適應は起こさないことを明らかにした。これは、海外派遣者の企業から、家や車の提供、出張手当、子供の養育費等が充実しているために不満がなく、実際現地で仕事をしている配偶者は少ないという。

日本の帯同留学生が、どの程度途中帰国しているか、国費留学生として選ばれても留学を断念しているか、また配偶者の不適應や職業がそれらとどのくらい関係しているのか、ということについての正式な数値の報告はない<sup>註1)</sup>。留学生政策の立場から考えれば、中途帰国留学生の問題に関して危機意識を持ち、企業が取っている体制と同様のサポート体制が必要であると考えられる。仮に、家族のことを理由に、途中で帰国せざるを得ない者が存在するのなら、日本の留学生受入れ政策もこのような観点に立ち、改善しなければならない。他の留学生受入国のモデルとなるような努力が必要である。

### 1-3 日本語

非東アジア系で、配偶者が留学生の身分でない帯同留学生は、日本語での講義や日本語能力不足に問題を抱えている。これは、夫婦共留学生の場合より、日本語を使う機会が少ないため、日本語の上達が遅いことが考えられる。また、子供のいる帯同留学生も同様に問題を抱えており、家庭で母語を使用する機会が多いことが原因であると示唆される。しかし、配偶者が留学生の身分でない帯同留学生や子供のいる帯同留学生は、日本人の友人を作ることにに関して問題を抱えていないので、日本人の友人が作りやすい環境にあるといえる。従って、日本人の友人をきっかけとして日本語能力が向上する可能性はある。

### 1-4 宿舎

宿舎の確保に関して、質問紙調査では、帯同留学生と不帯同留学生の間に有意な差はみられなかったが、面接による調査では、家族、特に子供のいる家族にとっては、住むところを探すことに困難を覚えていることが明らかとなった。

【事例 22】家族帯同の一番の問題は宿舎である。留学生で子供がいる人のための住む

ところは少ない。安いところも少ない。〔D (アルファベットは対象者、以下同様)〕

寮や留学生用の宿舎の数が限られているため、多くの者は民間のアパートを探さなければならないが、予備調査での面接や栖原 (1996) が示すように、いまだに留学生 (外国人)

に部屋を貸すことに抵抗を感じている家主も多く、留学生家族の部屋探しを困難にしている。

宿舎については、面接調査から、家族（特に子供を持った家族）のための宿舎の提供が少ないという意見が多く出た。確かに、家族のための部屋のなかには入居を夫婦のみに限定しているところがあり<sup>注2)</sup>、子供を持つ留学生家族にとっては、入居数が限られている。これまでの流れとして、住宅難かつ物価高の日本にあって、留学生受入れ政策のための留学生専用の宿舎建設が推進されてきた<sup>注3)</sup>。宿舎建設が日本政府や大学の留学生受入れ政策の一つであったように思われる（渡部, 2000）。

また、宿舎の支援は地方自治体も行なっている。以下では、地方自治体による宿舎支援について神戸市を事例に挙げながら、支援内容とその問題点を述べる。

留学生家族の宿舎については、財団法人神戸国際コミュニティーセンター（通称 KICC）が担当している神戸市営住宅と留学生会館がある。神戸市営住宅は、1986 年 9 月よりサービスが開始された。都市基盤整備公団の賃貸住宅を借り上げ、約半額の家賃で家族用に 20 戸提供している。留学生会館は 1991 年 3 月より開始、夫婦用の部屋を 15 戸提供している。神戸市都市整備公社が建設・運営しており、KICC は入居の募集、選考事務を受託しているという形を取っている。つまり、神戸市の方針、予算で運営されている。以下に、これらの宿舎がどのような流れで募集、入居決定を行なっているのか提示する。

**【募集方法】** 2 月と 8 月の年 2 回。募集要項を神戸市内の大学、大学院、短期大学、専門学校に配布している。申し込みは、所属の大学を通して行なわれる。指導教官の推薦が必要。個人での申し込みは不可。

**【部屋の空室状況】** 部屋は常に満室状態。入居倍率は 2~3 倍。入居許可期間は、科目履修期間を修了するまで。

**【選考方法】** 書類審査と面接。現在の住宅、生活の困窮度、学業の成績、面接の印象、日本語能力、国際交流、国際協力の貢献度等を総合的に判断している<sup>注4)</sup>。

また、財団法人内外学生センターが担当している兵庫県公営住宅（県下に約 50 戸）があり、通常月額家賃の 2 割引で提供している。

このように、留学生のための寮を確保するという方法は、他国と比べると、むしろ特殊なほうである。留学生受入れ数の多いアメリカ、イギリスではこのようなことは行なわれていない。江淵（1991）は、このような留学生を現地の学生とは区別した措置や処遇をとることを「分離主義」と呼んでおり、欧米諸国では警戒しているという。江淵はさらに、

このような分離主義については、「極端な場合、自国生の目には“過剰優遇”“逆差別”と映ることすらあり、(中略)“外国人学生のゲッター化”を作り出す可能性・危険性と紙一重」であると述べ、さらに、「留学生受入れの重要な目的の一つである『異文化間相互理解』がそのような『特別扱い』のもとでいったい可能かどうかも疑問が残る」と述べている(江淵, 1991; p.58)。

また、大学に行かない配偶者にとっては、宿舎で過ごす時間が留学生よりも多く、人的ネットワークを築く貴重な場でもある。横田・田中(1992)が行なった調査では、日本人と混合の宿舎にいた留学生のほうが、留学生寮にいた留学生よりも、日本人との友人が多かったという結果を見出している。日本の分離主義に対し、アメリカやイギリスが取っている体制を「統合主義」というが、今後は他国に倣って、上原(1998)や田中(1997)の主張するように、統合主義の見地から留学生家族と日本人学生(家族)が共に暮らすという空間を提供する必要があるのではないだろうか<sup>注5)</sup>。そうすれば、日本人学生が緊急時等、問題が起こったときのサポート源となり、留学生家族が日本の文化を身近に知ることができ、相互理解が深まる手助けとなる。

### 1-5 相談相手

先行研究同様、本研究においても、問題が起こったときの相談相手として、同国人留学生が選択されるか、もしくは、家族内で解決することや、誰にも相談しないとといった自己解決的な方法が取られる傾向があることが明らかになった。帯同留学生は、不帯同留学生に比べて、配偶者というソーシャルサポートを得ているわけで、メリットであることは間違いではない。しかし、より多くの現地人と接触を行なった留学生は、良い適応につながるという研究結果(例えば Ying & Liese, 1994, Kagan & Cohen, 1990)から、日本人との接触を保つことは促進されるべきである。さらに、同国人留学生が周辺にいるかどうかは、留学生自身の国籍や大学の留学生受入れの状況に左右される(水野・石隈 2001)ことから、帯同留学生に対しても、身近にいる学内の日本人のサポートを積極的に提供するべきであると考えられる。

田中(1997)は、留学生の援助者については、文化的言語的な仲介者である「異文化間インターメディエーター」が有効的であるとしている。田中は、日本人学生のチューターや日本語教師を挙げている。チューター制度は、国立大学において1972年に始まり、近年私立大学においても導入されるようになった(村田, 1999)。その内容は、「留学生が日本の

大学に慣れるまで、日本語の習得を手伝い、勉強の相談に乗り、生活上のアドバイスもさせる（平野, 1994; p.52）というものである。

チューター制度は、「新しい友人のいない留学生にとっては、チューターとの出会いは友人づくりのきっかけになる（新倉, 2000; p.100）」だけでなく、日本人学生がチューター等で留学生を援助することによって、「日本社会を客観視する視野の広がり、自分の価値を見直す成長の機会（田中(共), 1996; p.23）」が日本人学生にもたらされるという効果があり、日本人学生にとっても意義のあることである。チューターが帯同留学生へのサポートを通じて、家族へのケアを行なうことは可能である。

日本語教師について、田中（1997）は、その役割は重要であるとされているが、その教育訓練は十分組織化されていないと指摘している。関（1993）は、現職の日本語教師のなかにさえ、欧米系の外国人の話す日本語の発音には寛容でありながら、アジア系の外国人の話す「正しくない」発音には厳しいという傾向が多少でもあると指摘している。しかし、日本語教師は、外国人学習者にとって身近な数少ない日本人であり、接触時間も多く、学習者のたどたどしい日本語に忍耐強く耳を傾ける存在であり（倉地, 1997）、またそうあるべき存在である。ボランティア、プロを問わず、日本語教育に携わる者やチューターの外国人に対する差別感を持たせない訓練が必要であろう<sup>註6)</sup>。

また、指導教官を始めとする大学のスタッフ（教職員）も異文化間インターメディエーターであると考えられる。現地の事情に詳しい者が宿舎探しの手伝いをすれば、宿舎の確保はスムーズに行なわれ、より早い段階で適応が行なわれる可能性がある。

【事例 23】宿舎は、来日前に夫の指導教官が面倒をみてくれた。大学の留学生寮に申し込みをしてくれていたのも、助かった。〔F〕

指導教官や留学生業務に携わる教職員が、積極的に留学生と関わり、日頃から留学生との人間関係を築いておくと、問題発生の予防に繋がり、結果的に留学生の研究、学習遂行の助けとなる。

神戸大学を始めとして、国立大学留学生センターには相談室が設置され、帯同留学生が家族について相談できる機会がある。埼玉大学では、国際交流会館（留学生寮）に相談員を配置している。居住者の家族にとっては使い勝手が良い（山本, 2000; p.103）という面から、配偶者にとっても相談しやすい環境が整えられているといえる。

### 1-6 東アジア系留学生の特性

本研究において、東アジア系留学生は、非東アジア系留学生に比べて、多くの項目に関して問題を抱えていることが分かった。ここでは、その原因を考えてみる。

岡ら（1996）は、中国人私費留学生を対象に彼らの留学目的と適応の関係を調べた。その結果、彼らは交流や文化体験よりも、勉学や言語習得を留学目的として重視していることが明らかとなった。また、留学目的について、欧米系留学生は日本文化や日本人への興味が留学の目的であるのに対し、アジア系留学生の目的は学位・資格の取得であるという（坪井, 1994; 岩男・萩原, 1988）。坪井（1994）は、学生生活の文化として、アジア系留学生は「学問型文化」であり、日本人学生は「遊び型文化」であることを見出した。

このようなアジア系留学生の学問重視の留学目的は、日本人との接触を少なくし、適応を困難にする原因であるとも考えられる。さらには、同国人出身者が多いために起こる問題もある。予備調査での面接で、ある東アジア人留学生は次のように述べていた。

【事例 24】もし、配偶者の悪口を友達に言ったら、皆に大げさに広がるので、夫婦のことは同国人には相談できない。奨学金の話もしないようにしている。

このように、同国人といえども、必ずしもソーシャルサポート源になるとはいえない場合がある。人数が多いということは、奨学金獲得や学業の面でライバルであり、時には競わなければならない<sup>7)</sup>。親しい友人がいないことという質問項目において、東アジア系留学生は、非東アジア系留学生よりも有意に問題の度合いが高かったこと、そして、問題が起こった時に、日本にいる家族に相談を行なう傾向が強いという本調査における結果は、東アジア系留学生は親しい友人を多くは作らないことを示すものかも知れない。この問題については、今後さらに調査・研究が必要である<sup>8)</sup>。

## 2 配偶者にとっての問題点

### 2-1 キャリア

本調査の質問紙調査では、配偶者 53 名中 35 名が母国で常勤の職についており、母国で常勤の職についていた配偶者は、そうでない配偶者より日本での生活に問題を抱えていた。そのような配偶者の多くは、仕事を退職もしくは中断してから来日している。一度職を離れてしまえば職場に復帰することは難しい。学位を取得し、キャリアアップをしてから帰国する留学生よりも職を探すことは難しくなるであろう。当然配偶者は、将来のために、日本で何らかのキャリアを積むことを希望すると考えられる。その一つが大学（院）に入

学することである。

【事例 25】 現在やりたいことは、大学に通いたいこと。母国では、1 年足らずで辞めてしまったので、日本で日本語を専攻して勉強したい。神戸大学はセンター試験を受ける必要があるので、難しいと思う。私立大学も考えているが、授業料が高いと思う。〔F〕

配偶者が入手できる大学入学の情報は限られており、入学試験の為に日本語や専門の勉強をする環境が整えられていないため、大学での研究を断念せざるを得ない者もいる。

もう一つは、母国でついていた仕事や自分の専門性に関係した、企業での就職である。

【事例 26】 法学が専門なので、その知識を使った仕事がしたい。でも日本では無理だろう。日本語ができないから。〔I〕

留学生が持つ「留学ビザ」や留学生の配偶者が持つ「家族滞在ビザ」では、就労資格は与えられていないが、「資格外活動」として法務省入国管理局に許可申請をし、許可が下りれば、週 28 時間以内の労働を行なうことができる<sup>注9)</sup>。つまり、留学生の配偶者でも労働を行なうことは可能である。しかし、家族滞在ビザは、留学生が配偶者を扶養できることが条件で許可が下りているので、法務省入国管理局は、配偶者は働く必要がないという姿勢をとっている。そのため、資格外活動の許可申請をしても、必ず許可が下りるわけではない<sup>注10)</sup>。もちろん、「労働ビザ」に切り替えて働くことは可能であるが、日本語能力等の問題があり、定職につくことは難しい。

本研究では、配偶者 53 名のうち、来日後無職であるものは 39 名であった。予備調査の面接でも指摘したようにアルバイトを見つけることができる者は、「ラッキー」であり、ましてキャリアを生かすことができる者は僅かである。また、仕事や大学での研究を希望していても、ビザによる労働資格の問題、金銭的な問題、忙しい留学生に代わって家事や育児をしなければならない、安心して子供を預ける場所がない等、壁が何重にも立ちふさがっているため行動に移せない。しかし、留学生と同等の労働時間が許可されている限り、配偶者には積極的に働く権利が認められるべきであろう。

配偶者のキャリアに関する問題を解決するためには、第一に、高いレベルの日本語教育を提供すること、第二に、就職を促進することが必要である。就職の促進に関しては、例えば、留学生のためにアルバイトを斡旋している財団法人内外学生センター等において、配偶者にも職を紹介することが望まれる<sup>注11)</sup>。

以下では、配偶者のための日本語教育支援として行なわれている活動を提示する。筆者

の知る限りでは、大学機関において、留学生の配偶者のための日本語講座が公式に行なわれているところは少ない<sup>注12)</sup>。日本語講座が開講されている大学は、ボランティアによるものである。例えば、神戸大学の留学生・外国人研究者の家族のための支援団体 KOKORO-Net in 神戸（通称ココロネット）<sup>注13)</sup>では、大学の敷地内の設備を借りて、毎週水曜日に初級レベルが2クラス（ゼロレベルとやや上）行なわれている。受講料は無料で、日本語教師には、交通費程度の謝礼が支払われる。子供を持つ配偶者でも講座に参加できるように、ボランティアによるベビーシッターを用意している。

九州大学では、1984年に「家族のための留学生会館日本語講座」が開講され、日本語教師がボランティアで留学生の配偶者に日本語を教えるという活動を行なっている。日本語教師に支払う交通費のため、半年間で授業料14,000円を徴収している（白土, 1993b）。

次に、地方自治体が提供している日本語教育について、神戸市の事例から述べる。神戸大学の留学生配偶者が無料で受けられる地方自治体の日本語の講座は、財団法人神戸国際コミュニティーセンター（KICC）、兵庫国際プラザ（財団法人兵庫県国際交流協会）が挙げられる。その他神戸市内に、神戸市より助成を受けて日本語教室を開催しているNGO団体が2団体ある。以下に、兵庫国際プラザで行なわれている留学生とその家族向けの日本語講座を提示する。

【クラス】初級（2クラス）、中級（2クラス）、上級（1クラス）、定員各20名

【時間・曜日】週2回、午後18時～20時

【授業料】無料（教材費は自己負担）

筆者が調査したところ、神戸市内において、地方自治体レベルで上級日本語クラスが行なわれているのは、兵庫国際プラザにおいてのみである。配偶者が自由な時間に、様々なニーズに合ったクラスが受講できるような体制づくりが地域でも大学においても行なわれることが望ましい。

### 2-2 相談相手・友人

東アジア系配偶者や母国で常勤の職についていた配偶者は、自分の国・文化について理解してもらえないことや、近所の人との付き合い方が分からないことに関して問題を抱える傾向があり、良好な人間関係を築くことが問題であると感じている。子供のいない配偶者は、近所付き合いに問題を感じているが、逆に子供のいる配偶者は、問題とは感じていない。



Black& Mendenhall (1991) は、ホスト (受入れ国) とホーム (母国) の文化の相違点が大きければ大きいほど、カルチャーショックが大きく、適応に時間を要すると述べている。例えば、医療に対する認識、病院のシステム、交通機関の違い等、社会システムの相違に戸惑うことも多く、特に、病気、けが等で病院に行く場合、救急車を呼ぶ場合、どうしていいのかわからないという配偶者も多い。このような時に、日本人の友人がいれば、短期間で解決ができたか、問題発生を未然に防いだりすることができる。しかし、日本人の友人がいる配偶者は多くはない。

【事例 27】日本人の友人はいない。困ったことは、日本人に相談したいけど、日本語ができないので聞き難い。仲のいい日本人がいなくて気軽に聞けない。〔J〕

【事例 28】日本人からのサポートは受けたことがない。〔H〕

相談相手や友人を得るためには、様々な活動に参加し、知り合いを増やすことが一つの手段である。以下では、配偶者のための交流活動について述べる。

これまでの研究で明らかのように、多くの配偶者は主婦である。そして、家事や育児に追われながらも、知り合いが少なく、学位取得等の目的を持つ留学生と異なり、大きな目標がないため、孤独で退屈な日常生活を送っている者が多い (Vogel, 1985; 白土, 1993; Verthelyi, 1995)。そのような配偶者のために、神戸大学の留学生・外国人研究者の家族のための支援団体ココロネットは、神戸大学インターナショナル・レジデンス (留学生寮) で月 2 回、AIEJ (日本国際教育協会) の留学生寮で月 1 回、日本事情講座 (ココロカフェ) を行なっている。プログラム内容は、神戸大学の見学、スーパーマーケット見学、病院見学等の見学類や、日本の伝統的文化の講座等である。

神戸大学の見学は、いわゆるキャンパス巡りである。配偶者である留学生が大学のどこで何をしているのか詳しく知っている配偶者は意外に少ない。そこで、毎年キャンパスツアーを行ない、各学部・研究科を見学するという行なっている。これは、配偶者が神戸大学や日本の高等教育機関について知識を得る良いきっかけとなり、また留学生が普段どのような場所で研究を行なっているのかを知ることができる。

病院見学は、病院のシステムが母国のものと異なっていたり、日本語が多少話せても、詳しい説明に自信がないため、病院に行くことに対して抵抗感を持っている配偶者が多いことから始めたプログラムである。特に、子供を持つ配偶者は、子供が突然体調を崩し、病院に自分一人で連れて行かなければならない場合も多い。そこで、実際に病院に出向き、建物を見学し、その仕組みについて学ぶのである。そうすることによって、病院に対する

抵抗感も軽減するであろう。

スーパーマーケットでは、店での表示や品物の説明はほとんどが日本語であり、来日したばかりで日本語の不自由な配偶者は、買い物に不便さを感じている。また、スーパーのシステムが母国のものと異なる場合もある。そこで、スーパーマーケット見学では、共にスーパーマーケットに出かけ、買い物の方法を教授する。イスラム教徒をはじめ、宗教上の理由で肉の区別が重要な意味を持つ留学生も少なくないので、肉の区別については特に注意して説明を行なう。

日本伝統文化についてのプログラムには、和菓子作り、豆腐作り、お弁当作り、等の料理教室や折り紙、着物・浴衣の着付け等がある。着物や浴衣の着付けは非常に人気があり、皆喜んで着物を着る。着物は高価であり、自分で購入したり、レンタルして着るという機会はほとんどない。そこで、ココロネットを着物を用意し、着付けを行なっている。着物は、ココロネットの予算から購入することもあるが、地域の広報誌に活動の事情を載せ、無料で譲り受けたこともある。

九州大学では、いくつかのボランティア団体によって日本語講座の他、市内を案内して回るツアー、日本家庭の訪問会、日本料理・外国料理教室、パーティ、茶話会等を開催している。これらの活動の拠点は、1984年に開設された留学生会館、つまり留学生寮である。このような活動を留学生会館主事（大学の教員）が支え、ボランティア団体に助言を行なったり、行事に参加したりするほか、留学生家族に直接に日常生活に関するオリエンテーション、カウンセリング等を施したり、緊急時の対応、退去者の宿舎探し、子供のための学校や保育園の状況把握を行なっているのである。この会館で行なう利点は、子供がいたりして外出しにくい配偶者が気軽に活動に参加できることである（白土, 1993b）。

以上のようなプログラムに配偶者が参加することにより、日本人や他の留学生家族と知り合いになるきっかけを得ることができる。また、日本での生活の情報や知識を得ることもになり、配偶者にとって利点が大きいといえる。このような支援活動はボランティアの手によるもので大学の正式なプログラムではない。しかし、全ての留学生家族に対する支援活動を大学側の協力なしに、ボランティアベースで行なうのは容易なことではない。次に、支援活動の課題について述べる。

### 支援活動の課題

一点目の問題点は、大学側の留学生配偶者に対する認識が薄いということである。白土

(1993b)によると、多くの既婚留学生が配偶者を帯同するという状況にも関わらず、大学側は対応しようという姿勢がみられないという。これは、「初めからそんな問題は大学の仕事ではないし、まして自分の仕事でもない (p.201)」という教職員が多いという事実からきているものである。これは日本だけの問題ではなく、アメリカにおいても、大学は配偶者に対する公的な責任を持ちたがらない傾向があるという (Schwartz & Kahne, 1993)。しかしながら、アメリカでは、配偶者のための英語講座や趣味のグループ等、多くのプログラムが、大学によって提供されている (Verthelyi, 1995)。

日本での状況はこれとはかなり違っている。白土 (1993b) は、九州大学留学生会館で行なわれている留学生配偶者向けの日本語講座の運営が、会館主事一人に押し付けられている状況にあることを指摘している。白土はさらに、「留学生センター生活指導部門と留学生会館主事及び事務当局とが組織的に一体となっていかなければ、留学生相談という複雑で時間のかかる業務を遂行することは近々無理を生じ困難になるのではないだろうか (白土, 1993; p.206)」と述べ、大学の組織の構造が問題であることを指摘している。大橋 (1997) は、留学生家族に対する援助の実態調査を全国 110 校の大学の留学生担当部署に対して行ない、国立大学 37 校、公立大学 3 校、私立大学 35 校から回答を得た。そのうち、78.8%が留学生家族への大学による関与が必要であると回答したが、同時に 61.5%が関与が必要であるが手が回らないという状態であると回答している。今後は留学生家族のためのサポートが組織として行なわれる体制が必要である。

二点目は、資金である。一般的に、例えば日本の大学における配偶者のための日本語教育に関する事情は次のようなものであろう。すなわち、「大学当局には留学生夫人の日本語教育まで援助するという予算がなく (中略)、留学生には日本での生計の苦しい人も多く、夫人から高額を受講料を取るわけにはゆかない (白土, 1993b; p.202)」のである。また、Schwartz & Kahne (1993) は、限られた資金と人材では、配偶者の多様なニーズに応えることが困難であり、仮に大学が公的な責任を持てば、活動場所や資金が保証されると述べている。神戸大学で活動を行なっているココロネットでは、2001 年度に 51 万円、2002 年度に 75 万円、学外の財団からボランティア活動費として助成金を受給し、日本語講座の教材費、日本語講座講師の謝礼、着物の購入、見学旅行の補助等にあてられた。しかしながら、2003 年度からボランティア活動に対する助成が無くなったために、資金面で問題を抱えることになった。色々な議論がなされ、活動を縮小し、他の財団にも助成を申請するという対策をとったが、全面的な解決策は見つかっていない。

三点目は、活動に対する認知が低いことであり、配偶者に対する種々のプログラムの存在を知らない留学生や配偶者が少なからずいることである。Schwartz & Kahne (1993) は、マサチューセッツ工科大学で行なわれている配偶者のためのプログラムについて、約半数 (58%) の帯同留学生しかその存在を知らなかったと述べている。まず、プログラムの存在を知ってもらうことから始めなければならない。来日直後であると、他の多くの情報に紛れてしまい、プログラムの重要性を認識する可能性が少なくなるので、(Schwartz & Kahne, 1993) 来日前に諸書類と共に案内書を送付するのも一つの手である (Verthelyi, 1995)。このような作業を行なうためには、大学側の協力が必要になってくる。

さらに、プログラムに参加するか否かは、帯同留学生次第であることが多く (Schwartz & Kahne, 1993)、帯同留学生が配偶者に積極的に参加を後押ししないと、配偶者は参加が難しいと感じるのである。プログラムへの参加には、帯同留学生の理解や協力が必要である。ココロネットでは、配偶者のための活動が広く大学内で認知されるためだけでなく、帯同留学生に知ってもらい、より多くの配偶者の参加を募るために、ニューズレターを年に 2 回発行し、配偶者、ボランティア、留学生センター教職員に配布している。ニューズレターでは、ココロネットの活動報告の他、配偶者による母国紹介や日本での暮らしについての文章も毎回載せる等の工夫をしている。

### 2-3 子供に関する問題

子供についての問題は、言語 (母語) と教育がある。

【事例 29】子供は、学校で友達もできて仲良くやっている。帰りたくないといっているほどだ。日本語も上手だ。ただ、母国との教育が異なるので、帰ったときが心配。

〔1〕

年齢の低い子供に対しては、母語と母国の文化の習得が未発達なまま、日本で生活を行なうことによる危惧がある。日本での生活が長くなればなるほど、母国文化が遠ざかり、帰国時に一から母語や文化を習得し直さなければならない可能性がある。これが、子供に日本語を習い続けさせたいかどうかの判断を鈍らせている原因であろうと考えられる。年齢の高い子供については、小学生以上の子供である場合、教育内容や教育制度が異なる場合がある。留学生の滞在が長引けば、それだけ心配も増える。滞在期間は学位の取得の難しさや進学、就職の進路によって変化するので、予定がはっきりと決まっておらず、将来の設計が立てにくい状況にある。特に、日本の文系大学院の学位取得の困難さは、留学生

にとっては重要な問題で、将来子供を日本に留学させることについて肯定的な見方ができないのではないかと考えられる。

留学生家族は、引越しをする度に、子供の通う施設（保育園、幼稚園、小学校）を移動しなければならない。ある配偶者は2人目の子供の出産のために、自分と共に3ヶ月間帰国した子供について次のように述べた。

【事例 30】 子供は、日本と母国合わせて4つの幼稚園に通った。2ヶ月前に日本に帰ってきたので、友達は今所の知り合いだけ。日本語も忘れてしまった。〔H〕

引越しや帰省によって、固定した子供の遊び相手や友達を見つけることは困難になるであろう。

また、日本に滞在中に出産する配偶者も少なからず存在する。以下では、出産・育児に対する支援について神戸市の例を取り上げながら考える。

出産に関しては、指定助産施設（病院）で出産すれば、費用が安く済む。国民健康保険に加入していれば、日本人と同様に出産育児一時金30万円が支給され、出産後は無料で乳幼児の検診を受けることができる。また、留学生の配偶者が仕事をしているか学生の身分であれば、低料金で子供を預けることができる。例えば、神戸市は「赤ちゃんホーム」「家庭託児所」という独自の制度を設けている。これは、保護者が労働や病気などで、昼間養育できない子供をボランティアが家庭で預かる制度である。「赤ちゃんホーム」は生後7週間目から1歳未満、「家庭託児所」1歳から3歳未満の子供を預かっている。保育所には生後6ヶ月すぎから小学校入学までの子供を入所させることができる。

以上のように、出産・育児については、日本人向けの福祉制度を留学生も利用することができ、制度が整えられている。今後は、出産・育児についての支援として、外国人を対象とした情報の提供や個別の援助が必要である。子供を持つ予定の配偶者に向けた情報も重要である。病院の紹介や出産費用・手続き等一連の流れが分かるような丁寧な対応が必要である。九州大学留学生センターでは、『外国人留学生の相談指導のためのガイドブック』を発行し、留学生に日常的に関わる教職員に配布している。そこには大学近くの保育所の情報が列挙されているが、留学生にいつでも誰からでも情報が提供できるように工夫がなされている。また、北海道大学のボランティア団体「北海道大学国際婦人交流会」は、『札幌の暮らし』という留学生や研究者のための生活情報を掲載した冊子を発行しているが、子供の出産や子育ての問題に対応するために、『赤ちゃんとお子ものさっぼろの暮らし』という冊子を新たに発行した。そこには、出産や子育てに関するありとあらゆる情報が英語

併記で掲載されている。

面接調査から明らかになったように、出産については、出産前後の世話をしてくれる身近な人がいない、育児に関しては、一人で子供の世話をしなければならない、と感じる環境に配偶者が置かれている。今後は、ハード面だけでなくソフト面の支援も必要である。特に、夫婦共留学生の場合、子供を何らかの施設に僅かな時間でも預けたり、面倒をみてくれる人がいれば、大学に通う者にとっても、比較的自分の時間ができ、ストレスも溜まりにくくなる。大学に通わなければならない帯同留学生は、育児をしながら研究を続けることが困難であるので、子供と離れて暮らすという辛い選択を強いられることもある。

【事例 31】今は、勉強が忙しく、子供も小さいので母国の主人の実家に預けている。早くこちらに引き取りたい。〔B〕

アメリカの大学は、1970年代から80年代にかけての18歳人口減少に伴う、入学者数の減少の危機を、成人学生によって埋め合わせをすることによって生き残ったという歴史があり、成人やパートタイム学生を受け入れるために、大学が全館託児所専用のビルを建てたりしているため、子供を持つ学生も安心して勉学に励むことができる（喜多村, 1990）。日本もこのような対応が今後必要であると思われる。

#### 2-4 東アジア系配偶者の問題

本研究の結果から、東アジア出身の留学生同様、配偶者は非東アジア出身の配偶者に比べて、解決すべき問題が多い傾向があることが明らかとなった。言語（日本語）にはほとんど問題を抱えていないにも関わらず、数多くの事項に対して問題を抱えているのは何故であろうか。ここでは、日本人からの被差別感について考える。

東アジア系配偶者は、「日本人から差別されること」について、非東アジア系配偶者よりも問題を抱えていることが明らかになった。これについては、第2章の予備調査でも考察したように、日本人の外国人に対する特別扱いと差別や偏見がある。石附（1989）は、日本人が明治以来、西洋人を「異質な付加的存在」として特別視してきた伝統があるという。反対に、アジア人に対する態度は、それとは全く逆の差別、偏見といった反応で、アジア人の心を逆なでし続けてきた（栖原, 1996; 田中, 1995; 加賀美, 1994）。差別は日本以外の国にも存在するが（Brislin, 1981）、日本の場合、アジア人の中でも朝鮮半島や台湾に対する統治の歴史があり、日本人の中には自分たちより下に見る者がいる。

また、留学生の例も、日本人学生の侵略の歴史に対する無知さに憤慨し、日本が嫌いに

なることが指摘されてきた（田中, 1995）。従って、アジアの中でも特に、東アジア人留学生はこの反応を敏感に感じ取るのである。田中(圭)（1996）の調査結果によると、中国人留学生の約 6 割が「日本人は中国人を差別する」に賛同したという。また日本が好きでない理由として、「習慣、考え方や文化が違う」が「人間関係が難しい」に次いで挙げられており（田中(圭), 1996）、東アジア系の留学生や配偶者は日本人の文化や社会システムが母国のものと異なることを認識している。

これまで、日本で行なわれてきた比較文化研究は、日本対欧米諸国という構図で捉えられてきた<sup>註14)</sup>。また、日本の「国際化」論議においても、アジアが主要なテーマになることはなかった。例えば外国語学習において、アジア諸国の言語の学習が積極的に導入されなかったこと、歴史教育に真剣に取り組んでこなかったことにみられるように（馬越, 1998）、アジアに対する無関心さが現在の日本人のアジア人への対応に表れている。

もう一つは、日本人の外国人に対する不慣れである。日本語能力が高くなるほど、日本人の留学生に対する対応が悪くなるといった研究もあり、滞日期间が長く日本語能力の高い留学生のほうが日本に否定的イメージを持つ、と結論付けられている（岩男・萩原, 1988; 萩原, 1991）。滞日期间が長く、日本語能力も高い、（本研究では、配偶者の平均滞在期間は、東アジア系配偶者 38.1 ヶ月、非東アジア系配偶者 25.0 ヶ月であった）東アジア系配偶者はこれにあてはまる。

近年では、東アジア諸国内の文化の差異に注目した研究も現われ始めて、その相違点が明らかにされつつある（例えば中川, 2003）。今後このような研究が盛んになれば、日本人のアジア人、東アジア人に対する見方も変化するかもしれない。また、山崎（1993）は、日本人から差別を受けていないアジア系留学生は、対日態度が好意的になることを見出していることから、日本人のアジア人に対する態度が重要な意味を持っていることが指摘できる。

## 第2節 家族帯同の利点

### 1 帯同留学生にとっての利点

#### 家族からの多様なサポート

帯同留学生にとって、家族と一緒にいることの最大の利点は、家族から受けるサポートである。サポートには、情緒面でのサポートと学業面でのサポートと健康面でのサポートがある。

情緒面でのサポートとは、家族がそばにいることによって、寂しさを感じないことである。帯同留学生は、不帯同留学生に比べて「ホームシック」の問題の度合いが有意に低いこと、帯同留学生が考える利点において、「孤独を感じない」が最も回答が多かったという結果は、帯同留学生の孤独感を消失させる役割を家族が担っていることを示すものである。

さらに、帯同留学生のほうが、不帯同留学生より日本人の友人を作ることに関して問題を感じていないことが本調査から明らかになり、これは、家族がいるために日本人の友人を作り易い環境にある、もしくは、家族が友人の役割を果たしてくれるので、日本人の友人作りに関して問題を感じていないと考えられる。さらに、子供のいる帯同留学生は、子供のいない帯同留学生ほど日本人の友人を作ることに関し、さほど問題を感じていない。

留学生の相談相手として、日本にいる家族が最も多く選択されていたことは、注目すべき点である。留学生にとっては、同国人留学生が最大のソーシャルサポート源であるが、家族がその役割を担っていることは意味のあることである。つまり、帯同留学生にとっては、配偶者と同国人留学生という2種類の主な相談相手を持っているとあってよいであろう。

学業面でのサポートは、留学生活の一番の目的である学業面における成功（学位取得等）を配偶者がサポートしていることである。帯同留学生が考える利点において、「問題や成功を分かち合う人がいる」、「学業を励ましてくれる」と回答した者が7割以上いたことは、家族が情緒面においてだけでなく、学業面においてもサポートの役割を果たしているといえる。留学生の配偶者は、高等教育を受けた者が多く<sup>注15)</sup>、本研究の面接による調査（予備調査と本調査）においても、13名中10名が大学の学部を卒業していた。学業に直接アドバイスを行なうことはないにしても、勉学の困難さや辛さが理解でき、間接的に励ますことはできるであろう。

健康面でのサポートは、食生活や衛生面などの面におけるサポートである。「栄養が偏りがちであること」という質問に対し、帯同留学生のほうが不帯同留学生より有意に低かった。

家事をしてくれる人がいれば、料理の心配をする必要がなく、帯同留学生は栄養のバランスに関して、不帯同留学生ほど心配をしていないことがいえる。つまり、家族で生活することによって、規則的な食生活が期待でき、健康面にも気を使うことができるのであろう。



## 2 配偶者にとっての利点

日本に滞在することで、配偶者が直接的な利益を得ることは明らかにすることができなかつたが、面接により副次的な効果があることが見出された。

### 人間的成長

日本で生活することによって、配偶者は人間的に成長することがある。以下でみられた事例は、日本の生活スタイル、習慣が母国と異なるために起こったものである。

【事例 32】母国では、メイドを雇い、料理や洗濯は全てやってもらっていた。バスや車にもよく乗っていたが、日本では歩くようになり、平気になった。料理もできるようになった。〔G〕

料理や洗濯は人任せであった配偶者が、日本に来てからは料理ができるようになり、今は日本語や日本文化を学ぶことができうれしいと語っている。母国の習慣や社会システムによって、家事や育児の経験のなかつた配偶者もいる。日本では、自分のことは自分でしなければならず、まして、文化や社会システムの異なる国で、家事をしたり、出産、育児を行なうことは決して楽なことではない。しかし、そのような苦労を経て、人間的に成長をすることができる。

次に、大学における支援活動に参加することによって生まれる、配偶者にとっての効果を提示する。アメリカの例を二つ挙げると、大学における配偶者のための活動は、その効果を生む手助けをしているといえる。Verthelyi (1996) の挙げているバージニア州立科学技術大学の行なっている「配偶者による」ニュースレター作り<sup>註 16)</sup>は、配偶者が能動的に活動に参加することにより、英語能力を向上させたり、編集の技術を身に付けたり、コンピュータを使用できるようになることができると述べている。また、Schwartz & Kahne (1993) が取り上げているマサチューセッツ工科大学のグループ「妻の会」<sup>註 17)</sup>では、会員 450 名（ほとんど外国人）のうち 35 名が実際に会を運営し、配偶者の自立性を高める効果が期待されている。

小澤 (2001) は、援助を「する側」と「される側」という立場の二分法で捉えるという発想を乗り越える必要があると主張しているが、ボランティア文化の歴史の浅い日本では、これを克服することは難しい状況にあるといえる。しかし、神戸大学の留学生家族支援団体ココロネットにおいて、活動参加者であった配偶者（される側）がボランティア活動に参加（する側）するという動きがみられた。ココロネットでは、ボランティアはこれまで日本人に限られていた。ところが、ここ 1 年ほど日本人以外の人々がボランティアとして

活動に参加する傾向がみられるようになった。現在、日本語講座の時間の間、配偶者の子供をベビーシッティングしている2名の東アジア系配偶者は、この活動をするようになった動機と感想をそれぞれ以下のように答えた。

【1】 去年からベビーシッターをしている。ココロネットの会員から電話がかかってきて、「手伝ってほしい」と言われ、以後毎週来ている。国で仕事をしていたときと同じ。楽しい。主人は研究で忙しいけど、私は時間があるので。

【2】 国ではボランティアなんかやったことなかったのに。今は色々な活動に参加している。以前私が日本に来たばかりの時、ココロネットには助けてもらった。助けてもらったことを機会があればしようと思っていた。始めたばかりだけど、できる限り続けたい。週一回だからやれると思う。ここでは、専業主婦で何もすることがないし、寂しい。このままでは後ろ向きになってしまう。だから外でできる仕事があった。

【1】の配偶者は、母国の大学で幼児教育を専攻し、また日本に来る前に6年間保育園で働いていた。日本に来て、自分のキャリアを生かし、ボランティア活動に参加することによって、生きがいを感じているようである。また、【2】の配偶者は母国ではすることのなかった活動にチャレンジし、新しいライフスタイルを見つけているようである。また、【2】の配偶者は、ボランティアについて、ココロネットの発行した文集の中で、以下のように綴っている。

メンバーの皆さんに出会ってから、私の日本に対する思いやボランティア活動に関する考えがずいぶん変わるようになりました。私たちは共に生きているということ、まわりには誰かの助けを必要としている人がたくさんいるということ、自分が持つ小さな力でも人に与えることで大きな喜びになれることを皆さんから教えてもらいました。

【冊子『KOKORO-NETと私 留学生家族の声』: p.9 2002年4月発行】

このような活動は自助 (self-help) という考え方から説明がつくであろう。自助とは、「日常生活でストレスに苦しみ本来ならば援助の対象となる人が、自分と同じ、あるいは異なる困難に遭遇している人を助けることによって、自分自身の問題が解決するという『援助成果』」(高木, 1998; p.149) のことである。つまり、日常ストレス生活を送っている人が、同

じような状況の人をサポートすることによって、自分の問題を解決する手助けとなる、という概念である。Midlarsky (1991) は、自助の利点を五つ掲げている。すなわち、自分自身の問題にとらわれることから気を紛らわすことができる、自分の人生の有意義感や価値観を強めることができる、自己評価を高めることができる、気分をよくすることができる、社会的統合を促すことができる、である。上述の2例では自助の効果がよく表れていると思われる。

自分の特技やキャリアを生かすということは、仕事をしてお金を儲けるということではない。何か社会の役に立てることをすることによって、自己の存在価値を見出すことはボランティアでも可能である。このように先輩配偶者が自助活動するのを見ることは、新来の配偶者が新しい情報や知識を得ることができるばかりでなく、日本で楽しく生活を送る手本や励みになるであろう。さらに、こういった活動に新来の配偶者がボランティアとして関わっていけばそこにポジティブな活動の連鎖が生まれる。先輩配偶者が新来の配偶者をサポートすることは、相互にとって実りの多いものとなるに違いない (Ashamalla,1994)。

### 日本に対する理解・母国の再考

マーフィー重松・白土 (2001) の調査結果によれば、帯同留学生の中には、日本人やその社会を理解することができ、海外生活の経験を母国の文化の発展に役立てたいと考えている者もいると述べている。本研究、予備調査・質問紙の自由回答では、日本の技術や交通の発達を賞賛したり、日本人の勤勉さや親切心を称える意見が出された。本調査の面接では、日本の社会システムと母国の社会システムを比較し、母国について再評価する配偶者もいた。ある配偶者は、日本の印象を次のように述べていた。

【事例 33】日本では、社会的規律が守られている。電車の中は静かだ。ちゃんと列を作って並ぶ。日本人の考えは母国の国民より広いと思う。日本は発展国だから。

また、この配偶者は子供の小学校での規則を例にとり、次のように述べていた。〔J〕

【事例 34】日本の学校教育は、母国と異なる。給食の準備や掃除等、自分でしなければならない。母国の小学校では、お手伝いが全部する。お菓子や時計、アクセサリ一類を持ってきてはいけない規則があることは平等でいいと思う。〔J〕

本調査の結果、帯同留学生の 54%が、日本滞在が配偶者にとって有意義であると回答しており、配偶者は日本滞在をきっかけに、日本社会や日本人を理解し、また、母国を外から見て再考している。

### 3 留学生家族の適応を促進するもの

以下に、留学生家族が日本で快適な生活を送るために必要な要素を3つ挙げる。

#### 夫婦間の理解

本研究において、来日後の配偶者の家事（育児）負担の増加に対する意識について相関がみられ、帯同留学生と配偶者は互いに負担の増加を理解していることが分かった。ある帯同留学生は次のように語った。

【事例 35】 毎日帰宅するのは、夜の9時ごろ。家事はほとんど夫がやっているのだから。〔E〕

また、配偶者は帯同留学生について次のように述べている。

【事例 36】 毎月3回年配のグループに母語を教えている。その間夫が子供の世話をしてくれている。いつも私が子育てでストレスが貯まっているので、気を使ってくれているようだ。〔F〕

【事例 37】 夫は、いつも夜9時ごろ帰宅するが、私が日本語のクラスがあるときは、早く帰ってきてくれる。洗濯や掃除の手伝いもしてくれる。〔G〕

このように、夫が家事や育児を手伝ったり、アルバイトをすることを奨めていることもある。そうすることによって配偶者の物理的、精神的負担が軽減される。また、配偶者も夫の気遣いを理解しており、たとえ負担が大きくても安心感があるので、それほどストレスを感じていないといえる。帯同留学生に余裕があれば、配偶者にもそれは伝わり、家庭も安定した生活を送ることができるスピルオーバーの効果がみられる。

#### 子供

本研究では、子供の存在は、配偶者のみならず、留学生にとってもプラスの要因であることが確認された。質問紙調査の結果から、子供のいる配偶者は、近所付き合いにおいてさほど問題を抱えていないことが明らかになった。また、子供のいる帯同留学生は子供のいない帯同留学生よりも、日本人の友人作りにおいて問題をそれほど感じていないという傾向がみられた。さらに、子供のいる帯同留学生は、問題が起こったときに多様な相談相手を選択することが見出され、多くのソーシャルサポートを持っていることが示唆された。

仮説の設定の時点で述べたように、海外派遣者よりも帯同留学生は年齢が若く、従って子供の年齢も低い。本調査の結果からも子供の6割以上が幼稚園児、保育園児、未就学者であった。従って、特に教育の面に関してはそれほど心配をしていないと考えられる。そ

れは、子供のいる帯同留学生の 67%が子供にとって、日本滞在が有意義であると回答していることから支持できる。

### 内的要因

稲村（1980）は、不適応を引き起こす要因として外的要因（環境、文化、対人関係等）と内的要因（本人の性格や趣味等）があると述べている。つまり、内的要因である配偶者本人の性格によるところも大きく、日本社会に適応できるか否かは、個人的な問題に拠るところも多い。

また、渡米前と渡米後の経験や環境によって、配偶者の適応の程度が変わってくるという（Verthelyi, 1995; Black& Gregersen, 1991）。すなわち、渡米前に、海外滞在を経験したことがあるかどうか、派遣または留学先国の情報について詳しくあったか、意思決定があったかどうか、渡米するまでの期間が充分にあったか滞在期間がはっきりと決まっていたか、渡米してからの計画があるか、派遣者または留学生と同時期に来たかそれとも後で来たか、目的のある活動に従事しているか、専門職の仕事についているか、プログラムやサービスの早い時期の利用ができたかによるという。

Caligiuri（1998）は、海外移動に対して肯定的な考えを持っている家族は適応しやすいと述べているが、本研究でも配偶者自身が日本での生活を楽しみ、社会に積極的に受け入れようと努力している者は、比較的適応がスムーズに行われていることが示唆された。例えば、自分の持っている趣味や特技を生かせる場を持っている者は、その他のものより適応がうまくいっていることが考えられる。

【事例 38】母国の民族舞踊を月に 2 回教えている。国際交流等のイベントに参加して踊ることもある。〔G〕

日本社会への積極的な参加が適応へと繋がっていくと考えられる。受け入れ側が配偶者の活躍の場を提供することを視野にいれたプログラムを考えることも必要であろう。

### 第 4 章 注

- 1) 井上ら（1997）は、文部省（現文部科学省）の「学校基本調査」では、大学退学者に関する数値は記載されていないと述べている。
- 2) 例えば、AIEJ（兵庫留学生会館）では、単身棟と夫婦棟があるが、子供のいる家族は住め

ない。

- 3) 2002年現在、公的宿舎入居留学生数は、25,743人で、前年度より2,515人増加した。また、AIEJは、留学生宿舎建設奨励事業（学校法人が留学生宿舎を建設する際に、建設費の一部を補助する）を行なっている。
- 4) KICCの受託業務担当者へのインタビュー結果による。
- 5) AIEJの留学生寮では、4人の日本人学生をチューターとして入居させている。しかしながら、チューターという名目では、支援する側とされる側、もしくは管理する側とされる側という立場から脱却できない。
- 6) 田中（1997）は、留学生を援助する人々への教育訓練の一環として、異文化接触に対する免疫をつけるための異文化免疫訓練を提案している。基本的要件として、文化的気付きを持つこと、異文化間ソーシャルスキルの知識を持つこと、異文化接触の心理的現象の知識を持つことの三点を挙げている。
- 7) 中国人留学生には私費留学生が多いが（田中(圭),1996）、本調査でも、東アジア系留学生の17.7%が（215名中38名）国費留学生であったのに対し、非東アジア系留学生は67.2%（177名中119名）であった。また、帯同留学生のなかでは、東アジア系留学生の35%（60名中21名）が奨学金を受給していないのに対し、非東アジア系では、5.7%（35名中2名）であった。このようなことから、東アジア出身の留学生家族は経済的に問題を抱えている割合が多いことが指摘でき、本研究のような結果に繋がったとも考えられる。
- 8) 岡（1992）は、外国人留学生の諸問題を明らかにするためには、最大の集団を形成する中国人私費留学生の実態を調査・研究し、その特質を明らかにすることが重要かつ急務であると主張している。
- 9) 2000年4月から法務省「出入国管理及び難民認定法」の改正により、家族滞在ビザを持つ留学生の配偶者も労働が可能になった。
- 10) 法務省入国管理局「外国人在留総合インフォメーションセンター」への問い合わせより。
- 11) 財団法人内外学生センターでは、現在、留学生の配偶者にはアルバイトは紹介していない。
- 12) 東京大学留学生センターでは、日本語のクラスに定員に余裕があれば、配偶者も受講が可能である。
- 13) KOKORO-Net in 神戸は、神戸大学教職員の妻が中心メンバーとなっており、1996年に発足した。2002年2月現在18名が所属しており、メンバーの多くが、夫の仕事の都合により海外で暮らした経験を持つ。神戸大学留学生センター生活指導部門の教官が事務局となり、そ

の下で助言を受けながら活動を行なっている。

- 14) 例えば、吉野（1998）は、学者・研究者によって頻繁に論じられた日本社会・文化の特徴を5つ挙げている。それは、集団主義、非言語性・超論理性、社会の同質性・単一性、文化の民族的所有、風土と稲作であるが、文化の民族的所有以外、欧米と対比する形で論が進んでいる。
- 15) Verthelyi（1995）が行なった調査によると、配偶者49名のうち、45名が高等教育修了者であった。
- 16) Verthelyi（1996）は、バージニア州立科学技術大学（Virginia Polytechnic Institute and State University）で実行されている低コストのプログラムを紹介している。それは、大学所属の国際センターの発案によるニューズレターの発行である。原稿はもちろん、編集も全て配偶者の手による「配偶者による、配偶者のための（p.699）」活動である。その目的は三つあるという。一つ目は、配偶者自身が編集者として活動することにより、アイデンティティと自尊心を回復させること、二つ目は、配偶者自身が読者になることにより、自分の滞在経験を振り返り適応のプロセスを理解すること、三つ目は、大学側が今後来る配偶者のためにニューズレターを資料として送付し、渡米前に大学の生活や異文化適応についての知識を知らせることである。ニューズレターには、異文化体験、子育て、ホストファミリー、帰国に対する不安、等様々な記事が掲載されており、またアメリカ文化に対する質問コーナーや子供のコーナーもある。基本的には英語であるが、毎回記事の一つは外国語によるものを載せている。
- 17) マサチューセッツ工科大学（Massachusetts Institute of Technology）では、留学生、アメリカ人大学院生、職員それぞれの妻が入ることのできる「妻の会」（Wives' Group）を設けている（Schwartz & Kahne, 1993）。これは、20年以上続いており、450名の会員を有しているが、ほとんどが外国人である。この会の目的は、知り合いになるきっかけを作ることと社会生活と大学での活動を知ることである。それは、仕事を見つけたり、教育やキャリアを続けたり、ボランティア活動に参加することにつながる。プログラムは11あり、必ずしも英語を必要としない活動を作り、ベビーシッターのサービスを行なったり、キャンパスの他一部の活動は、会員が住んでいる地区で行なうといった工夫がなされている。1年間、会の活動に参加したあとには、キャンパスや公共の場において買い物、娯楽を見つける、大学（院）に入学する、友人を作る、自分自身や子供のために支援サービスを手配する等の活動ができることを期待しているという。

## 第5章 まとめと提言、今後の課題

本研究では、滞日留学生の帯同家族をテーマとして調査を行ってきた。本最終章では、第1節で、日本で勉強する留学生が家族を帯同することのメリットとデメリットをまとめる。第2節では、留学生の帯同家族に対する、大学のサービス、大学の日本人からの支援という面について提言を行なう。第3節では、本研究の総まとめと今後の課題について述べる。

### 第1節 家族帯同のメリット・デメリット

本研究で明らかになった留学生の家族帯同のメリットとデメリットを示す（表5.1）。

表5.1 家族帯同のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
帯同留学生	家族から受ける情緒面、学業面、健康面でのサポート	時間ストレス、経済的問題、宿舎
配偶者	自立、人間的成長、母国再考	キャリアの妨げ
共通		宿舎、経済面
子供		母語の喪失、教育
大学・地域社会・日本	優秀な人材の確保	

#### 1 家族を帯同することのメリット

帯同留学生にとってのメリットの一点目は留学生に対する情緒的サポートを家族が担っていることである。家族が身近にいるためにホームシックになりにくく、孤独感が不帯同留学生と比較して少ないことが挙げられる。二点目は、学業面でのサポートも受けていることである。三点目は、家族がいることで、母国と同様の生活習慣が取りやすくなることである。時間のない留学生に代わって、配偶者が母国の料理を作ってくれるので、栄養が偏る心配もない。つまり健康面でのサポートも同時に行なわれている。

配偶者にとってのメリットの一点目は、配偶者の自立を促進する働きがあることである。家事や子育てだけでなく、社会的活動に参加することによって、母国にいたときは別の世



界を知るきっかけとなることが面接から明らかになった。二点目は、配偶者の日本に対する興味の促進や日本文化・社会への理解促進が行なわれると共に、母国文化を再考するきっかけを得ることができることである。配偶者の多くは、留学生である夫や妻をサポートすることを目的としているために、日本に来るのだが、結果的に、自立や社会参加という広がりを持つことができる。

留学生の家族帯同において、子供は留学生の留学目的遂行や配偶者の適応に関して重要な役割を果たしているといえる。子供のいる帯同留学生や配偶者が日本人の友人を作ることに関して、問題を抱えていなかったという結果は、以下のことから説明できる。例えば、子供がいることで、配偶者の行動範囲が広がるのは当然である。子供が保育園や小学校等に所属していると、他の保護者と知り合いになることができる。また子供の学校行事を通して、日本文化や社会について知るきっかけを与えてくれる。さらに、子育て等子供に関する話題が多いため、近所付き合いの潤滑油にもなりえる。

家族帯同のメリットは留学生家族だけにあるのではない。本研究では直接的な結果として明らかにすることができなかったが、周辺的なメリットとして、大学、地域、国にとってのメリットが挙げられる。本調査で明らかになったように、配偶者のなかには、キャリアの向上を求めて、大学入学を希望する者が多い。つまり、留学生予備軍とも呼べる配偶者は大学にとっても潜在的な顧客なのである。日本の大学では、留学生受入れは、途上国に対する支援政策の一部と捉えられがちであるため、これまでは強く認識がされてこなかったが、他の国では顧客として考えられている。

アメリカでは、留学生を多く受け入れている大学の多くは知名度の高い大学で、コロンビア大学、ハーバード大学では全学生の19%を留学生が占め、また、ある1年間で、アメリカ中の博士号取得者のうち、留学生が四分の一を占めている（羽田, 1997）。イギリスでは、1980年に、国内学生が支払う授業料の8~10倍の授業料を留学生に課するという、留学生経費全額負担授業料制を導入したにも関わらず、1984年の統計では、イギリスの大学院生の三分の一強が留学生であった（木村, 1991、江淵, 1991）。つまり、アメリカとイギリスの大学の優秀な学生の多くは留学生によって占められているのである。

アメリカでは、「留学生の存在は、まずアメリカ社会に雇用の機会を増やし、家主に家賃収入を保証し、税収にも大きな寄与をする」という地域に対する効果が期待されている。また、「元留学生たちは、アメリカ的な経済価値を故国に広め、アメリカ的な生活スタイルを浸透させ、やがて、人々にアメリカの商品やサービスを買うように仕向ける（羽田, 1997;

p.56)」と、大学にとっての利益が、地域に広がり、最終的には国の利益へとなる。日本においては、経済的な効果を期待しなくとも、地域が異文化との接触によって、「ウチなる異文化への気づきと共に、ソトから新たに入ってくる異質なもののなかに同質性・共通性を発見し、(中略)より成熟した地域生活を創造していく(井下, 1991; p.102)」。そして、それが地域社会の国際化に繋がるのである。

留学生を受け入れるメリットが大学ばかりでなく、地域社会や国家にもあるという視点に立てば、留学生になる可能性のある配偶者もまた歓迎されるべきである。そして、配偶者を帯同する留学生は、新しい留学生の紹介者、推薦者であるといえる。

### 2 家族を帯同するにあたってのデメリット

帯同留学生にとっての最大のデメリットは、時間ストレスである。不帯同留学生に比べて、遊ぶ時間がないと感じているのは、配偶者や子供に関わることによって、自由な時間が奪われるからである。

配偶者にとっての最大のデメリットは、自分のキャリアの継続や向上が妨げられると感じることである。日本語能力が十分でないことや家事(育児)に追われるため、仕事につくことが難しく、自分の専門にあった職を見つけることはさらに困難である。

留学生家族全体のデメリットとしては、経済的圧迫、宿舎確保の難しさ、子供の問題である。所得が少なく、十分な奨学金を受給していない留学生が家族を養うことは難しい。また、留学生家族のための宿舎の数は少なく、引越しを何度も経験する家族もいる。引越しをすれば、子供は学校を変わらなければならず、友達を作りにくいという問題にもなる。子供については、出産や子育てから教育、母語習得の問題がある。

経済的圧迫や宿舎の確保は、多くの留学生家族が抱えている問題であるが、留学生全体にも当てはまる問題で、帯同留学生特有の問題ではない。また、家族を帯同することによって起こる配偶者のキャリアの問題や子供の問題は、地域でのサービスを受けることによって、解決する場合も多い。さらに、受入れ地域や大学が、配偶者のための援助活動を積極的に行なうことによって問題が軽減することもある。家族を帯同することによる利点が多いことを考えると、メリットのほうが勝ると結論付けてよさそうである。

## 第2節 提言

### 1 大学からの支援—留学生家族の把握と家族のためのプログラムの実施—

実際に、どのくらいの留学生が既婚者で、そのうちどのくらいの留学生が家族を帯同しているのかを把握している高等教育機関は少ないであろう。何故ならば、婚姻状況や家族帯同はプライベートな情報であるため (Verthelyi, 1995)、データとしての管理が困難だからである (Ashamalla, 1994)。しかし、今後留学生家族のケアを行なうにあたっては、第一歩として、まず配偶者の生活状況や子供の修学状況等、実情を知ることが重要である。

そして、家族の状況についての把握ができれば、それなりの対策を立てなければならない。例えば、家族を連れてきてもよいのか、いつ連れてくるかという判断は留学生個々に任されており、留学生は必要に応じて個別に相談をしている<sup>註1)</sup>。このような状況を改善するためには、第一に、来日直前の事前の情報提供を行なうことが重要である。例えば大学のホームページに、家族帯同についての必要な情報 (宿舍の状況、配偶者の仕事が可能かどうか、家族の日本語の必要性、学校の教育システム、医療システム、家族のための支援団体の有無等) を与えておくだけでも留学生としては心強く、またある程度の準備はできるであろう。

第二に、来日直後のオリエンテーションの実施である。来日直後の留学生またその配偶者は、友人作り、日本語や日本文化の習得、等多くのサポートを必要としている。留学生のためのオリエンテーションはほとんどの大学において行なわれているが、配偶者のためのオリエンテーションが行なわれているところは少なく、大橋 (1997) が国公立大学の留学生会館を対象に調査したところによると<sup>註2)</sup>、留学生と一緒に家族も含めてオリエンテーションを実施している会館は 29 会館中 7 館であった。また、大学の留学生担当部署で、家族への関与を行なっているところはわずか 20% であり、しかも関与の方法は支援団体や交流団体の紹介、緊急事態の対応のみであった。

オリエンテーションに参加する機会が与えられていても参加しない留学生も多い。アメリカの例であるが、Verthelyi (1995) は、面接を行なった 49 名の配偶者のうち、2 名しかオリエンテーションに参加していなかったという。本研究で行なった調査においても、留学生の 3 割近くが来日直後のガイダンスには参加をしていなかった。また、参加した者の半数以上は、50% 以下の割合でしか役に立たなかったと回答している。留学生のガイダンスと合わせて配偶者のためのガイダンスを開き、積極的に参加を呼びかけると共に、ガイダンスの内容についての全体的な検討も必要であろう。

滞在中の留学生配偶者の活動範囲を拡大させることに、大学が積極的に関わることも必要であろう。母国で専門の職についていた者の多くは、留学先でも地域や専門的な活動に従事したいと望んでいる (NAFSA, 1986)。家族が留学生の留学目的にどのくらい貢献しているかを考えると、家族のための支援プログラムの企画、実施は当然のことと思われる。これらのサービス提供の課題としては、情報をどのようにして行き渡らせ、参加を促すかであろう。大橋 (1997) は、来日後、学生の身分になる配偶者が多数いることを報告している<sup>注3)</sup>。本研究の結果でも、多くの配偶者が大学 (院) 入学を希望していた。配偶者が気軽に大学に行き、入学や聴講のための情報を得ることができるような開かれた大学が望ましい姿である。例えば、配偶者のための日本語教育を正式に実施すること、図書館を自由に使えるようにすること等のサービスを提供することが望ましい。

### 2 日本人からの支援—学内のソーシャルサポートの活用—

本研究では、留学生やその家族の相談相手になる等、ソーシャルサポート要員として日本人が活用されることが少ないことがこれまでの研究と同様に明らかとなった。その原因として、日本語能力の高い留学生に対する日本人の対応の悪さや、日本人の留学生に対する差別感があること、さらには、日本人学生の「遊び型文化」と留学生の「学問型文化」(坪井, 1994)の相違が日本人学生と留学生の溝を深めていることが要因となっていることを述べてきた。しかしながら、留学生が大学内で生活を送り、学業を遂行している以上、また、配偶者が日本で生活する以上、日本人と関わる機会は決して少ないわけではない。さらに、現地人との接触が多ければ多いほど、その国に対する理解が深まるとすれば (Kleinberg& Hull, 1979)、日本人との接触を積極的に推進することが必要であろう。多くの留学生は、学外の日本人のサポートは比較的受けていたが、一日の多くの時間を費やす大学においてはむしろ、日本人がサポート源として選択されていなかった。しかし、学内のサポート源である日本人学生は、留学生とサブカルチャーを共有しており、従って最も身近な相談相手になりうる存在である。

留学生のソーシャルサポートの多くは、同国人留学生が担っているが (高井, 1994; 横田・田中, 1992; Ying& Liese, 1991)、高井が言うように「情緒的サポートおよび話し相手としてのサポートの提供者として、日本人が留学生のサポートネットワークに参入できる可能性はかなり大きい (高井, 1994; p.115)」。今後は、日本人チューター、教職員、学内ボランティア等、「異文化間インターメディエーター」を積極的に活用することが不可欠である。

チューター制度には、日本人チューターと留学生の組み合わせの不備、仕事内容の不明確さ等、それによる留学生側からの不満等、様々な問題点が指摘されているが(村田, 1996)、チューター制度、仕事内容そのものの見直しも視野に入れた改革が必要である(平野, 1994)。

学内ボランティアは、ボランティア自身がしっかりとした活動を行なわなければならないのはもちろんであるが、大学とのネットワークを作り、大学とよい関係を築くことも重要である(Ashamalla, 1994)。そのために大学は、ボランティアの存在を認識し、活動内容を理解、バックアップする必要がある。

留学生家族、とりわけ配偶者に対するサポートにおいて大事なことは、当り前のことであるが、どの配偶者も平等に扱うことである。そのために、日頃から日本人チューター、教職員、学内ボランティアを対象とした異文化トレーニングを行なうことが推進されるべきである。

学内の日本人、つまり、チューターや教職員、学内ボランティアは、日本人や日本社会を留学生によりよく理解してもらうため、改善すべきところは改善するという姿勢が重要であろう。そのためには、何よりも、大学側の積極的なプログラム作り、支援が必要である。

### 第3節 本研究のまとめと限界、今後の課題

本論文は、留学生の帯同する家族が日本で遭遇する問題を明らかにすること、また明らかになった問題に対し、どのような支援が必要であるかを提案することを目的として論じてきた。以下、本研究によってなしたことからまとめると同時に、本研究の限界を提示し、今後の課題について述べる。

本研究では、質問紙の項目に対し、留学生だけでなく配偶者本人にも回答させるというを行なった。これまでの海外派遣者の配偶者に関する異文化適応の研究では、派遣者本人のみに回答させているという場合が多く、配偶者本人の声は聞こえず、得られたデータにフィルターがかかっている可能性があるという問題があった。この点、本研究においては、留学生とその配偶者を対象に調査を行ない、配偶者自身の問題を拾うことができた。さらには、配偶者の日本語能力を考慮して、日本語、英語以外に、中国語、韓国語による質問紙も作成し、より多くの配偶者が容易に回答ができるよう工夫した。また、研究手法として、質問紙と面接の両方を用い、質問紙では明らかにならなかったことや質問紙で得られたデータのフォローを行なうことができた。

このような調査内容に対し、調査対象を配偶者と留学生という分類だけではなく、留学生をさらに配偶者が留学生の身分であるものと、留学生の身分でないものとに分け、それぞれの問題を明らかにした。特に、面接においては、個々の抱える問題を知ることができたという意味で有効であった。さらに、不帯同留学生との比較を行なうことによって、帯同の効果を明確化することができた。

次に、本研究における限界について述べる。本研究で用いたデータには多くの制限が存在することは避けられない。一点目は、本研究で用いたデータが神戸大学に在籍する留学生とその配偶者に限られていることである。つまり、本研究の結果及び考察は関西圏の一流国立大学のケースであり、日本の留学生及び配偶者の全体的な傾向を表しているということとはできない。また、データの数であるが、質問紙による配偶者のデータが53名分しか得ることができなかった。回収率は53%と決して悪くはなかったが、配偶者の多くが留学生である場合が多く、いわゆる「純粋な配偶者」に特有な問題を調査するために、このような数になってしまった。しかしながら、留学生配偶者のいくらかは、来日後留学生になる場合が多く、またインタビュー結果からも分かるように、多くの配偶者が大学で勉強することを望んでいることが示されたことは重要であろう。

もう一つの限界は、配偶者を中心に調査を進め、子供を対象とした調査を行なわなかった点である。本研究では、親の視点からみた子供の問題や子供と親との関係と取り上げるに留まった。子供の年齢が低く、分析に必要十分なデータ数を得ることが困難であることが理由であるが、今後、何らかの調査は必要であろうと思われる。

最後に今後の課題を述べる。第一に、支援の観点から留学生家族の問題を考える必要がある。例えば、ボランティア団体の実態調査を行ない、どのような人々によってどのような活動がなされているのか、その活動内容、留学生家族とボランティアのインターアクション等を明らかにすることが必要であろう。第二に、配偶者のバックグラウンドと適応の関係を調べていく必要がある。例えば、配偶者の渡航経験や異文化感覚、日本についての来日前の情報収集の有無等が、日本での適応にどのくらい影響しているのかを知ることができれば、それに対する受入れ側の対応も可能であろう。また、滞日期間や性差等のデモグラフィック要因による違いについても調査する必要がある。

### 第4節 おわりに

本論文では、留学生家族の帯同について、問題点、利点、ソーシャルサポートについて

明らかにすることを目的に、調査、研究を行なった。家族を帯同することに対する利点としては、留学生が情緒面、学業面において家族からサポートを受けることや、家族がいることで、母国と同様の生活習慣が取りやすくなり、健康面でのサポートも受けられることが明らかとなった。さらに、配偶者が日本で生活し、異文化に接することにより、配偶者自身の人間的成長が得られるという効果、母国との比較を行なうことによって、日本社会への理解が深まるという傾向もみられた。また、問題点については、配偶者がキャリアを日本で積めないと感じていること、配偶者のための支援体制が十分でないこと、家族の問題が起こったときに相談相手が家族や同国人留学生に限られていること等が明らかとなった。結果的に、家族を帯同していない留学生と比べた場合、帯同している留学生のほうがホームシックは少ない等、家族帯同の効果は高いことが結論付けられ、家族帯同を肯定的にみるべきであると結論された。

多くの留学生は、メリットがあるから家族を帯同するのではなく、家族と一緒にいることの重要性を認識しているので、帯同を当然のことと考えているのかもしれない。実際、多くの留学生が家族を帯同しているという事実から、留学生の家族帯同は肯定的に見るべきであるということは、人道上の見地からも当然のことであったかもしれない。

日本は、留学生を受け入れるという責任を負っている以上、帯同留学生や家族のためにも多方面からの支援を行なう必要がある。留学生家族に問題が発生することを予防したり、適応を促進するために、宿舍の整備、日本語教育、出産・育児の支援、といった全体的な支援と、大学内の配偶者のためのガイダンスの実施や種々のプログラムといったミクロなレベルの支援が必要であることを述べた。そして、日本政府や大学への提言、大学内のソーシャルサポートの活用の可能性について提言を行なった。

最後に、家族の問題を含めて日本の留学生支援のあり方について述べたい。日本の留学生関係の予算の3~4割がODA（政府開発援助）から計上されおり<sup>註4)</sup>、留学生政策が「発展途上国の人材開発支援」を柱にしていることから、他の留学生受入れ国とは異なる留学生支援体制を保持し（江淵, 1997）、授業料の減免や奨学金の充実等、財政的な援助が今後もなされることは重要である。

しかし、このような援助には限界があり、全ての留学生を満足させることはできないのも事実である。また、宿舍の完備や奨学金の充実が不満の解消には役立っても、満足にならない。むしろ、教育の内容、日本人との深い交流が、日本人や日本社会との間に相互の共感や尊敬の念が生まれるという横田（1997）の発想が今後は必要であろう。また、経済

的な問題や友人作成の問題を抱え、大学での教育や研究に悩みを持っているのは留学生だけとは限らない。今後は日本人学生をも視野に入れた支援体制、サービスの提供、質のよい教育内容が求められる。「カネ」や「モノ」といった形ではなく<sup>注5)</sup>、「ヒト」を重視した支援が必要であろう。

留学生の家族帯同の問題も、留学生一般の問題と切り離して考えることはできない。留学生の家族帯同に対する一連の支援体制を整えることで、日本の留学生受入れ制度は欧米の留学生受入れ大国を凌ぎ、留学生家族支援のモデルとなることができるであろう。

最後に、本調査の質問紙作成・配布にあたって協力していただいた前神戸大学留学生センター長宗像正幸先生、留学生センター教授瀬口郁子先生、留学生課専門職員石岡喜久子さんに感謝いたします。また、予備調査と本調査の質問紙の翻訳ならびにバックトランスレーションにあたっては、神戸大学総合人間科学研究科所属の葛金龍さん、金眞映さん、白海燕さん、劉潜さん、神戸大学総合人間科学研究科修了生の夏晴さん、鄧宝慧さん、カリフォルニア大学ロサンゼルス校所属のクリスティン・ミチコ・ナカニシさんにご協力いただきました。ここに感謝してその意を表します。そして、予備調査及び本調査において質問紙、面接にご協力くださいました留学生、配偶者のみなさんに深謝いたします。

## 第6章 注

- 1) 神戸大学の場合、このような相談は留学生センターの留学生アドバイザーが個別に引き受けている。
- 2) 大橋（1997）の調査によると、私立大学では家族用の部屋を持つ留学生寮は存在しなかった。
- 3) 学生の身分の配偶者は、母国にいたときより3倍に増えていた（大橋, 1997）。
- 4) 財団法人日本国際教育協会ホームページ (<http://www.aiej.or.jp>) より
- 5) 横田（1988）は、日本人の留学生に対する援助について調査を行ない、留学生が物的援助を受けることによって、個人の自由や意志の尊重が脅かされる可能性があるという結果を導きだしている。



## 参考文献

## 参考文献

### 論文・研究書・一般書

- Adler, N. J. (1984) Women do not want international careers: And other myths about international management. *Organizational Dynamics*, 13, 66-79
- Adler, P.S. (1975) The Transitional Experience: An Alternative View of Culture Shock. *Journal of humanistic Psychology*, 15(4), 13-23
- 浅野慎一 (1997)『日本で学ぶアジア系外国人－研修生・留学生・就学生の生活と文化変容－』, 大学教育出版
- Ashamalla, R. (1994) *The Cultural Adaptation of International Student Families: What Can Be Done to Help Spouses and Children?* NAFSA Working paper 45
- Black, J.S. (1988) Work Role Transitions: A Study of American Expatriate Managers in Japan. *Journal of International Business studies*, 19, 277-294
- Black, J.S. & Gregersen, H.B. (1991) The other half of the picture: Antecedent of spouse cross-cultural adjustment. *Journal of international business studies*, Third Quarter, 461-477
- ブラック J.S.・グレガーゼン H.B.・メンデンホール M.E.・ストロー L.K. (2001)『海外派遣とグローバルビジネス－異文化マネジメント戦略－』, 白木三秀・永井裕久・梅澤隆監訳, 白桃書房
- Black, J.S. & Mendenhall, M. (1991) The U-Curve Adjustment Hypothesis Revisited: A Review and Theoretical Framework, *Journal of International Business Studies*, Second Quarter, 225-247
- Black, J.S. & Stephens, G.K. (1989) The Influence of the Spouse on American Expatriate Adjustment and Intent to Stay in Pacific Rim Overseas Assignments. *Journal of Management*, 529-544
- Bochner, S., Hutnik, N. & Furnham, A. (1985) The friendship patterns of overseas and host students in an Oxford student residence. *Journal of Social Psychology*, 125(6), 689-694
- Bower, E.M. (1967) American Children and Families in Overseas Communities. *American Journal of Orthopsychiatry*, 37, 787-796
- Brett, J. M. & Stroh, L. K. (1995) Willingness to relocate internationally. *Human Resource Management*, 34(3), 405-424
- Brett, J. M., Stroh, L. K. & Reilly, A. H. (1993) Pulling up roots in the 1990s: Who's willing to relocate?. *Journal of organizational behavior*, 14, 49-60
- Brislin, R.W. (1981) *Cross cultural encounters. Face to face interaction*. Oxford: Pergamon Press.
- Caligiuri, P. M. (2000) The big five personality characteristics as predictors of expatriate's desire to terminate the assignment and supervisor-rated performance. *Personnel psychology*, 53, 67-88
- Caligiuri, P. M., Hyland, M. A. & Joshi, A. (1998) Testing a theoretical model for examining the relationship between family adjustment and expatriates' work adjustment. *Journal of Applied Psychology*, 598-614

## 参考文献

- Cheal, D. (2002) *Sociology of Family Life*. Palgrave
- 江淵一公 (1991) 「留学生受入れの政策と理念に関する一考察—主要国における政策動向の比較分析から—」, 『大学論集』, 広島大学大学教育研究センター, 20, 33-68
- 江淵一公 (1997) 『大学国際化の研究』, 玉川大学出版部
- Furnham, A. & Alibhai, N. (1985) The friendship networks of foreign students. *International Journal of Psychology*, 20, 709-722
- Furnham, A. & Bochner, S. (1986) *Culture Shock: Psychological reactions to unfamiliar environments*. London; Methuen.
- 権藤与志夫・白土悟 (1988) 「外国人留学生の学習と生活に関する諸問題—九州地区国・公・私立大学における質問紙調査報告—」, 『九州大学比較教育文化研究施設紀要』, 39, 50-82
- 羽田積男 (1997) 「米国経済を下支えする 45 万留学生」, 『Ronza』, 54-57
- 萩原滋 (1991) 「日本留学に対する在日および帰国留学生の評価」, 『異文化間教育』, 5, 35-48
- Hamed, S.A. (1985) *An Analysis of Support Resources Used to Help Solve the Problems Faced by Egyptian Students and Their Families in the United States*. Unpublished dissertation
- Harvey, M. (1985) The Executive Family: An overlooked variable in international assignment. *Columbia journal of world business*, 19, 84-93
- Harvey, M. (1996) Addressing the dual-career expatriation dilemma. *Human resource planning*, 19, 18-39
- Harvey, M. & Buckley, M.R. (1998) The process for developing an international program for dual-career couples. *Human resource management review*, 8(1), 99-123
- 平野健一郎 (1994) 「留学生の受入れは大学教育に何をもたらしたか」, 『現代のエスプリ: 異文化接触と日本人』, 322, 至文堂, 50-57
- 稲村博 (1980) 『日本人の海外不適應』, NHK ブックス
- 井下理 (1991) 「地域社会の国際化」, 高橋順一・中山治・御堂岡潔・渡辺文夫編『異文化へのストラテジー』, 川島書店, 93-102
- 井上孝代・谷和明・土屋順一(1997) 「国費学部留学生の中途退学の実態」, 井上孝代編著, 『留学生の発達援助—不適應の実態と対応—』, 多賀出版, 13-28
- 井上孝代 (2001) 『留学生の異文化間心理学—文化受容と援助の視点から』, 玉川大学出版部
- 井上雍雄 (1994) 『教育交流論序説』, 玉川大学出版部
- 伊藤武彦 (1997) 「偏見と差別の心理と留学生への対応」, 井上孝代編著, 『留学生の発達援助—不適應の実態と対応—』, 多賀出版, 95-107
- 石井敏・久米昭元・遠山淳・平井一弘・松本茂・御堂岡潔 (1997) 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』, 有斐閣
- 岩男寿美子・萩原滋 (1987) 『留学生が見た日本』, サイマル出版会
- 岩男寿美子・萩原滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析』, 勁草書房
- 岩崎信彦・ピーチ C・宮島喬・グッドマン R・油井清光編 (2003) 『海外における日本人、日

## 参考文献

- 本のなかの外国人—グローバルな移民流動とエスノスケープ』, 昭和堂
- 石附実 (1989) 『日本の対外教育—国際化と留学生教育』, 東信堂
- 加賀美常美代 (1994) 「異文化接触における不満の決定因—中国人の就学生の場合—」, 『異文化間教育』, 8号, 117-126
- Kagan, H. & Cohen, J. (1990) Cultural adjustment of international students. *Psychological Science*, 1, 133-137
- 金子養正 (1988) 「企業の海外人事と海外駐在員の適応・国際的態度の変容」, 『流通経済大学論集』, 22, 27-47
- 塘添敏文 (1993) 「外国人留学生の生活実態と健康に関する研究」『亜細亜大学教養部紀要』, 47, 33-51
- 片岡弘勝 (1992) 「名古屋大学における外国人留学生受け入れの歴史に関する一考察—受け入れ数の推移と外国人留学生後援活動」, 『名古屋大学史紀要』, 3, 117-156
- 木村浩 (1991) 「イギリスの留学生政策—政策動向と受け入れの現状・課題」, 権藤与志夫編著, 『世界の留学—現状と課題』, 東信堂, 251-267
- 北嘉昭・金城紀与史・大庭祐二・田村純人・佐藤隆美 (2001) 「海外医学留学に伴う異文化ストレス」『現代のエスプリ』, 412, 至文堂, 46-56
- 喜多村和之 (1990) 『大学淘汰の時代』, 中公新書
- Klein, D. M. & White, J. M. (1996) *Family Theories*. SAGE Publications
- Klineberg, O. & Hull, W. F. (1979) *AT A FOREIGN UNIVERSITY An International Study of Adaptation and Coping*. Praeger Publishers
- 小林由美 (2001) 「海外駐在員の妻のメンタルヘルスについて—ソーシャルサポートの観点から—」, 上智大学臨床心理研究, 24, 155-164
- Konopaske, R. (2001) Determinants and moderating influences of U.S. and foreign national managers' willingness to assume a global assignment and spouses' willingness to relocate globally. Unpublished dissertation
- 倉地暁美 (1997) 「大学におけるカウンセリングと教育の融合—大学教員と外国人留学生との関わり」, 『大学論集』 26, 広島大学教育研究センター, 131-148
- Lee, M.Y. (1981) Needs of Foreign Students from Developing Nations at U.S. Colleges and Universities. Washington, DC: NAFSA
- Lin, L. (1998) Chinese Graduate Students' Perception of Their Adjustment Experiences at the University of Pittsburgh. Unpublished dissertation
- Lysgaard, S. (1955) Adjustment in a foreign society: Norwegian Fulbright grantees visiting the United States, *International Social Science Bulletin*, 7, 45-51
- 丸井英二 (1994) 「留学生指導の理念と機能：サービス、教育、研究」, 『東京大学留学生センター紀要』, 4, 1-16
- 松浦まち子 (2000) 「今、留学生は何に困っているか」, 『留学交流』, 2000年12月号, 2-4, ぎ

## 参考文献

- ようせい
- Midlarsky, E. (1991) *Helping as coping*. In Clark, M.S. (Ed.) *Prosocial behavior*. Newbury Park, CA: Sage Publications, 238-264
- 箕浦康子 (1984) 『子供の異文化体験』, 思索社
- 水野治久・石隈利紀 (1998) 「アジア系留学生の被援助志向性と適応に関する研究」, 『カウンセリング研究』, 31, 1-9
- 水野治久・石隈利紀 (2000) 「アジア系留学生の専門的ヘルパーに対する被援助志向性と社会・心理学的変数の関連」, 『教育心理学研究』, 48, 165-173
- 水野治久・石隈利紀 (2001a) 「留学生のソーシャルサポートと適応に関する研究の動向と課題」, 『コミュニティ心理学研究』, 4(2), 132-143
- 水野治久・石隈利紀 (2001b) 「アジア系留学生の専門的ヘルパー、役割的ヘルパー、ボランティアヘルパーに対する被援助志向性と社会・心理学的変数の関連」, 『教育心理学研究』, 49, 137-145
- モイヤー康子 (1987) 「心理ストレスの要因と対処の仕方」, 『異文化間教育』, 1, 81-97
- Mubarak, A.H.A. (1999) *Adjustment problems, coping methods, and choice of helpers of international students attending a large Pennsylvania university*. Unpublished dissertation
- 森山日出夫 (1990) 「大学院における留学生問題—教育理念と成果について—」, 『九州大学留学生教育センター紀要』 2, 197-220
- 村田雅之 (1996) 「チューターの援助と仕事観」, 『飯山論叢』, 13(2), 東京工芸大学女子短期大学部, 49-76
- 村田雅之 (1999) 「インターフェースとしてのチューター」, 『異文化間教育』, 13, 120-131
- Murphy-Shigematsu, S. & Kosuge, N (1996) *University of Tokyo International Center International Student Advising Room Case Report*, 『東京大学留学生センター紀要』, 6, 111-130
- マーフィー重松 S・白土悟 (2001) 「留学生家族をいかに支援するか—国立大学の外国人留学生生及びその家族に関する調査報告—」, 『東京大学留学生センター紀要』, 11, 79-105
- 長濱一夫 (1994) 「海外赴任と家族の適応—異文化接触による意識変容を中心に—」, 『同朋大学論集』, 70, 63-84
- 永井裕久 (1994) 「海外派遣者の職務適応度—配偶者の異文化適応の役割について—」, 『情報科学研究』, 15, 69-83
- 永井裕久 (2001) 「第 5 章 異文化適応の促進要因」, 日本労働研究機構編, 『日本企業の海外派遣者 職業と生活の実態』 105-127,
- 中川典子 (2003) 「日本と韓国のビジネスマンの『自己開示』に関する比較調査」, 『異文化間教育』, 17, 62-77
- Oberg, K. (1960) *Cultural Shock: Adjustment to New Cultural Environments*, *Practical Anthropology*, 7, 177-182
- 岡益巳 (1992) 「中国人私費留学生に関する実態調査—岡山県の場合」, 『岡山大学産業経営研

## 参考文献

- 研究会報告書』, 27, 1-26
- 岡益巳・深田博己・周玉慧 (1996) 「中国人私費留学生の留学目的及び適応」, 『岡山大学経済学会雑誌』, 27(4), 25-49
- 岡崎正道 (1992) 「留学生教育の背景にある日本文化の特質と日本社会の閉鎖性」, 『岩手大学人文社会科学部紀要アルテス リベラレス』, 51, 11-26
- 大橋敏子 (1991) 「異文化オリエンテーションの課題—二つの実態調査から」, 『異文化間教育』, 5, 96-105
- 大橋敏子 (1997) 「外国人留学生の家族に関する調査」, 『異文化間教育』, 11, 156-164
- 大友信一 (1993) 「外国人留学生の受入れに伴い顕在化した問題点 (大学院一般に関わる諸問題と改革の方向)」 『J.U.A.A.内外大学関係情報資料』, 16, 34-45, 大学基準協会
- 小澤亘編 (2001) 『「ボランティア」の文化社会学』, 世界思想社
- Pellico, M. T. & Stroh, L. K. (1997) Spousal Assistance Programs: an integral component of the international assignment. In Aycan, Z. (Ed.) *New Approaches of Employee Management vol.4*, JAI Press Inc., 227-243,
- 関正昭 (1993) 「日本語教育の『禁領域』」, 『異文化間教育』, 7, 153-162
- Selvadurai, R. (1992) Problems Faced by International Students in American Colleges and Universities. *Community Review*, 12 (1-2), 27-32
- Schwartz, C.G & Kahne, M.J. (1993) Support for Student and Staff Wives in Social Transition in a University Setting. *International Journal of Intercultural Relations*, Vol.17, 451-463
- スコット, P. M. (1989) 「ソーシャル・サポート」, 中川米造・宗像恒次編, 医療・健康心理学, 福原出版, 200-232
- 白木三秀 (2001) 「海外派遣者の家族と生活」, 日本労働研究機構編, 『日本企業の海外派遣者職業と生活の実態』, 47-82, 日本労働研究機構
- 白土悟 (1991) 「日本の大学における留学生受け入れの現状と諸問題」, 権藤与志夫編著, 『世界の留学—現状と課題』, 東信堂, 301-316
- 白土悟 (1993a) 「大学における留学生指導体制の構築について」, 『九州大学比較教育文化研究施設紀要』, 45, 67-83
- 白土悟 (1993b) 「留学生家族の受け入れ体制について (1)」, 『九州大学留学生センター紀要』, 5, 197-211
- 白土悟・権藤与志夫 (1991) 「外国人留学生の教育・生活指導における現状と課題—大学教員及び事務職員層に対する質問紙調査報告—」, 『九州大学教育学部付属比較教育文化研究施設紀要』, 42, 97-119
- 荘司淑子 (2001) 『日本で暮らす外国人が困っていること—阪神間に在住する外国人の感じている困難と地域社会の対応—』, 神戸大学大学院総合人間科学研究科修士論文 (未公開)
- Stafford, T.H., Marion, P.B. & Salter, M.L. (1980) Adjustment of International Students. *NASPA*

## 参考文献

- Journal*, 18(1), 40-45.
- Stephens, G.K. & Black, J.S. (1991) The impact of spouse's career-orientation on managers during international transfers. *Journal of management studies*, 28(4), 417-428
- 栖原暁 (1996) 『アジア人留学生の壁』, 日本放送出版協会
- 鈴木康明 (1997) 「相談活動からみた不適應の諸相」, 井上孝代編著, 『留学生の発達援助—不適應の実態と対応—』, 多賀出版, 29-45
- 鈴木康明・井上孝代 (1995) 「異文化間カウンセリング」, 渡辺文夫編著, 『異文化接触の心理学』, 川島書店, 159-168
- 高木修 (1998) 『セレクション社会心理学-7 人を助ける心—援助行動の社会心理学—』, サイエンス社
- Takai, J. (1989) The adjustment of international students at a third culture-like academic community in Japan(1): a longitudinal study. *Human communication studies*, 113-120
- Takai, J. (1991) Host contact and cross-cultural adjustment of international students in Japan. 『大学論集』, 20, 広島大学大学教育研究センター, 195-228
- 高井次郎 (1994) 「日本人との交流と在日留学生の異文化適応」, 『異文化間教育』, 8, 106-116
- 高松里・白土悟 (1992) 「留学生カウンセリングの実際と課題」, 『九州大学留学生センター紀要』, 4, 187-207
- 田中宏 (1995) 『新版 在日外国人』, 岩波新書
- 田中圭子 (1996) 『中国人留学生の日本観と文化的背景—嫌日傾向から見た考察—』, 神戸大学大学院国際協力研究科修士論文 (未公刊)
- 田中共子 (1993) 「『留学生』相談の領域」, 『学生相談研究』, 14(2), 33-42
- 田中共子 (1996) 「日本人学生による留学生への援助的役割における異文化接触体験」, 『日本心理学会』, 第60回大会発表論文集, 23
- 田中共子 (1997) 「適応援助者への示唆」, 井上孝代編著, 『留学生の発達援助—不適應の実態と対応—』, 多賀出版, 113-133
- 田中共子 (1998) 「在日留学生の異文化適応: ソーシャル・サポート・ネットワーク研究の視点から」, 教育心理学年報, 37, 143-152
- 谷和明 (1997) 「留学生の受入れと国際化について」, 井上孝代編著, 『留学生の発達援助—不適應の実態と対応—』, 多賀出版, 71-93
- 田崎敦子 (1997) 「非英語圏出身の大学院留学生の英語力の現状と課題—アンケート調査から—」 『The language teacher』, JALT (全国語学教育学会), 27-29
- Tillman, M.J. (1990) Effective Support Services for International Students. *New Directions for Community Colleges*, 70, 87-98
- 寅野滋 (2000) 「留学生はどんな情報を求めているか—留学生相談室ホームページのアクセスログ分析結果」, 『東京大学留学生センター紀要』, 10, 123-146
- 坪井健 (1994) 『国際化時代の日本の学生』, 学文社

## 参考文献

- 坪井健 (1995) 『学生の国際交流とアジア青年文化の比較研究』, 文部省平成7年度科学研究費補助金(総合研究A) 研究成果報告書
- 塚原修一・牟田博光・山田達雄 (1985) 「大学院国際化に関する研究—外国人留学生受入れの現状と課題—」, 『広島大学大学教育研究センター 大学論集』, 14, 209-229
- 上原麻子 (1998) 「留学生の生活と教育」, 『国際化時代の教育』, 岩波講座現代の教育第11巻, 203-223
- 植田都 (1996) 「異文化で暮らす幼児とその母親」, 『乳幼児教育学研究』, 5, 73-83
- 馬越徹 (1998) 「アジアの変貌と日本人の国際化」, 『国際化時代の教育』, 岩波講座「現代の教育第11巻」, 167-184
- Verthelyi, R.F. (1995) International Students' Spouses: Invisible Sojourners in the Culture shock literature. *International Journal of Intercultural Relations*, 19(3), 387-411
- Verthelyi, R.F. (1996) Facilitating Cross-Cultural Adjustment: A Newsletter by and for International Students' Spouses. *Journal of College Student Development*, 37(6), 699-701
- Vogel, S. (1986) Toward Understanding the Adjustment Problems of Foreign Families in the College Community: The Case of Japanese Wives at the Harvard University Health Services. *Journal of American College Health*, 34(6), 274-279
- Ward, C., Bochner, S. & Furnham, A. (2001) *The psychology of Culture Shock*. Routledge
- 渡辺文夫 (2002) 『異文化と関わる心理学』, サイエンス社
- 渡部留美 (2000) 『日本の新聞社説における留学生像』, 神戸大学大学院総合人間科学研究科修士論文(未公刊)
- 渡部留美 (2001) 「東アジア間留学交流と日本の役割—日本・中国・韓国を中心に—」, 『鶴山論叢』, 創刊号, 45-58
- Watanabe, R. (2003) *Problems concerning Families of Foreign Students in Japan and Denmark*. unpublished paper submitted to the University of Aarhus
- 山本一男 (2000) 「留学生指導部門概況報告」, 『留学生教育』, 3, 埼玉大学留学生センター, 103-108
- 山本多喜司・ワップナー, S.編著 (1991) 『人生移行の発達心理学』, 北大路書房
- 山崎瑞紀 (1993) 「アジア系留学生の対日態度の形成要因に関する研究」, 『心理学研究』, 64(3), 215-223
- Ying, Y. & Liese, L.H. (1991) Emotional well-being of Taiwan students in the U.S.: An examination of pre-to post-arrival differential. *International Journal of Intercultural Relations*, 15, 345-366
- Ying, Y. & Liese, L.H. (1994) Initial adjustment of Taiwanese students of the United States: The impact of postarrival variables. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 25, 466-477
- 横田雅弘 (1988) 「日本人からの援助に対する留学生の否定的反応の分析」, 『一橋論叢』, 100(5), 45-63
- 横田雅弘 (1991a) 「自己開示からみた留学生と日本人学生の友人関係」, 『一橋論叢』, 105(5),

## 参考文献

57-75

- 横田雅弘 (1991b) 「留学生と日本人学生の親密化に関する研究」, 『異文化間教育』, 5, 81-97
- 横田雅弘 (1997) 「留学生の適応と教育」, 江淵一公編, 『異文化間教育研究入門』, 玉川大学出版部, 67-84
- 横田雅弘・田中共子 (1992) 「フレンドシップ・ネットワークー居住形態 (留学生会館・寮・アパート) による比較」, 『学生相談研究』, 13, 1-8
- 吉野耕作 (1998) 「グローバル化とナショナリズムー異文化間コミュニケーションをめぐってー」, 『国際化時代の教育』, 岩波講座「現代の教育第 11 巻」, 31-49

### 冊子

- 北海道大学国際婦人交流会 (2001) 『札幌のくらし第 4 版』, 北海道大学国際婦人交流会ハンドブック委員会
- 北海道大学国際婦人交流会 (2002) 『赤ちゃんと子どものさっぽろのくらし初版』, 北海道大学国際婦人交流会ハンドブック委員会
- KOKORO-Net in 神戸 (2002) 『KOKORO-NET と私 留学生家族の声』
- NAFSA (National Association for foreign Student Affairs) (1986) Programs for spouses of foreign students.
- 文部省学術国際局留学生課 (2000) 『我が国の留学生制度の概要 受入れ及び派遣 2000 年度版』

### 年鑑

『ユネスコ文化統計年鑑 1998』, 永井道雄監訳, 原書房

### ホームページ

文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) 2003 年 6 月 1 日現在

法務省 (<http://www.moj.go.jp/>) 2003 年 6 月 1 日現在

IIE, Institution of International Education (<http://www.iie.org/>) 2001 年 11 月 1 日現在



## 本調査 面接資料

## 本調査 面接資料

〔面接時期〕 2002年6月～7月、2003年3月、2003年5月

### 1 帯同留学生（配偶者は留学生）

〔対象者〕 A（東アジア出身・27歳・滞日期間2年3ヶ月・女性）

B（東アジア出身・27歳・滞日期間2年3ヶ月・女性）

C（東アジア出身・24歳・滞日期間2年2ヶ月・女性）

〔質問内容〕 宿舎の問題、配偶者、子供に関する問題、日本人との付き合い、他の留学生との付き合い、経済的問題等

### 2 帯同留学生（配偶者は非留学生）

〔対象者〕 D（ヨーロッパ出身・35歳・滞日期間6年5ヶ月・男性）

E（東南アジア出身・35歳・滞日期間13ヶ月・女性）

〔質問内容〕 宿舎の問題、配偶者、子供に関する問題、日本人との付き合い、他の留学生との付き合い、経済的問題等

### 3 配偶者

〔対象者〕 F（東アジア出身・28歳・滞日期間2年2ヶ月・女性）

G（東南アジア出身・30歳・滞日期間10ヶ月・女性）

H（ヨーロッパ出身・35歳・滞日期間5年11ヶ月・女性）

I（アフリカ出身・37歳・滞日期間8ヶ月・女性）

J（東南アジア出身・36歳・滞日期間7ヶ月・男性）

〔質問内容〕 日本語の習得、宿舎の問題、配偶者（留学生）、子供に関する問題、現在やりたいこと、日本人との付き合い、他の外国人との付き合い、経済的問題、日本で学んだこと、現在行なっている活動等

.....

### 対象者Aへの面接結果

母国でテレビ局のアナウンサーを1年、他の会社で1年働いていた。夫とは違う大学に通っている。

**来日理由：**夫が日本に留学するというので自分も一緒に行きたかった。大学でマスコミを勉強していたので日本でも勉強したかった。

**経済的問題：**初めは貯金を使っていたが、もうなくなってしまった。私は私立大学に通っ

## 本調査 面接資料

ているので授業料が高く、まだ前期分が払えておらず滞納している。夫の奨学金と私のアルバイトではぎりぎりの生活だ。来日して2年以上になるが、節約のため、まだ一度も帰省したことがない。往復の交通費を考えれば、1ヶ月の生活費になる。宿舎は2Kで家賃4万円のところに住んでいる。本当は、アルバイトをせずに、もっと勉強したい。留学生なのだから、できるだけ勉強したい。

**対人関係：**一番の理解者は、以前の指導教官だった。ゼミの日本人学生とも遊びに行ったりする。日本の文化や分からないことについて何でも教えてくれる。

### **対象者Bへの面接結果**

母国の大学で日本語を専攻していた。

**日本に来た理由：**夫（当時は結婚していなかった）が留学をするというので、自分も留学したいと思った。

**経済的問題：**去年は夫が、今年は私が奨学金をもらっている。これで何とかやっている。

**相談相手：**勉強についてはチューターに、生活面は夫に相談する。大学時代の友人が日本にいるし、中国ともチャットやインターネット電話で話す。ゼミの日本人は一人（チューター）で、一般の日本人の知り合いはいない。ホストファミリーの存在は知らない。

**子供：**日本に来てから妊娠・出産した。病院探しは他の留学生に聞いたり、自分で区役所に行って調べたりした。市の指定病院の市民病院を利用した。区役所の福祉の制度を利用している。今は母国の夫の実家に預けているが、早くこちらに引き取りたい。

**日本に来て変化した点：**色々な困難を得て強くなった気がする。

### **対象者Cへの面接結果**

夫とは違う大学に通い、法学研究科で勉強している。

**来日の過程：**夫と一緒に来日する予定だったが、私は研究生として受け入れてくれなかったために、結婚し、家族滞在ビザで半年遅れて来日した。その後、他の大学に入学。

**日本人との関係：**夫が半年前に、日本語のボランティアのおじさんと知り合った。以後遊びに行ったりしている。ホストファミリーのプログラムに参加し、ホストファミリーと食事をした。アルバイト先の若い人はいい人ばかり。日本のおばちゃんは嫌い。大学では日本人とは授業で会うくらい。終わったらすぐに帰りたい。同国人もいるが、皆忙しい。

### **対象者Dへの面接結果**

Dは元国費留学生で、博士課程を修了したあと、訪問研究者を1年し、その後現在まで助手を務めている。助手という立場は雑用が多いが、留学生のころに比べると、ストレス

## 本調査 面接資料

も少なく落ち着いている。留学生のときは、3年で修了しないといけないというプレッシャーがあった。

**家族からのサポート：**精神的なサポートは受けていた。料理も作ってくれた。自分は家事もできなかった。助手になった今は皿洗いを担当している。

**援助源：**問題があったら先輩の留学生に相談していた。国籍は関係ない。中国人、イラン人、ロシア人、ハンガリー人、インド人、韓国人。色々な有効なアドバイスをもらった。指導教官には相談しなかった。おそらく普通の日本人はサポートできない。専門以外の人にはサポートできない。異文化専門の心理学者や外国に住んでいた経験のある人なら私たちの抱えている問題が理解できると思う。

**宿舎：**一番の問題は家である。留学生で子供がいる人のための住むところは少ない。安いところも少ない。

### 対象者Eへの面接結果

理科系の博士一年生。家族は半年遅れで来日した。

**経済的問題：**奨学金（国費）は、家賃、食費、子供の教育費でなくなる。でもなんとかやっている。あと、数ヶ月で寮をでないといけないので、探さなければならないが、家族のための宿舎が少ないのが困る。

**子供について：**友達(他国人留学生)の子供は、インターナショナルスクールに行かせているが、日本の小学校で勉強させたかった。宿題が多くて、日本語能力不足もありたいへんだが、がんばっている。友達もたくさんいて、放課後は毎日遊びに出かける。日本語もそのうち上手になるだろう。

**家族と一緒にいること：**家族が一緒だから安心だ。家族が来るまでの6ヶ月間は、いつも何をしているか、と心配だった。子供の滞在については、外国語を勉強するという環境にあるし、いいことだと思う。

**家事について：**毎日実験しているので、帰宅は夜の9時ごろだ。家事はほとんど夫がやっているのを助かる。

**援助源：**研究については、チューターや指導教官に聞く。その他のことは、同国人の先輩留学生に聞いている。

### 対象者Fへの面接結果

母国にいるときは、中小企業の総務部で事務職についていた。結婚してから3ヵ月後に夫の留学に合わせて共に来日。その14ヵ月後に出産。現在は、家事、育児をしながら、時々アルバイトをしている。子供は1歳の男児。

**日本語の習得：**日本に来る1年前に学園（日本でいう塾のようなもの）で日本語を勉強し

## 本調査 面接資料

た。日本語能力試験の1級には合格済み。読み書きには不自由していない。

**宿舎：**来日前に夫の指導教官が面倒をみてくれた。大学の留学生寮（インターナショナル・レジデンス）の申し込みをしてくれてくれたので助かった。1年後、神戸市営の留学生寮の夫婦棟に引っ越した。その3ヵ月後に出産したので、すぐに現在の神戸市営の家族用の団地に入居した。現在の団地には夫婦のみは住めなかった。妊娠していてもまだ生まれていないということで、入居できなかった。だから3ヵ月間だけ神戸市営の留学生寮に住むことになってしまった。夫の母国での指導教官が、以前神戸大学に留学し、今の指導教官についていた。その関係で、宿舎等色々取り持ってくれた。ラッキーだった。

**経済的問題：**去年と今年は学習奨励費をもらっている。足りない分は、母国で貯めたお金を使っている。夫もたまにはアルバイトをしている。

**子供について：**夫は毎日大学へ行き、帰宅は遅い。家では、子供がいて勉強できないから。だから子育てはほとんど一人でやっている。子供は毎日外出しないと機嫌が悪いので、団地の前の公園に連れて行ったり、友人の家に遊びに行ったりしている。寝つきが悪く、今でも夜中に10回くらい起きる。私は寝られない。いつも子供と一緒になので、家事もゆっくりできない。プライベートな時間がない。新聞や本を読んでも邪魔をするのでゆっくり読めない。子供には母語で話し掛けるようにしているが、テレビや周りの環境が日本語なので、それも理解しているかもしれない。幼稚園に行くようになれば日本語も自然と覚えるだろう。

**援助源：**毎月3回、年配のサークルの人たちに母語を教えている。その間夫が子供の世話をしてくれている。いつも私が子育てでストレスが貯まっているので、気を使ってくれているようだ。また、近くに同国人の友達がいるので、おしゃべりでストレスを発散している。神戸国際コミュニティセンター（以下KICCと略記）で宿舎を探してもらうときお世話になった人とは、仲良くなって今でも月に一回くらい会っている。ココロネット（神戸大学留学生・研究者の家族のためのボランティア団体）の存在は大学の寮にいるときに知った。子供がいないときは興味がなかったが、今は子供を連れて毎回参加している。楽しい。着物を着せてもらったり、花見に行ったりした。今、隣に住んでいるインドネシア人留学生の家族とは仲良くやっている。奥さんは日本語がまだ話せず、意思疎通が難しいが、インドネシアの料理を作って持って来てくれたりしている。

**現在やりたいこと：**大学に通いたい。母国では、1年足らずでやめてしまったので、日本で勉強したい。日本語を専攻したい。神戸大学はセンター試験を受ける必要があるので、難しいと思う。私立大学も考えているが、授業料が高いと思う。

**ホームシックと適応：**寂しく、ホームシックになるときがある。帰国は年に1回くらい。母国の料理が恋しい。家でも母国料理を作るが、なかなかうまくできない。日本の母国料理屋の料理はおいしくない。今では納豆や味噌汁も時々食べる。食事の習慣も日本風に慣れてしまった。子供を保育園に行かせたいが、親が仕事か勉強をしなくてはならないから預けられない。母国だったら親や友人が見てくれるのに。

## 本調査 面接資料

### 対象者Gへの面接結果

母国にいるときは、銀行家 (Banker) であった。仕事をやめ、夫よりも1年遅れて来日。1歳半の女儿がいる。基本的に主婦だが、月に2回母国の民族舞踊をYMCAで教えている。

**日本語の習得：**日本に来る前に半年間、平仮名と片仮名を習った。先生が日本人でなかったということもあり、あまり上達しなかった。ココロネットによる日本語講座週1回、財)兵庫県国際交流協会(通称兵庫プラザ)による日本語講座週2回、KICC ボランティアプログラムによるマンツーマン日本語レッスンに通い、日本語を勉強している。

**宿舎：**同国人の友人が退去したので、その代わりに入居した。2Kで古い。

**経済的問題：**物価は高いが、文部科学省(夫は国費留学生)はその金額でやっていけるように考えていると思う。100円ショップだとか、安いスーパーもあるし。

**来日理由：**夫をサポートしたかった。夫は一人で寂しいだろうから。また、外国に行くことによって、自分が自立できると思った。

**援助源：**夫は論文で忙しく、家では勉強できないので、大学に遅くまでいる。朝9時から10時に出かけ、夜9時に戻ってくる。でも私が日本語のクラスがあるときは、早く帰ってきてくれる。洗濯や掃除の手伝いもしてくれる。ホストファミリーが母語ができる人なので、仲良くやっている。ココロネットのスタッフも親切にしてくれる。ココロネットの活動を通して知り合いができる。楽しい。いいと思う。助けになる。会合の場所も車で連れて行ってくれるので助かる。また、同国人の友人がたくさんいる。

**適応：**最初のほうは、適応ができなかった。子供がいるし、仕事にも行けなかった。住んでいる所が狭く、上に住んでいるおじさんとトラブルが多かった。どうも子供が走り回り、音を立てるので、それが気に入らなかったようだ。しかし、その人は直接私に何も言わず、大家に言ったり、上から床を叩いたりされた。あるときは、干している洗濯物に水をかけられた。そのときは、おじさんの部屋まで行って、抗議しようとしたが出てきてくれなかった。でも、原因が分かって、話し合ってから、問題はなくなった。日本で生活するための工夫は、いつも楽しくするように心がけることである。これまで海外で生活した経験を生かして異文化に接している。楽しんで日本語や日本文化を学んでいる。

**海外生活経験：**父親が大使館で働いていたので、小さい頃からパキスタン、マレーシア等に滞在したことがある。その他旅行で色々な国に行った。母親が海外で生活するにあたって、多くのことを教えてくれた。

**日本で生活して変化した点：**母国では、メイドを雇い、料理や洗濯は全てやってもらっていた。バスや車にも良く乗っていたが、日本ではよく歩くようになり、平気になった。料理もできるようになった。

### 対象者Hへの面接結果

滞日期間は6年近くであり、配偶者の中では長いほうである。配偶者である夫より半年

## 本調査 面接資料

遅れて子供を伴って来日。夫は 2 年前に博士課程を修了し、現在は助手を務めている。面接では、夫が留学生の時を振り返ってもらい、話を聞いた。

**日本語の習得：**ココロネットを 1 年間と宿舎の近くの小学校で行なわれていた児童の母親によるボランティアの日本語講座に通った。日本人の友達がほしかったから。日本人と交流したり話をしたかった。また日本社会に入るため。日本語ができないと不便だから。

**宿舎：**神戸市営の留学生寮で過ごした。最初の面接では不合格だったが、2 週間後電話がかかってきて「空いている」と言われた。よく分からないけど、ラッキーだった。

**来日理由：**日本に来る前に既に結婚しており、もし日本滞在が 1 年程度だったら行かなかっただろうけど、5,6 年は長いので一緒に行きたかった。

**援助源：**日本に来てからは、ほとんど子供と 2 人きりで暮らしており、主人も大学で遅くまで残っていたので、ストレスを感じることは多かった。母国では、両親と住んでいたのでもいつも周りに誰かがいた。また、母国では男性は 6 時までに帰宅するが、日本では 7 時に家に着くのも大変。当時住んでいたアパートでは、同じ文化圏の友人が近所にいたので、会って話をしたりしてストレスを発散させていた。日本人からのサポートは受けなかった。

**出産：**出産については、日本の水準も知っていたし、補助金が出るということも知っていたが、母国で出産したかった（母国では無料）。何故ならば、出産後が大変だから。日本では主人も忙しいし、母国だと母もいて手伝ってくれるので。

**子供：**子供は、日本と母国合わせて 4 つの幼稚園に通った。

**アルバイト：**一度アルバイトをしようと思ったことがある。でもだめだった。ヨーロッパの顔をした人は仕事が限られている。英語の先生とかしかかない。中国人ならたくさんあるだろう。もしスーパーなんかでレジ打ちをしたら、お客さんがびっくりするだろうから雇ってもらえない。

### 対象者 I への面接結果

対象者 I の夫は、課程修了後 (post doctor) の身分である。家族一緒に来日した。

**日本語の習得：**ココロネットで週 1 回勉強している。

**来日理由：**家族は一緒にいるのがいい。子供のためにも親が両方いたほうがいいだろう。2 年も離れるのは、子供にとってよくない。

**海外経験：**以前 2 年間夫の留学でイギリスにいたことがある。イギリスでの経験のおかげで日本の生活はそれほど重くは感じない。慣れているせいだ。

**子供：**4 人の子供 (11,10,7,6 歳) の子供は同じ小学校に通っている。皆友達もできて仲良くやっている。帰りたくないといっているほどだ。日本語は上手だ。ただ、母国との教育が異なるので、帰ったときが心配。

**ホームシックと適応：**子供の小学校のお母さんたちとは言葉が通じない。今住んでいる家は坂がきつい。でも引越しは大変なのでしたくない。辛抱する。今は少しホームシックだ。

## 本調査 面接資料

日本は便利だが、社会システムが母国のものと異なるので理解が大変。医者に行くのも大変だ。日本語も絶対必要だと思う。でもこれほどこの国に行っても同じこと。皆苦勞する。

**アルバイト：**できればしたい。法学が専門なのでその知識を使った仕事がしたい。でも日本では無理だろう。日本語もできないし。週 1 回でもあれば気晴らしになるのだが。いつも同じじゃつまらない。

**援助源：**困ったときは大家さん（女性）に相談している。家の下に住んでいるので。

### 対象者 J への面接結果

配偶者は、国費留学生で、理科系の博士課程に在籍している。子供は小学 4 年生。

**日本語の習得：**日本に来てから日本語を習い始めた。ココロネットで週一回、兵庫プラザで週二回通い、KICC のマンツーマンのレッスン（6 ヶ月間のコース）を不定期で行なっている。日本に長い間いるので、日本語が必要だと思う。日本語を習得して仕事を探したい。1 年間は日本語習得に集中する予定。始めは文字を覚えるのが難しかったが、今は面白い。

**来日理由：**母国では、子供にとって、母親がそばにいることが必要であるという考えがある。妻は長い期間日本にいたので、家族が一緒のほうがいいと思った。

**子供：**日本の学校教育は、母国と異なる。給食の準備や掃除等、自分でしなければならないことや、物（アクセサリ等）を持ってきてはいけない等の規則が色々あることは平等でいいと思う。

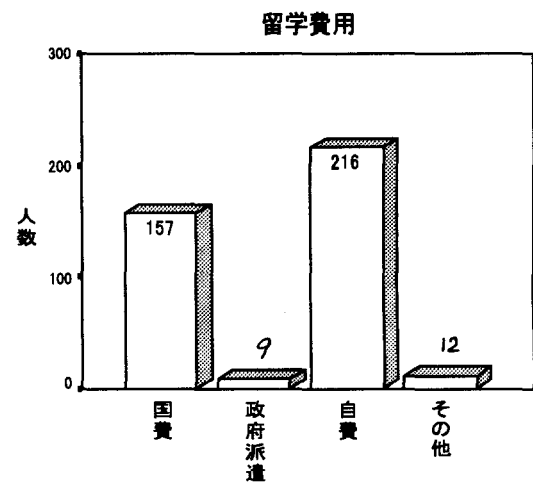
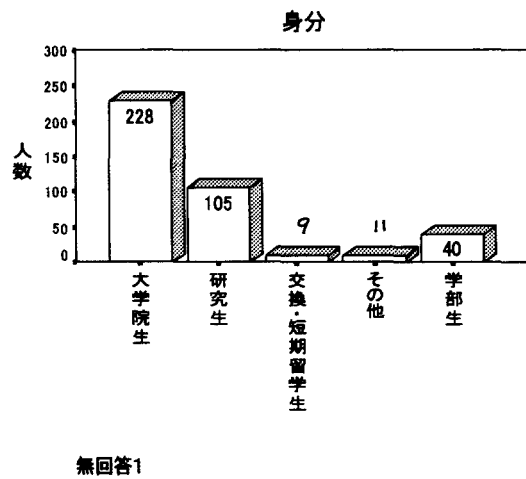
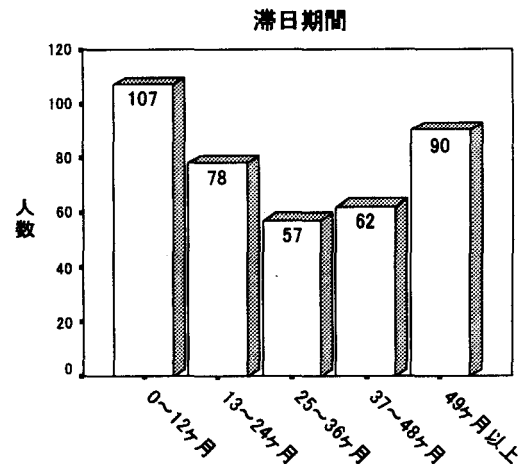
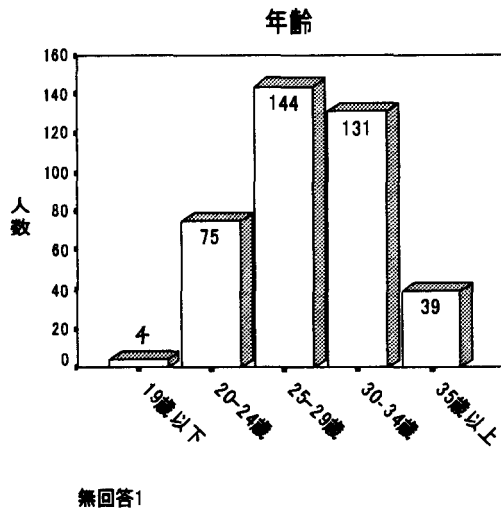
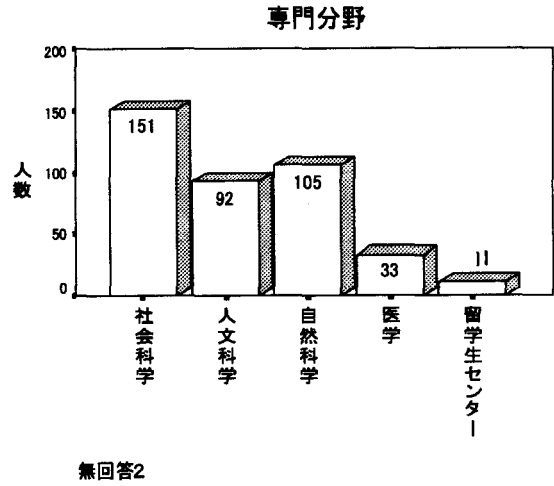
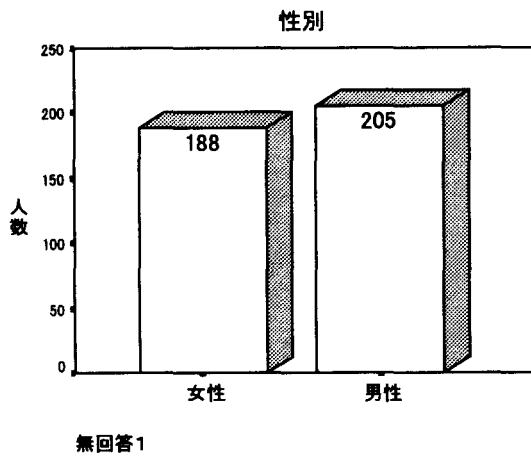
**日本人との関係：**先月、鹿児島へホームステイに 2 週間行ってきた。もう少し日本語が話せればたくさんの人と交流できたのだが。

**援助源：**日本人の友人はいない。日本語の先生だけ。あとは、日本語のクラスの人だけ。困ったことは、日本人に相談したいけど、日本語ができないので、聞きにくい。仲のいい日本人がいないので、気軽に聞けない。問題があったらすぐに解決したいので、手っ取り早く、同国の留学生に聞く。日本人の親友はほしい。ココロネットには参加しているが、2 週間に 1 回なので、もっと回数を多くしてほしい。また、参加しても人数が多くて、あまり話をする機会がない。

**家事について：**掃除、洗濯、料理、ほとんど自分がやっている。負担はない。母国にいたころにも、家事はやったことがある。日本に来る前までは、忙しい仕事をしていたので、メイドを雇っていた。掃除、洗濯、子供の世話、全部やってもらっていた。日本に来たときは、久しぶりだったし、日本語が分からなかったので大変だったが、今はもう慣れた。

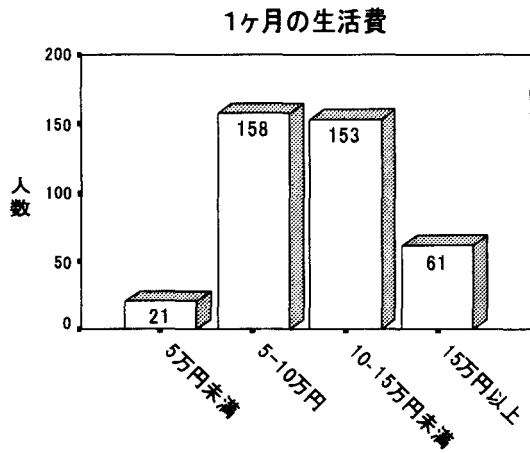
# 回答者のデータ

## 回答者（留学生全体）のデータ

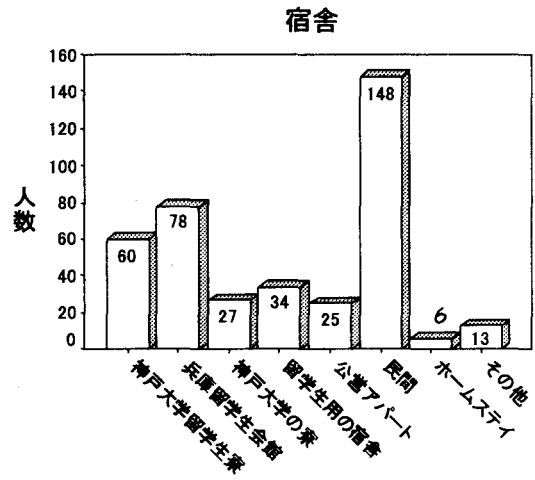




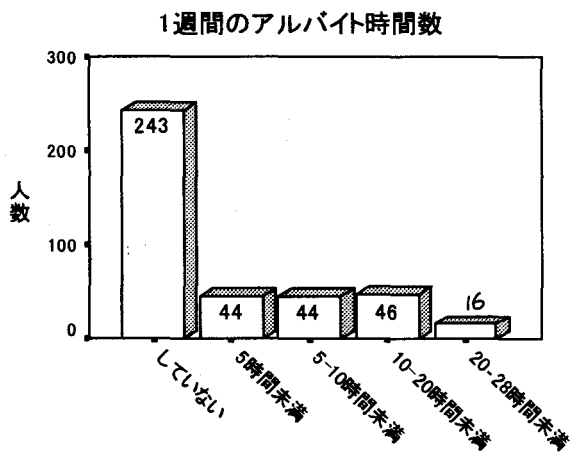
## 回答者のデータ



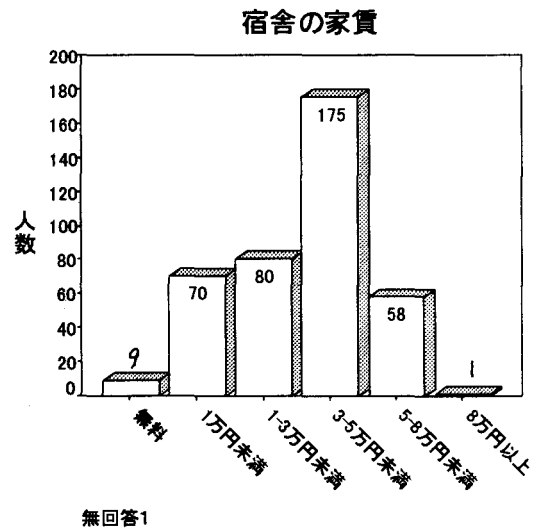
無回答1



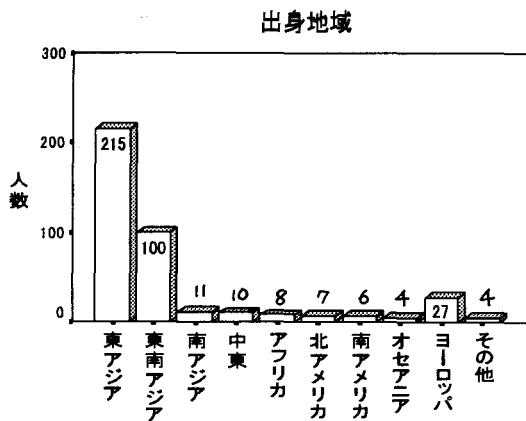
無回答3



無回答1



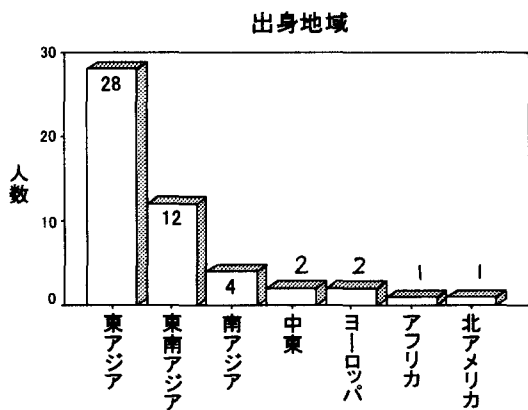
無回答1



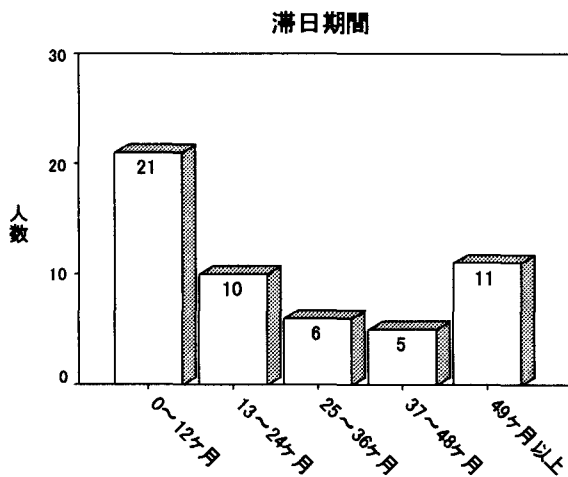
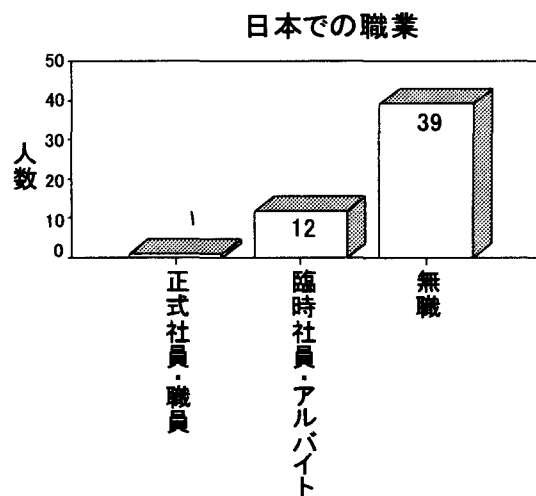
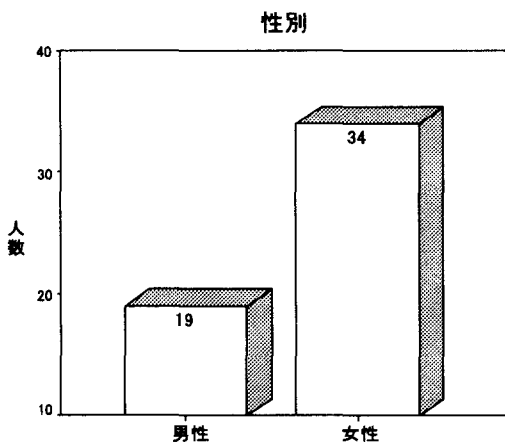
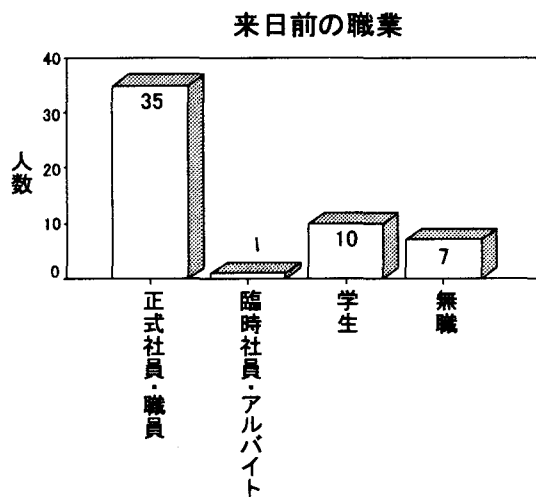
無回答2

回答者のデータ

回答者（配偶者）のデータ



不明3名



無回答1

## 留学生生活状況調査

留学生と配偶者の皆さんへ

この調査は、留学生と留学生の家族の日本での生活状況についてお尋ねするものです。皆さんのご協力は留学生の生活状況の貴重なデータとなります。今後の本学の留学生サービスを改善するためにフルに活用したいと思います。PART ONE は全ての留学生が回答して下さい。PART TWO は既婚者で配偶者（夫/妻）が日本にいる留学生のみ回答して下さい。PART THREE は PART TWO で回答していただいた留学生の配偶者（ただし留学生の身分の配偶者は回答する必要はありません）が回答して下さい。結果は、統計的に処理し、あなた一人の回答のみを問題にしたり、公表したりすることはありませんので、ご協力いただければ幸いです。

お手数ですが、回答後、12月14日（金）までに、あなたが所属している学部・研究科等の留学生担当掛に提出していただきますようお願い申し上げます。ご協力をよろしくお願いいたします。

英語・韓国語・中国語・日本語の4種類のアンケート用紙が準備されています。全て同一内容ですので最も記入しやすいものを選んで下さい。

調査実施責任者： 神戸大学国際文化学部教授 宇津木 成介

調査実施協力者： 神戸大学留学生センター長 宗像 正幸

なお調査についてのご質問は

渡部留美（Tel：078-803-7647 e-mail:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp） にお願ひします。

### Questionnaire: The lives of Kobe University International Student

Dear Foreign Student and spouse,

This questionnaire is designed to gather information on life in Japan for an International Student and his/her spouse. Your cooperation in completing this questionnaire will assist us in compiling a comprehensive profile of the problems International Students and their spouses' face.

PART ONE should be completed by all International Students. PART TWO should be filled out by those International Students who are married and his/her spouse resides in Japan. PART THREE should only be filled out by the International Student's spouse. If the spouse is an International Student as well there is no need to fill out PART THREE. Your responses will only be used for research purposes and will be held in strict confidence.

After completing this questionnaire, please turn it into the office (Ryugakusei-Tantou-Gakari) of the faculty or department that you currently belong to. The deadline is Friday, December 14<sup>th</sup>.

There are four versions of questionnaire; Chinese, English, Japanese and a Korean version. They are all the same. Choose the one that is most convenient for you.

EXAMINER :

Dr. Narisuke Utsuki Professor at Faculty of Cross-Cultural Studies at KOBE University

COOPERATOR :

Dr. Masayuki Munakata Director of the International Student center at Kobe University

Important: If you have a Question about this questionnaire, please contact to

Ms. Watanabe(Tel:078-803-7647, e-mail:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp)

# アンケート

## 回答する前に読んで下さい

1. PART ONE は、全ての留学生が回答して下さい。
2. PART TWO は、既婚者で配偶者（夫/妻）が日本にいる留学生のみ回答して下さい。  
PART THREE は、配偶者（ただし留学生の身分の配偶者は回答する必要はありません）が回答して下さい。
3. これは全留学生を対象としたアンケートです。あなたの配偶者が神戸大学の学生であって、このアンケートが配布されている場合でもそれぞれの用紙に必ず回答して下さい。
4. 各項目について、右側にある四角の回答欄に記入して下さい。
5. 特に記述がないところは各質問に対し、1つ選んで回答して下さい。
6. 「その他」の場合は、下線部にお書き下さい。

## 回答例

例1. あなたが現在所属している大学はどの国にありますか。

例1

- (A) 日本      (B) アメリカ合衆国      (C) ロシア

A
---

⇒あなたは今日本の大学に所属しています。従って、右側の回答欄にはAと記入して下さい。

## PART ONE (全ての留学生への質問)

あなた自身のことについてお聞きします。

- |         |   |   |   |
|---------|---|---|---|
| 1. 出身地域 | (A) 東アジア      (B) 東南アジア      (C) 南アジア      (D) 中東<br>(E) アフリカ      (F) 北アメリカ      (G) 南アメリカ<br>(H) オセアニア      (I) ヨーロッパ      (J) その他_____   | 1 | <input style="width: 80px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 性別   | (A) 女      (B) 男  | 2 | <input style="width: 80px; height: 30px;" type="text"/> |
| 3. 年齢   | (A) 19歳以下      (B) 20-24歳      (C) 25-29歳<br>(D) 30-34歳      (E) 35歳以上  | 3 | <input style="width: 80px; height: 30px;" type="text"/> |
| 4. 身分   | (A) 学部生      (B) 大学院生      (C) 研究生<br>(D) 交換留学生・短期留学生 (学位取得を目的としない)<br>(E) その他_____   | 4 | <input style="width: 80px; height: 30px;" type="text"/> |
| 5. 所属   | (A) 経済学研究科      (B) 経営学研究科      (C) 医学系研究科<br>(D) 文学研究科      (E) 総合人間科学研究科      (F) 法学研究科<br>(G) 文化学研究科      (H) 自然科学研究科      (I) 国際協力研究科<br>(J) 文学部      (K) 国際文化学部      (L) 発達科学部<br>(M) 法学部      (N) 経済学部      (O) 経営学部<br>(P) 理学部      (Q) 医学部      (R) 工学部<br>(S) 農学部      (T) 留学生センター      (U) その他_____ | 5 | <input style="width: 80px; height: 30px;" type="text"/> |

6. 来日日 (数字を入れてください)

6  
西暦 年 月

7-1. 婚姻状況 (A) 独身 (B) 既婚

7-1

7-2. 「(B) 既婚」と回答した方にお聞きします。配偶者は、

(A) 現在同居している

(B) 今後日本に来て長期間(6ヶ月以上)同居する予定である

(C) 以前日本にいて長期間(6ヶ月以上)同居していた

(D) 日本に長期間(6ヶ月以上)同居したこともないし、する予定もない

7-2

8. あなたの日本語能力を3つの面について4段階で答えて下さい。

(1. 全く問題がない 2. ほとんど問題がない 3. やや問題がある 4. 非常に問題がある)

8-1 学業面(学習・研究上) . . . . . 8-1

8-2 対人面(教職員・日本人学生との会話) . . . . . 8-2

8-3 生活面(買い物等・地域での会話) . . . . . 8-3

<input type="text"/>
<input type="text"/>
<input type="text"/>

9. 留学費用についてお聞きします。

9-1. あなたの留学費用は

(A) 国費

(B) 政府派遣

(C) 自費

(D) その他 \_\_\_\_\_

9-1

9-2. 「(C) 自費」と回答した方にお聞きします。奨学金は受給していますか。

(A) 5万円未満

(B) 5-10万円未満

(C) 10-15万円未満

(D) 15万円以上

(E) もらっていない

9-2

10. 2001年度前期の授業料免除に申請した方にお聞きします。免除されましたか。

(A) 全額免除

(B) 半額免除

(C) 免除されなかった

10

11. 一ヶ月の生活費はだいたいいくらですか。

(A) 5万円未満

(B) 5-10万円未満

(C) 10-15万円未満

(D) 15万円以上

11

12. アルバイトはしていますか。

(A) していない

(B) 1週間に5時間未満

(C) 1週間に5-10時間未満

(D) 1週間に10-20時間未満

(E) 1週間に20-28時間未満

12

13. 健康保険についてお聞きします。

13-1. 現在健康保険に加入していますか。

- (A) はい (B) いいえ

13-1

13-2. 「(A) はい」と回答した方にお聞きします。それはどのような健康保険ですか。当てはまるもの全てお答え下さい。

- (A) 日本の国民健康保険  
(B) 自国の健康保険  
(C) その他 \_\_\_\_\_

13-2

13-3. 「(B) いいえ」と回答した方にお聞きします。加入していない理由で、当てはまるものにもいくつでもチェック (✓) を入れて下さい。

- (A) 保険料が高いから  
(B) 保険の加入方法が分からないから  
(C) 保険に加入できることを知らなかったから  
(D) 保険の存在を知らないから  
(E) 保険に入る必要がないと思うから  
(F) その他 \_\_\_\_\_

13-3

A	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>
D	<input type="checkbox"/>
E	<input type="checkbox"/>

14. 宿舎

- (A) 神戸大学インターナショナルレジデンス (大学の留学生寮)  
(B) 兵庫留学生会館 (AIEJ)  
(C) 神戸大学の寮 (住吉寮、女子寮等)  
(D) 留学生用に開放している宿舎 (会社等の社員用寮・市営アパート等)  
(E) 市や県の公営アパート  
(F) 民間のアパートまたは借家  
(G) ホームステイまたは間借り  
(H) その他 \_\_\_\_\_

14

15. 現在住んでいる宿舎の家賃はいくらですか。

- (A) 無料 (B) 1万円未満 (C) 1-3万円未満  
(D) 3-5万円未満 (E) 5-8万円未満 (F) 8万円以上

15

16. 引越しについてお聞きします。

16-1. 日本に来てから何回引越しをしましたか。

16-1

 回

16-2. 引越しをした方は、その理由として当てはまるものにもいくつでもチェック (✓) を入れて下さい。

- (A) 宿舎の入居期間に期限があった  
(B) 家賃が高かった  
(C) 狭かった  
(D) 遠かった  
(E) 子供の教育環境のため  
(F) 家族が増えた  
(G) 治安に不安があった  
(H) その他 \_\_\_\_\_

16-2

A	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>
D	<input type="checkbox"/>
E	<input type="checkbox"/>
F	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>

17. 日本に滞在している間、どれくらいの頻度で帰国していますか、またする予定ですか。

- (A) 月に一回くらい
- (B) 半年に一回くらい
- (C) 年に一回くらい
- (D) 2年に一回あるいはそれ以下
- (E) 決まっていない
- (F) 帰国したことない、する予定はない

17

.....  
大学内のサービスや皆さんのニーズについてお聞きします。

18-1. 神戸大学内で留学生向けのオリエンテーションに参加したことがありますか。

- (A) 5回以上
- (B) 4回
- (C) 3回
- (D) 2回
- (E) 1回
- (F) 参加したことはない

18-1

18-2. 参加したことがある方にお聞きします。それらは役に立ちましたか。

- (1) 約100%役に立った
- (2) 約80%役に立った
- (3) 約50%役に立った
- (4) 約30%役に立った
- (5) 全く役に立たなかった

18-2

19-1. 神戸大学留学生センターを利用していますか。

- (1) よく利用する
- (2) 時々利用する
- (3) あまり利用しない
- (4) 全く利用しない
- (5) 留学生センターの存在を知らなかった

19-1

19-2. 「(1)よく利用する」「(2)時々利用する」と回答した方にお聞きします。どのような時に利用していますか。主なものを優先度の高い順に2つまで選んで下さい。

- (A) 日本語の授業を受けるため
- (B) 奨学金の情報を得るため
- (C) 相談・カウンセリングのため
- (D) コンピュータルームを使用するため
- (E) 図書を利用するため
- (F) 交流活動の情報を得るため
- (G) 交流活動に参加するため
- (H) その他 \_\_\_\_\_

19-2

1位

2位

20. 神戸大学留学生センターに望むものは何ですか。主なものを優先度の高い順に3つまで選んで下さい。

- (A) 外国語のできるスタッフ
- (B) スタッフの丁寧な対応
- (C) 相談・カウンセリングシステムの改善
- (D) 留学生センター内での定期的交流活動の実施
- (E) 自由に利用できる空間の開放
- (F) コンピュータ数の増加
- (G) ホームページの充実
- (H) 情報（アルバイト・就職・交流活動等）の提供の充実
- (I) 日本語クラスの充実
- (J) チューターの紹介
- (K) 留学生会の設置
- (L) 留学交流関係の図書の実充
- (M) その他 \_\_\_\_\_

20

1位

2位

3位

21. あなたは、日本にいる留学生にとって、以下の項目に関する情報がどの程度重要だと思いますか。5段階で回答して下さい。

1. とても重要である    2. まあまあ重要である    3. どちらでもない    4. あまり重要ではない    5. 全く重要ではない

21

- (A) 宿舎
- (B) アルバイト
- (C) 奨学金
- (D) 入管業務手続
- (E) 大学のシステム
- (F) ホストファミリー
- (G) 学内の交流活動
- (H) 学外の交流活動
- (I) 日本での就職
- (J) 日本文化
- (K) その他 \_\_\_\_\_

(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
(G)
(H)
(I)
(J)



22. あなたは日本で生活してどんなことで困っていますか。来日直後と現在の両方を、4段階で回答して下さい。

- (1. 全く困っていない    2. あまり困っていない    3. やや困っている    4. 非常に困っている)

	来日直後	現在
例) 日本語でのコミュニケーション.....	3	1

22

	来日直後	現在
(1) 日本語での講義.....1a		1b
(2) 学位を取る.....2a		2b
(3) 指導教官とのコミュニケーション.....3a		3b
(4) 同国人留学生とのコミュニケーション.....4a		4b
(5) 他国人留学生とのコミュニケーション.....5a		5b
(6) 日本人学生とのコミュニケーション.....6a		6b
(7) 日本語能力不足.....7a		7b
(8) 日本語学習の機会の欠如.....8a		8b
(9) 日本人の友人を作ること.....9a		9b
(10) 親しい同性の友人がいないこと.....10a		10b
(11) 親しい異性の友人がいないこと.....11a		11b
(12) 仕事の機会の欠如.....12a		12b
(13) 留学生のための援助システムの欠如.....13a		13b
(14) 宿舎を見つけること.....14a		14b
(15) 日本の社会制度や日本文化への適応.....15a		15b
(16) 母国と同様の生活習慣が取れないこと.....16a		16b
(17) 日本人から差別を受けること.....17a		17b
(18) キャリアを積めないこと.....18a		18b
(19) ホームシック.....19a		19b
(20) 何においても自信が持てないこと.....20a		20b
(21) 情緒的ストレス.....21a		21b
(22) 日本の食べ物.....22a		22b
(23) 健康問題.....23a		23b
(24) 栄養が偏りがちであること.....24a		24b
(25) 遊ぶ時間がないこと.....25a		25b
(26) 睡眠時間が少ないこと.....26a		26b
(27) 勉強をする時間がないこと.....27a		27b
(28) 財源が十分でないこと.....28a		28b
(29) 自分の国・文化について 理解してもらえないこと.....29a		29b
(30) その他 (お書き下さい)		

23. 日本での留学生活において、あなたが必要とするサービスを以下の4つのグループについてそれぞれ優先度の高い順に3つまで選んで下さい。

23-1. 学習・研究に関すること

- (A) 授業の取り方の指導
- (B) ノートの取り方の指導
- (C) 発表の仕方の指導
- (D) レジューメ作成の指導
- (E) 文献の集め方の指導
- (F) テストの受け方の指導
- (G) レポート・論文の書き方の指導
- (H) 優れたチューターの紹介
- (I) 日本語の補助
- (J) 日本語以外の外国語（英語等）の補助

23-1

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

23-2. 大学生活に関すること

- (A) 外国語でのキャンパス内の案内表示・キャンパスマップ等
- (B) 大学図書館の利用案内
- (C) 保健管理センターの利用案内
- (D) 食堂の利用案内
- (E) 買い物の仕方（キャンパス内）の指導
- (F) アルバイト情報（キャンパス内）の提供
- (G) サークルの紹介
- (H) 宗教的儀式（礼拝等）のための場所提供
- (I) カウンセリング
- (J) 他大学の情報の提供

23-2

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

23-3. 日常生活に関すること

- (A) 銀行・郵便局の利用案内
- (B) 買い物の仕方（キャンパス外）の指導
- (C) アルバイト情報（キャンパス外）の提供
- (D) 家事（料理・洗濯等）の方法のアドバイス
- (E) 宿舎探しの手伝い・情報提供
- (F) 病院・薬局の紹介
- (G) 交通手段の情報提供
- (H) 神戸の観光地についての情報
- (I) 国内旅行についての情報
- (J) 宗教的施設の紹介

23-3

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

23-4. その他

- (A) 留学生センターの利用案内
- (B) 留学生のためのイベント（旅行、バザー等）の情報提供
- (C) 留学生交流団体（キャンパス内）の紹介
- (D) 留学生交流団体（キャンパス外）の紹介
- (E) ホストファミリーの紹介
- (F) 外国人登録の方法
- (G) 国民健康保険の加入方法
- (H) ビザ・入国管理局についての情報提供
- (I) 留学生のための就職情報
- (J) 帰国後のアフターケア（同窓会組織等）

23-4

1位

2位

3位

24-1. 全体的に神戸大学における学生生活に満足していますか。

- (1) 大変満足している
- (2) ほぼ満足している
- (3) どちらでもない
- (4) あまり満足していない
- (5) 全く満足していない

24-1

24-2. 全体的に日本での生活に満足していますか。

- (1) 大変満足している
- (2) ほぼ満足している
- (3) どちらでもない
- (4) あまり満足していない
- (5) 全く満足していない

24-2

独身の方、既婚者で配偶者が日本にいない方は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

本調査結果を希望される方は、1年以内に結果をお知らせいたしますので、下記に送信先の住所とお名前をお書きいただくか、988f344f@yku.kobe-u.ac.jp（渡部留美）までお問い合わせください。

住所：

名前：

**PART TWO (配偶者が日本で同居している留学生への質問)**

25. 配偶者の国籍はどこですか。

- (A) 日本 (B) 日本以外

25

26. 配偶者の日本での職業は何ですか。

- (A) 正式社員 (職員) (B) 臨時社員 (職員) アルバイト (C) 学生 (D) なし

26

27. 子供と一緒に住んでいる方は、子供の人数を教えてください。(重要！ただし夫婦共が神戸大学の留学生の場合、妻のみがこの問いに回答して下さい。)

27

- |                |         |                      |   |
|----------------|---------|----------------------|---|
| (A) 中高生の子供の人数  | ..... A | <input type="text"/> | 人 |
| (B) 小学生の子供の人数  | ..... B | <input type="text"/> | 人 |
| (C) 幼稚園の子供の人数  | ..... C | <input type="text"/> | 人 |
| (D) 保育園の子供の人数  | ..... D | <input type="text"/> | 人 |
| (E) どこにも通っていない | ..... E | <input type="text"/> | 人 |

28. 日本に来た理由で、当てはまるものにいくつでもチェック (  ) を入れて下さい。

28

- |                      |         |                      |
|----------------------|---------|----------------------|
| (A) 日本に興味があったから      | ..... A | <input type="text"/> |
| (B) 日本で勉強したかったから     | ..... B | <input type="text"/> |
| (C) 子供の教育によいと思ったから   | ..... C | <input type="text"/> |
| (D) 配偶者と一緒にいるのは当然だから | ..... D | <input type="text"/> |
| (E) 金銭的に余裕があったから     | ..... E | <input type="text"/> |
| (F) その他              | .....   | <input type="text"/> |

29. 家事 (育児) についてお聞きします。

29-1. 来日後、あなたの家事 (育児) 負担は変化しましたか。

- (1) 非常に増えた  
 (2) 少し増えた  
 (3) 変化していない  
 (4) 少し減った  
 (5) 非常に減った

29-1

29-2. 来日後、あなたの目から見て配偶者の家事 (育児) 負担は変化しましたか。

- (1) 非常に増えた  
 (2) 少し増えた  
 (3) 変化していない  
 (4) 少し減った  
 (5) 非常に減った

29-2

30. あなたは、次の1-13の項目についてどの程度問題を感じますか。4段階で回答して下さい。  
 また、1-13の問題が起こったらまず始めに誰に相談しますか。下の口から一つ選び、AからSのアルファベットを書いて下さい。(問題がなければ相談相手を記入する必要はありません)

**\* 問題の程度 \***

- (1. 全く問題がない    2. あまり問題でない    3. 少し問題である    4. 非常に問題である)

**\* 相談相手 \***

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| A. 母国の家族          | K. 大学の職員        |
| B. 日本にいる家族        | L. 知り合いの日本人     |
| C. 日本人学生          | M. 日本人のホストファミリー |
| D. 同国の留学生         | N. 寮のアドバイザー     |
| E. 他国の留学生         | O. 日本の援助団体      |
| F. 同じ文化圏からの留学生    | P. 宗教家          |
| G. 留学生センターのアドバイザー | Q. 相談相手がいない     |
| H. 日本語の先生         | R. 誰にも相談しない     |
| I. 大学のカウンセラー      | S. その他 _____    |
| J. 指導教官           |                 |

	問題の程度	相談相手
例) 奨学金が少ない	( 3 )	1

	問題の程度	相談相手
(1) 日本にいる 家族と日本人との人間関係・・・( ) 1a		b
(2) 家族の日本語でのコミュニケーションに 関する問題・・・・・・・・・・・・( ) 2a		2b
(3) 配偶者の日常生活・・・・・・・・( ) 3a		3b
(4) 子供の日常生活・・・・・・・・( ) 4a		4b
(5) 日常生活の情報 (ゴミの出し方等)・・・・・・・・( ) 5a		5b
(6) 宿舎・・・・・・・・・・・・( ) 6a		6b
(7) 入院及び病気・・・・・・・・( ) 7a		7b
(8) 出産及び子供の世話・・・・・・・・( ) 8a		8b
(9) 子供の教育・・・・・・・・( ) 9a		9b
(10) 交通事故・・・・・・・・( ) 10a		10b
(11) 緊急事態・・・・・・・・( ) 11a		11b
(12) 文化の違い・・・・・・・・( ) 12a		12b
(13) 宗教の違い・・・・・・・・( ) 13a		13b
(14) その他問題を感じていることがあれば書いて下さい。		

31. あなたの配偶者についてお聞きします。

31-1. 妻/夫に対して必要だと思うサービスを優先度の高い順に5つまで選んで下さい。

(重要！あなたの配偶者が留学生の場合、回答しないで下さい)

- (A) 銀行・郵便局の利用案内
- (B) 買い物の仕方の指導
- (C) アルバイト情報の提供
- (D) 家事の方法のアドバイス
- (E) 宿舎探しの手伝い・情報提供
- (F) 病院・薬局の紹介
- (G) 交通手段の情報提供
- (H) 神戸の観光地についての情報
- (I) 国内旅行についての情報
- (J) 宗教的施設の紹介
- (K) 日本語学習のサービス
- (L) 日本語以外の学習・研究に対するサポート
- (M) 他の留学生家族との交流会
- (N) 日本人交流団体の紹介
- (O) カウンセリング
- (P) 子供の育児・教育についての情報

31-1

1位	□
2位	□
3位	□
4位	□
5位	□

32. あなたにとって日本で家族と同居する場合、良い点と問題点は何ですか。

当てはまるものにもいくつでもチェック (✓) を入れて下さい。

良い点

- (A) 家事（料理、洗濯等）に煩わされない・・・・・・・・
- (B) 孤独を感じない・・・・・・・・
- (C) 問題や成功を分かち合う人がいる・・・・・・・・
- (D) 一緒に出かける人がいる・・・・・・・・
- (E) 学業を励ましてくれる・・・・・・・・
- (F) 子供が活力を与えてくれる・・・・・・・・
- (G) 日本に滞在することが配偶者にとって有意義である・
- (H) 日本に滞在することが子供にとって有意義である・
- (I) その他（お書き下さい）

32-1

	a
	b
	c
	d
	e
	f
	g
	h

問題点

- (A) 忙しいのに家族に関わらなければならない負担・・
- (B) 経済的圧迫・・・・・・・・
- (C) 配偶者が幸せでない・・・・・・・・
- (D) 配偶者がホームシック・・・・・・・・
- (E) 配偶者の日本語能力が十分でない・・・・・・・・
- (F) 配偶者が日本のやり方に適応できない・・・・・・・・
- (G) 子供に関する心配・・・・・・・・
- (H) 子供の学校での問題・・・・・・・・
- (I) その他（お書き下さい）

32-2

	a
	b
	c
	d
	e
	f
	g
	h

33. 子供と一緒に住んでいる方にお聞きします。

33-1. 子供についてどのような問題を抱えていますか。主なものを問題の大きな順に3つまで選んで下さい。

- (A) 子供が日本語ばかり話し、コミュニケーションがとりにくい
- (B) 子供の日本語能力が不十分
- (C) 子供が学校・幼稚園・保育園等になじめない
- (D) 子供が授業についていけない
- (E) 子供に友達ができない
- (F) 子供がいじめられている(可能性がある)
- (G) その他\_\_\_\_\_

33-1

1位

2位

3位

33-2. 帰国後も子供には日本語を学び続けさせたいと思いますか。

- (A) はい
- (B) いいえ
- (C) 分からない

33-2

33-3. 将来、子供を日本の大学で学ばせたいですか。

- (A) はい
- (B) いいえ
- (C) 分からない

33-3

34. 全体として、あなたの家族が日本にいることによってどのような影響がありますか。  
学業面、経済面、情緒面のそれぞれについて回答して下さい。

- (1. 良い影響    2. どちらかといえばよい影響    3. どちらかといえば悪い影響    4. 悪い影響)

34-1. 学業面 . . . . . 34-1

34-2. 経済面 . . . . . 34-2

34-3. 情緒面 . . . . . 34-3

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

本調査結果を希望される方は、1年以内に結果をお知らせいたしますので、下記に送信先の住所とお名前をお書きいただくか、988f344f@yku.kobe-u.ac.jp (渡部留美)までお問い合わせください。

住所:

名前:

**PART THREE (配偶者への質問)**

35. あなたの出身地についてお聞きします。

- (A) 妻/夫と同じ (B) 日本 (C) それ以外

35

36. 来日日 (数字を入れてください)

36  
西暦



37. 来日前の職業 (日本人の場合、Dを入れて下さい)

- (A) 正式社員・職員 (B) 臨時社員・職員・アルバイト (C) 学生 (D) なし

37

38. 日本での職業

- (A) 正式社員・職員 (B) 臨時社員・職員・アルバイト (C) 学生 (D) なし

38

39. 日本語能力 (大学生でない方は 39-3 から回答して下さい)

- (1. 全く問題がない 2. ほとんど問題がない 3. やや問題がある 4. 非常に問題がある)

- 39-1. 学業面 (学習・研究上) . . . . . 39-1  
 39-2. 対人面 (教官・日本人学生との会話) . . . . . 39-2  
 39-3. 生活面 (買い物等・地域での会話) . . . . . 39-3


39-4. 子供がいる場合、子供の一般的日本語能力を5段階で評価して下さい。

- |            |              |            |             |           |
|------------|--------------|------------|-------------|-----------|
| 1. 全く問題がない | 2. ほとんど問題がない | 3. やや問題がある | 4. 非常に問題がある | 5. まだ話せない |
|------------|--------------|------------|-------------|-----------|

39-4

第1子
第2子
第3子

40. あなたは日本に来てから日本語を勉強しましたか。当てはまるものを主なものから順に2つまで回答して下さい。

- (A) 民間の日本語学校で勉強した・している  
 (B) 神戸大学で開催されているボランティアによる日本語コースで勉強した・している  
 (C) 地方自治体やボランティアによる日本語教室で勉強した・している  
 (D) 友人・知人に教えてもらった・もらっている  
 (E) 配偶者に教えてもらった・もらっている  
 (F) 独学で勉強した・している  
 (G) していない  
 (H) 日本人であるので必要ない

40

1位

2位



41. 日本に来た理由で、当てはまるものにもいくつかチェック ( ✓ ) を入れて下さい。

41

- (A) 配偶者と一緒にいるのは当然だから . . . . . A
- (B) 日本で勉強しなかったから . . . . . B
- (C) 子供の教育によいと思ったから . . . . . C
- (D) 日本に興味があったから . . . . . D
- (E) 金銭的に余裕があったから . . . . . E
- (F) 日本人なのでどれにも当てはまらない . . . . . F
- (G) その他 \_\_\_\_\_


42. 日本に滞在している間、どれくらいの頻度で帰国していますか、またする予定ですか。

- (A) 月に一回くらい
- (B) 半年に一回くらい
- (C) 年に一回くらい
- (D) 2年に一回あるいはそれ以下
- (E) 決まっていない
- (F) 帰国したことない、する予定はない
- (G) 日本人なので当てはまらない

42

--

43. 健康保険についてお聞きします。

43-1. 現在健康保険に加入していますか。

- (A) はい
- (B) いいえ

43-1

--

43-2. 「(A) はい」と回答した方にお聞きします。それはどのような健康保険ですか。当てはまるもの全てお答え下さい。

- (A) 日本の国民健康保険
- (B) 自国の健康保険
- (C) その他 \_\_\_\_\_

43-2

--

43-3. 「(B) いいえ」と回答した方にお聞きします。加入していない理由で当てはまるものにもいくつかチェック ( ✓ ) を入れて下さい。

43-3

- (A) 保険料が高いから
- (B) 保険の加入方法が分からないから
- (C) 保険に加入できることを知らなかったから
- (D) 保険の存在を知らないから
- (E) 保険に入る必要がないと思うから
- (F) その他 \_\_\_\_\_

A	
B	
C	
D	
E	

44-1. 今後、妻/夫が留学中は日本に住む予定ですか。

- (A) はい (B) いいえ (C) 分からない

44-1

44-2. 「(B) いいえ」と回答した方は、当てはまる理由にいくつでもチェック (✓) を入れて下さい。

44-2

- |                   |         |                          |
|-------------------|---------|--------------------------|
| (A) 母国で出産の予定があるから | ..... A | <input type="checkbox"/> |
| (B) ホームシックだから     | ..... B | <input type="checkbox"/> |
| (C) 自分の仕事をするため    | ..... C | <input type="checkbox"/> |
| (D) 子供の教育のため      | ..... D | <input type="checkbox"/> |
| (E) 経済的理由         | ..... E | <input type="checkbox"/> |
| (F) 両親の面倒をみるため    | ..... F | <input type="checkbox"/> |
| (G) その他           | _____   | <input type="checkbox"/> |

45. あなたの配偶者についてお聞きします。

45-1. 妻/夫についてどのような問題を抱えていますか。問題の大きな順に3つまで選んで下さい。

- (A) 大学からの帰宅が遅い  
 (B) 配偶者の学業  
 (C) 配偶者の健康  
 (D) 配偶者の将来 (就職等)  
 (E) 配偶者が家事・育児に協力してくれない  
 (F) 配偶者が暴力をふるう  
 (G) 配偶者の大学における人間関係  
 (H) その他 \_\_\_\_\_

45-1

1位

2位

3位

46. 子供と一緒に住んでいる方にお聞きします。

46-1. 子供についてどのような問題を抱えていますか。主なものを問題の大きな順に3つまで選んで下さい。

- (A) 子供が日本語ばかり話し、コミュニケーションがとりにくい  
 (B) 子供の日本語能力が不十分  
 (C) 子供が学校・幼稚園・保育園等になじめない  
 (D) 子供が授業についていけない  
 (E) 子供に友達ができない  
 (F) 子供がいじめられている (可能性がある)  
 (G) その他 \_\_\_\_\_

46-1

1位

2位

3位

46-2. 帰国後も子供には日本語を学び続けさせたいと思いますか。

- (A) はい (B) いいえ (C) 分からない

46-2

46-3. 将来、子供を日本の大学で学ばせたいですか。

- (A) はい (B) いいえ (C) 分からない

46-3

47. あなたは日本で生活してどんなことで困っていますか。来日直後と現在の両方を、4段階で回答して下さい。あなたが日本人の場合、「現在」のみ回答して下さい。

(1. 全く困っていない    2. あまり困っていない    3. やや困っている    4. 非常に困っている)

	来日直後	現在
例) 日本語でのコミュニケーション . . . . .	3	1

48

	来日直後	現在
(1) 日本語能力不足 . . . . . 1a		1b
(2) 日本語学習の機会の欠如 . . . . . 2a		2b
(3) 日本人の友人を作ること . . . . . 3a		3b
(4) 親しい同性の友人がいないこと . . . . . 4a		4b
(5) 親しい異性の友人がいないこと . . . . . 5a		5b
(6) 仕事の機会の欠如 . . . . . 6a		6b
(7) 配偶者のための援助システムの欠如 . . . . . 7a		7b
(8) 宿舎を見つけること . . . . . 8a		8b
(9) 日本の社会制度や日本文化への適応 . . . . . 9a		9b
(10) 母国と同様の生活習慣が取れないこと . . . . . 10a		10b
(11) 日本人から差別を受けること . . . . . 11a		11b
(12) キャリアを積めないこと . . . . . 12a		12b
(13) ホームシック . . . . . 13a		13b
(14) 何においても自信が持てないこと . . . . . 14a		14b
(15) 情緒的ストレス . . . . . 15a		15b
(16) 日本の食べ物 . . . . . 16a		16b
(17) 健康問題 . . . . . 17a		17b
(18) 栄養が偏りがちであること . . . . . 18a		18b
(19) 遊ぶ時間がないこと . . . . . 19a		19b
(20) 睡眠時間が少ないこと . . . . . 20a		20b
(21) 勉強をする時間がないこと . . . . . 21a		21b
(22) 財源が十分でないこと . . . . . 22a		22b
(23) 自分の国・文化について 理解してもらえないこと . . . . . 23a		23b
(24) 近所の人との付き合いがない . . . . . 24a		24b
(25) 近所の人との付き合い方が分からない . . . . . 25a		25b

(日本人の方は以上で終わりです。51に進んで下さい)

48. 日本で生活するうえで、あなたが必要とするサービスを優先度の高い順に5つまで選んで下さい。

- (A) 銀行・郵便局の利用案内
- (B) 買い物の仕方の指導
- (C) アルバイト情報の提供
- (D) 家事の方法のアドバイス
- (E) 宿舎探しの手伝い・情報提供
- (F) 病院・薬局の紹介
- (G) 交通手段の情報提供
- (H) 神戸の観光地についての情報
- (I) 国内旅行についての情報
- (J) 宗教的施設の紹介
- (K) 日本語学習のサービス
- (L) 日本語以外の学習・研究に対するサポート
- (M) 他の留学生家族との交流会
- (N) 日本人交流団体の紹介
- (O) カウンセリング
- (P) 子供の育児・教育についての情報

48

1位

2位

3位

4位

5位

49. 家事（育児）についてお聞きします。

49-1. 来日後、あなたの家事（育児）負担は変化しましたか。

- (1) 非常に増えた
- (2) 少し増えた
- (3) 変化していない
- (4) 少し減った
- (5) 非常に減った

49-1

49-2. 来日後、あなたの目から見て配偶者の家事（育児）負担は変化しましたか。

- (1) 非常に増えた
- (2) 少し増えた
- (3) 変化していない
- (4) 少し減った
- (5) 非常に減った

49-2

50. 全体的に日本での生活に満足していますか。

- (1) 大変満足している
- (2) ほぼ満足している
- (3) どちらでもない
- (4) あまり満足していない
- (5) 全く満足していない

50

51. ご自身に関する回答について後日インタビューに応じてもよいという方は、下の欄にお名前とお電話番号をご記入下さい。

名前： \_\_\_\_\_

電話番号： \_\_\_\_\_

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

本調査結果を希望される方は、1年以内に結果をお知らせいたしますので、下記に送信先の住所とお名前をお書きいただくか、988f344f@yku.kobe-u.ac.jp（渡部留美）までお問い合わせください。

住所：

名前：

## Questionnaire

### DIRECTIONS

1. PART ONE should be completed by all International Students.
2. PART TWO should be filled out by those International Students who are married and his/her spouse resides in Japan. PART THREE should only be filled out by the International Student's spouse. If the spouse is an International Student as well there is no need to fill out PART THREE.
3. The object of this questionnaire is to acquire information from all international students. If your spouse is a student at Kobe University as well, please be sure to fill out one questionnaire each where you and your spouse each take the student position when filling out a form. And where you each take the spouse position. In short, two questionnaires should be filled out per family.
4. Please indicate your answers to each question in the squares provided in the right hand column.
5. If indicated otherwise, please choose one answer for each question.
6. If you choose "Other" for one or more of your answers please explain your answer on the line provided.

### EXAMPLE

1. In what country are you enrolled as a University Student?

(A) Japan (B) U.S.A. (C) Russia

ex.

A
---

→ You are currently enrolled in a University in Japan. So please fill out the box provided with the letter A.

### **PART ONE** Questions for International Student

Please fill out the following personal info.

1. Region

(A) East Asia (B) South East Asia (C) South Asia (D) Middle East (E) Africa  
(F) North America (G) South America (H) Oceania (I) Europe  
(J) Other \_\_\_\_\_

1 

--

2. Gender

(A) Female (B) Male

2 

--

3. Age

(A) Under 19 (B) 20-24 (C) 25-29 (D) 30-34 (E) 35 and over

3 

--

4. Student status

(A) Undergraduate (B) Graduate (C) Research/Auditing Student  
(E) Exchange Program Student (D) Other \_\_\_\_\_

4 

--

5. Faculty/Department

- (A) Graduate school of Economics
- (B) Graduate school of Business Administration
- (C) Graduate school of Medicine
- (D) Graduate school of Letters
- (E) Graduate school of Cultural Studies and Human Sciences
- (F) Graduate school of Law
- (G) Graduate school of Humanities and Social Sciences
- (H) Graduate school of Science and Technology
- (I) Graduate school of International Cooperation Studies
- (J) Faculty of letters
- (K) Faculty of Cross-Cultural Studies
- (L) Faculty of Human Development
- (M) Faculty of Law
- (N) Faculty of Economics
- (O) Faculty of Business Administration
- (P) Faculty of Science
- (Q) Faculty of Medicine
- (R) Faculty of Engineering
- (S) Faculty of Agriculture
- (T) International student center

5

6. Date of Arrival

Month

Year

6

7-1. Marital Status

- (A) Single
- (B) Married

7-1

7-2. {(B) Married} Please fill this out if your above answer was B.

- (A) Your spouse is currently living with you
- (B) Your spouse is going to be joining you in the future for a period of time longer than 6 months
- (C) Your spouse previously lived with you for 6 months or longer
- (D) You have no plans to live with your spouse while in Japan

7-2

8. Please indicate your level of Japanese Proficiency (4 levels) regarding the 3 different areas indicated.

(1. Excellent 2. Good 3. Fair 4. Weak)

8-1 Academics (Studies/Research) . . . . . 8-1

8-2 Conversational (with professors & staff/with Japanese Students) 8-2

8-3 Daily Life (shopping and conversational activity off campus) . . . 8-3

9. In what form are you an enrolled student?

9-1 By which institution are your education expenses being covered?

- (A) Japanese Government
- (B) Home Government
- (C) Private
- (D) Other \_\_\_\_\_

9-1

9-2 If the above answer was marked C please fill out the following. Are you currently receiving scholarship funding?

- (A) under ¥50,000
- (B) From ¥50,000 to ¥99,999
- (C) From ¥100,000 to ¥149,999
- (D) Over ¥150,000
- (E) Not receiving

9-2

10. This question applies to those students who requested a tuition waiver for the first semester of the 2001 academic year. What were the results of the waiver?

- (A) Exempt from all fees
- (B) Exempt from half of all fees
- (C) Not granted

10

11. How much are your monthly expenses?

- (A) Under ¥50,000
- (B) From ¥50,000 to ¥99,999
- (C) From ¥100,000 to ¥149,999
- (D) Over ¥150,000

11

12. Do you currently have a part-time job?

- (A) No part-time job
- (B) 5hrs. or less per week
- (C) 10hrs. or less per week
- (D) 20hrs. or less per week
- (E) 28hrs. or less per week

12

13. Questions regarding Health Insurance

13-1. Do you currently have Health Insurance?

- (A) Yes
- (B) No

13-1

13-2. {(A) Yes} Please fill out the following question if your answer above was marked A.

What type of Health Insurance do you have? Please fill out the according answer.

- (A) Japanese National Health Insurance
- (B) Health Insurance from your home country
- (C) Other \_\_\_\_\_

13-2



13-3. {(B) No} Please fill out the following question if your answer to 13-1 was marked B. Please mark the box(es) as to the reason(s) why you are without Health Insurance.

- (A) Health Insurance is too expensive
- (B) Unsure of how to attain Health Insurance
- (C) Did not know you were able to apply for Health Insurance
- (D) Did not know about the Health Insurance institution
- (E) Do not feel Health Insurance is necessary
- (F) Other \_\_\_\_\_.

A	<input type="checkbox"/>	13-3
B	<input type="checkbox"/>	
C	<input type="checkbox"/>	
D	<input type="checkbox"/>	
E	<input type="checkbox"/>	

14. Accommodations

- (A) Kobe University International Residence
- (B) Hyogo International Student House (AIEJ)
- (C) Kobe University Dorms
- (D) Private Company Dormitory and Public City or Prefecture Apartments specially provided for International Students
- (E) Any other Public City or Prefecture Apartments
- (F) Privately owned apartments
- (G) Home Stay (single room rentals)
- (H) Other \_\_\_\_\_

14

15. How much do you pay for accommodations per month?

- (A) Free
- (B) Under ¥10,000
- (C) From ¥10,000 to ¥29,999
- (D) From ¥30,000 to ¥49,999
- (E) From ¥50,000 to ¥79,999
- (F) ¥80,000 and up

15

16. Questions regarding moving.

16-1 How many times have you moved since arriving in Japan?

16-1

16-2 For those students who have moved please check the reason(s) as to why.

- (A) Your term contracted ended
- (B) The rent was too expensive
- (C) The apartment was too small
- (D) The apartment was too far from the University
- (E) Reasons pertaining to the educational circumstances of your children
- (F) Growth of your family
- (G) The location of your apartment was poor
- (H) Other \_\_\_\_\_

A	<input type="checkbox"/>	16-2
B	<input type="checkbox"/>	
C	<input type="checkbox"/>	
D	<input type="checkbox"/>	
E	<input type="checkbox"/>	
F	<input type="checkbox"/>	
G	<input type="checkbox"/>	

17. How often do you go back or plan to go back to visit your home country while residing in Japan?

- (A) Once a month
- (B) Once every half a year
- (C) Once a year
- (D) Once every 2 years or less
- (E) No designated time frame
- (F) Have never gone back and do not intend to visit while residing in Japan

17

Questions regarding the service and needs provided by Kobe University.

18-1. Have you ever participated in a Kobe University International Student orientation?

- (A) More than 5 times
- (B) 4 times
- (C) 3 times
- (D) 2 times
- (E) 1 time
- (F) Never participated

18-1

18-2. This question is for those students who have participated in an orientation. Did you feel the orientation was beneficial?

- (1) 100% Beneficial
- (2) 80% Beneficial
- (3) 50% Beneficial
- (4) 30% Beneficial
- (5) Not beneficial at all

18-2

19-1. Do you utilize the services provided at the (Kobe University) International Student Center?

- (1) Often use
- (2) Sometimes use
- (3) Not very often
- (4) Do not use
- (5) Was not aware of its existence

19-1

19-2. Please answer the following question if your answer above was marked (1) or (2).

When do you use the services provided at the International Student Center? Please fill out up to two answers in order of importance below.

- (A) In order to take Japanese Classes
- (B) In order to receive scholarship information
- (C) Counseling services
- (D) In order to use the computer lab
- (E) In order to use the available books
- (F) In order to receive exchange program information
- (G) Participation in any exchange or International Student activities
- (H) Other \_\_\_\_\_.

19-2  
1st   
2nd

20. What type of services at the International Student Center would you like to see fulfill your needs? Please fill out up to 3 answers in order of importance below.

- (A) A foreign language speaking staff
- (B) A professional staff
- (C) Improvements in the counseling system
- (D) Routine/scheduled social activities for students at the International Student Center
- (E) The permanent availability of an activity room
- (F) Increase the number of computers in the lab
- (G) A better home page
- (H) Provide more information on part-time jobs, careers, and exchange programs
- (I) Improvements with in Japanese classes
- (J) More available or accessible tutors
- (K) To from an International Student association
- (L) More books on abroad studies
- (M) Other \_\_\_\_\_.

	20
1st	
2nd	
3rd	

21. In your opinion please indicate the level of importance of the below articles to an International Student.

- |                              |              |            |                       |
|------------------------------|--------------|------------|-----------------------|
| 1. Very important            | 2. Important | 3. Neutral | 4. Not very important |
| 5. Not very important at all |              |            |                       |

- (A) Accommodations
- (B) Part-time jobs
- (C) Scholarships
- (D) Immigration Office Procedures
- (E) The University System
- (F) Host Family
- (G) Activities on campus inclusive of all students and staff members
- (H) Activities off campus inclusive of your community etc.
- (I) Career opportunities within Japan
- (J) Japanese Culture
- (K) Other \_\_\_\_\_.

	21
A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

22. What problems have you come across during your stay in Japan? Please rate the level of difficulty from 1-4 in your experiences when you first arrived and in your current experiences. (1.No problems 2.Few problems 3.Some problems 4.Very problematic)

	Past Experiences	Current Experiences
Example: Japanese communication.....	3	1
(1) Japanese Lectures . . . . .	1a	1b
(2) Process of attaining a degree . . . . .	2a	2b
(3) Communication with your Academic Advisor . . . . .	3a	3b
(4) Communication with students from your country . . . . .	4a	4b
(5) Communication with other International Students not from your country . . . . .	5a	5b
(6) Communication with Japanese students . . . . .	6a	6b
(7) Lack of Japanese Proficiency . . . . .	7a	7b
(8) Lack of time to study Japanese . . . . .	8a	8b
(9) Making Japanese friends . . . . .	9a	9b
(10) Do not have friends of your same gender . . . . .	10a	10b
(11) Do not have friends of the opposite gender . . . . .	11a	11b
(12) Lack of opportunity or time to get a part-time job . . . . .	12a	12b
(13) Availability of an international student support system	13a	13b
(14) Finding accommodations . . . . .	14a	14b
(15) Adaptation to the Japanese Social System and Culture	15a	15b
(16) The inability to create a life style resembling that of the one in your home country . . . . .	16a	16b
(17) Discrimination on part of the Japanese People . . . . .	17a	17b
(18) Lack of professional development . . . . .	18a	18b
(19) Homesickness . . . . .	19a	19b
(20) Lack of confidence in daily activities . . . . .	20a	20b
(21) Emotional stress . . . . .	21a	21b
(22) Japanese Food . . . . .	22a	22b
(23) Health Problems . . . . .	23a	23b
(24) Lack of nutritional balance . . . . .	24a	24b
(25) Lack of leisure time . . . . .	25a	25b
(26) Lack of sleep . . . . .	26a	26b
(27) Lack of time to study . . . . .	27a	27b
(28) Financial Instability . . . . .	28a	28b
(29) Lack of understanding towards your country and your culture . . . . .	29a	29b
(30) Other _____		

23. Questions regarding improvements or needs you feel should be met for an international student. Please fill out up to three selections in order of importance for the following four sections.

23-1. Studies/Research

- (A) Guidance on class scheduling
- (B) Guidance on class note taking
- (C) Guidance on making presentations
- (D) Guidance on making hand outs
- (E) Guidance on reference materials
- (F) Guidance on test taking and studying
- (G) Guidance on writing reports and thesis
- (H) More readily accessible tutors
- (I) Guidance on Japanese Language Studies
- (J) Guidance on Language Studies other than the Japanese Language (ex: English Language Studies)

	23-1
1st	
2nd	
3rd	

23-2. Questions regarding campus life

- (A) The availability of campus directories in foreign language
- (B) Guidance on the school library and its available facilities
- (C) Guidance on student health services (Health Office)
- (D) Guidance on school cafeteria information
- (E) Guidance on shopping on campus
- (F) Guidance on attaining on campus part-time jobs
- (G) Club information
- (H) Access to designated areas provided for religious worship
- (I) Counseling
- (J) Information on services provided by other universities within Japan

	23-2
1st	
2nd	
3rd	

23-3. Daily Life

- (A) Guidance on Bank and Postal Services
- (B) Guidance on shopping off campus
- (C) Guidance on part-time jobs off campus
- (D) Advice on household activities (e.g. cooking, cleaning etc.)
- (E) Guidance on finding accommodations
- (F) Guidance on hospital and pharmacy services
- (G) Guidance on commutation services
- (H) Guidance on sightseeing within Kobe
- (I) Guidance on sightseeing throughout Japan
- (J) Guidance on access to religious worshipping centers

	23-3
1st	
2nd	
3rd	

23-4. Others

- (A) Guidance on the International Student Center and its available services
- (B) Guidance on international student events (trips, bazaar etc.)
- (C) Guidance on international student clubs inclusive of Japanese students on campus
- (D) Guidance on international student clubs inclusive of Japanese students off campus (e.g. YMCA)
- (E) Guidance on Host Families
- (F) Guidance on Alien Registration
- (G) Guidance on National Health Insurance
- (H) Guidance on immigration and visa acquisition
- (I) Guidance on career opportunities for international students
- (J) Guidance on alumni associations

	23-4
1st	<input type="text"/>
2nd	<input type="text"/>
3rd	<input type="text"/>

24-1 Overall are you satisfied with your campus student life at Kobe University?

- (1) Very satisfied
- (2) Satisfied
- (3) Neutral
- (4) Not very satisfied
- (5) Not satisfied at all

24-1
------

24-2 Overall are you satisfied with your life in general in Japan?

- (1) Very satisfied
- (2) Satisfied
- (3) Neutral
- (4) Not very satisfied
- (5) Not satisfied at all

24-2
------

For those students who are not married or their spouse resides outside of Japan the questionnaire ends here. Thank you for your time.

Part One ends here. Thank you very much for your cooperation

If you would like to know the results of these questionnaires they will be available with in one year. Please fill out your name and address below. If you would like to have your information remain private, but would still like to see the results please send your name and address to the following e-mail address: [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (Rumi Watanabe).

Name: \_\_\_\_\_.

Address: \_\_\_\_\_.

**PART TWO** Questions for International Students who are married and his/her spouse resides in Japan

25. What nationality is your spouse?

- (A) Japanese (B) Other

25

26. What is your spouse's status of employment in Japan?

- (A) Employed Full time (B) Employed Part-time (C) Student (D) Unemployed

26

27. For those that live with their children please indicate the number of children you have. (ATTENTION! If both you and your spouse are International Students at Kobe University, this question should be filled out by the mother of the children, not the father.)

- |  |   |                      |
|--|---|----------------------|
| (A) Number of children in Middle and High School . . . . . | A | <input type="text"/> |
| (B) Number of children in Elementary School . . . . .      | B | <input type="text"/> |
| (C) Number of children in Kindergarten . . . . .           | C | <input type="text"/> |
| (D) Number of children in Pre-school . . . . .             | D | <input type="text"/> |
| (E) Not enrolled in school . . . . .                       | E | <input type="text"/> |

27

28. Please check one or more of the following in regards to the reason(s) why you chose to come to Japan.

- |   |   |                          |
|---|---|--------------------------|
| (A) Because I had an interest in Japan . . . . .                                | A | <input type="checkbox"/> |
| (B) Because I wanted to study in Japan . . . . .                                | B | <input type="checkbox"/> |
| (C) Because I felt it would be beneficial for my children's education . . . . . | C | <input type="checkbox"/> |
| (D) Because it is natural to be with my spouse . . . . .                        | D | <input type="checkbox"/> |
| (E) Because I was financially stable enough to come to Japan . . . . .          | E | <input type="checkbox"/> |
| (F) Other   |   |                          |

28

29. Questions regarding Household (Childcare)

29-1. Since arriving in Japan, has your household and childcare demands increased or decreased in Japan.

- (1) Increased a lot  
 (2) Increased a little  
 (3) Has not changed  
 (4) Has decreased a little  
 (5) Has decreased a lot

29-1

29-2. Since arriving in Japan was your spouse's household and/or child care demands increased or decreased?

- (1) Increased a lot  
 (2) Increased a little  
 (3) Has not changed  
 (4) Has decreased a little  
 (5) Has decreased a lot

29-2

30. In your opinion in the following thirteen articles please indicate which articles have been problematic. Please rate your response to the articles with the four choices provided. If problems were to occur again in any of the articles (1-13) listed below, who would you seek advice from? Please choose from the letters (A-S) located in the square below. (If you have not come across problems in one or more of the thirteen articles please leave the box blank.)

(1.No Problems 2. Little Problems 3. A few Problems 4. Very Problematic)

**The person(s) you seek for advice**

(A) Relatives outside of Japan	(K) Other University Staff
(B) Relative within Japan	(L) A Japanese acquaintance off-campus
(C) Japanese Students	(M) Japanese host family
(D) Students from your country	(N) Dorm advisor
(E) Students from other countries	(O) A Japanese assistance organization off campus (e.g. YMCA)
(F) Students from your country's region (e.g. South East Asia)	(P) Religious leader
(G) International Student Advisor	(Q) No one available
(H) Japanese Teachers	(R) No one
(I) University Counselors	(S) Other _____
(J) Academic Advisors	

	Degree of the problem	The person(s) you seek for advice
Example: Inadequate Scholarship Funding . . . . .	( 3 )	I
(1) Relations between your family and the Japanese People	( )	
(2) Communication between your family and the Japanese People	( )	
(3) Your spouse's daily life	( )	
(4) Your child(ren's) daily life	( )	
(5) Information regarding daily life	( )	
(6) Accommodations	( )	
(7) Health concerns (hospitalization, sickness etc.)	( )	
(8) Pregnancy and child care	( )	
(9) Child(ren's) education	( )	
(10) Traffic accidents	( )	
(11) Emergencies	( )	
(12) Cultural Differences	( )	
(13) Religious Differences	( )	
(14) Other (please explain) _____		



31. Questions regarding your spouse

31-1. Please indicate the improvements or needs you feel should be met for your spouse. Mark in order of importance, up to five selections.

- (A) Guidance on Bank and Postal services
- (B) Guidance on shopping
- (C) Guidance on part-time jobs
- (D) Advice on Household activities (ex.: cooking, cleaning etc.)
- (E) Guidance on finding accommodations
- (F) Guidance on hospital and pharmacy services
- (G) Guidance on commutation services
- (H) Guidance on sightseeing within Kobe
- (I) Guidance on sightseeing throughout Japan
- (J) Guidance on access to religious worshipping centers
- (K) Guidance on opportunities for Japanese language classes
- (L) Access to studies and/or research on subjects other than Japanese
- (M) Programs which allow international student families to meet with other international families
- (N) Guidance on finding programs which aid in the needs of an international student's family
- (O) Counseling
- (P) Guidance and information on children's education and childcare

31-1	
1st	
2nd	
3rd	
4th	
5th	

32. In your opinion what are the positive and negative effects of having the presence of your family in Japan? Please check one or more.

**POSITIVE**

- |  |   |  |
|--|---|--|
| (A) Less worries about housekeeping . . . . .                                  | A |  |
| (B) Do not feel lonely . . . . .   | B |  |
| (C) Have somebody to share problems and accomplishments with . . . . .         | C |  |
| (D) Have somebody to go out with . . . . .                                     | D |  |
| (E) Spouse supports and encourages academic development . . . . .              | E |  |
| (F) Your children give you energy . . . . .                                    | F |  |
| (G) The experience of living in Japan is beneficial to your spouse . . . . .   | G |  |
| (H) The experience of living in Japan is beneficial to your children . . . . . | H |  |
| (I) Other (please explain) _____   |   |  |

32

**NEGATIVE**

- |   |   |  |
|---|---|--|
| (A) Feel overloaded by family issues in the midst of your busy life . . . . . | A |  |
| (B) Burdened with financial problems . . . . .                                | B |  |
| (C) Spouse is unhappy . . . . .   | C |  |
| (D) Spouse is always homesick . . . . .                                       | D |  |
| (E) Spouse has limited proficiency in Japan . . . . .                         | E |  |
| (F) Spouse has problems adapting to the Japanese way of life . . . . .        | F |  |
| (G) Concerns about children . . . . .   | G |  |
| (H) Children are having problems at school . . . . .                          | H |  |
| (I) Other (please explain) _____  |   |  |

33. Questions for those who live with their children.

33-1. What types of problems do you face on the topic of your children. Please mark up to three answers in order of importance.

- (A) Your children predominately speak Japanese, therefore it is difficult to communicate with them
- (B) Your children's Japanese Proficiency is inadequate
- (C) Your children cannot adapt to their school, pre-school, nursery etc.
- (D) Your children cannot follow the pace of his/her classroom studies
- (E) Your children have difficulty making friends
- (F) Your children are being bullied at school
- (G) Others\_\_\_\_\_.

1st	<input type="text"/>
2nd	<input type="text"/>
3rd	<input type="text"/>

33-2. Do you want your children to continue studying Japanese after returning to your home country?

- (A) Yes                      (B) No                      (C) Not Sure                      33-2

33-3. In the future do you want your children to study at a Japanese University?

- (A) Yes                      (B) No                      (C) Not Sure                      33-3

34. Overall, how has the presence of your family influenced you in the following three areas? Please rate each box using the 4 degrees provided.

(1. Good Influence    2. Fair Influence    3. Not a very good Influence    4. Bad Influence)

34-1. Your Academic performance . . . . .	34-1	<input type="text"/>
34-2. Financially . . . . .	34-2	<input type="text"/>
34-3. Emotionally . . . . .	34-3	<input type="text"/>

Part Two ends here Thank you very much for your cooperation

If you would like to know the results of these questionnaires they will be available with in one year. Please fill out your name and address below. If you would like to have your information remain private, but would still like to see the results please send your name and address to the following e-mail address: [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (Rumi Watanabe).

Name: \_\_\_\_\_.

Address: \_\_\_\_\_.

**PART THREE** Questions for International Student's spouse

35. Questions regarding your home region

- (A) Same as wife/husband      (B) Japan      (C) Other

35

--

36. Date of Arrival

36

Month

Year

--

--

37. What was your status of employment prior to coming to Japan?

(If you are Japanese please fill out the box marked D)

- (A) Employed Full time  
 (B) Employed Part-time  
 (C) Student  
 (D) Unemployed

37

--

38. What is your status of employment in Japan?

- (A) Employed Full time  
 (B) Employed Part-time  
 (C) Student  
 (D) Unemployed

38

--

39. Please indicate you and your child(ren's) level of Japanese Proficiency (4 levels) regarding the three different areas indicated

(1. Excellent    2. Good    3. Fair    4. Weak )

39-1. Academics (Studies/Research) . . . . . 39-1

39-2. Conversational (with professors and staff or with Japanese Students) 39-2

39-3. Daily Life (Shopping & conversational activity Off Campus) . . . . . 39-3


39-4. If you have children who reside in Japan, please indicate their level of Japanese Proficiency generally speaking.

(1. Excellent    2. Good    3. Fair    4. Weak    5. Too young to speak)

1st child

2nd child

3rd child


40. Since arriving in Japan have you studied the Japanese Language? Please select your two main choices.

- (A) You studied or are currently studying at a private Japanese School  
 (B) You are or have taken a Japanese course offered at Kobe University on a volunteer basis  
 (C) You are or have taken Japanese courses provided by a public (volunteer) institution or organization  
 (D) I am learning or have learned Japanese from a friend or an acquaintance  
 (E) I am learning or have learned from my spouse  
 (F) I am or used to self-teach  
 (G) I am not or have not studied the Japanese Language  
 (H) I am Japanese and do not need to study the language

40

1st

2nd


41. Please fill-out one or more of the following in regards to the reason why you chose to come to Japan.

- |   |    |                          |
|---|----|--------------------------|
|   | 41 |                          |
| (A) Because it is natural to be with my spouse . . . . .                            | A  | <input type="checkbox"/> |
| (B) Because I wanted to study in Japan . . . . .                                    | B  | <input type="checkbox"/> |
| (C) Because I felt it would be beneficial for my children's education . . . . .     | C  | <input type="checkbox"/> |
| (D) Because I had an interest in Japan . . . . .                                    | D  | <input type="checkbox"/> |
| (E) Because I was financially stable enough to come to Japan . . . . .              | E  | <input type="checkbox"/> |
| (F) I am Japanese and so it is not necessary for me to study the language . . . . . | F  | <input type="checkbox"/> |
| (G) Others  |    |                          |

42. How often do you go back or plan to go back to visit your home country while residing in Japan?

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| (A) Once a month  |                          |
| (B) Once every half a year  |                          |
| (C) Once a year   |                          |
| (D) Once every two years or less  |                          |
| (E) No designated time frame  |                          |
| (F) Have never gone back and do not intend to visit while residing in Japan | 42                       |
| (G) I am Japanese and so it is not necessary                                | <input type="checkbox"/> |

43. Questions regarding Health Insurance

43-1. Do you currently have Health Insurance?

- |                |      |                          |
|----------------|------|--------------------------|
| (A) Yes (B) No | 43-1 | <input type="checkbox"/> |
|----------------|------|--------------------------|

43-2. {(A) Yes} Please fill out the following question if your answer above was marked A. What type of Health Insurance do you have? Please fill-out the according answer.

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| (A) Japanese National Health Insurance      |                          |
| (B) Health Insurance from your home country | 43-2                     |
| (C) Other _____                             | <input type="checkbox"/> |

43-3. {(B) No} Please fill-out the following question if your answer to 43-1 was marked B. Please mark the box(es) as to the reason(s) why you are without Health Insurance.

- |  |      |                          |
|--|------|--------------------------|
|  | 43-3 |                          |
| (A) Health Insurance is too expensive . . . . .                        | A    | <input type="checkbox"/> |
| (B) Unsure of how to attain Health Insurance . . . . .                 | B    | <input type="checkbox"/> |
| (C) Did not know you were able to apply for Health Insurance . . . . . | C    | <input type="checkbox"/> |
| (D) Did not know about the Health Insurance Institution . . . . .      | D    | <input type="checkbox"/> |
| (E) Do not feel Health Insurance is necessary . . . . .                | E    | <input type="checkbox"/> |
| (F) Other _____  |      |                          |

44-1. From here on out, while your husband/wife is a International Student do you intend to stay in Japan?

- (A) Yes (B) No (C) Not Sure

44-1

44-2. For those who answered the above question with B {(B) No} Please fill out as many reasons as to why.

- |  |      |                          |
|--|------|--------------------------|
|  | 44-2 |                          |
| (A) I plan to have my baby in my home country . . . . .          | A    | <input type="checkbox"/> |
| (B) Because I am homesick . . . . .                              | B    | <input type="checkbox"/> |
| (C) Because I intend to work in my home country . . . . .        | C    | <input type="checkbox"/> |
| (D) For reasons pertaining to my children's education . . . . .  | D    | <input type="checkbox"/> |
| (E) Financial reasons . . . . .                                  | E    | <input type="checkbox"/> |
| (F) Need to take care of my parents in my home country . . . . . | F    | <input type="checkbox"/> |
| (G) Other_____.  |      |                          |

45. Questions regarding your spouse.

45-1. What type of problems or worries do you face regarding your husband or wife?

Please fill out the three squares provided in order of importance.

- |   |     |                          |
|---|-----|--------------------------|
| (A) Your spouse comes home late from the University                             |     | 45-1                     |
| (B) Your spouse's academic studies/research                                     | 1st | <input type="checkbox"/> |
| (C) Your spouse's health  | 2nd | <input type="checkbox"/> |
| (D) Your spouse's future (career)   | 3rd | <input type="checkbox"/> |
| (E) Your spouse doesn't participate in household and childcare responsibilities |     |                          |
| (F) Your spouse engages in domestic violence                                    |     |                          |
| (G) Your spouse's relationship with other on campus at the University           |     |                          |
| (H) Others  |     |                          |

46. Questions for those who live with their children.

46-1. What types of problems do you face on the topic of your children. Please mark up to three answers in order of importance.

- |  |     |                          |
|--|-----|--------------------------|
| (A) Your children predominately speak Japanese, therefore it is difficult to communicate with them |     |                          |
| (B) Your children's Japanese Proficiency is inadequate   |     |                          |
| (C) Your children cannot adapt to their school, pre-school, nursery etc.                           |     | 46                       |
| (D) Your children cannot follow the pace of his/her classroom studies                              | 1st | <input type="checkbox"/> |
| (E) Your children have difficulty making friends   | 2nd | <input type="checkbox"/> |
| (F) Your children are being bullied at school  | 3rd | <input type="checkbox"/> |
| (G) Others_____.   |     |                          |

46-2. Do you want your children to continue to study Japanese after returning to your home country?

- (A) Yes (B) No (C) Not Sure

46-2

46-3. In the future, do you want your children to study at a Japanese University?

- (A) Yes (B) No (C) Not Sure

46-3

47. What problems have you come across during your stay in Japan. Please rate the level of difficulty from 1-4 in your experiences when you first arrived and your current experiences. If you are Japanese please fill out only the right hand column dealing with your current experiences.

(1. No problems 2. Few problems 3. Some problems 4. Very problematic)

	Past experiences	Current experiences
Example: Japanese communication . . . . .	3	1
		47
(1) Lack of Japanese Proficiency . . . . .	1a	1b
(2) Lack of time to study Japanese . . . . .	2a	2b
(3) Making Japanese friends . . . . .	3a	3b
(4) Making friends of you same gender . . . . .	4a	4b
(5) Making friends with the opposite gender . . . . .	5a	5b
(6) Lack of opportunity or time to get a part-time job . . . . .	6a	6b
(7) Availability of an International Student's Spouse support system . . . . .	7a	7b
(8) Finding accommodations . . . . .	8a	8b
(9) Adaptation to the Japanese Social System and Culture . . . . .	9a	9b
(10) The inability to create a lifestyle resembling that of the one in your home country . . . . .	10a	10b
(11) Discrimination on part of the Japanese people . . . . .	11a	11b
(12) Lack of professional development . . . . .	12a	12b
(13) Homesickness . . . . .	13a	13b
(14) Lack of confidence in daily activities . . . . .	14a	14b
(15) Emotional stress . . . . .	15a	15b
(16) Japanese food . . . . .	16a	16b
(17) Health problems . . . . .	17a	17b
(18) Lack of nutritional balance . . . . .	18a	18b
(19) Lack of leisure time . . . . .	19a	19b
(20) Lack of sleep . . . . .	20a	20b
(21) Lack of time to study . . . . .	21a	21b
(22) Financial Instability . . . . .	22a	22b
(23) Lack of understanding towards your country and your culture . . . . .	23a	23b
(24) I don't have any relations with my neighbors . . . . .	24a	24b
(25) I don't know how to create relations with my neighbors . . . . .	25a	25b

If you are Japanese please stop here and move on to question #51.

Questions regarding your daily life in Japan

48. Please indicate the improvements or needs you feel should be met for your spouse. Mark in order of importance, up to five selections.

- (A) Guidance on Bank and Postal services
- (B) Guidance on shopping
- (C) Guidance on part-time jobs
- (D) Advice on Household activities (e.g. cooking cleaning etc.)
- (E) Guidance on finding accommodations
- (F) Guidance on hospital and pharmacy services
- (G) Guidance on commutation services
- (H) Guidance on sightseeing within Kobe
- (I) Guidance on sightseeing throughout Japan
- (J) Guidance on access to religious worshipping centers
- (K) Guidance on Japanese Language Learning Services
- (L) Access to studies and/or research on subjects other than Japanese
- (M) Programs which allow international student families to meet with other international families
- (N) Guidance on finding programs which aid in the needs of an international student's family
- (O) Counseling
- (P) Guidance and information on children's education and childcare

	48
1st	
2nd	
3rd	
4th	
5th	

49. Questions regarding your household (childcare)

49-1. Since arriving in Japan, has your household and childcare demands increased or decreased?

- (1) Increased a lot
- (2) Increased a little
- (3) Has not changed
- (4) Has decreased a little
- (5) Has decreased a lot

49-1

49-2. Since arriving in Japan, has your spouse's household and/or childcare demands increased or decreased?

- (1) Increased a lot
- (2) Increased a little
- (3) Has not changed
- (4) Has decreased a little
- (5) Has decreased a lot

49-2

50. Overall, are you generally satisfied with your life in Japan?

- (1) Very satisfied
- (2) Satisfied
- (3) Neutral
- (4) Not very satisfied
- (5) Not satisfied at all

50

51. Based on your answers throughout the Questionnaire, please indicate whether you can be contacted for a personal interview. Please fill out the following.

Name: \_\_\_\_\_.

Phone: \_\_\_\_\_.

Thank you very much for your cooperation.

If you would like to know the results of these questionnaires they will be available with in one year. Please fill out your name and address below. If you would like to have your information remain private, but would still like to see the results please send your name and address to the following e-mail address: [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (Rumi Watanabe).

Name: \_\_\_\_\_.

Address: \_\_\_\_\_.



## 调 查 表

### 回答问题之前请阅读

1. 第一部分, 所有的留学生请回答
2. 第二部分, 请已婚的并且配偶在日本的留学生回答  
第三部分, 请留学生身份以外的配偶者回答
3. 这是以全部留学生为对象的调查表, 即使你的配偶是神户大学的学生, 被发到调查表的时候, 请各自回答
4. 答案请写在右边的四角栏里面
5. 没有另加说明问题, 请选一个回答
6. “其他”的时候, 请在划线处填写

### 回答例

例1. 你现在所在的大学是哪个国家的?

A. 日本                      B. 美国                      C. 俄罗斯

A

你现在是在日本的大学, 因此请在右边的四角栏里填 A

### 第一部分 所有留学生的问題

关于你自身的问题

- |         |  |   |   |
|---------|--|---|---|
| 1. 出身地域 | A. 东亚    B. 东南亚    C. 南亚    D. 中东<br>E. 非洲    F. 北美        G. 南美    H. 大洋洲<br>I. 欧洲    J. 其他_____  | 1 | <input style="width: 80px; height: 20px;" type="text"/> |
| 2. 性别   | A. 女    B. 男   | 2 | <input style="width: 80px; height: 20px;" type="text"/> |
| 3. 年龄   | A. 19岁以下    B. 20-24岁    C. 25-29岁<br>D. 30-34岁    E. 35岁以上  | 3 | <input style="width: 80px; height: 20px;" type="text"/> |
| 4. 身份   | A. 学部生    B. 大学院生    C. 研究生<br>E. 交换留学生, 短期留学生 (目的不是取得学位)<br>D. 其他_____  | 4 | <input style="width: 80px; height: 20px;" type="text"/> |
| 5. 所属   | A. 经济学研究科    B. 经营学研究科    C. 医学系研究科<br>D. 文学研究科        E. 综合人间科学研究科    F. 法学研究科<br>G. 文化学研究科    H. 自然科学研究科    I. 国际协力研究科<br>J. 文学部              K. 国际文化学部        L. 発達科学部        5<br>M. 法学部              N. 经济学部              O. 经营学部 <input style="width: 80px; height: 20px;" type="text"/><br>P. 理学部              Q. 医学部                R. 工学部<br>S. 农学部              T. 留学生中心        U. 其他_____ |   |   |

6. 来日本的日期 (请填入数字) 西历 6  年  月

7-1. 婚姻状况 A. 单身 B. 已婚 7-1

7-2. 对回答“B.已婚”的留学生的问題, 配偶是  
A. 现在一起住  
B. 今后有来日并长期居住(六个月以上)的计划  
C. 以前来过, 并长期居住(六个月以上)过 7-2  
D. 没在日本长期住过(六个月以上), 也没有这个计划

8. 关于你的日语能力请从三个方面,四个层次来回答  
(A. 一点问题也没有 B. 基本上没有问题 C. 有一点问题 D. 非常有问题)  
8-1. 学业上 (在学习和研究上) . . . . . 8-1   
8-2. 人际交往上 (与老师, 日本学生的会话) . . . . . 8-2   
8-3. 生活上 (购物, 在当地的会话) . . . . . 8-3

9. 关于留学费用的问题  
9-1. 你的留学费用是  
A. 国费  
B. 政府派遣  
C. 自费  
D. 其他 \_\_\_\_\_ 9-1

9-2. 回答“C 自费”的留学生请回答, 拿到奖学金了吗?  
A. 不到 5 万日元  
B. 5 万到 10 万日元之间 (不包括 10 万)  
C. 10 万到 15 万日元之间 (不包括 15 万)  
D. 15 万日元以上  
E. 没有拿到 9-2

10. 申请了 2001 年前期的学费免除的留学生请回答, 学费被免除了吗?  
A. 全额免除 B. 半额免除 C. 没有被免除 10

11. 一个月的生活费大约要多少?  
A. 不到 5 万日元 B. 5 万到 10 万日元之间  
C. 10 到 15 万日元之间 D. 15 万日元以上 11

12. 现在打工吗?

- A. 没打
- B. 一星期打不到 5 小时的工 (不包括 5 小时)
- C. 一星期打工时间是 5 到 10 小时之间 (不包括 10 小时)
- D. 一星期打工时间是 10 到 20 小时之间 (不包括 20 小时)
- E. 一星期打工时间是 20 到 28 小时之间 (不包括 28 小时)

12

13. 关于健康保险的问题

13-1. 现在加入健康保险了吗?

- A. 加入
- B. 没加入

13-1

13-2. 回答“A 加入”的留学生请回答. 是什么样的保险? 请选择

- A. 日本的国民健康保险
- B. 本国的健康保险
- C. 其他\_\_\_\_\_

13-2

13-3. 回答“B”的留学生请回答. 请选择没加入的理由, 并划“✓”

- A. 保险金太高
- B. 不知道加入保险的方法
- C. 不知道能加入保险
- D. 不知道有保险这回事
- E. 认为没有加入保险的必要
- F. 其他\_\_\_\_\_

A  
B  
C  
D  
E

13-3

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

14. 宿舍

- A. 神户大学 INTERNATIONAL RESIDENCE
- B. 兵庫留学生会馆 (AIEJ)
- C. 神户大学的寮(住吉寮, 女子寮等)
- D. 对留学生开放的宿舍(社员寮, 市营住宅等)
- E. 市或县的公立住宅
- F. 民间借的住宅
- G. 住在日本人家里
- H. 其他\_\_\_\_\_

14

15. 现在住的宿舍, 房租多少?

- A. 免费
- B. 不到 1 万日元(不包括 1 万日元)
- C. 1 到 3 万日元(不包括 3 万日元)
- D. 3 到 5 万日元(不包括 5 万日元)
- E. 5 到 8 万日元(不包括 8 万日元)
- F. 8 万日元以上

15

16. 关于搬家的问题

16-1. 来日本后搬了几次家?

16-1  次

16-2. 搬过家的留学生请选择理由,并划“√”

- A. 宿舍的居住期间有限制
- B. 房租太贵
- C. 太狭窄
- D. 太远
- E. 为了孩子的教育环境
- F. 新增了家庭成员
- G. 担心治安问题
- H. 其他\_\_\_\_\_

16-2

A	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>
D	<input type="checkbox"/>
E	<input type="checkbox"/>
F	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>

17. 在日本的这段时间回了几次国, 或打算回几次国?

- A. 一个月一次
- B. 半年一次
- C. 一年一次
- D. 两年一次或更少
- E. 没决定
- F. 没回过, 也没打算回国

17

关于大学里的服务以及大家的需要的问题

18-1. 神户大学内面向留学生的培训(Orientation)参加过吗?

- A. 5次以上
- B. 4次
- C. 3次
- D. 2次
- E. 1次
- F. 没参加过

18-1

18-2. 参加过的留学生请回答. 这种培训有用吗?

- 1. 大约 100%有用
- 2. 大约 80%有用
- 3. 大约 50%有用
- 4. 大约 30%有用
- 5. 一点用也没有

18-2

19-1. 神户大学的留学生中心利用过吗?

- 1. 经常利用
- 2. 有时利用
- 3. 不太利用
- 4. 一点也不利用
- 5. 不知道有这么一个中心

19-1

19-2. 选择“A经常利用”和“B有时利用”的留学生请回答。什么时候利用？按照目的的主次最多请选两个答案

- A. 上日语课
- B. 打听奖学金的消息
- C. 和老师商量、谈心
- D. 去电脑房
- E. 看书
- F. 打听交流活动的信息
- G. 参加交流活动
- H. 其他\_\_\_\_\_

19-2	一位	<input type="text"/>
	二位	<input type="text"/>

20. 对神戸大学留学生中心有什么期望吗？请按照主次顺序最多选3个答案

- A. 会外语的职员
- B. 职员的礼貌接待
- C. 商量、谈心的改善
- D. 在中心举办定期的交流活动
- E. 多一些自由利用的空间
- F. 多一些电脑
- G. 充实主页
- H. 多一些打工，就职，交流活动等的信息
- I. 充实日语课
- J. 介绍辅导员
- K. 设立留学生会
- L. 充实留学交流关系的图书
- M. 其他\_\_\_\_\_

20	一位	<input type="text"/>
	二位	<input type="text"/>
	三位	<input type="text"/>

21. 作为一个留学生，关于下面项目的信息的重要性，按5个层次回答下列问题

(1.非常重要 2.比较重要 3.一般 4.不太重要 5.一点也不重要)

- A. 宿舍
- B. 打工
- C. 奖学金
- D. 入管手续
- E. 大学制度
- F. 友好家庭
- G. 学校内的交流活动
- H. 学校外的交流活动
- I. 在日本就职
- J. 日本文化
- K. 其他\_\_\_\_\_

21	A	<input type="text"/>
	B	<input type="text"/>
	C	<input type="text"/>
	D	<input type="text"/>
	E	<input type="text"/>
	F	<input type="text"/>
	G	<input type="text"/>
	H	<input type="text"/>
	I	<input type="text"/>
	J	<input type="text"/>
	K	<input type="text"/>

22. 在日本生活方面困难的地方是什么? 从刚来日本和现在两个方面,四个层次来回答  
(1.一点也不困难 2.不太困难 3.有点困难 4.非常困难)

	刚来日本时	现在
例 用日语交流	3	1

	刚来日本时	现在
1. 听日语讲的课 . . . . . 1a		1b
2. 取得学位 . . . . . 2a		2b
3. 与指导教官的交流 . . . . . 3a		3b
4. 与本国学生的交流 . . . . . 4a		4b
5. 与别国留学生的交流 . . . . . 5a		5b
6. 与日本学生的交流 . . . . . 6a		6b
7. 日语能力不足 . . . . . 7a		7b
8. 缺乏日语学习的机会 . . . . . 8a		8b
9. 交日本朋友 . . . . . 9a		9b
10. 没有好的同性朋友 . . . . . 10a		10b
11. 没有好的异性朋友 . . . . . 11a		11b
12. 缺乏工作机会 . . . . . 12a		12b
13. 援助留学生的机构不足 . . . . . 13a		13b
14. 找宿舍 . . . . . 14a		14b
15. 适应日本的社会制度和文化 . . . . . 15a		15b
16. 不能继续与本国同样的生活习惯 . . . . . 16a		16b
17. 被日本人差别对待 . . . . . 17a		17b
18. 没有事业 . . . . . 18a		18b
19. 想家 . . . . . 19a		19b
20. 对什么都没有信心 . . . . . 20a		20b
21. 情绪压力 . . . . . 21a		21b
22. 日本的食物 . . . . . 22a		22b
23. 健康问题 . . . . . 23a		23b
24. 营养不全面 . . . . . 24a		24b
25. 没有玩的时间 . . . . . 25a		25b
26. 睡眠时间少 . . . . . 26a		26b
27. 学习时间少 . . . . . 27a		27b
28. 钱不够 . . . . . 28a		28b
29. 自己国家以及文化得不到理解 . . . . . 29a		29b
30. 其他 _____		

23. 在日本的留学生活中想要的服务是什么？下面 4 组中按照最想要的程度顺序选择 3 个答案

23-1. 关于学习、研究

- A. 选课方法的指导
- B. 记笔记的指导
- C. 发表的指导
- D. 发表提纲的指导
- E. 搜集文献的指导
- F. 考试的指导
- G. 论文的指导
- H. 优秀辅导员的介绍
- I. 日语的帮助
- J. 日语以外的外语的帮助

23-1	一位	<input type="text"/>
	二位	<input type="text"/>
	三位	<input type="text"/>

23-2. 关于大学生活

- A. 校园的外语介绍及地图
- B. 大学图书馆的利用指导
- C. 保健中心的利用指导
- D. 食堂的利用指导
- E. 校园内买东西的指导
- F. 校园内打工的指导
- G. 俱乐部的介绍
- H. 宗教仪式(如礼拜)场所的提供
- I. 相谈
- J. 其他大学信息的提供

23-2	一位	<input type="text"/>
	二位	<input type="text"/>
	三位	<input type="text"/>

23-3. 关于日常生活

- A. 银行、邮局的利用指导
- B. 校园外买东西的指导
- C. 校园外打工信息的指导
- D. 关于家务事的建议
- E. 找房子的信息提供
- F. 医院、药店的介绍
- G. 交通手段的信息提供
- H. 神户观光地的信息提供
- I. 国内旅行的信息提供
- J. 神户大学周围宗教设施的介绍

23-3	一位	<input type="text"/>
	二位	<input type="text"/>
	三位	<input type="text"/>

23-4. 其他

- A. 留学生中心的利用指导
- B. 留学生活动(旅行, 集市等)的信息提供
- C. 校园内留学生交流团体的介绍
- D. 校园外留学生交流团体的介绍
- E. 友好家庭的介绍
- F. 外国人登录的方法
- G. 国民健康保险的加入方法
- H. 关于签证, 入国管理局的信息提供
- I. 留学生的就职信息
- J. 归国后的联络机构(同学会等)

23-4 一位  
二位  
三位


24-1. 总的来说, 对在神户大学的学生生活满意吗?

- 1. 非常满意
- 2. 比较满足
- 3. 一般
- 4. 不太满足
- 5. 一点也不满足

24-1

--

24-2. 总的来说, 对在日本的生活满意吗?

- 1. 非常满意
- 2. 比较满足
- 3. 一般
- 4. 不太满足
- 5. 一点也不满足

24-2

--

对于独身的和已婚但配偶不在日本的留学生的调查到此为止。谢谢合作。

如果希望知道这个调查结果的话, 请在下面写下住址和名字, 或者跟渡部留美 [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美) 联系, 本人在一年以内将会通知结果。

住址 \_\_\_\_\_

姓名 \_\_\_\_\_



第二部分 面向配偶在日本的留学生的问卷

25. 配偶的国籍是哪里的?

- A. 日本      B. 日本以外

25

26. 配偶在日本的职业是什么?

- A. 正式社员(职员)    B. 临时社员(职员)打工者    C. 学生    D. 没有职业

26

27. 和孩子一起住的留学生, 请告诉留学生的人数(重要!夫妇同是神户大学的留学生的情况, 只请妻子回答这个问题)

- |                           |                         |   |
|---------------------------|-------------------------|---|
| A. 中学, 高中的孩子的人数 . . . . . | 27 <input type="text"/> | 人 |
| B. 小学生的孩子的人数 . . . . .    | <input type="text"/>    | 人 |
| C. 幼儿园的孩子的人数 . . . . .    | <input type="text"/>    | 人 |
| D. 托儿所的孩子的人数 . . . . .    | <input type="text"/>    | 人 |
| E. 在家里的孩子的人数 . . . . .    | <input type="text"/>    | 人 |

28. 请选择来日本的理由, 并划“✓”

- A. 日对本有兴趣 . . . . .
- B. 想到日本来学习 . . . . .
- C. 认为对小孩教育好 . . . . .
- D. 想和配偶在一起 . . . . .
- E. 有足够的经济能力 . . . . .
- F. 其他\_\_\_\_\_

28

29. 关于家务事的问题

29-1. 来日本后, 你的家务负担有变化吗?

1. 增加很多
2. 有点增加
3. 没有变化
4. 有点减少
5. 减少很多

29-1

29-2. 来日本后, 从你看来配偶的家务有变化吗?

1. 增加很多
2. 有点增加
3. 没有变化
4. 有点减少
5. 减少很多

29-2

30. 你对下面 13 个问题感觉怎么样？请从 4 个层次来回答，而且，问题发生时，先跟谁商量？  
从下面的框中选择一个，写下从 A 到 S 的字母(如果没有问题，没有必要记入跟谁商量)

#问题的程度#

(1.完全没有问题 2.不太有问题 3.有点问题 4.非常有问题)

#跟谁商量#

A. 在本国的家人	K 大学的职员
B. 在日本的家人	L. 认识的日本人
C. 日本人学生	M. 日本人的友好家庭
D. 本国留学生	N. 寮里的指导员
E. 别国留学生	O. 日本的援助团体
F. 同一文化圈的留学生	P. 教会的人
G. 留学生中心的咨询老师	Q. 没有商量的人
H. 日语老师	R. 跟谁都不商量
I. 大学的咨询老师	S. 其他_____
J. 指导教官	

例 奖学金少	问题的程度 ( 3 )	跟谁商量 <input type="text" value="1"/>
--------	----------------	--

	问题的程度	跟谁商量
1. 在日本的家人与日本人的关系 . . . . . ( )	1a	<input type="text"/> 1b
2. 关于家人的日语交际能力 . . . . . ( )	2a	<input type="text"/> 2b
3. 配偶的日常生活 . . . . . ( )	3a	<input type="text"/> 3b
4. 孩子的日常生活 . . . . . ( )	4a	<input type="text"/> 4b
5. 日常生活的信息(倒垃圾的方法等) . ( )	5a	<input type="text"/> 5b
6. 宿舍 . . . . . ( )	6a	<input type="text"/> 6b
7. 住院及生病 . . . . . ( )	7a	<input type="text"/> 7b
8. 生产及孩子的问题 . . . . . ( )	8a	<input type="text"/> 8b
9. 孩子的教育 . . . . . ( )	9a	<input type="text"/> 9b
10. 交通事故 . . . . . ( )	10a	<input type="text"/> 10b
11. 紧急事故 . . . . . ( )	11a	<input type="text"/> 11b
12. 文化的不同 . . . . . ( )	12a	<input type="text"/> 12b
13. 宗教的不同 . . . . . ( )	13a	<input type="text"/> 13b
14. 其他的能感觉到的事请写下		

31. 关于配偶的问题

31-1. 面向妻子/丈夫的希望的服务. 请按照希望程度的高低程度, 选择 5 个答案(重要! 配偶是留学生的情况请不要回答)

- A. 银行, 邮局的利用指导
- B. 买东西的指导
- C. 打工信息的提供
- D. 家务的建议
- E. 找房子的帮助和信息提供
- F. 医院和药店的介绍
- G. 交通手段的信息提供
- H. 关于神户观光地的信息
- I. 关于国内旅行的信息
- J. 宗教的设施的介绍
- K. 日语学习的服务
- L. 日语以外的学习研究的支持
- M. 与其他留学生家人的交流
- N. 日本人交流团体的介绍
- O. 商量
- P. 关于育儿及教育的信息

31-1

一位	
二位	
三位	
四位	
五位	

32. 在日本与家人一起住的情况下, 有哪些好的地方和不好的地方? 有的话, 不管有几点请打

好的地方

- A. 家务(做菜, 洗衣等)不烦 . . . . .
- B. 没有孤独感 . . . . .
- C. 有一起分享成功失败的人 . . . . .
- D. 有一起出门的人 . . . . .
- E. 在学业上能鼓励自己 . . . . .
- F. 孩子带来了活力 . . . . .
- G. 呆在日本对配偶有意义 . . . . .
- H. 呆在日本对孩子有意义 . . . . .
- I. 其他(请写下)

32-1

	a
	b
	c
	d
	e
	f
	g
	h

不好的地方

- A. 生活忙, 家人也是负担 . . . . .
- B. 经济压力 . . . . .
- C. 配偶不幸福 . . . . .
- D. 配偶想家 . . . . .
- E. 配偶的日语能力不足 . . . . .
- F. 配偶不适应日本的做事方式 . . . . .

32-2

	a
	b
	c
	d
	e
	f

- G. 担心孩子 . . . . .
- H. 孩子在学校的问题 . . . . .
- I. 其他(请写下)

	g
	h

33. 面对与孩子一起住的留学生的问題

33-1. 关于孩子有什么问題吗? 主要的问題请按照大小顺序选择 3 个

- A. 孩子只讲日语, 交流有困难
- B. 孩子的日语能力不够
- C. 孩子不适应学校, 幼儿园, 托儿所等地
- D. 孩子在学习上跟不上
- E. 孩子交不到朋友
- F. 孩子被欺负(有可能)
- G. 其他\_\_\_\_\_

	33-1
一位	
二位	
三位	

33-2. 归国后还想让孩子继续学日语吗?

- A. 想                      B. 不想                      C. 不知道

33-2

33-3. 将来, 想让孩子在日本的 University 里学习吗?

- A. 想                      B. 不想                      C. 不知道

33-3

34. 总的来说, 你的家人呆在日本这事, 对你有什么影响呢? 从学业, 经济, 情绪三方面回答

- 1. 好的影响    2. 比较好的影响    3. 不太好的影响    4. 坏影响

34-1. 学业上 . . . . .		34-1
34-2. 经济上 . . . . .		34-2
34-3. 情绪上 . . . . .		34-3

到这里为止, 谢谢合作

如果希望知道这个调查结果的话, 请在下面写下住址和名字, 或者跟渡部留美 [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美) 联系, 本人在一年以内将会通知结果.

住址 \_\_\_\_\_

姓名 \_\_\_\_\_

**第三部分 面向配偶的问题**

35. 你的出身地是哪里?

- A. 和妻/夫一样    B. 日本    C. 这之外

35

36. 来到日本的日期(请填数字)

36  
西历  年  月

37. 来日本前的职业(日本人的情况请填 D)

- A. 正式社员, 职员    B. 临时社员, 职员, 打工者    C. 学生    D. 没有

37

38. 在日本的职业

- A. 正式社员, 职员    B. 临时社员, 职员, 打工者    C. 学生    D. 没有

38

39. 日语能力的问题(非大学生者请回答 39-3 的问题)

- ( 1. 一点问题没有    2. 基本上没有问题    3. 有点问题    4. 非常有问题)

39-1. 学业上(学习和研究上) . . . . .

39-2. 人际交往上(与老师, 日本学生的会话) . . .

39-3. 生活上(购物, 在当地的会话) . . . . .

39-4. 有孩子的情况下, 小孩的一般的日语能力也请同样评价

- ( 1. 一点问题没有    2. 基本上没有问题    3. 有点问题    4. 非常有问题  
5. 还不能说 )

大儿

二儿

三儿

40. 你来日本以后学了日语吗? 按主次顺序请选择 2 个答案

- A. 在民间的日语学校学了, 或正在学
- B. 在神户大学开办的自愿者的日语班上学或正在学
- C. 在地方团体或自愿者的日语教室学, 或正在学
- D. 在朋友那学过, 或正在学
- E. 在配偶那学过, 或正在学
- F. 自学过, 或正在自学
- G. 没学
- H. 是日本人没有必要学

40  
一位

二位

41. 请选择来日本的理由, 并划 ✓

- A. 想和配偶在一起 . . . . . A
- B. 想到日本来学习 . . . . . B
- C. 认为对孩子教育好 . . . . . C
- D. 对日本有兴趣 . . . . . D
- E. 有足够的经济能力 . . . . . E
- F. 是日本人, 没法选择 . . . . . F
- G. 其他 \_\_\_\_\_

41


42. 在日本的这段时间回了几次国, 或打算回几次国?

- A. 一个月一次
- B. 半年一次
- C. 一年一次
- D. 两年一次或更少
- E. 没决定
- F. 没回过, 也没打算回国
- G. 是日本人没法选

42

--

43. 关于健康保险的问题

- 43-1. 现在加入健康保险了吗?
- A. 加入
  - B. 没加入

43-1

--

43-2. 回答“A 加入”的留学生请回答, 是什么样的保险? 请选择

- A. 日本的国民健康保险
- B. 本国的健康保险
- C. 其他 \_\_\_\_\_

43-2

--

43-3. 回答“B 没加入”的留学生请回答, 请选择没加入的理由, 并划 ✓ “43-3

- A. 保险金太高 . . . . . A
- B. 不知道加入保险的方法 . . . . . B
- C. 不知道能加入保险 . . . . . C
- D. 不知道有保险这回事 . . . . . D
- E. 认为没有加入保险的有必要 . . . . . E
- F. 其他 \_\_\_\_\_


44-1. 妻/夫在留学时, 你计划今后在日本住吗?

- A. 是
- B. 不是
- C. 不知道

44-1

44-2. 回答 B 不是的人, 请选择理由并划

- A. 因为计划在本国生产 . . . . . A
- B. 因为想家 . . . . . B
- C. 要工作 . . . . . C
- D. 孩子的教育问题 . . . . . D
- E. 经济的原因 . . . . . E
- F. 要照顾父母 . . . . . F
- G. 其他 \_\_\_\_\_

44-2


45. 关于你的配偶的问题

45-1. 你的妻/夫有什么问题? 请按照问题的大小顺序来选择

- A. 从大学很晚回家
- B. 配偶的学业
- C. 配偶的健康
- D. 配偶的将来
- E. 配偶不帮助做家务带小孩
- F. 配偶对自己有暴力行为
- G. 配偶在大学的人际关系
- H. 其他 \_\_\_\_\_

45-1

- 一位
- 二位
- 三位


46. 面向与孩子一起住的人的问题

46-1. 关于孩子有什么问题吗? 主要的问题请按照大小顺序选择 3 个

- A. 孩子只讲日语, 交流有困难
- B. 孩子的日语能力不够
- C. 孩子不适应学校, 幼儿园, 托儿所等地
- D. 孩子在学习上跟不上
- E. 孩子交不到朋友
- F. 孩子被欺负(有可能)
- G. 其他 \_\_\_\_\_

46-1

- 一位
- 二位
- 三位


46-2. 归国后还想让孩子继续学日语吗?

- A. 想
- B. 不想
- C. 不知道

46-2

46-3. 将来, 想让孩子在日本的大学里学习吗?

- A. 想
- B. 不想
- C. 不知道

46-3

47. 在日本生活方面困难的地方是什么？从刚来日本和现在两个方面来回答

(1.一点也不困难 2.不太困难 3.有点困难 4.非常困难)

	刚来日本时	现在
例 用日语交流	3	1

	刚来日本时	现在
1. 日语能力不足 . . . . .	1a	1b
2. 缺乏日语学习的机会 . . . . .	2a	2b
3. 交日本朋友 . . . . .	3a	3b
4. 没有好的同性朋友 . . . . .	4a	4b
5. 没有好的异性朋友 . . . . .	5a	5b
6. 缺乏工作机会 . . . . .	6a	6b
7. 援助留学生的机构不足 . . . . .	7a	7b
8. 找宿舍 . . . . .	8a	8b
9. 适应日本的社会制度和文化 . . . . .	9a	9b
10. 不能继续与本国同样的生活习惯 . . . . .	10a	10b
11. 被日本人差别对待 . . . . .	11a	11b
12. 没有事业 . . . . .	12a	12b
13. 想家 . . . . .	13a	13b
14. 对什么都没有信心 . . . . .	14a	14b
15. 情绪压力 . . . . .	15a	15b
16. 日本的食物 . . . . .	16a	16b
17. 健康问题 . . . . .	17a	17b
18. 营养不全面 . . . . .	18a	18b
19. 没有玩的时间 . . . . .	19a	19b
20. 睡眠时间少 . . . . .	20a	20b
21. 学习时间少 . . . . .	21a	21b
22. 钱不够 . . . . .	22a	22b
23. 自己国家的文化得不到理解 . . . . .	23a	23b
24. 与附近的人没有交往 . . . . .	24a	24b
25. 不知道与附近的人的交往方式 . . . . .	25a	25b

如果是日本人, 到这里为止. 请前进到 51 题



48. 在日本的生活中, 你希望有什么样的服务? 按照优先顺序选择 5 个

- A. 银行, 邮局的利用指导
- B. 买东西的指导
- C. 打工信息的提供
- D. 家务的建议
- E. 找房子的帮助和信息提供
- F. 医院和药店的介绍
- G. 交通手段的信息提供
- H. 关于神户观光地的信息
- I. 关于国内旅行的信息
- J. 神户大学附近的宗教的设施的介绍
- K. 日语学习的服务
- L. 日语以外的学习研究的支持
- M. 与其他留学生家人的交流
- N. 日本人交流团体的介绍
- O. 商量
- P. 关于小孩及教育的信息

48

一位	<input type="text"/>
二位	<input type="text"/>
三位	<input type="text"/>
四位	<input type="text"/>
五位	<input type="text"/>

49. 关于家务(小孩)的问题

49-1. 来日本后, 你的家务(小孩)的负担有变化了吗?

- 1. 增加很多
- 2. 有点增加
- 3. 没有变化
- 4. 有点减少
- 5. 减少很多

49-1

<input type="text"/>
----------------------

49-2. 来日本后, 从你看来配偶的家务有变化吗?

- 1. 增加很多
- 2. 有点增加
- 3. 没有变化
- 4. 有点减少
- 5. 减少很多

49-2

<input type="text"/>
----------------------

50. 总的来说, 你对在日本的生活满意吗?

- 1. 很满意
- 2. 比较满意
- 3. 一般
- 4. 不太满意
- 5. 一点也不满意

50

<input type="text"/>
----------------------

51. 配偶者们, 您好. 如果您能够亲自接受我的采访的话, 请写下您的名字和电话号码.

姓名\_\_\_\_\_

电话号码\_\_\_\_\_

到这里结束了, 谢谢合作

如果希望知道这个调查结果的话, 请在下面写下住址和名字, 或者跟渡部留美 [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美) 联系, 本人在一年以内将会通知结果.

住址\_\_\_\_\_

姓名\_\_\_\_\_

# 양 케 이 트

## 양케이트 작성 전에 읽어 주십시오.

1. PART ONE 은, 모든 유학생이 답해 주십시오.
2. PART TWO 는, 기혼자로 배우자(남편/부인)가 일본에 있는 유학생에 한해 답해 주십시오.  
PART THREE 는, 배우자(단, 유학생자신의 배우자는 답하실 필요 없습니다)가 답해 주십시오.
3. 이것은 전유학생을 대상으로 하는 양케이트입니다. 당신의 배우자가 고베대학의 학생으로, 이 양케이트가 배포되었을 경우, 각각의 용지에 반드시 답해 주십시오.
4. 각항목에 대해, 오른쪽에 있는 사각의 답란에 기입해 주십시오.
5. 따로 기술이 없는 항목은 각 질문에 대해, 하나를 골라 답해 주십시오.
6. 그 외 의 경우는 밑줄부분에 적어 주십시오.

## 양케이트 작성 예

예 1. 당신이 현재 소속하고 있는 대학은 어느 나라에 있습니까?

- (A) 일본      (B) 미국      (C) 러시아

예 1 A

⇒당신은 지금 일본에 있는 대학에 소속하고 있습니다. 그러므로, 오른쪽 해답란에 A 라고 답해 주십시오.

## PART ONE(모든 유학생에 질문) 당신 자신에 대해 묻습니다.

1. 출신지역 (A) 동아시아    (B) 동남아시아    (C) 남아시아    (D) 중동  
(E) 아프리카    (F) 북미    (G) 남미  
(H) 오세아니아    (I) 유럽    (J) 그 외 \_\_\_\_\_  
1
  
2. 성별    (A) 여    (B) 남  
2
  
3. 연령    (A) 19 세 이하    (B) 20-24 세    (C) 25-29 세  
(D) 30-34 세    (E) 35 세 이상  
3
  
4. 신분 (A) 학부생    (B) 대학원생    (C) 연구생  
(D) 교환유학생, 단기유학생(학위취득을 목적으로 하지 않음)  
(E) 그 외 \_\_\_\_\_  
4
  
5. 소속 (A) 경제학연구과    (B) 경영학 연구과    (C) 의학계연구과  
(D) 문학연구과    (E) 종합인간과학연구과    (F) 법학연구과  
(G) 문화학연구과    (H) 자연과학연구과    (I) 국제협력연구과  
(J) 문학부    (K) 국제문화학부    (L) 발달과학부  
(M) 법학부    (N) 경제학부    (O) 경영학부  
(P) 이학부    (Q) 의학부    (R) 공학부  
(S) 농학부    (T) 유학생센터    (U) 그 외 \_\_\_\_\_  
5

6. 일본에 온 날짜(숫자를 적어 주십시오)

서기 <sup>6</sup>  년  월

7-1. 기혼 상황 (A) 독신 (B) 기혼

7-1

7-2 「(B)기혼」으로 답해주신 분께 묻습니다. 배우자는

- (A) 현재 같이 살고 있다.
- (B) 앞으로 일본에 와서 장기간(6개월 이상) 같이 살 예정이다.
- (C) 이전에 일본에서 장기간(6개월 이상) 같이 살았었다.
- (D) 일본에 장기간(6개월 이상) 같이 산 적도 없고, 할 예정도 없다.

7-2

8. 당신의 일본어 능력을 세가지 면에서 4 단계로 답해 주십시오.

(1. 전혀 문제가 없다 2. 거의 문제가 없다. 3.조금 문제가 있다 4. 아주 문제가 많다.)

- 8-1 학업면 (학습 / 연구상)
- 8-2 대인면 (교직원 / 일본인 학생과의 대화)
- 8-3 생활면 (시장을 본다든가 지역에서을 대화)

8-1	<input type="text"/>
8-2	<input type="text"/>
8-3	<input type="text"/>

9. 유학비용에 관해서 질문합니다.

9-1 당신의 유학비용은

- (A) 국비
- (B) 정부파견
- (C) 자비
- (D) 그 외 \_\_\_\_\_

9-1

9-2 「(C) 자비」 라고 대답한 분에게 묻습니다. 장학금은 받고 있습니까?

- (A) 5만엔 미만
- (B) 5-10만엔 미만
- (C) 10-15만엔 미만
- (D) 15만엔 이상
- (E) 받고 있지 않다.

9-2

10. 2001년도 전기 수업료면제 신청하신 분께 묻습니다. 면제 되었습니까?

- (A) 전액 면제 (B) 반액 면제 (C) 면제 받지 못했다.

10

11. 1개월 생활비는 대개 얼마입니까?

- (A) 5만엔 미만 (B) 5-10만엔 미만 (C) 10-15만엔미만 (D)15만엔 이상

11

12. 아르바이트는 하고 있습니까?

- (A) 하지 않고 있다.
- (B) 1 주일에 5 시간 미만
- (C) 1 주일에 5-10 시간 미만
- (D) 1 주일에 10-20 시간 미만
- (E) 1 주일에 20-28 시간 미만

12

13. 건강보험에 대해 묻습니다.

13-1 현재 건강보험에 가입하고 있습니까?

- (A) 예            (B) 아니오

13-1

13-2 「(A) 예」라고 대답하긴 분에게 묻습니다. 그것은 어떤 건강보험입니까? 맞는것에 전부 답해주세요.

- (A) 일본의 국민건강보험
- (B) 자국의 국민건강보험
- (C) 그 외

13-2

13-3 「(B) 아니오」라고 답하신 분에게 묻겠습니다. 가입하고 있지 않는 이유로 해당되는 것을 몇개라도 체크해 주십시오.

- (A) 보험료가 비싸기 때문에
- (B) 보험가입하는 방법을 모르기 때문에
- (C) 보험가입이 가능하다는 것을 몰랐기 때문에
- (D) 보험이 있다는 것을 모르기 때문에
- (E) 보험에 가입할 필요가 없다고 생각하기 때문에
- (F) 그 외 \_\_\_\_\_

13-3

A	
B	
C	
D	
E	

14. 숙소 (A) 고베대학 인터내셔널 레지던스 (대학의 유학생 기숙사)

- (B) 효고유학생회관(AIEJ)
- (C) 고베대학 기숙사(스미요시기숙사, 여자기숙사 등)
- (D) 유학생용으로 개방되어있는 숙소(회사등의 사원용기숙사 / 시영아파트 등)
- (E) 시나 현의 공영아파트
- (F) 일반 민간 아파트나 세집
- (G) 홈스테이 또는 방한칸을 빌려서 씀
- (H) 그 외 \_\_\_\_\_

14

15. 현재 살고 있는 숙소의 집세는 얼마정도입니까?

- (A) 무료            (B) 만엔미만            (C) 1-3 만엔미만
- (D) 3-5 만엔        (E) 5-8 만엔미만        (F) 8 만엔 이상

15

16. 이사에 대한 질문입니다.

16-1. 일본에 와서 몇번 이사하셨습니다?

16-1  회

16-2 이사를 하신 분은 그 이유로서 해당되는 것을 몇개라도 체크해 주십시오.

- (A) 숙사의 입주기간에 기한이 있었다.
- (B) 집세가 비쌌다.
- (C) 좁았다
- (D) 멀었다
- (E) 아이의 교육환경 때문에
- (F) 가족이 늘었다
- (G) 치안에 불안이 있었다.
- (H) 그 외 \_\_\_\_\_

16-2

A	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>
D	<input type="checkbox"/>
E	<input type="checkbox"/>
F	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>

17. 일본에 체재하고 있는 동안, 어느정도로 자주 귀국하고 있습니까, 그리고 할 예정입니까?

- (A) 한달에 한 번정도
- (B) 반년에 한번정도
- (C) 일년에 한번정도
- (D) 2년에 한번 아니면 그 이하
- (E) 정해져 있지 않다.
- (F) 귀국한 적이 없다. 할 예정도 없다

17

대학내의 서비스나 여러분이 무엇을 필요로 하는지 묻겠습니다.

18-1. 고베대학내에서 유학생을 위한 오리엔테이션에 참가한 적이 있습니까?

- (A) 5 회이상
- (B) 4 회
- (C) 3 회
- (D) 2 회
- (E) 1 회
- (F) 참가한 적이 없다.

18-1

18-2. 참가한 적이 있는 분에게 묻겠습니다. 도움이 되었습니까?

- (1) 약 100%정도 도움이 되었다
- (2) 약 80%정도 도움이 되었다
- (3) 약 50%정도 도움이 되었다
- (4) 약 30%정도 도움이 되었다
- (5) 전혀 도움이 되지 않았다.

18-2

19-1. 고베대학 유학생센터를 이용하고 있습니까?

- (1) 자주 이용한다
- (2) 가끔 이용한다
- (3) 별로 이용하지 않는다
- (4) 전혀 이용하지 않는다
- (5) 유학생센터의 존재를 몰랐다.

19-1

19-2. 「(1)자주 이용한다」 「(2)가끔 이용한다」고 대답한 분에게 묻겠습니다.어떤 때에 이용하고 있습니까? 주된 것을 우선순위로 높은 순으로 2개까지 골라 주십시오.

- (A) 일본어 수업을 받기 위해
- (B) 장학금 정보를 얻기 위해
- (C) 상담/ 카운셀링을 받기 위해
- (D) 컴퓨터실을 사용하기 위해
- (E) 도서를 이용하기 위해
- (F) 교류활동 정보를 얻기 위해
- (G) 교류활동에 참가하기 위해
- (H) 그 외 \_\_\_\_\_

19-2

1 위

2 위

20. 고베대학 유학생센터에 바라는 것이 무엇입니까? 주된 것을 우선순위로 높은 순으로 3 개까지 골라주십시오.

- (A) 외국어가 가능한 스탭진
- (B) 스탭진의 정중한 대응
- (C) 상담/카운셀링시스템의 개선
- (D) 유학생센터내에서의 정기적 교류활동의 실시
- (E) 자유롭게 이용할수 있는 공간의 개방
- (F) 컴퓨터 수의 증가
- (G) 홈페이지의 충실
- (H) 정보(아르바이트, 취직, 교류활동 등) 제공의 충실
- (I) 일본어 클래스의 충실
- (J) 튜터의 소개
- (K) 유학생회의 설치
- (L) 유학교류관계의 도서의 충실
- (M) 그 외 \_\_\_\_\_

20

1 위

2 위

3 위

21. 당신은 일본에 있는 유학생에게 있어 이하의 항목에 대한 정보가 어느정도 중요하다고 생각하십니까?

5 단계로 대답해 주십시오.

- ( 1. 대단히 중요하다      2. 어느정도 중요하다      3. 어느쪽도 아니다      4. 별로 중요하지 않다      5. 전혀 중요하지 않다. )

- (A) 숙소
- (B) 아르바이트
- (C) 장학금
- (D) 입국관리 사무절차
- (E) 대학의 시스템
- (F) 호스트 패밀리
- (G) 학내 교류활동
- (H) 학외 교류활동
- (I) 일본에서의 취직
- (J) 일본 문화
- (K) 그 외 \_\_\_\_\_

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

22. 당신은 일본에서 생활하면서 어떤 점에 어려움을 느끼고 있습니까? 일본에 온 직후와 현재 양쪽 모두, 4 단계로 대답해 주십시오.

- (1. 전혀 어려움이 없다    2. 별로 어려움이 없다    3. 조금 어려움이 있다    4. 대단히 어려움이 있다)

	일본에 온 직후	현재
예) 일본어로 커뮤니케이션 하는 것 . . . . .	3	1
(1) 일본어로 하는 강의 . . . . .	1a	1b
(2) 학위를 따는 것 . . . . .	2a	2b
(3) 지도교수와의 커뮤니케이션 . . . . .	3a	3b
(4) 같은 나라 유학생과의 커뮤니케이션 . . . . .	4a	4b
(5) 다른나라유학생과의 커뮤니케이션 . . . . .	5a	5b
(6) 일본인 학생과의 커뮤니케이션 . . . . .	6a	6b
(7) 일본어 능력 부족 . . . . .	7a	7b
(8) 일본어학습 기회의 결여 . . . . .	8a	8b



(1. 전혀 어려움이 없다 2. 별로 어려움이 없다 3. 조금 어려움이 있다 4. 대단히 어려움이 있다)

	일본에 온 직후	현재
(9) 일본인친구를 만드는 일 . . . . .	9a	9b
(10) 친한 동성 친구가 없는 것 . . . . .	10a	10b
(11) 친한 이성 친구가 없는 것 . . . . .	11a	11b
(12) 일 할 기회의 결여 . . . . .	12a	12b
(13) 유학생을 위한 원조 시스템의 결여 . . . . .	13a	13b
(14) 숙사를 찾는 일 . . . . .	14a	14b
(15) 일본의 사회제도나 일본문화에의 적응 . . . . .	15a	15b
(16) 모국과 같은 생활습관을 할 수가 없는 것 . . . . .	16a	16b
(17) 일본인으로부터 차별 받는 것 . . . . .	17a	17b
(18) 경력을 쌓을 수 없는 것 . . . . .	18a	18b
(19) 흠뻑 . . . . .	19a	19b
(20) 무엇이든시간에 자신을 가질 수가 없는 것 . . . . .	20a	20b
(21) 정서적 스트레스 . . . . .	21a	21b
(22) 일본 음식 . . . . .	22a	22b
(23) 건강문제 . . . . .	23a	23b
(24) 영양이 한쪽으로 치우치기 쉬운 것 . . . . .	24a	24b
(25) 놀 시간이 없는 것 . . . . .	25a	25b
(26) 수면 시간이 적은 것 . . . . .	26a	26b
(27) 공부할 시간이 없는 것 . . . . .	27a	27b
(28) 재원이 충분하지 않은 것 . . . . .	28a	28b
(29) 자기 나라/ 문화에 대해 이해받지 못하는 것 . . . . .	29a	29b
(30) 그 외(적어 주십시오) _____		

23. 일본에서의 유학생생활에 있어서, 있으면 좋겠다고 생각하는 서비스를 이하의 4 개 그룹에 대해 각각 우선순위 높은 순으로 3 개까지 골라 주십시오.

23-1. 학습/ 연구에 관한 것

- (A) 수업을 잘 고르는 방법의 지도
- (B) 노트하는 방법의 지도
- (C) 발표하는 방법의 지도
- (D) 레쥬메작성의 지도
- (E) 문헌 수집하는 방법의 지도
- (F) 시험치는 방법의 지도
- (G) 레포트/논문 쓰는 방법의 지도
- (H) 좋은 튜터 소개
- (I) 일본어 보조
- (J) 일본어 이외의 외국어(영어등) 보조

23-1

1 위

2 위

3 위

23-2. 대학생활에 대한 것

- (A) 외국어로 캠퍼스내 안내표지/ 캠퍼스 맵 등
- (B) 대학 도서관의 이용안내
- (C) 보건관리센터의 이용안내
- (D) 식당의 이용안내
- (E) 물건사는 방법(캠퍼스내)의 지도
- (F) 아르바이트 정보(캠퍼스내)의 제공
- (G) 씨클의 소개
- (H) 종교적 의식(예배 등)을 위한 장소제공
- (I) 카운셀링
- (J) 타대학의 정보제공

23-2

1 위

2 위

3 위

23-3. 일상생활에 대한 것

- (A) 은행/우체국의 이용안내
- (B) 물건 사는 방법(캠퍼스 외)의 지도
- (C) 아르바이트정보(캠퍼스 외)의 제공
- (D) 집안일(요리, 세탁 등)하는 방법의 어드바이스
- (E) 숙소찾는 일을 도와주거나 정보제공
- (F) 병원/약국의 소개
- (G) 교통수단의 정보제공
- (H) 고베의 관광지에 대한 정보
- (I) 국내 여행에 대한 정보
- (J) 종교 시설 소개

23-3

1 위

2 위

3 위

23-4. 그 외

- (A) 유학생센터의 이용안내
- (B) 유학생을 위한 이벤트(여행/바자회 등)의 정보제공
- (C) 유학생교류단체(캠퍼스 내)의 소개
- (D) 유학생교류단체(캠퍼스 외)의 소개
- (E) 호스트패밀리의 소개
- (F) 외국인 등록의 방법
- (G) 국민건강보험의 가입방법
- (H) 비자/입국관리에 대한 정보제공
- (I) 유학생을 위한 취직 정보
- (J) 귀국후의 애프터 케어(동창회조직등)

23-4

1 위

2 위

3 위

24-1. 전체적으로 고베대학에서의 학생생활에 만족하고 있습니까?

- (1) 매우 만족하고 있다
- (2) 거의 만족하고 있다
- (3) 어느쪽도 아니다
- (4) 별로 만족하고 있지 않다
- (5) 전혀 만족하고 있지 않다

24-1

24-2. 전체적으로 일본에서의 생활에 만족하고 있습니까?

- (1) 매우 만족하고 있다
- (2) 거의 만족하고 있다
- (3) 어느쪽도 아니다
- (4) 별로 만족하고 있지 않다
- (5) 전혀 만족하고 있지 않다

24-2

독신이신 분 혹은 기혼자로 배우자가 일본에 없는 분은 여기까지입니다.  
협조해주셔서 감사합니다.

본 조사결과를 알고 싶으신 분은 1년 이내로 결과를 알려드릴테니 밑에 받으실 곳의 주소와 이름을  
적어주시든가, [988f341f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f341f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美)로 연락해 주십시오.

주소 :

이름 :

**PART TWO ( 배우자가 일본에서 동거하고 있는 유학생에 대한 질문 )**

25. 배우자의 국적은 어디입니까?

- (A) 일본 (B) 일본 외

25

26. 배우자의 일본에서의 직업은 무엇입니까?

- (A) 정식사원(직원) (B) 임시사원(직원) 아르바이트 (C) 학생 (D) 없음

26

27. 자녀와 함께 살고 있는 분은 자녀수를 가르쳐 주십시오. (중요! 단, 부부 둘 다 고베대학 유학생인 경우, 부인만 질문에 답해 주십시오.)

- (A) 중고생 자녀수  
(B) 초등학교생 자녀수  
(C) 유치원 자녀수  
(D) 보육원 자녀수  
(E) 아무데도 다니지 않음

27

a	<input type="text"/>	명
b	<input type="text"/>	명
c	<input type="text"/>	명
d	<input type="text"/>	명
e	<input type="text"/>	명

28. 일본에 온 이유로 맞는 것을 있는대로 체크(✓) 해 주십시오.

- (A) 일본에 관심이 있었으므로  
(B) 일본에서 공부하고 싶었으므로  
(C) 자녀의 교육에 좋다고 생각해서  
(D) 배우자와 함께 있는 것이 당연하므로  
(E) 금전적으로 여유가 있었으므로  
(F) 그외 \_\_\_\_\_

28

a	<input type="checkbox"/>
b	<input type="checkbox"/>
c	<input type="checkbox"/>
d	<input type="checkbox"/>
e	<input type="checkbox"/>

29. 가사(육아)에 대해 묻겠습니다.

29-1. 일본에 온 후, 당신의 가사(육아) 부담은 변화했습니까?

- (1) 매우 늘었다  
(2) 조금 늘었다  
(3) 변화가 없다  
(4) 조금 줄었다  
(5) 매우 줄었다

29-1

29-2. 일본에 온 후, 당신이 봤을 때 배우자의 가사(육아) 부담은 변화했습니까?

- (1) 매우 늘었다  
(2) 조금 늘었다  
(3) 변화가 없다  
(4) 조금 줄었다  
(5) 매우 줄었다

29-2

30. 단신은 다음의 1-13 까지의 항목에 대해 어느정도 문제를 느끼십니까? 4 단계로 대답해 주십시오. 그리고, 1-13 의 문제가 발생했을 때 우선 처음에 누구한테 상담하겠습니까? 밑의 □에서 하나를 골라 A 에서 S 까지의 알파벳을 써 주십시오.(문제가 없다면 상담상대를 기입할 필요없습니다.)

문제의 정도

- (1. 전혀 문제가 없다. 2. 별로 문제가 없다 3. 조금 문제가 있다 4. 매우 문제가 있다 )

상담상대

A. 모국의 가족	K. 대학의 직원
B. 일본에 있는 가족	L. 아는 일본인
C. 일본인 학생	M. 일본인 호스트패밀리
D. 같은 나라 유학생	N. 기숙사의 어드바이저
E. 다른 나라 유학생	O. 일본의 원조단체
F. 같은 문화권에서 온 유학생	P. 종교가
G. 유학생 센터의 어드바이저	Q. 상담상대가 없다
H. 일본어 선생님	R. 누구한테도 상담하지 않는다
I. 대학의 카운셀러	S. 그 외 _____
J. 지도교수	

	문제의 정도	상담상대
예) 장학금이 적다	( 3 )	I

	문제의 정도	상담상대
(1) 일본에 있는 가족과		
일본인 과의 인간관계 . . . . . (	) 1a	1b
(2) 가족의 일본어로의 커뮤니케이션에		
대한 문제 . . . . . (	) 2a	2b
(3) 배우자의 일상생활 . . . . . (	) 3a	3b
(4) 자녀의 일상생활 . . . . . (	) 4a	4b
(5) 일상생활의 정보 . . . . . (	) 5a	5b
(쓰레기 버리는 방법 등)		
(6) 숙사 . . . . . (	) 6a	6b
(7) 입원 및 병 . . . . . (	) 7a	7b
(8) 출산 및 자녀 돌보기 . . . . . (	) 8a	8b

- (9) 자녀의 교육 . . . . . ( ) 9a 

--

 9b
- (10) 교통사고 . . . . . ( ) 10a 

--

 10b
- (11) 긴급사태 . . . . . ( ) 11a 

--

 11b
- (12) 문화의 차이 . . . . . ( ) 12a 

--

 12b
- (13) 종교의 차이 . . . . . ( ) 13a 

--

 13b
- (14) 그 외 문제를 느끼고 있는 것이 있다면 써 주십시오.

31. 당신의 배우자에 관해서 묻겠습니다.

31-1. 부인/ 남편 에 대해서 해 줬으면 하는 서비스를 우선순 높은 순으로 5 개까지 골라 주십시오.

(중요! 당신의 배우자가 유학생의 경우, 답하지 마십시오.)

- (A) 은행/우체국의 이용안내
- (B) 물건 사는 방법의 지도
- (C) 아르바이트정보의 제공
- (D) 가사하는 방법의 어드바이스
- (E) 숙소 찾는 일을 도와주거나 정보제공
- (F) 병원/약국의 소개
- (G) 교통수단의 정보제공
- (H) 고베의 관광지에 대한 정보
- (I) 국내여행에 대한 정보
- (J) 종교시설의 소개
- (K) 일본어 학습의 서비스
- (L) 일본어 이외의 학습/연구에 대한 지원
- (M) 다른 유학생가족과의 교류회
- (N) 일본인 교류단체의 소개
- (O) 카운셀링
- (P) 자녀의 육아/ 교육에 대한 정보

31-1

1 위	
2 위	
3 위	
4 위	
5 위	

32. 당신에게 있어 일본에서 가족과 동거하는 경우, 좋은 점과 문제점은 무엇입니까?

맞는 것을 있는대로 체크(✓) 해 주십시오.

좋은 점

- (A) 가사(요리/세탁 등) 에 신경쓰지 않아도 된다 . . . . . 

--

 a
- (B) 외로움을 느끼지 않는다 . . . . . 

--

 b
- (C) 문제나 성공을 함께 나눌 사람이 있다 . . . . . 

--

 c
- (D) 함께 외출할 사람이 있다 . . . . . 

--

 d

- (E) 학업을 격려해 준다 . . . . .
- (F) 자녀가 활력을 준다 . . . . .
- (G) 일본에 체재하는 것이 배우자에게 의의가 있다 . . .
- (H) 일본에 체재하는 것이 자녀에게 의의가 있다 . . .
- (I) 그 외 (써 주십시오)

	e
	f
	g
	h

문제점

- (A) 바쁜데 가족을 돌보지 않으면 안된다는 부담 . . .
- (B) 경제적 압박 . . . . .
- (C) 배우자가 행복하지 않다 . . . . .
- (D) 배우자가 흥씩 . . . . .
- (E) 배우자의 일본어능력이 충분하지 않다 . . . . .
- (F) 배우자가 일본의 방식에 적응하지 못한다 . . . . .
- (G) 자녀에 대한 걱정 . . . . .
- (H) 자녀의 학교에서의 문제 . . . . .
- (I) 그외 (써 주십시오)

32-2

	a
	b
	c
	d
	e
	f
	g
	h

33. 자녀와 함께 살고 있는 분에게 묻겠습니다.

33-1. 자녀에 대해 어떤 문제를 안고 있습니까? 주된 것을 문제가 큰 순으로 3개까지 골라 주십시오.

- (A) 자녀가 일본어로만 얘기하고 커뮤니케이션을 하기가 어렵다.
- (B) 자녀의 일본어 능력이 불충분
- (C) 자녀가 학교/유치원/보육원 등에 적응하지 못한다
- (D) 자녀가 수업을 따라가지 못한다
- (E) 자녀한테 친구가 생기지 않는다
- (F) 자녀가 이지메를 당하고 있다 (가능성이 있다)
- (G) 그외 \_\_\_\_\_

33-1

1 위

2 위

3 위

33-2. 귀국후에도 자녀에게 일본어를 계속 공부시키고 싶다고 생각하십니까?

- (A) 네                                  (B) 아니요                                  (C) 모르겠다

33-2

33-3. 장래에 자녀를 일본의 대학에서 공부시키고 싶습니까?

- (A) 네                                  (B) 아니요                                  (C) 모르겠다

33-3



34. 전체적으로 당신의 가족이 일본에 있는 것으로 인해 어떠한 영향이 있습니까?

학업면, 경제면, 정서면으로 각각 대답해 주십시오.

(1. 좋은 영향    2. 어느쪽인가 하면 좋은 영향    3. 어느쪽인가 하면 나쁜 영향    4. 나쁜 영향)

34-1. 학업면 . . . . .	<input type="checkbox"/>
34-2. 경제면 . . . . .	<input type="checkbox"/>
34-3. 정서면 . . . . .	<input type="checkbox"/>

이상으로 끝입니다. 협조해 주셔서 감사합니다.

본 조사결과를 알고 싶으신 분은 1년 이내로 결과를 알려드릴테니 밑에 받으실 곳의 주소와 이름을 적어주시든가, [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美)로 연락해 주십시오.

주소 :

이름 :

**PART THREE ( 배우자한테 질문 )**

35. 당신의 출신지에 대해 묻겠습니다.

- (A) 부인/남편 과 같음 (B) 일본 (C) 그 이외

35

36. 일본에 온 날짜 (숫자를 써 주십시오)

36 서기  년  월

37. 일본에 오기 전의 직업 ( 일본인의 경우, D를 적어 주십시오)

- (A) 정식사원/ 직원 (B) 임시사원/ 직원/ 아르바이트 (C) 학생 (D) 없음 37

38. 일본에서의 직업

- (A) 정식사원/ 직원 (B) 임시사원/ 직원/ 아르바이트 (C) 학생 (D) 없음 38

39. 일본어 능력 ( 대학생이 아닌 분은 39-3부터 답해 주십시오.)

- ( 1. 전혀 문제가 없다. 2. 거의 문제가 없다 3. 조금 문제가 있다 4. 매우 문제가 있다 )

39-1. 학업면(학습,연구상) . . . . .	39-1	<input type="text"/>
39-2. 대인면(교관, 일본인학생과의 대화) . . . . .	39-2	<input type="text"/>
39-3. 생활면(물건사기,지역에서의 대화) . . . . .	39-3	<input type="text"/>

39-4. 자녀가 있는 경우, 자녀의 일반적 일본어 능력을 같은 식으로 평가 해 주십시오.

- ( 1. 전혀 문제가 없다. 2. 거의 문제가 없다 3. 조금 문제가 있다  
4. 매우 문제가 있다 5. 아직 말을 하지 못한다.)

39-4

첫째	<input type="text"/>
둘째	<input type="text"/>
셋째	<input type="text"/>

40. 당신은 일본에 오고 나서 일본어 공부를 했습니까? 맞는 것을 주된 순으로 2 개까지 대답해 주십시오.

- (A) 인간의 일본어 학교에서 공부했다/ 공부하고 있다  
 (B) 고베대학에서 개최하고있는 불런티어에 의한 일본어코스에서 공부했다/하고 있다  
 (C) 다른 자치단체나 불런티어에 의한 일본어 교실에서 공부했다/하고 있다  
 (D) 친구/ 아는 사람 에게 배웠다/배우고 있다  
 (E) 배우자한테 배웠다/배우고 있다  
 (F) 독학으로 공부했다/하고 있다  
 (G) 하고 있지 않다  
 (H) 일본인이므로 필요가 없다.

40

1 위

2 위

41. 일본에 온 이유로 맞는 것을 있는대로 체크(✓)해 주십시오.

- (A) 배우자와 함께 있는 게 당연하므로
- (B) 일본에서 공부하고 싶었으므로
- (C) 자녀의 교육에 좋다고 생각해서
- (D) 일본에 관심이 있었으므로
- (E) 금전적으로 여유가 있었으므로
- (F) 일본인이므로 어디에도 해당하지 않는다
- (G) 그 외 \_\_\_\_\_

41

A	
B	
C	
D	
E	
F	

42. 일본 체재하고 있는 동안 어느정도의 빈도로 귀국하고 있습니까? 또 예정입니까?

- (A) 한달에 한번정도
- (B) 반년에 한번정도
- (C) 일년에 한번정도
- (D) 2년에 한번 또는 그 이하
- (E) 정해져 있지 않다.
- (F) 귀국한 적이 없다. 할 예정이 없다
- (G) 일본인이므로 해당사항 없다.

42

43. 건강보험에 대해 묻겠습니다.

43-1. 현재 건강보험에 가입하고 있습니까?

- (A) 네
- (B) 아니오.

43-1

43-2. 「(A)네」라고 대답한 분에게 묻겠습니다. 그건 어떤 건강보험입니까? 맞는것을 있는대로 답해 주십시오.

- (A) 일본의 국민건강보험
- (B) 자국의 국민건강보험
- (C) 그 외 \_\_\_\_\_

43-2

43-3. 「(B)아니오」라고 답하신 분께 묻겠습니다. 가입하고 있지 않는 이유로 맞는 것을 있는대로 체크(✓)해 주십시오.

- (A) 보험료가 비싸니까
- (B) 보험가입방법을 몰라서
- (C) 보험에 가입할수 있다는 사실을 몰랐기 때문에
- (D) 보험의 존재를 모르기때문
- (E) 보험에 들 필요가 없다고 생각하기 때문
- (F) 그 외 \_\_\_\_\_

43-3

A	
B	
C	
D	
E	

44-1. 향후, 부인/남편이 유학중에 일본에 살 예정입니까?

- (A) 예 (B) 아니오 (C) 모르겠다.

44-1

44-2. 「O 아니오」라고 대답하신 분은, 해당되는 이유를 있는대로 체크(✓)해 주십시오.

- (A) 모국에서 출산할 예정이므로
(B) 흠씩이므로
(C) 자기자신의 일을 하기 위해
(D) 자녀의 교육을 위해
(E) 경제적 이유
(F) 부모님을 돌보기 위해
(G) 그 외

44-2
A 
B 
C 
D 
E 
F

45. 당신의 배우자에 관해 묻겠습니다.

45-1. 부인/남편에 대해 어떠한 문제를 안고 있습니까? 문제가 큰 순으로 3개까지 골라주십시오.

- (A) 대학에서 귀가하는 것이 늦다.
(B) 배우자의 학업
(C) 배우자의 건강
(D) 배우자의 장래(취직등)
(E) 배우자가 가사/육아에 협조해 주지 않는다
(F) 배우자가 폭력을 휘두른다
(G) 배우자의 대학에서의 인간관계
(H) 그 외

45-1
1위 
2위 
3위

46. 자녀와 함께 살고 있는 분에게 묻겠습니다.

46-1. 자녀에 대해 어떠한 문제를 안고 있습니까? 주된 것을 문제가 큰 순으로 3개까지 골라 주십시오.

- (A) 자녀가 일본어로만 얘기하고 커뮤니케이션을 하기가 어렵다.
(B) 자녀의 일본어 능력이 불충분
(C) 자녀가 학교/유치원/보육원 등에 적응하지 못한다
(D) 자녀가 수업을 따라가지 못한다
(E) 자녀한테 친구가 생기지 않는다
(F) 자녀가 이지메를 당하고 있다 (가능성이 있다)
(G) 그외

46-1
1위 
2위 
3위

46-2. 귀국후에도 자녀에게 일본어를 계속 공부시키고 싶다고 생각하십니까?

- (A) 네 (B) 아니오. (C) 모르겠다

46-2

46-3. 장래에 자녀를 일본의 대학에서 공부시키고 싶습니까?

- (A) 네 (B) 아니오. (C) 모르겠다

46-3

47. 당신은 일본에서 생활하는데 힘든 점이 무엇입니까? 일본에 온 직후와 현재 양쪽 모두, 4 단계로 대답해 주십시오. 당신이 일본인인 경우 「현재」만 대답해 주십시오.

(1. 전혀 어려움이 없다 2. 별로 어려움이 없다 3. 조금 어려움이 있다 4. 대단히 어려움이 있다)

	일본에 온 직후	현재
예) 일본어로 커뮤니케이션 하는 것 . . . . .	3	1

	일본에 온 직후	현재
(1) 일본어 능력 부족 . . . . . 1a		1b
(2) 일본어학습 기회의 결여 . . . . . 2a		2b
(3) 일본인친구를 만드는 일 . . . . . 3a		3b
(4) 친한 동성 친구가 없는 것 . . . . . 4a		4b
(5) 친한 여성 친구가 없는것 . . . . . 5a		5b
(6) 일 할 기회의 결여 . . . . . 6a		6b
(7) 배우자를 위한 원조 시스템의 결여 . . . . . 7a		7b
(8) 숙사를 찾는 일 . . . . . 8a		8b
(9) 일본의 사회제도나 일본문화에의 적응 . . . . . 9a		9b
(10) 모국과 같은 생활습관을 할 수가 없는 것 . . . . . 10a		10b
(11) 일본인으로부터 차별 받는 것 . . . . . 11a		11b
(12) 경력을 쌓을 수 없는 것 . . . . . 12a		12b
(13) 흠뻑 . . . . . 13a		13b
(14) 무엇이든시간에 자신을 가질 수가 없는 것 . . . . . 14a		14b
(15) 정서적 스트레스 . . . . . 15a		15b
(16) 일본 음식 . . . . . 16a		16b
(17) 건강문제 . . . . . 17a		17b
(18) 영양이 한쪽으로 치우치기 쉬운 것 . . . . . 18a		18b
(19) 놀 시간이 없는 것 . . . . . 19a		19b
(20) 수면 시간이 적은 것 . . . . . 20a		20b
(21) 공부할 시간이 없는 것 . . . . . 21a		21b
(22) 재원이 충분하지 않은 것 . . . . . 22a		22b
(23) 자기 나라/ 문화에 대해 이해받지 못하는 것 . . . . . 23a		23b
(24) 이웃과의 교류가 없다 . . . . . 24a		24b
(25) 이웃과 사귀는 방법을 모르겠다. . . . . 25a		25b

( 일본인의 경우는 이상으로 끝입니다. 51 로 넘어가 주십시오.)

48. 일본에서의 유학생 생활에 있어서, 있으면 좋겠다고 생각하는 서비스를 우선도가 높은 순으로 5 개까지 골라 주십시오.

- (A) 은행/우체국의 이용안내
- (B) 물건 사는 방법의 지도
- (C) 아르바이트정보의 제공
- (D) 집안일(요리, 세탁 등)하는 방법의 어드바이스
- (E) 숙사찾는 일을 도와주거나 정보제공
- (F) 병원/약국의 소개
- (G) 교통수단의 정보제공
- (H) 고베의 관광지에 대한 정보
- (I) 국내 여행에 대한 정보
- (J) 종교 시설 소개
- (K) 일본어 학습서비스
- (L) 일본어 이외의 학습/연구에 대한 서포트
- (M) 다른 유학생 가족과의 교류회
- (N) 일본인 교류단체의 소개
- (O) 카운셀링
- (P) 자녀의 육아/교육에 대한 정보

48

1 위

2 위

3 위

4 위

5 위

49. 가사(육아)에 대해 묻겠습니다.

49-1. 일본에 온 후, 당신의 가사(육아)의 부담은 변화했습니까?

- (1) 매우 늘었다
- (2) 조금 늘었다
- (3) 변화가 없다
- (4) 조금 줄었다
- (5) 매우 줄었다

49-1

49-2. 일본에 온 후, 당신이 봤을 때 배우자의 가사(육아) 부담은 변화했습니까?

- (1) 매우 늘었다
- (2) 조금 늘었다
- (3) 변화가 없다
- (4) 조금 줄었다
- (5) 매우 줄었다

49-2

50. 전체적으로 일본에서의 생활에 만족하고 있습니까?

- (1) 대단히 만족하고 있다
- (2) 거의 만족하고 있다
- (3) 어느쪽도 아니다
- (4) 별로 만족하고 있지 않다
- (5) 전혀 만족하고 있지 않다.

50

51. 배우자되는 분에게

본인이 한 응답에 대해 후일 인터뷰에 응할 의향이 있으신 분은 밑의 칸에 성함과 전화번호를 기입해 주십시오.

이름 : \_\_\_\_\_

전화번호 : \_\_\_\_\_

이상으로 끝입니다. 협조해 주셔서 감사합니다.

끝으로, 본 조사결과를 알고 싶으신 분은 1년 이내로 결과를 알려드릴테니 밑에 받으실 곳의 주소와 이름을 적어주시든가, [988f344f@yku.kobe-u.ac.jp](mailto:988f344f@yku.kobe-u.ac.jp) (渡部留美)로 연락해 주십시오.

주소 :

이름 :

## 謝 辞

本論文は、多くの方々のご協力・ご支援がなければ、完成することはありませんでした。博士後期課程入学以降、常に温かい目でもってご指導・ご鞭撻くださった指導教官の宇津木成介先生には、衷心より感謝の意を表します。先生には、研究に関する知識だけでなく、人間としての基本的な心構えも教えて頂きました。また、副指導教官の坂本千代先生、三木原浩史先生には、絶えず温かいお言葉をかけて頂きました。そして、審査委員の瀧上凱令先生、横山良先生には、丁寧かつ的確なご助言を頂きました。厚くお礼申し上げます。

本調査の質問紙調査を行なうにあたっては、神戸大学留学生センターのご協力を頂きました。前センター長の宗像正幸先生、留学生課専門職員石岡喜久子さんには配布及び回収にあたってお世話になりました。瀬口郁子先生には質問紙内容のチェックをして頂いただけでなく、大学院入学以降、留学生に関する事項、留学生アドバイザーとしてのスタンス、等々多くのことを教えて頂きました。また、予備調査及び本調査の質問紙の翻訳・バックトランスレーションにあたっては、神戸大学総合人間科学研究科所属の葛金龍さん、金眞映さん、白海燕さん、劉潜さん、神戸大学総合人間科学研究科修了生の夏晴さん、鄧宝慧さん、カリフォルニア大学ロサンゼルス校所属のクリスティン・ミチコ・ナカニシさんにご協力いただきました。本当にありがとうございました。

質問紙調査及び面接調査にあたっては、神戸大学の留学生・配偶者の皆さんにご協力いただきました。配布数の半数以上から回答があり、うち 100 名を超す方から結果通知の希望が寄せられました。留学生自身の留学生の問題に対する関心の高さをうかがい知ることができました。質問紙の隅に書かれた励ましのメッセージを見つけたときには大変勇気づけられました。家族の問題というプライベートに踏み込んだ事柄にも関わらず、快く面接に応じてくださった留学生家族の皆さんには感謝しても感謝し切れません。また、神戸大学の留学生及び研究者の家族を支援するボランティア団体、KOKORO-Net in 神戸の会員の皆様には、温かく活動に受け入れて頂き、より詳細な調査を行なうことができました。代表の田中圭子さん、会計（当時）の菊池明美さんには研究の面においても助けて頂きました。深く謝意を申し上げます。

九州大学留学生センターの白土悟先生、京都大学工学部の大橋敏子さん、一橋大学留学生センターの横田雅弘先生、駒澤大学文学部の坪井健先生、東京成徳大学臨床心理学科の



水野治久先生、京都産業大学国際交流課の森洋さんには貴重な資料や有益な助言を頂いたり、調査に関してご協力を頂きました。兵庫県国際交流協会、財団法人神戸国際協力交流センターの担当者の方々には、留学生支援に関する様々な情報を頂きました。また、筆者が所属するNPO団体JAFSA（国際教育交流協議会）の会員の皆様からは、研究会などを通じて現場の留学生の問題について教えて頂きました。深くお礼申し上げます。

論文作成途中で半年間の交換留学という機会にも恵まれました。留学先のデンマーク・オーフス大学では、様々な人に出会い、新しい研究方法やものごとの視点を学びました。自分自身が留学生になり、留学生の気持ちを体験できたこと、また、デンマークの留学生家族の状況を調査できたのも、論文作成の手助けとなりました。

所属する研究科の院生の皆さんにも何かとお世話になりました。専門分野、研究内容は互いに異なりますが、そのぶん視野が広がり、新しい発想を生み出すことができました。何よりも研究室（応用コミュニケーション論講座）の雰囲気良く、研究しやすい環境にあったことは幸せでした。同期の三浦彩美さんには、研究方法のアドバイスを頂いたり、議論につきあってもらったりしました。彼女という戦友がいなければ途中で挫折していたかもしれません。本当に感謝しています。

最後に、筆者の我儘を許し、研究生生活を支えてくれた両親に感謝いたします。

2003年6月30日

渡部 留美